カトリック

深堀司教認可
発行所 福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏

定価 一部 十五円

# 深堀司教惜しまれつつ勇退
# 後任に平田（現大分）司教

パウロ六世教皇は、福岡教区の深堀仙右衛門司教の辞任を受理され、後任に平田三郎現大分司教を任命された。十二月二日付のこの異動発表によると平山高明師（熊本市健軍町健軍教会主任）が大分司教に、また糸永真一師（長崎市八幡町八幡教会主任）が鹿児島司教に任命された。また東京大司教区の白柳誠一補佐司教が後継権を有する協同司教に任命された。

以上五名の司教に関わる異動が同時に発表されたのは日本教会にとって初めての出来事であって、太平洋戦争前夜、国内のすべての教区の最高責任者が外人宣教師から日本人に替った時期と同じく、教会が一つの大きな転換期をむかえたことを意味するものと解される。

## 偉大な功績を残して
### ご勇退の深堀司教

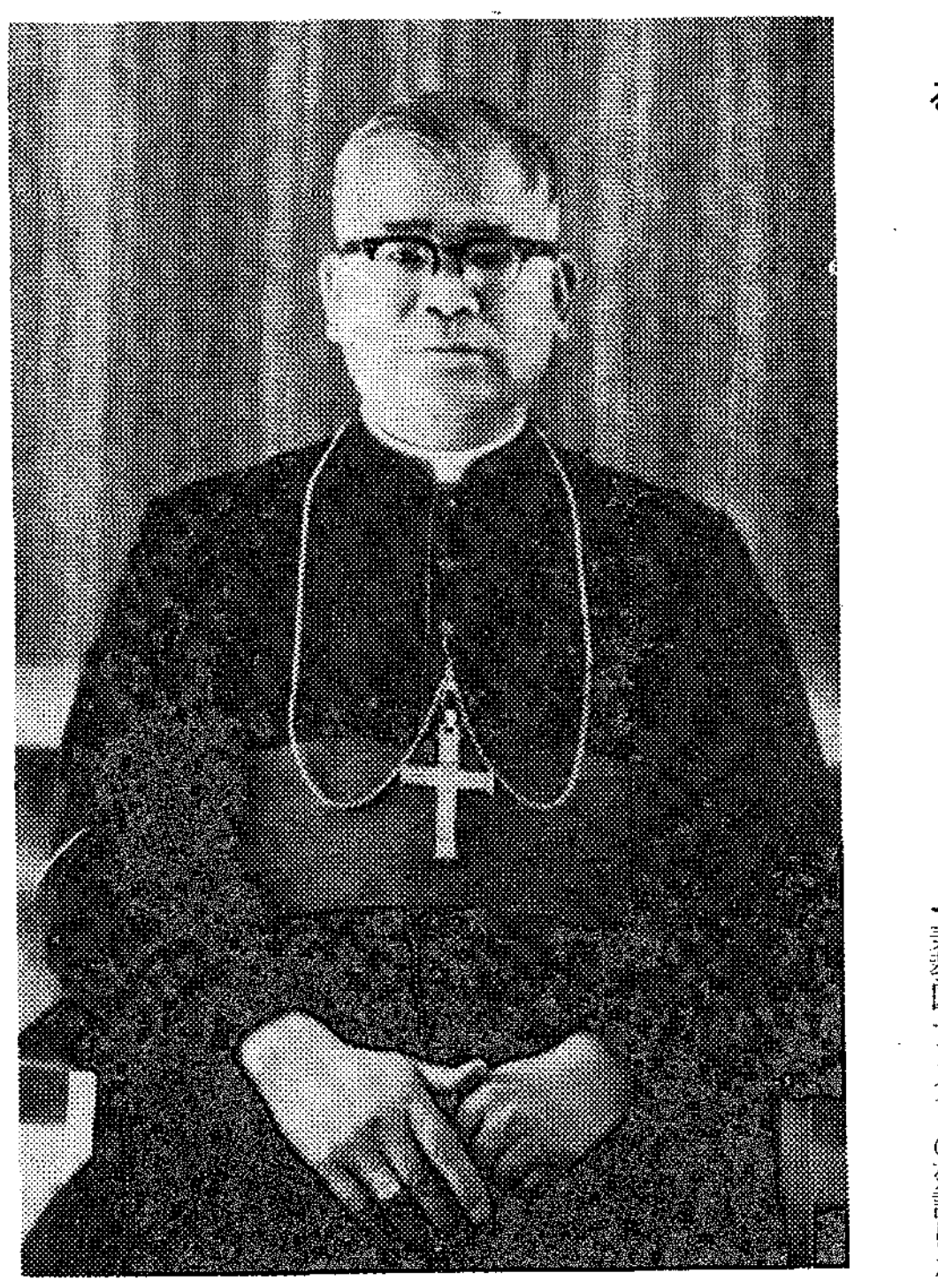


深堀仙右衛門司教は老齢を理由の辞任願いが教皇によって受理され、教区司牧の任務を後任の平田三郎司教におゆずりになる。教区の最高責任者また日本司教協議会のひとりとして尽くされた偉大な功績は神と教会の前にいつまでも忘れ去られるものではない。

深堀司教は明治二十七年六月のお生まれで満七十五歳。長崎市岡町の出身で、令姉の野口タカさんは郷里に健在。長崎海星商業から長崎高等商業（現長崎大）をへて三菱造船会社に勤務されたが、両親の没後昭和四年にチリー福岡初代司教のもとで神学生になり、故棚町正刀師らとラテン語を学び、七年カナダ・モントリオール大学神学部に留学、十一年七月帰朝と同時に、現在の泰星高校付属聖堂でブルトン司教から司祭に叙階、約一年ヒューゼ師のもとで小倉教会助任、ついで一年間鹿児島教区ではたらかれたのち十三年に福岡小神付、そのご校長に就任し、十六年三月福岡教区長、十九年五月二十八日司教の位をうけられた。二十一年から三十七年まで宮崎教区長を兼任。

このたびの辞任にともない教皇から深堀司教にクレペドウラの名儀司教の肩書が与えられた。

（註、クレペドウラは北アフリカのカルタゴに近い町）



ペトロ平田三郎司教

## 福岡での活躍期待
### 大分教区築いた平田司教

#### 着座式は1月23日

深堀司教の後任として福岡教区の牧者となられたペトロ平田三郎司教は、昭和三十七年いらい初代大分司教として生まれたばかりの新教区の基礎づくりに意欲的な活躍をされた方である。公会議以外にも先進カトリック教国をたずねて教会の新しい指向をさぐるほか、教会の第一線ではたらく司祭・信徒の養成に特別の努力をはらい、これからの日本社会の動きにふかい関心をはらってこられた。また半年前から新大分市の発展を見越して、新住宅地となるべき地点に小神学校兼教区センターの建設にかかり、一月中旬完成の予定となっている。

平田司教は大正二年七月二十三日生まれで、ことし五十六歳。長い信仰の伝統をもつ福岡県三井郡太刀洗町の今村教会で受洗。八十七歳でなお元気な厳父卯太郎氏は同郡北野町に住んでおられる。福岡市西新教会主任平田勇師は司教の令兄にあたる。長崎海星中学から東京大神学校哲学科に進み、昭和十年パリのサンスルピス大神学校とカトリック大学で研学。十四年六月二十九日にノートル・ダム大聖堂でヴェルディエ枢機卿によって司祭に叙せられたが、第二次世界大戦勃発でフランス人司祭が動員されていったあと、パリ郊外で教会司牧にたずさわった。

十五年サンスルピス会の修練を終えて欧州の戦火をあとに、邦人引揚げのため、日本海軍から送られた軍艦で帰国、ただちに当時福岡市大濠町にあった神学校で教べんをとり、太平洋戦争末期には福岡小神学校を指導、戦後から大分司教就任まで、福岡サンスルピス大神学院で聖書学、教会史、教父学を講義した。司教協議会では用語委員会委員長、司祭・神学校委員会委員をつとめておられる。

就任の着座式は、一月二十三日午前十時半から大名町司教座聖堂で、深堀司教の歓送と謝恩をかねて駐日教皇庁大使ウステンベルグ大司教の臨席のもとにおこなわれる。

## 豊かな人柄と経験
### 大分教区へ平山被選司教



大分司教に任命されたペトロ平山高明師は、大正十三年三月三十一日京城で生まれ、ことし四十五歳。母親の梅子さんは奈良市に在住。昭和のはじめ、日本二十六聖殉教者の映画を製作した故平山政十氏の孫にあたる。長崎海星中学卒業後、当時京城で牧場を経営していた祖父政十氏の片腕となるため、宮崎高等農林学校畜産科に入学。終戦直前に学徒出陣で東京・相模原陸軍通信学校で訓練をうけ翌年農林学校を卒業、農林省畜産科助手として四国の高知種畜牧場に勤務した。

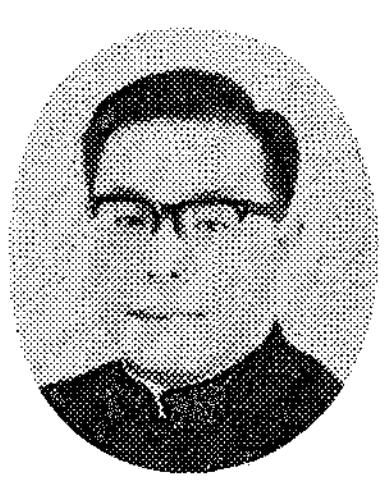
昭和二十五年司祭職をめざして深堀司教をたずねたころは、熊本県阿蘇の外輪山で、外地からの引揚げ者と農業に従事したこともあったが、福岡サンスルピス大神学校でラテン、哲学の課程を終えて昭和三十二年三月十九日、福岡市の浄水通教会で司祭叙階。まず司教館づきで学生会の指導にあたり三十三年大名町教会助任、三十五年から二年間、パリ・カトリック大学の要理教育研究所で研究、北米経由で帰国して司教館づき。三十九年に北九州市小倉教会助任となり、カトリック要理編さん委員をつとめ、四十二年秋から現在の熊本市健軍教会主任となった。

健軍教会では信者の司牧にあたるほか、近くのマリスト学園高等学校で宗教の講義を受持ち、昨年四月には教会敷地内に幼稚園を新設、ちょうど大分司教任命の発表があった日には、新教会建設について工事担当者と契約がかわされていた。

平山被選司教は、その堂々たる体躯とやわらかな人柄で多くの人に親しまれているが、ふかい信仰とひろい経験が大分教区の司牧に生かされることを期待する。

司教祝聖式は一月二十五日午前十一時から、大分司教座聖堂で挙行される。

## 鹿児島に待望の牧者
### 長崎から糸永被選司教



昨年二月里脇司教が長崎大司教に転任していらい、十カ月余り空位になっていた鹿児島教区に、長崎大司教区の新進司祭パウロ糸永真一師が司教として任命された。

糸永真一被選司教は長崎県平戸市紐差町の出身、昭和三年七月二十三日生まれの四十一歳。昭和十六年長崎公教神学校に入学、二十三年に福岡サンスルピス大神学院神学科に入った。二十六年九月カナダのモントリオール大学神学部に留学、翌年九月十四日同所で司祭に叙階された。二十八年帰朝、約十年間長崎大司教館で書記長をつとめ、三十年五月からは教区報「カトリック時報」の編集にあたり、ほかレジオ・マリエの長崎クリアの総指導司祭、長崎純心短大講師（哲学）としても活躍。三十七年いらい長崎市八幡町の主任司祭と同付属あけのほし幼稚園の園長、長崎県私立幼稚園協会の事務局長、カトリック幼稚園協会会長をつとめ、またクルシリョの指導者として信徒使徒職の養成に尽力した。祝聖式は一月十八日鹿児島純心学園でおこなわれる。

### 司祭異動

北九州市八王寺助任牧山藤房師（門司港代理主任）、呼子主任平田敬師（大名町助任）、司教館付牧山重光師（呼子主任）

### 叙階式

福岡サンスルピス大神学院で、十二月十四日午前九時から深堀司教司式により叙階式が行なわれ、左の諸氏が聖位を叙せられた。

（カッコ内は教区）

上級聖品＝岩崎勝（長崎）

下級聖品＝田浦信勝（福岡）小川靖忠、下口勲、谷川政美、高見三明（以上長崎）郡山健次郎（鹿児島）

### キリスト共同体練成会
#### 3月に福岡で開催

『よりよき世界のための運動』とよばれている『キリスト共同体練成会』が、三月三〇日から四月六日までの八日間、福岡市の黙想の家でひらかれる。

これはロンバルヂ神父（イエズス会司祭）が十数年前にイタリヤで始めたもので、クルシリョとは別種の練成会。日本では一昨年英語でひらかれたが、昨年二回は青森と東京で日本語で行なわれた。本年は第四回を京都で、第五回を福岡で行なうことになっている。

参加できるのは司祭、男女修道者、二十歳以上受洗一年以上の男女信徒。参加費その他申込みについては、福岡市大字片江一四八、御受難会修道院カール神父に照会すればよい。

### 神学生も特別出演
#### チェチリア音楽祭

音楽愛好者のグループで結成された福岡市大名町教会のチェチリア音楽教室＝指導鵜野泰年神父＝では、十二月二十三日夜、クリスマスを祝ってはじめての発表会をひらいた。プログラム一部ではサルヴェ・レジナなどグレゴリオ聖歌、またオ・サクルムなど宗教合唱曲を披露、第二部では鵜野神父のバイオリン独奏、山下桂子さんや大和信子さんの独唱、山本秀子さんのピアノ演奏があり、最後に大神学生四名による合唱隊「ピパンテス・ボーニ」が「線路はつづくよ」などポピュラーソングをうたって大喝采を拍した。

### 廃品改収で寄付

北九州市若松教会（主任デシャンブ神父）の婦人会一同は十一月中信者家庭を回って廃品回収をして得た一万円を神学校に寄付した。

### 昭和四十五年度福岡小神学校
## 神学生募集

中学また高校に入学または編入を希望する者は、主任司祭の推せん状と出身学校長の報告書を左記あてお送り下さい。

福岡市浄水通三ー八
福岡小神学校
中浜一男神父

## 1月 降誕節 公現節

**1日（木）元日 降誕八日目 神の母マリアの祭日**

新しい年をむかえる喜びの日に、世界の平和を祈ろう。平和の君として生まれた神の御子が人々の心のなかに、また社会と国に正義と愛にもとづく真の平和を与えて下さるように。

**4日（日）主の公現の祭日**

罪をおかした人類は神を離れて四散した。神の子キリストはそれを一つに集め、神の国の民とされる。東方の博士たちがまず星にみちびかれて幼な児のもとにやってくる。

**11日（日）主キリストの受洗の祝日**

キリストの受洗とわれわれの受洗とは決して同じものではない。キリストにおいてはわれわれの場合のように、洗礼は原罪をゆるし、神の養子とすることではない。しかしこの日キリストの上に御父と聖霊が降られたように、われわれも三位一体の神の住居になる。

**15日（木）成人の日**

若人の取柄は純粋で無欲の奉仕にある。人々の役に立つことをよろこぶのだ。心身のうちにあふれる力を新しく美しい社会の建設にむけてもらいたい。

**18日（日）公現後第2主日**

洗礼者ヨハネは世にあらわれたイエズスを弟子に示して『見よ、神の小羊を』という。その弟子はイエズスのお住まいまでついていって、その日はそこに留まった。それはイエズスと弟子との最初の出会いであり集いであった。

**鹿児島教区糸永真一司教の祝聖式**

**18日（日）から25日（日）まで教会一致のための祈禱週間**

神の御子がこの世に来られて、せっかく一つの民にされたのに、いま教会は人間同志の不信と敵対のために分裂している。それは人祖の罪にも匹敵する神への恐ろしい侮辱以外の何物でもない。キリストを信じる者同志が愛を回復するよう、そして『ひとりの大牧者』のもとにすばらしいエルザレムを再建できるよう祈り、助け合っていきたい。

**23日（金）平田三郎司教の福岡教区への着座式（午前十時三十分から大名町司教座聖堂で）**

**25日（日）公現後第3主日**

キリストの公生活が開始された。神の国の福音が高らかに宣布される。その福音の声はまず海で網をうっていた貧しい二人の漁師の耳に達した。かれらはすべてを捨ててキリストのもとにかけつける。

**大分教区平山高明司教の祝聖式（午前十一時から、大分司教座聖堂で）**

**児童福祉のための献金の日**

### 聖体礼拝

第一日曜 サンモール修院
第二日曜 大名町教会
第三日曜 門司教会
第四日曜 大牟田教会

### 祈禱の使徒会

【一般意向】民族間の兄弟愛の平和
【布教意向】アフリカの諸民族間の和解

# 教会外の識者に聞く

## あえてカトリックに忠告する

### 神父も信徒も姿勢を正せ

カトリック教会はつの『広報総会』が、昨年十一月五、六の両日にわたって、東京・四谷のカトリック中央協議会で開催された。集まったのは全国教区十五の広報室長と、情報、出版、新聞、放送、映画などの専門委十数人。カトリック広報のあり方が、さまざまな角度から論議された。

第二バチカン公会議いらい、重要性を帯びてきたカトリック広報の任務と、教会に占める役割を再確認しようとして、この総会はひらかれたわけだが、しかしながら一歩しりぞき、視点を変えてみると、カトリック広報のこうした動きが、何となく宙に浮き、先走りしたものに見ゆるのはなぜであろうか。

地方の教会には、広報にたいする認識がなく、広報をどう受けとめ、どう実行するのか、見当もつかないでいる。しかも司祭、信者ともに視野がせまく、広報、あるいは布教を、どうしても社会的な視野で受けとめることができないのだ。これでは広報機関や関係者が、いかに笛を吹き鳴らしても、日本のカトリックが動き出すはずはあるまい。

われわれは広報をいう前に、もう一度、そうしたカトリックを振りかえりその欠点を考え、姿勢を正すべきではあるまいか。こん回は、そういう意味で、教会外の識者に、カトリックの欠点、あるいは忠告の声を聞いてみた。

## カトリックのゲットー意識

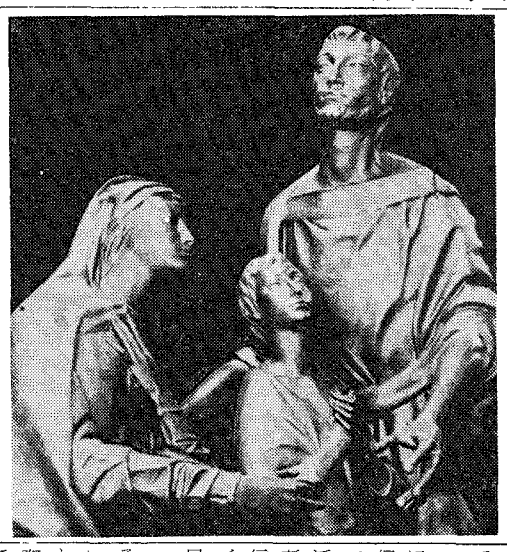
カトリックが、現代社会に受け容れられるためには、現代の人たちに受け容れられる、新しいカトリックのイメージが作られねばならない。社会の中にある古いカトリックのイメージが変わらないかぎり、カトリックが現代社会の中に入ってゆくということは考えられないことである。バチカン公会議叢書の、『新風靡る教会』ということばも、そういう、イメージの転換を意味しているものに違いないが、それでは、現代社会の中にある古いイメージとは、いったいどんなものであろうか。

九州大学で社会学の教鞭をとっているA先生は、『カトリックには、ゲットー（秘密結社）的な意識があるのではないか』という。これはカトリックの信者が、自分たちだけ固まっていて、世間との交際（つきあい）をしないという、カトリックの閉鎖性を指摘したものだ。カトリック信者の閉鎖性の裏には、キリシタンと呼ばれた時代、迫害の影響があるといわれる。ある神父は『生きることがむずかしいという立ち場に追い込まれたほどだから』と弁護するが、はたしてそれだけのものであろうか。

K高校のB先生は、その閉鎖性を別の角度からとらえて、

『学校でシスターたちの生活を見ていると、たしかに、一般の人との間に一線を画したところがある』という。

生活のなかに入った信仰を！



## 優越感を除去せよ

選民意識、あるいは優越感というようなものが、もしカトリックの中にあるとしたら、強く否定し、除去しなければならない。それはカトリックの中にあってはならないものだが、ある神父は、

『カトリックの中には、たしかに優越感がある。たとえば信者、未信者という呼び方には、その優越感が最も単的に表われているのではないか』といっている。

ではその選民意識、優越感は何処から出てくるのだろうか。A先生は、

『それはカトリックを舶来と考えているのですよ』という。

日本人、とくに都会人には舶来をありがたがる傾向が強い。カトリックが舶来の宗教だということで、その中にいる自分を、一般の人より一段高いところに置いて考えている、というのである。

またA先生は

『舶来ということを抜きにしては、カトリックは考えられない。そういう意味では、カトリックは考えられないまだ日本に土着しているとはいえないのではないか。儀式も仏教ほどに日本化されてはいない。典文は、日本語にはなったが飜訳調、神父の説教は舶来まる出しの感じだ』というが、B先生も土着の問題をつぎのようにいっている。

『カトリックの信者を見ていると、信仰が生活の中に入っていないという感じが強い。信仰と生活というのか、何か近づきにくいものがある。それがよく解るのは雑誌だ。何となくペダンチックで、教えてやろうという意識が強く出ている』といっていた。

カトリックで、土着ということが問題になりだしたのは、第二バチカン公会議以後のこと。E神父は『カトリックが、これまで土着しなかったのは、迫害の中をとおりぬけてきたということもあるが、教理のむずかしさ、戒律のきびしさと、日本人の生活習慣を無視してきたことに原因がある』という。だがカトリックの土着は、議論の対象にはなっても、実践の面では、まだ手もつけられていないというのが現状。これから真剣に考えなければならない、重要な課題のひとつである。

## 信仰と二重人格

Fさんは、もと家庭裁判所で少年問題を調査していた老婦人。

『家裁には、カトリックの信者のこどもが、ときどき悪いことをしてつれてこられる。そのこどもたちは決まったように〝神父さまにだけは知らせてくれるな〟という。私どもが考えると、まず神父のところにゆくというのがほんとうのように思われるが、それを嫌がるのは、神父の側に問題があるのではないか』

これにたいしてA先生は、

『それは〝兄弟には知らせても親にはいいたくない〟という心理と同じではないか。そのこどもがカトリックでなかったら、たぶん〝先生には知られたくない〟というだろう』と神父の責任を否定するが、C先生は、

『そんなこどもたちには、世間に知られさえしなければ、体面を保つことができると思っているのではないか。それは道徳と実際生活を区別したところから出てくる考え方で、カトリックのばあい、信仰上の二重人格を作りあげてゆくものではないか』と一歩進んだ見方をする。また

『カトリックの中には、意外にそういう二重人格を持った人が多いのではないか。教会ではいかにも信者らしい顔をしているが、実際の生活を見ると、この人の何処に信仰があるのだろうと思う人が多い』ともいう。C先生はさらに、

『カトリックは、組織そのものが、現代に適応できなくなっているのではないか』

『今日の激動する社会の中では、カトリックの存在理由はない』

などという人がいる。だが、現代のような社会だからこそ、宗教が、カトリックが必要だという見方もまた成り立つのではないか。

とE神父は主張し、A先生は、

『世間には、宗教なしでやってゆけると思っている人が多いが、ほんとうに宗教がなくなったら、現代の荒廃に整形手術を施すことはできない。そういう意味では、カトリックの存在理由は、こんごますます増大するだろう』という。

ある新聞社のG記者は『カトリックは現代に適応できなくなっている』という方の組だが、つぎのような意見を述べていた。

『カトリックは何をするにも、慈善という考えを離れることができない。養老院を造っても、施設を作っても慈善事業だ。しかし現代では、誰にでも人権を主張する権利がある。そういう時代に、上から見下したような慈善意識を、カトリックともあろうものが持っていてよいのか。さらに原点にさかのぼるなら、神父も信者も、現代に、自分が何をしているのかを知っているのか。いまは神父、信者の一人一人が、自分自身に、何をしているかを、きびしく問いかけねばならないときではないか。何もしていないということは、体制の中の悪を支持して、罪を犯しているということだ。たとえば、ベトナム戦争、沖縄の問題をどう考えるか。現状でいいのか、わるいのならなぜ戦おうとしないのか。

また、教会の中にだけ閉じこもっているカトリックが、この動きの激しい現代に堪えてゆくことができるかという疑問もある』といっていた。

## 新しい人間原理をはあくせよ

識者の中には、

『カトリックは、組織そのものが、現代に適応できなくなっているのではないか』

『今日の激動する社会の中では、カトリックの存在理由はない』

などという人がいる。だが、現代のような社会だからこそ、宗教が、カトリックが必要だという見方もまた成り立つのではないか。

『宗教のない世界には道徳はない。神がないなら、人間は何をしてもよいということになる。そうなれば、人間は法律だけを考えればよいわけだが、法律は道徳の最低基準に過ぎない。真の道徳は、神の教えがあって、その教えに従おうとするところから生まれるものだ』

とE神父は主張し、A先生は、

『世間には、宗教なしでやってゆけると思っている人が多いが、ほんとうに宗教がなくなったら、現代の荒廃に整形手術を施すことはできない。そういう意味では、カトリックの存在理由は、こんごますます増大するだろう』という。

ある新聞社のG記者は『カトリックは現代に適応できなくなっている』という方の組だが、つぎのような意見を述べていた。

『カトリックは何をするにも、慈善という考えを離れることができない。養老院を造っても、施設を作っても慈善事業だ。しかし現代では、誰にでも人権を主張する権利がある。そういう時代に、上から見下したような慈善意識を、カトリックともあろうものが持っていてよいのか。さらに原点にさかのぼるなら、神父も信者も、現代に、自分が何をしているのかを知っているのか。いまは神父、信者の一人一人が、自分自身に、何をしているかを、きびしく問いかけねばならないときではないか。何もしていないということは、体制の中の悪を支持して、罪を犯しているということだ。たとえば、ベトナム戦争、沖縄の問題をどう考えるか。現状でいいのか、わるいのならなぜ戦おうとしないのか。

G記者がいうのは『カトリックは姿勢を正せ』ということ。

G記者はまた、

『それをしないなら、カトリックは、単なる信者のなぐさみに過ぎず、現代に存在する理由はなにもない』と決めつけるが、これはカトリックの欠点をえぐった、手きびしい、そして正しい批判に違いない。

だがG記者は、決して存在理由がないといっているわけではない。

カトリックの中には、社会主義でも自由主義でもない、新しい人間の原理があり、かつてはそういう原理の上に立っていたはずだ。神父も信者も、カトリック全体が、自分に自分が何をしているかを、きびしく問うことによって、その人間の原理をはあくし、行動的なカトリックになれといっているのである。

今日、カトリックが、イメージの転換をはかろうとするなら、いちばん中心に考えなければならないのは、この、姿勢を正すということではあるまいか。E神父もまた、

『イスラエル人は、荒地を通って約束の地へ出ていった。われわれも、現代の、この荒廃の中から起ちあがって、カトリックを、人間性を生かした、新しい宗教に作り変えねばならない』といっていた。（編集局）




カトリック広報の任務と教会での役割を追求する広報会議

新年のおよろこびを申しあげます

初春の良き日に
ファミリーブック・シリーズを
おすすめいたします。

1、生きるたのしさ
2、赤ちゃんとともに
3、親の理想像
4、女性
5、中学生をもつ家庭のために
6、しあわせをつくる知恵
7、生きるよろこび
8、子どものねがい
9、期待される人間づくり
10、愛と性の秩序
11、これからのおかあさん

ことしも、聖パウロ書院
セント・ポール・コーナーを
ご利用ください。

聖パウロ書院
大名町教会となり
セント・ポール・コーナー
岩田屋デパート5階
小倉井筒屋デパート8階

特集

# 深堀司教さまを語る

## 深堀司教の28年
### 指輪に象徴される教区愛

（一）　昭和二年長崎教区から独立デリー、プルトン両司教によってようやく一人立ちできるようになった福岡教区は、昭和十六年三月突然、日本人教区長の手にゆだねられるようになった。深堀教区長は三年のちに司教の位をうけられるのであるが、十六年当時の教区信者総数は約一万九千人、小教区教会は二十一、司祭数三十七人（うちパリ外国宣教会二十三人スルピス会四人、トラピスト会三人、邦人教区付七人）修道女は一一四人にすぎなかった。それから二十八年間戦中、戦後の大苦難をくぐった本教区は、深堀司教の骨身をけずる働きによって、こんにちでは信徒数は二万四千六百人、教会は五十八、司祭が一一七人（邦人教区付は四十人）、修道女五一〇人に達した。（四四年六月現在）

（二）　創設と同時に教区が最初に手がけた事業は神学生の養成であったが、深堀司教はこの方針をみごとに推進し、結実させていかれた。教区長に選ばれる前から福岡小神学校長として学生の徳育、知育に独特のすぐれた指導ぶりを発揮しておられたが、その訓育をうけて、いま教会の第一線にはたらく司祭は九州一円はいうまでもなく、それ以外の地でも相当数にのぼっている。戦後は大神学校も創設されたが、司祭職を希望する若人（わこうど）の育成には格別の関心をはらい、小神学校々舎の新築からも解されるように、つねに司教の心はこの事業にむけられていた。

（三）　第二次大戦中、日本のカトリック教会は、かっての迫害にも劣らないきびしい試練にもまれた。深堀司教はこの間、ほとんど自由をうばわれていた外人宣教師の身を案じながら、わずかに残った邦人司祭とともに、信者の霊的世話をつづけるかたわら、戦火で焼失する教会、強制疎開や徴発などによる建物の損失を最小限にくい止めるために、口では言いあらわせない苦労をなめられた。それは現在の平和と自由の時代からはとうてい想像もできない、毎日が針のむしろにすわるような苦しみであった。

（四）　戦後はじめて教会は自由の空気を胸いっぱいに吸うことができるようになった。しかし痛手をうけた教会を、一日も早く立ち直らせて宣教の使命を果たしてゆかねばならなかった。司教は宣教会や修道会の助けを求める一方、持てる力をフルに発揮して精力的に活動された。

一九五〇年の聖年を機会に司教は欧米各国を巡訪して、宣教師や修道女の派遣方を嘆願して回られた。こうしてコロンバン会をはじめミラノ会、ドミニコ会、フランシスコ会、マリア会、パウロ会、オブレート会などが続々と教区内各地に布教根拠地をつくり、さらにスカボロ会、アウグスチノ会、御受難会がこれらに合流するようになった。現在外人宣教師の数は七十五人に達している。司祭たちもさることながら、もちろん修道女会の進出もめざましかった。

（五）　深堀司教は戦後の十六年間宮崎県の司牧にもあたられた。都城や油津などの遠隔地をふくめて、新しい教会の設立、堅信の秘跡の授与、修道会の指導のためにはどんな労も惜しまれなかった。

（六）　深堀司教はまた教育事業と社会事業を強力に推進された。どんな事業にせよ、その創設にはなみなみならぬ苦心と配慮が必要である。はじめて教区内に足をふみいれる修道会を助けて、土地の選定と購入から、工事担当者との交渉、そのほかいろいろの準備を司教は親身になって世話された。戦時中にグワム島に宣撫班員（せんぶはんいん）として滞在しておられた関係で、また社会・福祉委員会のメンバーのひとりとして、カルボ神父の事業である「南太平洋戦没者慰霊公苑」の建設に協力し、再度同島を訪れた。

（七）　小教区教会をくまなく巡回して、地元の信者たちと直接に交わっていかれ、とくに堅信の秘跡授与の際には、信者の霊的向上に留意し、子供たちの要理教育の徹底、信仰生活の実践をつよく押し進められた。また要理教育の向上と徹底のためには十五年前から、神学および要理講座を設置し、とくにこの七年間はいっそう内容の充実した講座をとおして、要理教育にあたる人たちの養成につとめられた。

### むすび

司教が指にはめている大きな指輪は、教区との霊的結婚のシンボルと言われている。もしそれが真実であるとするならば、聖パウロがエフエソ人にあてた手紙のなかで教えた、キリストと教会との一致の神秘は、深堀司教とその教区とのあいだに文字どおり具体化されたということができる。

夫よ、キリストが教会を愛し、そのために命を与えられたように あなたも妻を愛せよ。キリストが命をすてられたのは、…教会を潔め聖とするためであった」

教区のかしらとしての二十八年間は、キリストの教会にたいする「命をすてるほどの愛」につらぬかれていたことを、われわれはいまさら強く感じるのである。司教が目に見えるところでなにをなさったか、ならべ立てるのは愚かしいことのように思える。形に表われない面での、測り知ることのできぬ深い教会愛、われわれはそれを『いまは知ることができなくても、のちにはそれを知るべし』。教区民一同は深堀司教の大恩を決して忘れることはないであろう。

（教区広報室）



神の愛を説く深堀司教

## 私と深堀司教

山田大助

私が深堀司教を知ったのは、次女が雙葉学園付属小学校三年生のときでしたが、いまはその次女も高校の一年生。早いものです。

司教は百年一日、すこしも変わらないが、その温厚な人格、物静かな容姿は司教をしたう人であれば、誰でもが知っているところでしょう。人が人をしたい、永久に忘れ得ないということは、その人のもつ地位や名誉、権力、財産などによって評価されるものではありません。口数の少ない司教の教えと、その人からから受ける表現できない不思議な魅力との「ふれあい」は忘れ得ぬ印象として私の脳裏にふかく刻まれています。

私の家は先祖から真宗の門徒ですが、私は真宗であろうと禅宗であろうと、信仰形式の違いにすぎないと思います。人が人として生きる方向を教え、導くために宗教を選別する必要はないと思い、要はその宗教指導者の人格にあると信じています。神に仕える人がどれだけ多くの人を導くかは、人間の神髄を体当たりで引き出すことではないかと思います。深堀司教はそのようなことのできる方でありました。私には信仰を論じる力はありませんが、理屈ぬきで司教をしたってていました。

こんな思い出があります。ある夏のことでした。司教のおからだにアセモができていることを知って、一升ビンに温泉をいれてもっていったことがありました。私の家が温泉旅館だったからですが、そのとき、司教は ニッコリ笑って、

『山田さん景気がよいですネ』といわれました。それは私がよく酒をのんでいたからのことばだと思いますが、こんなユーモアにも司教の人間的な味わいが出ていると思います。

挨拶にゆくと必ず玄関まで見送られます。そして謙虚な面持ちで静かに頭を下げられます。そこに『司教だぞ』という様子がみうけられないのは、やはり生涯を神に仕える人のみに体得できることではないでしょうか。

ともあれ司教がこれから静かな余生に入られることを知り、こんごも健康で、そして司教なりの永遠の光を求めてゆかれることを心から祈ります。地平線の彼方には、静寂な気があり、その地に刻む無限の喜びと、そしてこのような道をためらいもなく歩いてゆく人は数多くはないはずです。

いま私は、人間はだれのために生きなければならないのかを思い、静かに自分を ふりかえっていますが、なんと自分が愚かな者であったかをさとり、それだけにいっそう、司教はすばらしい人であったと、あらためて思います。

（やまだ・だいすけ＝二日市大丸別荘社長）

## こぼれ話し

大正から昭和の初期にかけて日本テニスの黄金時代に、一流選手として活躍されていた深堀司教はテニスを人間形成の場と考えておられたので、テニスマナーをやかましくいっておられた。司教はまたテニスだけでなく野球にも造詣が深かった。プロ野球ではもちろん西鉄ライオンズを応援、なかでも稲尾投手の頭脳的プレーを高く買っておられた。


社社保険労務士
角田種三
光ケ丘教会所属
筑紫郡春日町千歳町1—6
TEL㊽2919

大名町教会所属
吉田弘子
勤務先　日本専売公社
福岡地方局

旭工務店
社長　吉弘七平
大名町教会所属
本社　福岡市榊田町47
電話　㊸4131

故銅真鍮其ノ他
非鉄属商
清友洋行
清水義一
京子
せい子
太田和男
市内博多駅前四丁目36—26
みのしま教会所属

暁ノ星製作所
祭壇・教会用具
事務用・学校用家具
室内外装飾一般塗装
福岡市箱崎原田1の5
電話　㊺4718

安部工務店
安部任
福岡市西大橋六一三
電話㊺1231～3

1970年
新年謹賀

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　㊷0568

大楠酒店
代表者　青木実
福岡市大楠町六四ノ一
大楠教会所属
電話　㊸4718
㊸1672

聖ビンセンシオ・ア・パウロ会
福岡中央理事会
会長　山田耕司
副会長　平田房刀
副会長　石田幹雄
会計　山田耕三郎
書記　岩下悠紀子

内科　放射線科
青木医院
院長　青木栄雄
福岡市東大橋
TEL㊹4309

院長　野川延吉
野川外科
福岡市下盤瀬町二六
電話　㊸3881

大名町教会
レジオ・マリエ
勝利の聖母
ロザリオの元后
プレシディウム
一同

桑原万寿太郎
福岡市東若久六二
電話　㊺3426

林初三郎
福岡市平和町一丁目
二三—一
電話　㊸六四五八

高宮教会
クルシリスタ
山東神父
安部任
織田信男
池田泰久
桑野武彦
坂田三郎
山本俊光
柿本静雄
吉川信雄
安部仁
籔原武
畑原寿隆
坂田哲文

若松天使園幼稚園
園長デシャンブ神父
若松区白山一ノ九ノ五〇
TEL㊻4571

若松教会所属
松尾光敏
若松区大字藤ノ木
一九二四—二〇
電話㊼3657～9

天神町教会所属
古賀喬
八幡区園田町一丁目
TEL㊼〇五四三

塗装店
水田為次郎
福岡市老司4町三三九
電話　㊹七七四〇

鬼木保之
福岡市南大橋町
県住八一号
電話　㊹六四七八

華道池坊教授
茶道裏千家
深山百合子
福岡市元町一丁目二九
電話　㊾〇九一一

丹後ちりめん織元直売
高級呉服西陣袋帯
よしかわ
吉川信雄
筑紫郡春日町須久
電話　㊽4924

若松教会所属
大北内科
院長　大北正
若松区本町三丁目
TEL㊻四二二四

本城教会所属
瀬下菊蔵
八幡区本城東鷹巣

行橋教会所属
追立季治
行橋市福富二〇ノ一

門司教会所属
森田十郎
門司区東新町二丁目
三ノ一二
TEL㊳九四五一

黒崎教会所属
深堀博
八幡区萩原団地

天神町教会所属
中村実
八幡区祇園町四丁目

# 英雄的な司教さまの雰囲気

水波朗



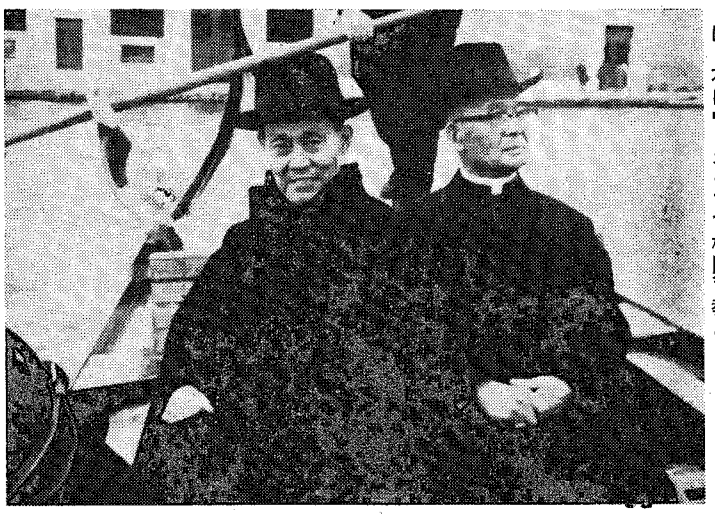


わたしたちの深堀司教さまが、その座をお去りになる、かねてその噂が流れてあるいはと予期していたこととはいえ、いざほんとうになってみると、いまさらのような驚きと惜別（せきべつ）の情、今日までのご指導への感謝の気持、福岡教区の今日の多様な発展をもたされたご手腕への感嘆の心など、さまざまの感懐で胸がいっぱいになる。福岡司教としての四半世紀を越える長いあいだの幅広いお働きについては、他の方々におまかせするとして、わたしのような者でもとらええた司教さまのお人がらの一端を、ここにのべさせていただく。

二十年近くまえにわたしが洗礼のお恵みにあずかったときから、あるいは福岡カトリック学生会、あるいは学士会の集会、その他さまざまの機会を通じてご指導をいただきながら、わたしがいつも司教さまについて感じつづけてきたものの一つは、そのご人格の格別な英雄主義（ヒロイズム）である。「より大きなもののために」不断に自己自身に克（か）ち、自己を超え出てゆこうとなさっている司教さまのお姿がいつもそこにあって、そのお人がらの雰囲気、司教さまの存在そのものが、私にとっては、霊的憤発の機縁であった。好んでのべられる奇跡や改宗の物語りが、よく響くしかし静かな、そして一句一句ことばを手探るような調子で司教さまのお口にのぼると、そのご人格のまわりに漂うものと一体となって、他の人が語るのとはまるで違った現実味と生気とを帯びてくる。わたしの心は世間向きの身構えや体裁（ていさい）にこわばったその表層から融（と）けはじめ、司教さまの存在の根源から発する強い信仰の力動的な流れのなかに漂いだしておのずとより上なるものへ、天上の彼岸へとおしあげられる。学士会の月一回の例会がこの二十年来もたれつづけえたというのも、ひとえに司教さまのお話しのこの不可思議な上昇的推力によるものと思われる。

以前わたしは、好んで土曜日の晩――つまり神父さまがたが各自の教会で忙しく、それだけ司教さまがお暇な時――を選んでは、信者、未信者を問わぬ数名の学生を伴なって、司教館におうかがいした。そういうとき、快くお迎え下さった司教さまがくつろいだ様子で、かって若かりしスポーツマンのころのご体験をおもむろに語ってくださる。そうしたお話しまでが、やはりりい知れぬヒロイズムと霊的上昇の気流につつまれるのである。九住の冬山を祈りつつただ独り登る久しい聖職志願の青年が、やがて吹雪のながで道を失ない、ぐるぐると同じところをあるき迷う。九死のなかでフトみると不思議な道しるべ。危難の脱出。若い日の回想を懐しみ語る語り手の輝かしい顔の光りと、司教館のふけゆく夜の輝かさとを、わたしは生涯忘れえないだろう。

わたしの人間形成にとって、こうした司教さまのお導きは、いうまでもなく決定的なものであったように思う。そしてわたしのみならず福岡教区のたくさんの方がたが、同じことをそれぞれの心の中で感じておいでであろう。もちろんわたしの器は小さく、司教さまがせっかく溢れるばかりに与えてくださった霊的影響力も、わたしのなかで汲みとどめえたものはあわれなものであるが、このあわれなものを大切にして、かつは今日までのご教導にくり返しお礼申しあげ、かつはこんごものご指導を心からお願いしたい。（みずなみ・あきら＝九大教授）



写真上右は信者と語る司教　上左は子供たちとともに　右はヴェネチアで松岡司教と。

# ふしぎな人深堀司教

小野秋

「いや、きょうの説教はこたえたね」黙想会の帰り道のK君のつぶやき。どうりではじめ最前列にふんぎりかえっていたK君が、いつの間にか頭をさげ、手を膝においていと神妙にめずらしく耳を傾けているなと思ったことだった。

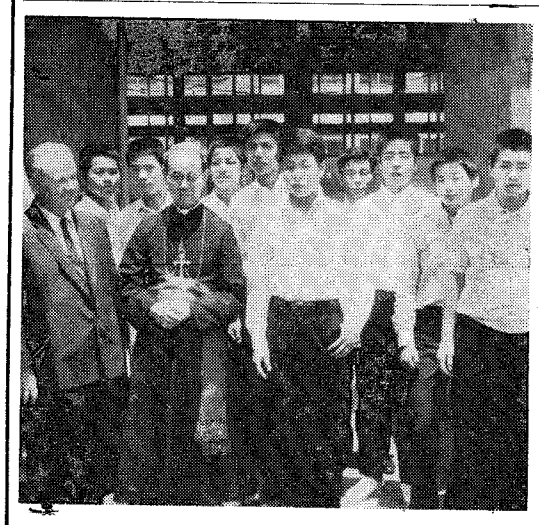
K大学のK教授といえばその方面の第一人者。予算のことで文部省に啖呵（たんか）もきる理屈屋、その彼が小羊のようになった説教のあるじ、それが深堀司教であった。名調子とはどうしてもいえない、口重いとぎれとぎれの話しだったのに……不思議な説教家深堀司教。

傲岸不屈（ごうかんふくつ）な野人としてまた闘志の人として法曹界に睨（にら）みのきいたH弁護士が、何かのおりにもらした一言「わたしゃ、むずかしい問題があると司教さんと話したくなるんでね。また司教さんのことなら何んでもしてあげたい」将棋をさすでもなし、碁を打つでもなし、酒杯をかさねるでもなし、それなのに一時間でも二時間でも話している二人、一人は肩をいからし、他は静かに腰かけている全く対象的な「……何語るらし」の二人の姿を幾度となくみた私である。不思議な魅力の人深堀司教。

靴先もかくれるぐらいの長い赤紫色のスータン姿のテニスマン司教といってもピンとこない人も多かろう。どうしてあんなすごい球が出るのだろうと思われるほど、ネットすれすれのコーナー狙いの球に、腕におぼえの神学生は左し、右し、まったく翻弄（ほんろう）された形だった。十月の陽光は意外に強く神学生は額に玉なす汗びっしょりの態。深堀司教はとみれば、汗一つかいていない。どうしたんだろう。いぶかしく思ったのは私だけではなかった。

「きょうは格別暑いですね」

「ええ、暑いですね」と答えられる深堀司教は、長いスータン姿。こちらは半袖シャツ姿。それなのに汗を拭くのはこちら。いつだったか、A君の深堀司教評にいわく「肉体まで超自然的になるんだね」まさに名言。この名言のあるじA君はまこと医学博士なのである。まったく不思議な身体の深堀司教。



堅信式のあとに……

「ちょっとお尋ねします。いまの神が……」

質問ばかりしていっこうに進まない公教要理を説いているのは深堀司教。聴いているのはもと待従のT氏。「これでは先に進めないので、一応先ず説明だけして、終ってからまった質問を受けることにしましょう。」この提案にふしょうぶしょうのT氏であったが幾日かの後、いざ質問というときになって、そのT氏の口から出たことばは、なんと「質問は何もありません」であった。不思議な指導者、深堀司教。

日本カトリック女子教育界の大先輩Y先生が、一カ月ばかり司教館に起居していたときの話。「老齢ですから私は朝が早い。ロザリオでも思い司教館のチャペルにいったところが、司教さまはもう膝まづいて黙想しておられましたよ。静かな、さよう静かな姿でね。それが毎朝のことです。」二月初旬の凍てつく厳寒の早朝のことであった。私として忘れられない話。祈りの人、黙想の人、それが深堀司教。

二十年も前のこと、司教様をはじめて家にお招きしたことがあった。まずい食事にかかわらず、出すものをゆっくりと片っ端しから一つ残らず平らげられた。司教はもともと小食である。それなのに……私はうれしかった。妻も喜んだが……「人の誠心を無にしては」と犠牲してみんなたべられたその広い心、その修業、深堀司教とはそういう人である。（おの・つとむ＝京都洛星高校教諭）


全工場エアコン完備
フォーム印刷からカラー印刷、一般印刷まで
自叙傳などの出版物は特に御相談に応じます
白木印刷株式会社
会長　白木紀至
社長　白木登喜男
本社　熊本市九品寺五丁目九の三九　電話代表〇九三―㊷二一五五
東京営業所　東京都港区東麻布一の二七の一二　電話〇三―五八三―三一三七
福岡営業所　福岡市天神四丁目一の二八　電話〇九二―七五―九二二四

化粧品の十粧
福山奎輔
本店　大洋横　支店鶴屋前
自宅　熊本市水道町三の一三　電話五二―七五八二

中川外科胃腸科医院院長
医学博士
中川能志
熊本市安政町三の四　電話㊷四七八二番

深堀千治
熊本市京町二丁目六―八四　TEL㊺六六五五

紳士服一級技能士
菊池昌彦
熊本市新大江一丁目三―一七　電話㊻〇四九二

深堀秀市
熊本市竜田町上立田一〇五一

伊東歯科医院
伊東武嗣
熊本市黒髪町坪井八二　電話㊹〇三七七

熊本女子大学教授
十時崇三節子
熊本市新大江一丁目一〇―一二　TEL㊹六四八二

熊本石材株式会社
熊本市島崎町六六四　電話㊷三三〇六

帯山教会所属
高木信治
熊本市新大江一丁目七七―二九　TEL㊹六七八二

岩永工務店
岩水喜一
熊本市健軍町一八三一の四　TEL㊻〇七一三

万江歯科医院
万江春樹
熊本市健軍町一四一〇　電話㊽二七三一

聖母慈恵病院
内科部長
内田奎文
熊本市健軍町一四九〇　電話㊽五五五九

岩隈政照
熊本市南町四一　電話㊽二二一〇

聖心服装女学院
院長　デシャンブ神父
若松区白山一ノ九ノ五〇　TEL㊻4571

若松教会所属
深堀善久
木戸福義
結城諄
田中光茂
市村和子
松尾八重子
河村泰義

小出理容店
福岡市南薬院電停前
浄水通教会所属

門司教会
信徒一同
門司区別院一ノ二二

光ケ丘教会所属
米湊潔
福岡市春町3―8

田村祝郎
茶山教会所属
福岡市金山団地四〇―一〇三　TEL㊽二六八七

新年おめでとうございます
カトリック編集部

古賀病院
院長　古賀睦堂
大名町教会所属

横尾精
福岡市下呉服町
大名町教会所属

ダルマ・クリーニング
内野政雄
大名町教会所属

佐賀教会所属
塚原堅太郎
佐賀市中町三三　TEL③3010

天神町教会所属
大山精肉店
（大山義雄）
八幡区尾倉町三丁目
恵比須市場内

天神町教会所属
肉の大力
岩永一
八幡区祇園町銀天街内

戸畑教会所属
江藤正
八幡区槻田一条日鉄社宅四号　TEL㊽一三五六

小倉教会所属
馬込弥八
大石透
宮尾環
野山勝
皆川節夫
泉洸
佐々木信幸
清水敏勝
中州賢一
塩塚真生
樽角進
中原宏
西山泰次
中島順市
徳富晃
小島浩
長谷川徹
武田清治

# 恩寵の大きなみのり

## 熊本・市民クリスマス



熊本市内のカトリックと、プロテスタント諸派教会連合の市民クリスマスは、十二月十九日午後六時からおこなわれた。これは市民にクリスマスのほんとうの意味とよろこびを知ってもらうために催されたもの。熊本城のなかにある県立図書館ホールには約千三百人の市民があつまった。開会にあたり委員長の福田令寿氏（熊本名誉市民）が「心をこめて神の御子のご誕生をお祝いしよう」とあいさつ。全員で「もろびとこぞりて」を斉唱、町野洋牧師）日本福音ルーテル・大江教会）の司会でまず聖劇が披露された。

後半では九州女学院生徒の合唱、信愛女学院生徒のフルート演奏、新圭子さんのソプラノ独唱、この夕べのために結成された合同合唱団のコーラスなどがあり、さいごに全員で「きよしこのよる」をうたったあと、参加全員が花畑公園まで、二キロメートルを、ろうそくを手に行列をおこなった。この市民クリスマスはカトリックの四教会のほか、プロテスタント諸派から二五の教会が参加して、半年前から準備をすすめていたもの。催しに参加したカトリック信者のひとりは、『日本でキリスト教の伝統がいちばん古いこの熊本の町で、はじめて全教会合同のクリスマスをすることができたのは、神さまの恩寵の大きな実りではないでしょうか。ほんとうにすばらしいことです』と語っていた。

## 深堀司教、聖公会の按手式に列席

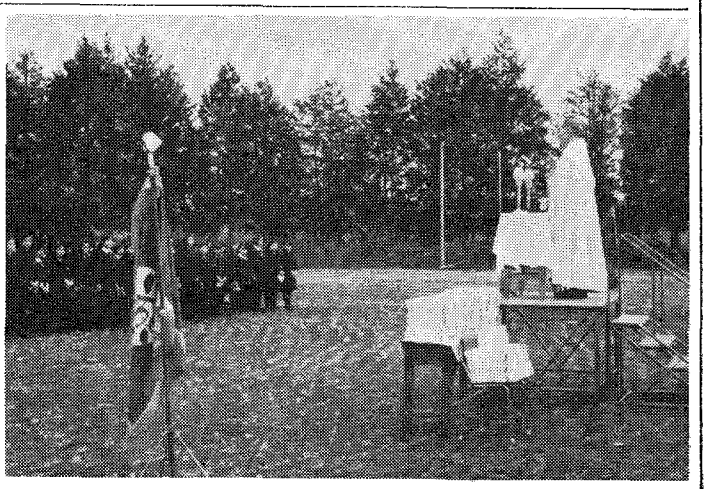
深堀司教は十二月二日、日本聖公会九州教区の主教按手式と就任式に列席された。主教の按手をうけたのは大阪地区出身のパウロク保淵豊彦師（五九歳）。式は熊本市出水町の聖三一教会でおこなわれ、日本聖公会首座主教八代斯助（ひんすけ）師が司式された。

## 熊本信愛のグラウンドびらき

### 杉と雑木に囲まれた自然

熊本信愛女学院（幼きイエズス修道会、木村リョウ校長）では、ことし学院創立七十周年をむかえる。その記念事業として体育施設の充実を計画、具体化の第一歩として同県菊池郡西合志町野々島に二万坪の敷地を購入、うち六千坪を整地してグラウンドを建設した。十二月十日午後二時、地元町長、来賓出席のもとに現地でグラウンドびらきを行なったが、深堀司教の祝別式にはじまり、建設協力者への感謝状授与、体育部員の走りぞめがあった。

敷地は阿蘇火山帯のすそ野、杉の並木と雑木林にかこまれた自然のままの環境で、騒音をはなれた別天地、一周コース、直線コースのほか、テニスコート、バレーコート各二面、ソフトボール一面、水銀灯四基、合宿のための第二ボルジア寮（六十坪）などをそなえている。グラウンドの建設監督にはその道のヴェテラン白取義輝氏



グラウンドの祝別式

## 寒風をついて歳末募金

福岡教区の歳末・クリスマス助け合い運動は、十二月一日からビンセンシオを中心に、地元教会信者、カトリック系学校、学生会が、寒風の街頭に進出、道ゆく人に募金を呼びかけた。

ことしは不景気のせいか、一般に募金に応ずる人が少なく、声をからして協力を呼びかける女子学生の姿が人目を引いていた。

佐賀、福岡はビンセンシオと教会が協力、北九州ではプロテスタント諸派と合同で募金に当たった。また熊本は、インド救ライを市民に呼びかけ、予想以上の反響を呼んだが、おりから帰郷中の、インドのアジア救ライ協会『救ライセンター』院長、宮崎松記博士は、わざわざ手取教会を訪ずれ、深甚の謝意を表していった。（写真は募金風景）

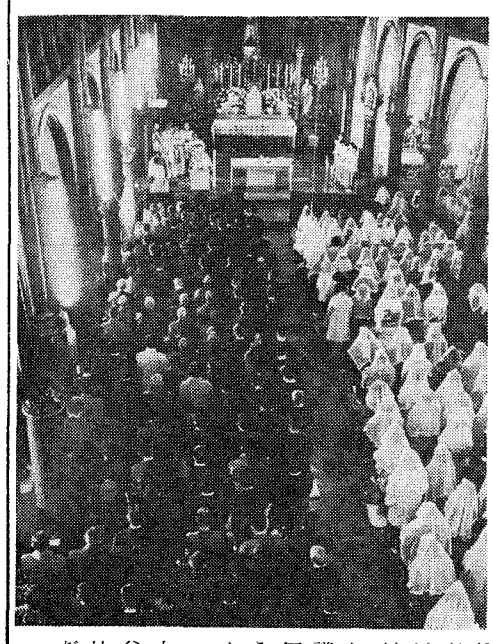
## 教会めぐり



## 福岡県三井郡大刀洗町 今村（大天使ミカエル）教会

福岡県三井郡大刀洗町の、いわゆる今村キリシタンのはじまりは、天正十五年（一五八七）から慶長十八年（一六一三）の間と推定されるが、記録がないので、くわしいことは知ることができない。ここのキリシタンたちは、信者だった毛利秀包（ひでかね）、キリシタンに理解の深かった田中吉政など、城主に被護されて、他領に見られるような無惨な迫害には遭わなかった。

この今村に、現在の大天使ミカエル教会が建ったのは大正二年。ヨハネ・クロディウス司教によって、十二月九日に献堂式が行なわれている。赤煉瓦づくり、ロマネスク様式の壮麗な教会だが、この建物の下には、今村の殉教者、ジョアン・又右衛門の墓があるといわれている。



大天使ミカエル教会は、西鉄小郡駅東南六キロのところにあり、敷地一、〇一七坪、聖堂一七二坪。初代の司祭はコール神父で、いまは大名町教会で生まれたという、糸永神父＝内写真＝が主任司祭。信者の数は千人を越えているが、旧信者の集まりだけに、信徒使徒職の活発な動きはない。わずかに、十人の高校生で組織しているビンセンシオと、婦人会の活動が目立っているだけ。だが、ここには養老院『聖寿園』があって、『愛苦会（在俗修道会）』のシスターたちにいたわられながら、余生を楽しんでいる老人たちの姿を見ることができる。

糸永神父は『旧信者だけの教会ですから、布教活動など思いもよりません。当面の仕事は、ここの人たちが先祖から受けついだ信仰を固めることしかしバチカン公会議の新しい方向にも無関心であってはならないと思っています』と語っていた。

なお平田三郎司教大名町教会の平田神父も、この教会で洗礼を受けた人たちだ。

## 修得証書授与

### 神学・要理講座で

教区主催の神学・要理講座の本年度第二学期は十二月十六日終了したが、七年前からはじまったこの講座で単位をとった参加者約五百九十人に深堀司教から修得証書が渡された。この講座は福岡大神学院のラベル神父らによって毎週火曜日午後、三講義ずつ行なわれている。

## ウルトレア福岡教区総会

クルシリヨ（信徒練成会）に参加した人たちの定期的例会であるウルトレアの福岡教区総会は、十一月二十三日午後一時から福岡雙葉学園でひらかれた。集まった五十五人のクルシリスタにたいし深堀司教から「聖霊のみちびきのもと使徒職にまい進するように」との激励のおことばがあり、たまたま来福中のウォード神父（御受難会・クルシリヨ指導司祭）のあいさつ、つづいて松尾光敏氏が『教会の宣教活動についての教令』の内容を説明。『私たちの宣教活動』と題して六人がパネルディスカッションをおこない、聖体の前で新しい決意をひれきして五時すぎ散会した。

## アイルランドからお客さま

### 福岡カトリック幼稚園に

十一月二十日朝、福岡市美野島二丁目福岡カトリック幼稚園（園長ライル神父）に、はるばるアイルランドからきた貨物船のバーン船長以下乗員とその家族が訪れ、楽しいクリスマスの贈り物をした。



この貨物船は二十二日博多港に入港したアイリッシュ・ローン号（一四、〇〇〇トン）でアイルランド船として博多湾港は初めて。

## 松島で二児焼死

### SVPから救援物資

十二月十二日ひるすぎ松島（佐賀県東松浦郡鎮西町）の中尾久義さん（三十一歳）のいろりから発火して全焼、寝ていた生後一歳半のミチルちゃんと二歳半のミキちゃんは煙にまかれて窒息死、同じ二歳半のミカちゃんは全身に大やけどを受けた。葬儀は翌日おこなわれたが、この痛ましいニュースを聞いてヒンセンシオ会福岡中央理からただちに救援物資を送り、大牟田明光学園と福岡雙葉学園の生徒たちから慰問の品が送られた。松島は玄海灘の孤島で、地元住民一七〇名は全部カトリック信者。

## 謹賀新年

### 福岡教区聖職者一同

**深堀仙右衛門司教**
**平山高明被選司教**
**福岡邦人司祭地区**

司教館　深堀敏
浦口均
牧山重光
川口康頼
大名町教会　平田正喜
鵜野泰年
浄水通教会　平田惣五郎
地行教会　黒川博
光ケ丘教会　山崎聡一郎
西新教会　平田勇
美野島教会　ライル
高宮教会　カール
山東龍雄
シギスベルト
吉塚教会　シュルツ
ピロー
茶山教会　畑原富雄
箱崎教会　ベリボー
大橋教会　青木功
東田島教会　オッカナー
古賀教会　乾盛夫
デルダー
二日市教会　堤要吉
久留米教会　三村邦明
浦俊雄
西田邦洋
大牟田教会　畠山七郎
吉野教会　山川辰幸
今村教会　永糸一
糸永武男
本郷教会　山田成章
小郡教会　岩永義人
呼子教会　平田敬
馬渡島教会　田川清美

**北九州パリ会地区**

門司港教会　ベルトラン
門司教会　モーゼ
小倉教会　青木保
有安宗治
牧山勝美
湯川教会　グロージャン
戸畑教会　バスチ
ガイヤール
ベルトラン
若松教会　デンシャンブ
天神町教会　バイヨ
黒崎教会　トクブク
キニュー！
八王寺教会　ドルエ
牧山藤房
ヴェイヨン
ルリエ
本城教会　水巻教会　パスカレル
直方教会　ドレル
飯塚教会　ベニエ
田川教会　ラバルタ
行橋教会　ボンヌカズ
新田原教会　伊東誠二
堤敏雄
門司天使の聖母修院付　ラグレブ
八幡援助修院付　ボア
ルカ
ガブリエル
トラピスチヌ修院付　オジョルノ

**佐賀ミラノ会地区**

伊万里教会　サルデイ
唐津教会　サルビ
佐賀教会　ガッザルデイ
ペンツォ
鳥栖教会　テンペリニ
武雄教会　マグリン
鹿島教会　ルッチ
多久教会　アックワビバ
聖母の騎士修院付　オジョルノ

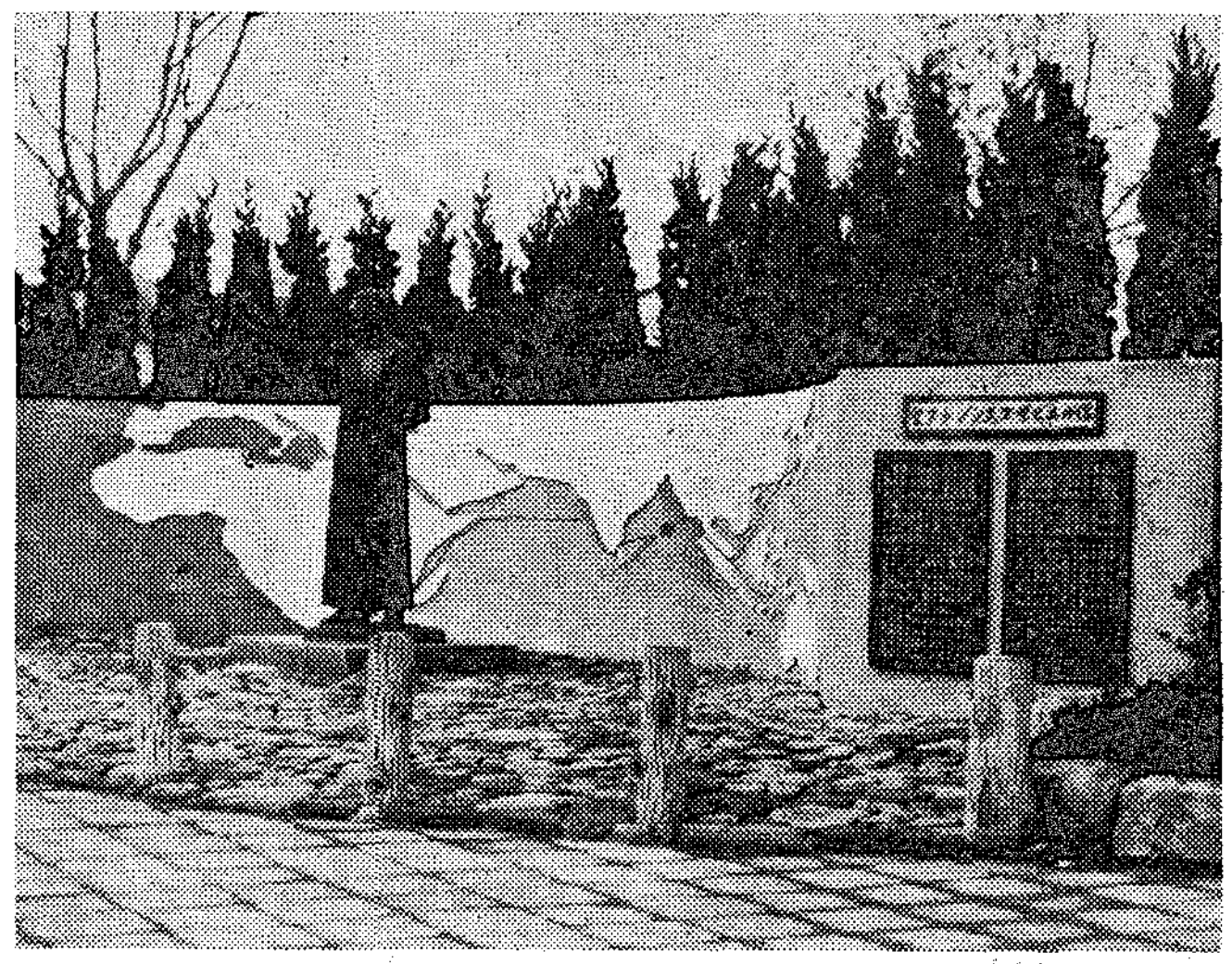
**熊本コロンバン会地区**

荒尾教会　オマーラ
人吉教会　ディバイン
本渡教会　ディキン
手取教会　ノーリス
コーネリー
オブライエン
ダウド
健軍教会　牧山田一
平田寛
帯山教会　ドイル
マックグラス
水俣教会　ドノフー
大江教会　グリフィス
崎津教会　コール
島崎教会　ガラハー
玉名教会　ブランチ
菊池教会　ケーリー
八代教会　マッグワイヤ
琵琶崎修院付　ブルック
待労院付　パチフィコ
少年の町付　ベラス

## 教養

# ザビエル像建設

上田　保



私は大分市に生まれながら、大方の大分市民と同じように、この地のキリスト教の歴史には最近までは無関心であり、また無知でもありました。私が大分のキリスト教の歴史に興味を持つようになったのは、次のような機会からでした。

この町で死去した滝廉太郎の銅像建設を思い立ち、思案のあげく東京日比谷公会堂で資金カンパの音楽会を開いたとき、日本で最初に唱歌のうたわれたのが大分であるということを知ったのでした。私は他の人はともあれ、市長がその市の歴史を知らぬことは許さるべきではないと考え、それから勉強のつもりで大分のキリシタンの歴史を調べ始めたのが病みつきとなって、ついに昭和三十三年八月深堀司教さまの司式で受洗するまでになりました。

そして私の仕事は当然、大分の持つキリシタンの歴史を調べ、史跡を発掘してこれを顕彰するということになりましたが、まず手始めにやったのが聖フランシスコ・ザビエルの銅像建設でした。像の制作は新制作派の俊英佐藤忠良先生に依嘱しました。場所は市の目抜の大手公園の一角、像の高さ二メートル、ポーズは左手に十字架を持ち、右手を前にさしのべて街頭で説教しているところです。

除幕式は去る十二月三日の聖人の祝日を選び、大分教区長平田司教様の司式で、壮厳なミサとともに除幕が行なわれました。この像のバックは高さ一メートル六〇、長さ九メートルのコンクリートの壁で、これにはザビエルが航行した航路を赤線で表わし、ところどころに南蛮船が描かれています。四百二十年の昔、はるばる日本に来たザビエルの苦労の跡がひと目でわかるようにしたつもりです。

この銅像が立つまでは、多くの人の協力と苦心がありましたが、私自身もまた微力ながらも全力を傾けました。そして大分キリシタンの業績を顕彰することは、私に与えられた使命であると思い、こんども殉教者の記念碑建設、大分キリシタン史の編さんなどに力をそそぎたいと考えています。（**写真はザビエル像**）（もと大分市長）

## 冬雑詠

鬼木保之

冬立てば窓より見ゆるつつじ葉の今年も赤く枯れ変り行く

判りやすく親しみやすくと言いいいし　饒舌多きミサにあずかる

今朝見れば枯れ残りたる丈高きバラのほずえに色あせし花

金沢に向いゆくときなだれ来し雲ありて二重の虹の輪を断つ

黒部湖に入る河原はすさまじく荒れて岩・石・肌さけし木々

（雙葉学園教諭）

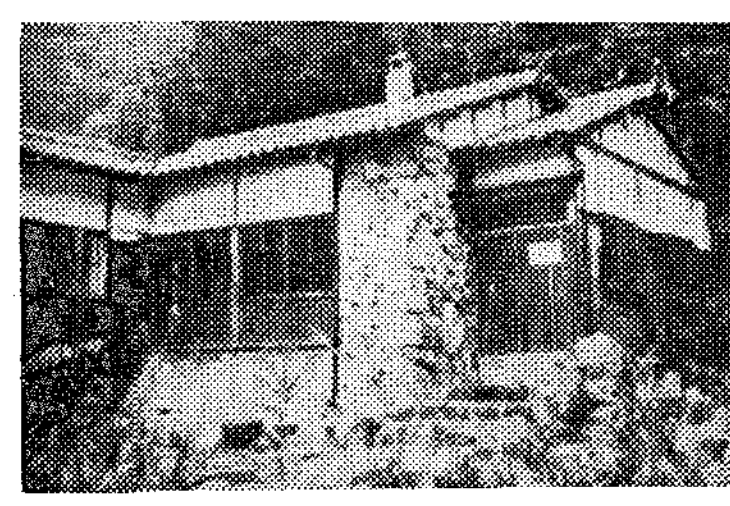
# 神冥窟参禅記

池田泰久

去る七月二十五日から三十日にかけて、私は広島市郊外南原峡の神冥窟（しんめいくつ）で、ラサール愛宮神父様ご指導の坐禅会に参加した。愛宮（えのみや－日本帰化名）神父様については、その著「禅・悟りへの道」などですでにご存知の方もあるかと思う。神父様はイエズス会士として一九二九年にドイツから来日、その後、日本の布教のためには、日本人の伝統的思想を理解する必要があると思われ、禅について研究を進め禅がカトリックの信仰生活を深めるのに大変有用であることを悟られた。

神父様が建てられた前記の神冥窟で、毎月最終日曜日の午後と、年に一・二回数日連続の坐禅会が催される。以下私が参加したこの夏の坐禅会のもようである。

夏の夜明けは早く、五時になると明るくなり、いっせいに鳴き始めるひぐらしの声で目が覚める。すぐ起きて洗面、その他の用をすませ、聖堂（兼禅堂―二十一畳敷）に集って朝の祈り、そのあとで約四十分間の坐禅がある。それから落ち着いた気持でごミサにあずかり、説教を聴き、聖体を拝領する。朝食後は、建物の内外の掃除をし、一時間あまりの自由時間を谷川におりて洗い物をしたり、冷水摩擦（まさつ）や体操をしたりして、山中のすがすがしい気分を味わう。



九時から約一時間、禅堂で神父様の提唱、信仰と坐禅についてのお話しがあり、ついで十時から十二時まで坐禅、途中径行（きんきん）といって禅堂内を静かに並んで歩く行がある。昼食後はしばらく自由時間、午後二時から五時まで坐禅、径行、坐禅という順序で四十分ずつ三回坐る。山の木立ちの緑が真夏の太陽の光線を柔らげて、街なかよりはずっとしのぎやすいが、それでも日中はじっと坐禅をくんでいると自然に汗が流れ出る。

この間に、神父様のお部屋に一人ずつ入って行き、個人的な指導を受ける独参がある。神父様は独参の時以外は、いつも同じ部屋で私たちといっしょに坐っておられる。五時半夕食、一時間の自由時間（入浴その他）、七時から二回坐り、九時半に夕の祈り、十時ごろ床に就く。一日中無言（とくに用事がある時以外）で、読書も禁じられ、自由時間中もできるだけ坐禅をする。こうしているうちにさまざまな雑念が取り去られ、動揺が静まり、心が澄んで来るのである。

参加者は一般人、学生、修道女あわせて約十五名、地元の広島を始め、大阪、福岡、遠く仙台から出て来た人もあったが、それぞれに成果をおさめ、お恵みを感謝したのであった。

つぎにこの参禅会で聞いた神父様のお話をいくつか紹介してペンを擱くことにしたい。

(1)　風がやんで池の面が平らになると岸にあるものの形がはっきり写るように、坐禅によって心が静まれば、キリスト信者にはキリストの内容が写り、仏教信者には仏教の内容が写る。

(2)　今夜は暑いが、一生懸命に坐ってください。一生懸命ということは、言いかえれば命がけということで、そうすれば暑さも苦しさもすべてなくなる。自分のためだけでなく、人類の救いのために一生懸命坐ってください。人類の救いのためにことばで述べ伝えることも大切だが、自分がほんとうに救われることが大切だ。ほんとうに浄化された人がいれば、そういう人が存在するというだけでも人類の救いになる。これはカトリックの教えに照らしても決してまちがいではない。

(3)　キリスト教の黙想と坐禅との関係について―人間の認識には理論的（分別的）認識と直観的認識がある。現在ふつう行なわれているキリスト教の黙想は前者である。キリスト教においても、中世までは直観的認識の方法もよく行なわれていた。理論的認識も大切であるが、その到達すべきところは直観的認識である。坐禅はその直観的認識のためのすぐれた方法である。

(4)　坐禅は祈りや黙想と同じように、あるいはそれ以上に、神を見出すために、神と一致するためのものである。

(5)　神のみことばを学び、観想することと活動とは、どちらも大切なものである。ただ忙しさのために神を忘れるようなことがあってはならない。神の観想をよく行なって、それがおのずから活動となって行くようでありたい。すべての人のうちにキリストを見出して奉仕するようになることが大切。

(6)　信仰生活が深まると、ただ神との愛のみに生きるようになる。神を愛するがゆえに、ほかのあらゆるものを捨てる。これさえあれば安心。ほかの何もいらないという愛の極地、坐禅も、その功徳（くどく）をあれこれいわず、ただ坐るのみという境地にまで至るべきである。

（付記）愛宮神父様は現在おもに東京にあり、西多摩郡桧原村小岩に新しく「秋川神冥窟」の建設に当たっておられます。（**写真は神冥窟**）（いけだ・やすひさ＝学校教諭）

×　×　×

## 聖書とマリア

# 神のすがた　キリストの母

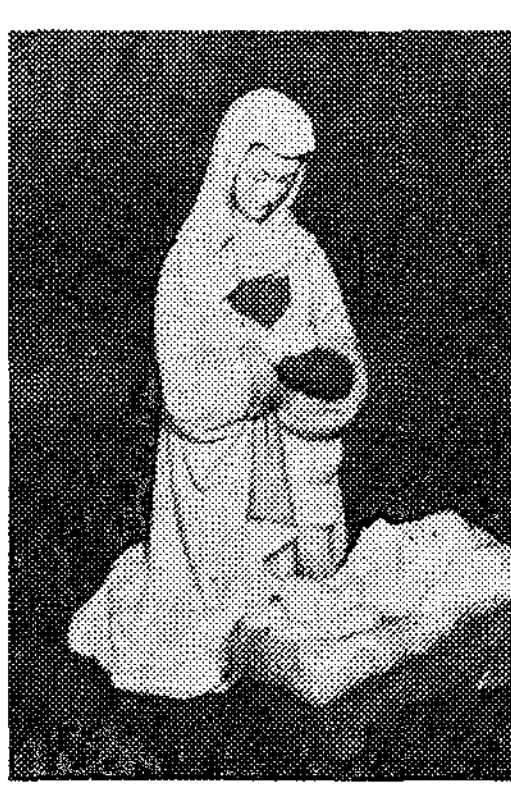
いまさらいうまでもなく、マリアはキリストの母である。聖書はあきらかにキリストが神であると教えているが、マリアが神の母であると納得するのはやさしいことではない。神であるキリストの神秘は、いろいろの仕方で表現されているが、神の母マリアの使命をもっともよくきわだたせてくれるものはどれであろうか。

### 神のすがたであるキリスト

それはキリストが「見えない神のすがたである」ということであろう。聖パウロはこのキリストのタイトルをめぐって、まとまった教えを展開している。

『かれにおいて、かれによってかれのために万物は造られた。かれは十字架の上に血を流し、被造物のうちの長子、教会である体の頭となった』（コロサイ一・15―20参照）。またヘブライ人への手紙のなかでも『神は預言者を通して語られたが、終りの日には子を通して語られた。子は神の光栄の輝やき、神の本性の型、勢力あるおことばによって宇宙を保っておられる』（一・1―3）と記している。

父と共に創造の力を有しておられる子が父を知らせてくださる。昔の預言者のようにことばによるだけでなく、子の全存在、全人格を通してである。



人は神を見ることはできない。しかし太陽が水蒸気のなかに輝やきを反映するように、神は子を人々の民のなかに輝やかせる。王が自分の像を貨幣に刻ませて自分を民に知らせるように、神のすがたはキリストのうちに刻まれている。ヨハネはいう『みことばは人となった。』そしてつづけて『われわれはその栄光を見た』という。ヨハネが見て知った人間イエズスは神を啓示するみことばであった。だから『キリストは神のことばを語り父から託された救いのわざを遂行する』（神の啓示に関する憲章4参照）。

キリストの教えとわざは、ご生涯を通じてひろがっていった。したがって神秘的な見地からは、キリストは存在のはじめから人となったみことであられるが、人間への現われ方から言えば、幼な児イエズスはまだ神のすがたの素描でしかない。だからご誕生の貧しさと十字架上での貧しさとのあいだには、啓示の面からかなりのへだたりがある。

### マリアの使命

ではマリアは人となられた神のみことばキリストにたいし、母の役割をどのように果たされたのであろうか。

まずマリアは神のみことばに人性をおさずけになった。この人性に神のすがたが刻まれる。マリアはまた、すべてのユダヤ婦人と同じように、教育者として振舞い、『知恵と背丈と寵愛』が成長してゆく幼な児の上に、神のすがたの最初の線を引く。

母マリアは神のみことばである方に聖書を教え、こうして神のみことばが一人前の人間となるのを助けられたのである。

## テレビ・ラジオの番組

（1970年1月）

**FBS**（月・火・金9・10～25）心のともしび
5日　ゲスト　浜尾　実
7・12・14日　ゲスト　月ノ家円鏡

**RKB**（月～土，6・40～6・45）
1日　曽野綾子・末広がりのお餅
3日　ハヤット神父・タンポポ
6日　八代静一・さずかりもの
8日　大島明美・童話
10日　ハヤット神父・人生を楽しくする方法

**RKK**（月～土，10・10～15）
2日　山本健吉・戦争はタバコ
5日　田中澄江　ウドン屋さん
7日　霜山徳爾　無題
9日　曽野綾子・羞恥心
12日　田中澄江・白


## 昭和45年度　泰星高等学校生徒募集

1. 募集人員　普通科　150名（男子だけ）
2. 願書受付　昭和45年2月3日(火)～2月9日(月)（午前9時～午後5時）
3. 試験の期日と科目

| 時刻／期日 | 9.00～9.40 | 9.50～10.30 | 10.40～11.20 | 11.30～12.10 | 12.50～13.30 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1日 2月13日(金) | 国語 | 数学 | 社会 | 理科 | 英語 |
| 第2日 2月14日(土) | 面接 | （父兄同伴） | 身体検査 | | |

福岡市山荘通3ノ111　郵便番号810

### 泰星高等学校

TEL㊿0838～0839

## 大名町 英語 アカデミー

（福岡市大名2丁目大名町カトリック教会内）

TEL 74－3687

**裁師**　ハー神父　オカナー神父　ピロー神父　シユルツ神父　ライル神父　その他数名

**学期**　1学期は22回で1回は1時間15分
前期　1月12日…………3月25日
現在学生を募集中

**授業料**　一期　5,500円　（前納のこと）
入会金・テキストは無料

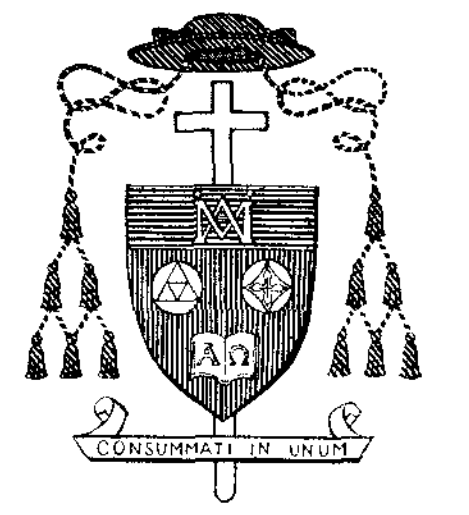
新年おめでとうございます

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円



# 平田三郎司教着座




福岡司教に任命されたペトロ平田三郎司教の着座式は、一月二十三日午前十時三十分から大名町教会で挙行された。平田司教を中心に十一名の司教による共同ミサのなかで、ローマ聖座から送られた任命書が朗読され、駐日教皇庁大使ウステンベルグ大司教と深堀司教にみちびかれて、平田司教が司教座に着座した。

大使のあいさつ（別項）につづいて平田司教が着任の辞をのべた。ミサ後テ・デウム感謝の歌にひきつづき、深堀司教への謝恩と平田司教歓迎の式が行なわれ、教区司祭団を代表して伊東誠二師が、また信徒を代表して林初三郎氏が両司教に感謝と忠誠のまごころをひれきした。これにたいし深堀司教は「私は去るが、愛は残る。みなさんは教会のものとしてキリストとともに永遠さして進んで下さい」と別れのことばを述べた。

十二時半から天神の福岡ビル九階で歓送迎の宴がひらかれ、桑原万寿太郎氏が乾杯、里脇大司教と日基団の森俊治牧師の祝辞があり、亀井福岡県知事など名士も姿を見せていた。

## 着任のあいさつ（大要）

かえりみますと、四十二年前九州全域は一つの教区でしたが、次第に教会の力も大きくなり、長崎教区を邦人司祭にまかせることになり、その他の教区が福岡教区として出発し、初代司教にパリ外国宣教会のチリ司教様が着任されました。チリ司教様は短命で三年足らずで天の父のもとに帰ってゆかれましたが、教区の将来とご自分の後継者のことをお考えになり、将来の教会建設予定地を確保してくださいました。さらに教区の基礎をきずいてくださった二代目の司教様は、同じパリ外国宣教会のブルトン司教様でした。

司教様は第二次大戦ぼっ発の直前まで、長い間、福岡教区の司教にあられ、神学校、司教館をはじめ多くの教会の建設にあたり、たくさんの修道会を招へいなさって第三代目の深堀司教様にその席をゆずられました。

深堀司教様は教区長時代を加えますと実に三十年の長い年月にわたり、福岡教区を基礎時代からこんにちの建設時代にみちびいて下さったのであります。

深堀司教様が教区長として着任された時のこと、またそれ以来の発展のことを考えますと、信徒の数では約三倍、邦人司祭および修道女の数では四倍、外国宣教会神父様方の数で二倍、教会の数も約三倍になりました。深堀司教様はそういう輝やかしい功績と、かぐわしいキリストの香りを残したまま退職されようとしておられます。

長い間父として司教様をしたわれたみな様、この時にあたりみな様方のご心情がどういうものであるか、容易に想像することができます。七十六歳という高齢に達しておられながらも、ごらんのように心身ともにご健康で、もっともっと教区のために司牧をしていただきたい、その願望は私をもふくめて、みな様方の一様なる願いであろうと思います。

バチカン公会議は、七十五歳という年齢をもって一応司教定年の年ときめました。司教様はこのことに従おうとお考えになり、教皇様にそのお願いをなさいました。教皇様もこの願いをきき入れられ、この不徳なる私が輝やかしい福岡教区の第四代司教として、大分から着任することになりました。自分を知っているだけにこの任命がどんなにつらいものであるか、また従順の徳が、どんなに実行困難なものであるかを身にしみて感じました。

教区の司祭、修道者、信徒のみなさん、不徳なものでありますが私は神様の命令に従いました。どうか福岡教区という大家族の発展のために、ご協力下さるようお願い申し上げます。

まず神父様方にお願いをいたします。現在は断絶の時代といわれます。父と子との断絶、友と友との断絶そして人々は個々ばらばらに生きております。ところで司教は司祭の父であり友であると、公会議にうたわれています。私が、教会内に入りつつあるこのような断絶の時代において、兄弟であり友である司祭のみな様方といちように手をとり合って、教会の発展のためにつくせるかどうか、それは神と教皇様がご存じであります。私個人と致しましては、全力をあげて司祭団の奉仕のためにつくしたいと考えています。

それから宣教会、修道会のみな様方にもお願いいたします。みな様方は独特の精神に従い、また独特の宣教活動を通じて福岡教区という大家族のためにつくしてくださいましたが、こんごともどうかいつなる教会の部分である福岡教区のために、みな様の独特の精神と布教活動を通じて、母なる教会の姿を、ますます美しくして下さるようお願いいたします。

最後に、教区の信徒みな様にお願いをいたします。バチカン公会議いらい、信徒の権利とともにその責任も大きくなってまいります。ご承知のように教会は、司教のものでも司祭のものでもなく、神の民、神の子どもである私たちみなさまのものであります。みなさんと私たちが教会であるという確信をふかめていって頂きたい。そして教区という大家族の栄えのために、私たちもみなさんもおのおの共同の責任をもっていることを、一応この着座式にあたり確認したいと思います。

断絶の世界にあって、自分の教会だけよければよそはどうあってもよいというようなことではなく一つなる教会の部分である教区の発展のために、みな様も私たちも共同責任をもっていることを忘れないでください。

現代はまさに信徒使徒職の時代といわれます。どうかみな様、将来教区信徒使徒職協議会なり、あるいは教区司牧協議会なりを通じて、みな様の教会内部における革新の点、教会の外にむかって神のみことばをどういうふうにして説き、福岡教区はどのようにしたら栄えるのか、この家族のメンバーはどうしたらふえるのか、信徒のみな様のご意見を私はお待ちし、互いに手をとりあい、歴史に輝やく福岡教区の発展のために、みな様のお力ぞえをお願いしておきます。

### 着座式のおもな招待者

駐日教皇庁大使ウステンベルグ大司教、里脇長崎大司教、田口大阪大司教、白柳東京大司教、冨沢札幌司教、野口広島司教、レイ琉球司教、相馬名古屋司教、糸永鹿児島司教。

福岡教区全司祭、大分教区司祭代表、教区に関係ある外国宣教会・修道会の日本管区長。日基団・森俊治、大野寛一郎、入江清弘各牧師。日本聖公会九州教区久保淵豊彦主教と太田俊夫師。教区内男女修道院長全員、各種使徒団体の会長、教会信徒代表。平田、深堀両司教の親族。

## 深堀司教は熊本に

引退された深堀司教は、熊本市島崎町八二〇番地、マリアの宣教者フランシスコ修道院内にお住まいになる。この修院内には待労院や一般病院のほか養老院、乳児園、養護施設、幼稚園などがある。司教様の御多幸を祈りたい。

## 駐日大使のおことば

わたしはまず深堀司教様に心から感謝申しあげたいと思います。神の民を永遠の救いにみちびくという重大な任務をふかい信仰と賢明さをもって果たしてこられました。聖書のなかに「忠実なしもべのたとえ」が教えられていますが、深堀司教様こそはほんとうに忠実なしもべとして、神様のお望みを完全におこなわれたのです。カトリック教会は司教様のお働きにたいし、いつまでも感謝を忘れることはできません。

わたしはつぎに平田司教様にお祝いのことばを述べたいのです。教区の指導ということは、誠にたいへんな責任であります。深堀司教様がつづけてこられたことを受けつぎ、むづかしい世界のなかで正しい信仰の光を人々の前に輝やかせてください。わたしたちは平田司教様の熱心さとゆたかなご経験に期待をかけています。

教区の司祭、信者のみなさん、どうか平田司教様と心を一つにして、信仰の道を進んでください。みなさんの心からのご協力を、司教様に代ってみなさんにお願いいたします。

わたしは深堀司教様、平田司教様、そして教区のみなさんの上に神様のゆたかな祝福をお祈り申しあげす。

## 平山司教祝聖　大分小神も完成

大分司教に任命されたペトロ平山高明師の祝聖式は、一月二十五日午前十一時から大分司教座聖堂でおごそかに挙行された。

駐日大使ウステンベルグ大司教ら十一名の司教が、約四十名の司祭との共同ミサのなかで聖霊のめぐみを願って按手をおこない、教区の新しい牧者に指輪と司教冠と牧杖をさずけた。ミサ後村岡師と上田氏がそれぞれ司祭と信徒を代表して平田司教に感謝の辞、平山司教に歓迎のことばをのべたが、これに対し新司教は「福音の光を手から手にともし教区全体を照らし輝やかそう」と教区民に奮起をうながし、平田司教は「八年間私は身も心もこの教区のために献げつくした。司教指輪と十字架は大分に残して去る」と語った。

祝賀会はこんど完成した大分小神学校（小池原字向原）で行なわれたが、会にさきだち同校の祝別があった。敷地一万三千二百平方メートル、鉄筋コンクリート三階建て、床面積は千六十八平方メートル（約三二三坪）。付近に巨大な明野団地が建設中である。

## 2月　公現節　四旬節

**1日（日）　公現後第4主日**

旧約時代の預言者は、神のご意志を民につげるものであった。預言者と称する者がほんとうに神からつかわれたものであるかどうかは、その者の言行一致の生活によって判断された。新約においてはまずキリストが最大の預言者として父のご意志を告げ、死と復活をもってその権威を証明された。

**2日（月）　主の奉献**

キリストはただ律法に従うために神殿に奉献されたのではない。文字に書かれた律法はかれの行動原理ではない。律法をはるかにこえた、限りない愛にかられ、完全ないけにえとなってささげられた十字架上の奉献の第一歩として、きょうご自身を神にささげられた。

**6日（金）　日本二十六聖殉教者**

京都でとらえられて博多、唐津、伊万里をとおって長崎の西坂の丘で殉教をとげた二六名のひとたちは、天国のよろこびをめざして人生の旅をつづけているわれわれに、大きな勇気とはげましを与える。

**8日（日）　公現後第5主日**

人間の深いなやみやくるしみを傍観しないで、かれらに積極的に救いの手をのべるためには自らも苦しむつよい覚悟がいる。口先きの同情でなく、苦しみのなかにとびこむ勇気である。「よわい人を救うために、私もその人とともによわい者となった」とパウロはいう。

**11日（水）　灰の水曜日**

ことしから七旬節の聖節はなくなり、いきなり四旬節がはじまる。四旬節はキリストの復活の栄光にあずかるというキリスト教の最高の目標をめざして、自分と社会のなかの悪と戦い、福音の教えを忠実に生かすときである。

**15日（日）　四旬節第1主日**
**大斉と小斉　建国記念日**

イエズスが荒野で悪魔と戦われたことは、四旬節の精神を象徴している。荒野は人生のきびしさを暗示する。そこでわれわれは人間の根本的な悪、神の助けを求めず人間が自分の力だけで生きようとする悪と対決する。神の前に真に謙きょな者になること、これが荒野での改心である。

**22日（日）　四旬節第2主日**

アブラハムは年老いて生まれたいとし子を神にささげるよう要求される。人間の常識と期待を無視したような神のなされ方にたいし、不動の信頼を保ちつづけることによって、アブラハムは偉大な人物として生まれ変ったのである。

**聖体礼拝**

第一日曜　古賀教会
第二日曜　浄水通教会
第三日曜　小倉教会
第四日曜　健軍教会
大濠聖母訪問会

**祈禱の使徒会**

【一般意向】たがいに離れているすべてのキリスト者が忍耐と愛と祈りによって、たがいに心を近づけるように

【布教意向】充分の数の伝道士とその養成所のために

## 共同体錬成会　3月30日から8日間

来る三月三〇日から四月六日までの八日間「キリスト共同体錬成会」が福岡市黙想の家でひらかれる。

この錬成会は神の民一人一人が第二バチカン公会議の精神を生活に実践させるための効果的な助けの一つとして世界各地で行なわれているもの。

教会はいま、神学、司教、組織の面で刷新が盛んにおこなわれているが、その根底に個人として、また共同体としての深い霊的刷新がなければならないことは、公会議が強調している。キリスト共同体の錬成会は、この霊的刷新によって教会につくすことを目的としている。

公会議はあらゆる分野に対して個人としてのみでなく共同体としての神の民の全面的刷新にささげられたが、キリスト共同体錬成会は公会議によって示された理想の実現に役立つことをめざすもの。言葉によるのみでなく、多様性のなかの深い一致の証しとなることを通して、この目的達成をはかるところに、錬成会の特色があるが、その特徴は、神の恵みによって、とくに共通善のためにむけられた共同体的な、親密な霊的改革をよびさますことである。

錬成会は、男女信徒、司祭、修道士、修道女ら、神の民のあらゆる分野の人々が一緒に参加するのが理想。黙想、講話は、聖書、神学、日常生活、歴史、司牧などの面からキリスト共同体のテーマを少しずつ進展させ、講話は、一人の説教家によるのではなく、一つのチームによってなされる。また参加者は積極的に対話し、一緒に住みながらも個人的黙想をさまたげられない。

キリスト共同体推進グループは一九五二年ピオ十二世教皇の宣言で発足し、五六年聖座に公認されたもの。ロンバルディ師（イエズス会）を総指導司祭とする神の民のあらゆる分野の人々の国際的つながりで、現在二十二のセンターが全世界にある。日本では第一回錬成会が六五年にひらかれている。

こん回の錬成会には、教会の縮図となるようあらゆる分野の人々の参加が望まれている。但し男女信徒の場合、受洗後一年以上、年齢二十歳以上となっている。

**申し込み**

三月十五日まで
東京都港区六本木四ー二ー三九
フランシスカン・
チャペル・センター内
キリスト共同体錬成会事務局

### おねがい

福岡での平田司教着座式と大分の平山司教の祝聖式の写真を集めています。ご寄贈願えれば幸いです。

カトリック編集部

# 社会福祉事業と教会
## 施設に積極的な協力を！

資本主義のひずみは、現代社会に貧困、病、犯罪、無知、気道徳の退廃となって現われる。こうした現象の中にある不幸な人たちを援護し、救済するのは国家の責任であるが、社会事業の発達していないわが国では、民間の施設が政府に協力して救済事業を推進している。そしてカトリックでも多数の施設を設け、不幸な人々の援護と救済に力をそそいでいるが、それらの事業に、信者はどれだけの理解を持ち、協力しているのであろうか。また一般にはカトリックの社会福祉事業を『慈善事業』と見て、自己満足にすぎないとする人が多い。こん回はカトリックの社会福祉事業とはどんなものか。そのあり方と問題を、養護施設に例をとり、検討してみることにした。

## 社会福祉事業とは

『社会事業』は、第二次世界大戦後、『社会福祉事業』と改められた。『社会事業』ということばには、貧困者を救うというだけの消極的な性格が含まれており、また社会事業以前の『慈善事業』と同一に解される傾向があるというところから、救貧から福祉までという、近代的な性格を明らかにするために、『社会福祉事業』と言いかえられたものである。

社会福祉事業の分野は、きわめて広域にわたっており、いちいちとりあげて説明することはむずかしいが、これを養護施設に限ってみると、『養護施設』は、社会福祉事業のうち児童福祉に包含されるもので、児童福祉法第七条による児童福祉施設のひとつ。養護施設は『乳児を除いて、保護者のない児童、虐待されている児童その他、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護することを目的とする』と定義されている。

ではその養護施設を、久留米市御井（みい）町隈（くま）にある幼きイエス会の『天使園』についてみてみよう。

ここには幼児、小、中学生、高校生をまじえ、約六十人が収容されている。ほとんどが、児童相談所を経て来た子ども達だ。このこどもたちは全部女の子で、その日課はつぎのように定められている。

六時起床／六時十五分朝の祈り／同三十分ミサ／七時朝食、掃除／七時四十分登校／十二時昼食／三時三十分下校／五時まで学習／五時教材準備／五時三十分掃除／六時夕食、自由時間／七時夕の祈／七時二十分…八時四十分学就／九時消灯

十三人のシスターがこの日課の指導に当たっているが、幼児には三人に一人のシスター、六歳以上六人に一人、七歳以上は八人に一人。これではただ忙しいだけで、何一つ実のある仕事はできないそうだ。

シスターのAさんは、

『自由時間には、一対一の個人指導をすることにしている。人格形成上いちばん大切な時期であり心の豊かな子に育てるためには、個人指導は欠かせないこと』と語るが、またこどもたちの制服や下着は、シスターたちが、忙しい時間をさいて作ってやる。そこにはこどもたちの成長をたしかめる喜びがあるのだという。

## 養護施設の現状

現在全国に五八〇の養護施設があり、カトリックで経営する施設はその一割、五八を占めている。そして福岡教区には、久留米天使園、三井郡の清心慈愛園、北九州市の聖小崎育児園と天使育児園、馬渡島の聖母園、熊本の天使園と聖母愛児園それに少年の町、八代のナザレ園など八つの施設がある。

これらの施設には、いずれも五十人、六十人のこどもが収容されているが、いまいちばん困っているのは人手と経費の不足。清心慈愛園のBさんは、それを、

『それは国の施策の貧困によるものだ。人員の不足、少ない手当これでは、こどもたちに何かしてやろうと思っても何もできない。児童福祉と口ではいうが、現実には児童の人権がまるで守られていない』と嘆く。

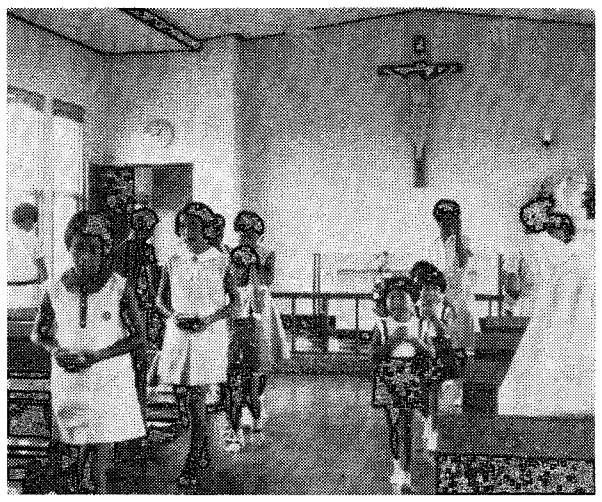
『三人を一人で見ても一日中走り回らねばならないのに、現状では六人に一人の保母というところが多い。これではこどもたちに、愛情を解らせる暇もない』というのは聖小崎育児園のCさん。

また天使園のAさんは、

『いま、のどから手が出るように欲しいのは、こどもたちを高校に出してやる経費』だという。

施設の子どもたちは、中学課程を了えると、そのまま社会に放り出されてしまう。しかし中卒では社会に出ても自信を持つことができず、道を誤り転落してゆく者が多いそうだ。Aさんは

『こども達は神を知っているから、たとえどん底まで落ちたとしても、必ず目覚めることができると信じているが、できればこどもをそこまで追い込みたくはない。一人でも、二人でも、高校を了えさせて、自信をもって社会へ出て行けるようにしてやりたい。だがいまの天使園には、その経費の出る当ては全くない。ことしも幾人かのこどもが中学校を出るが、そのことを思うと胸をかきむしられておちついてはいられない』と、涙を流して語っていた。



## 不充分な児童福祉

『児童福祉』とは、(1)児童が心身ともに健全な状態で出生すること。(2)児童が心身ともに健全な状態で成長発達すること。(3)児童がその生活を保障されること。であるといわれる。とすれば、今日の養護施設の中で、こどもたちが健全な状態で成長発達するような教育、また栄養の確保が十分に行なわれているであろうか。こども六人に保母一人という状態では、十分な教育が行なわれるはずもないが、栄養の確保について、聖小崎育児園のCさんがつぎのように言っている。

『こどもたちのおやつ代が一日に十円、食費は二百四円。動物園のゴリラの食費一日分が五百円だといわれるが、施設のこどもの食費はその半分にも満たないわけだ』

では社会に出てからの生活の保障はどうか。天使園のAさんがいうように、中学を了えるとそのまま社会に放り出され、しかも転落してゆく者が多いというのは、この面でも十分な保護が行なわれていないということだ。Cさんは

『だから聖小崎育児園では、こどもたちを社会に出して独立させることに重点を置いている』という。消心慈愛園のBさんは『それは当局に計画性がないからだ』という。

不幸なこどもたちのこういう状態を、国の施策の貧困を指摘するだけで、そのまま放置してよいものであろうか。Cさんは

『カトリックが圧力団体となって、政治に働きかけねばならない』といい、新聞記者のDさんは、

『国がしなければならないものを、カトリックがしているわけだが、それだけの力があるのであれば、政治にもっと積極的に働きかけたらどうか。そういう意味ではカトリックには行動性が欠けているのではないか』と言っていた。

また

『国で完全な姿を作るのが理想だが、社会機構は複雑でそうはゆかない。現状では、国の施策の足りない点は経営者が補うが、我慢するより仕方がない。ただ、さし当たって考えられるのは、カトリックの中に、施設の運営計画を作り、指導に当たる事務局を置くことだ』という人もある。

## 信者は何をしているか

カトリックで経営する養護施設の、こういう問題を、私たち信者は傍観していてよいものであろうか。清心慈愛園のBさんは、

『社会福祉と教会の間につながりがない』といい、聖小崎育児園のCさんは、

『天理教では、病院の補助看護婦は、すべて信者が奉仕しており寝まき、シーツの洗濯から看護まで、全く手ぬかりがないそうだ。よそではこんなに信者が働いているのに、カトリックの信者たちは何をしているのか』と憤慨する。これらの養護施設では意外に慰問にくる人が多く、物品の上では不自由がないらしい。天使園のAさんは、

『私たちがお願いしたいのは、こどもたちの中に入って、こどもといっしょに楽しんでもらえる心の慰問と、私たちに協力して働いてくれる労力の奉仕だ』という。

またCさんは、

『慰問にきてくれる人は、婦人会やプロテスタントの信者で、カトリックの人たちはほとんど姿を見せない。西南学院には『養護施設研究会』があって、そこの学生がよくやってくるが、カトリックの学生は何をしているのだろう。カトリックの中で、何かをしようという学生はもういないのか』と言っていた。

ここでも問題になっているのはカトリックの信者の視野の狭さと行動力の不足。その点では、何ごとにも積極的な、プロテスタントの信者に、一歩も二歩も遅れているといえそうだ。天使園のAさんは、

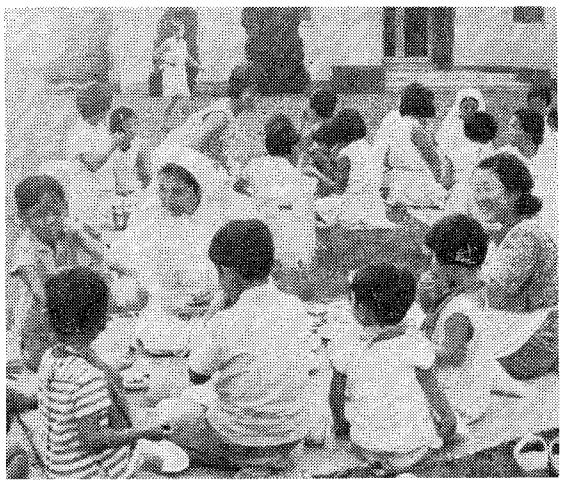
『プロテスタントの教会から、何かさせてくれといってきたので大工仕事をたのむと、さっそく、牧師が十人あまりの人をつれてかけつけてくれた』というが、また『カトリックの人たちが無関心なのは、神父さまに施設に対する理解がないからではないか』とも言っていた。

『司牧委員会を作り、その中で問題をとりあげ、バックアップしてはどうか』というのは、司教館のE神父だが、これに対して清心慈愛園のBさんは、

『教区の教会が一致して、養護施設だけでなく、社会福祉施設全体を推進させる組織を作ってほしい』と訴える。

施設を援助するといって、どんなことをしてあげればよいのだろうか。これにたいしある施設長さんは、

『あるカトリックの女子高校生に、おうちの古タオルでぞうきんを一枚ずつ作ってくれないかと頼んだら、早速千枚そろえて持ってきてくださった。また定をいうと私たちは学用品をたくさんもらうよりも、こどもたちの勉強をみてくれるお兄さん、お姉さんの定期的な訪問のほうがありがたい』と率直にのべている。



## めぐむ態度すてよ

聖小崎育児園のCさんは、

『教会に慰問を頼むと、日曜日に集中して押しかけ、かえって困ることが多い』というが、これは教会の施設に対する認識不足と、計画性の不足を、最も端的にものがたるものではあるまいか。

もう一つ気になるのは、

『カトリック信者の慰問には、恵んでやるという態度が露骨に見える。養護施設も他の福祉施設もその人たちが持っている権利のためのもので、恵んでやるという考え方は、今日では絶対に排除しなければならない』（Bさん）という点だ。われわれには、カトリックは何もしていないという印象が強い。こどもを高校に出す金がないという話があったが、信者が毎月百円でも二百円でも出しあえば、そんな問題はなんなく解決するのではないか。毎月四千円も出している新興宗教にくらべれば、百円、二百円の負担は何でもないことだろう』と言っていたが、神父も信者も、このさいカトリックの社会福祉事業を認識しなおして、カトリックの事業は信者の事業だという考え方と、その事業に、積極的に協力する姿勢を把握（はあく）しなければならないのではあるまいか。（広報室）


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話 ㊸ 4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電 ㊷ 4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊼ 2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 福岡市で合同祈禱会

## 信者多数が参加

福岡市内のカトリックとプロテスタント諸教会では、一月十八日から二十五日までの教会一致祈祷週間につぎのように合同集会をひらいた。十八日（日曜日）は午後三時半から市内中洲鰯町、博多ルーテル教会（久米芳也牧師）で、最終日の二十五日には浄水通の城東橋教会（入江満弘牧師）でそれぞれ一時間、また十九日には土居町の茶房エルムで、二十日から二十四日までは呉服町の新生館で、朝七時三十分から半時間、日々の主題にしたがって共同の祈りをささげた。

福岡での合同祈祷会はこれがはじめて。準備委員長に森俊治牧師があたり、カトリックからは女子聖パウロ会のシスターや信徒ら多数が参加した。祈祷会の主題は一つぎのとおり。

18日教会一致とわれらの責任。
19日キリストによる和合、20日キリストの道、21日御霊の賜物
22日新生の恵み、23日神の家族、24日キリストの義、25世界の平和

なお23日は司教館の深堀敏師が司式した。

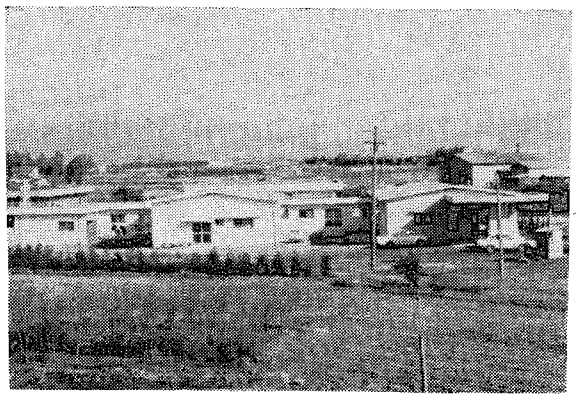
# 聖ヨゼフ園落成式

## 民間初の重症児施設

一月二十一日、重症心身障害児施設「聖ヨゼフ園」（福岡県三井郡大刀洗町大字山隈字青木保隆園長）の落成式が午前十時からおこなわれた。式には理事長として同園の建設を見守ってきた深堀司教が出席してあいさつを述べ、亀井知事代理として福岡県副知事も祝辞をのべた。

聖ヨゼフ園は福岡県では民間初の重症施設、国立の施設が他に一カ所あるだけ。精神衛生センターの調べでは精薄や心身障害など二重苦三重苦を背負った十八歳以下の重症児は県内で約千人と推定されている。しかし十分な施設がないため家庭で治療をつづけており、約四十人が長崎県の「みさかえの園」などに委託収容されている。

聖ヨゼフ園の建設計画は昭和四十二年にはじまり、翌七月第一期工事に着手、日本自動車振興会、清水基金などから援助をうけ、昨年三月管理部門と病室二棟の工事を完成、ただちに四十名を収容した。つづいて八月には第二期増築工事にうつったが、第二病棟は鉄筋コンクリート平屋建て一むね三九五平方メートルで、収容能力はこれまでの二倍、八十名になった。なお職員は医師五人、看護婦二十六人をふくめ五十人。総工費六千五百七十五万円。



完成した聖ヨゼフ園

# 年末街頭募金報告

## めだつ高、中学生の活躍

教会と学校が中心になっておこなった、昨年末の街頭募金の集金額と分配状況が、責任者からつぎのように公表された。

福岡地区ではSVPが中心になり、福岡市とその近郊、久留米、大牟田両市、大刀洗町で、信徒が募金に協力したが、ことしはとくに高校生と中学生の活躍がめだった。北九州地区は、昨年はじめてプロテスタント合同で募金運動を展開。熊本地区では、このたびもインド救ライめざして募金をおこない同センターの医療品購入資金として寄贈した。

### 福岡地区

協力団体：諸教会、泰星高校、海星女子学院、久留米信愛女学院、大牟田明光学園、福岡カトリック高校生会。

募金額　1,033,767円　（他に雙葉学園は衣服・食料品を寄贈）

寄贈先

原病院（82,439円）
和白青松園（36,307円）
聖ヨゼフ園（95,000円）
聖母園（25,000円）
慈愛園（30,595円）
りんどう学園（101,000円）
あけぼの学園（30,000円）
古処学園（150,000円）
一般家庭　134世帯に　435,510円

### 熊本地区

協力団体：手取、健軍、島崎、帯山、八代、人吉、本渡、玉名の諸教会、熊本信愛女学院、聖心病院。

募金額　1,312,587円

寄贈先　インド救ライセンター

### 北九州地区

協力団体：門司、小倉、小倉、戸畑、八幡若松各区のカトリックおよびプロテスタント教会。

募金額　668,647円

寄贈先

門司区：天使育児園（90,000円）
光の子母子学級（90,000円）
学童保育クラブ（8,647円）

小倉区：あすなろ学園（90,000円）
足立養護学級（40,000円）

戸畑区：長寿園（40,000円）

八幡区：乳児園（40,000円）
泉の園（90,000円）
聖小崎育児園（90,000円）
聖ヨゼフの園（40,000円）

若松区：暁の鐘（40,000円）

# 古老にきく

## 救世軍からカトリックに転向

### 福岡の相良剛さん

相良剛（さがらたけし）さん＝福岡市荒戸町、西公園の下にある相良外科の老先生。

若いときはプロテスタントの信者で、救世軍の軍曹だったという変わり種。街角に立って、十人ぐらい集まると説教をし、その中の何人かを救世軍にしてゆき、その場で悔い改めさせたそうだが、『いま考えると、あれは傲慢というものでした』とだからどこに寝てもさしつかえはない。私はここが好きだ、ここから動きたくはない〟と言われた。そのことばがいまも印象に残っている』そういう話をするときは、相良さんの強いまなざしがかげりいかにもなつかしそうな目つきになる。

相良さんは四十二年の十一月、政府から勲五等瑞宝章を授与された。『申請書には、カトリックの信者ということが書かれていたがカトリックが認められたということは、信者として何よりも嬉しいことだった』と語る。

心身ともに壮健、四時から四時半の間に起きて、六時には地行教会まで歩いて行き、ミサ答えをする。毎日欠かしたことがないそうだ。数え年の八十二歳。本籍は熊本県玉名郡玉東町。福岡教区の貴重な信者の一人だ。

言って笑う。

信仰を知ったのは、プロテスタントの信者だったイトコの影響。カトリックには昭和五年に転向した。近くに住んでいた九大教授、大沢章先生の導きによるが、『要理を聞くとスットはいることができた。自分の罪を自分で言い現わす告解の秘蹟に感動し、これだ、ここに信仰があると思った』という。



『福岡教区の初代司教はチリー司教さまで、司教館は荒戸町の日本家屋だった。司教さまは病気をして、ここの階段の下に寝ておられたが、若い人たちのぼりおりが激しいので、別の部屋に移られるようにすすめると、〝ここは私の家なかでも、ひときわ高くそびえている考えは「人間が、侵すべからざる、譲り渡すことのできない権利を有している」ということだ。教皇様は、ベルソナである人間の譲り渡すことのできない権利——真理を自由に探究する権利、道徳の規準に従う権利、正義を実践する権利、人格の尊厳にふさわしく最低生活を要求する権利——などを、この回勅の中で新たに認め、詳細に説明している。

第一回の研究は、この回勅の基盤となっている「自然法」にもとづく「権利」を中心として全体を展望した。自然法を専門とする法哲学者水波氏が、教会の社会理論を支える自然法の系譜を、中世にさかのぼって見せながら、同時に「ベルソナ」と「人権」の関係を説明した。水波氏は最後に「権利は、抽象的な理論ではなく、生きるものだ」と結び、この回勅の普遍性と現実性を如実に示した。

この種の地道な研究は、この回勅の理解に役立つだけでなく、平和の意味と尊さを認識する基礎ともなろう。また「世界平和は、各人の心の持ち方にかかっている……平和は、心の中から始められる」という現教皇様の切なる願いと招きに応えようとする者の「心」と「考え」に確信と熱心を注ぐであろう。

（文責・相良）

# 【福岡カトリック社研報告】

社研が、これから数回の例会において行なう予定の回勅「地上の平和」（ヨハネ23世著）についての第一回研究は、元旦の「平和の日」に際して出されたパウロ六世教皇様、あるいは日本司教団の平和のメッセージの記憶も生まれ生ましい私たちに、特に二つのことを印象づけた。一つは、回勅「地上の平和」を支える伝統的理論およびそのいきいきした現代史的意味であり、もう一つは、社会的な平和の問題が、「私」という「人格」において深く問い直されねばならないという事実である。

この回勅は、すべての善意ある人々に向けられたもので、回勅全体を支配している思想は、もちろん聖書と教会の伝承に深く根ざし、同時にそれは人間の本性そのものに由来する思想でもある。その諸原理は、自然法の領域に属するものであるから、信仰をもっているか、いないかにほとんど関係はなく、誰にでも認められるから、未信者との協力のうちに実現され得るものである。

「地上の平和」の原則となり、基礎となっている考えは、人間はみなペルソナであるという不変の真理で、この原則にそって権利と義務の教えが織り込まれていく。

## 回勅「地上の平和」(1)

# カトリック放送番組（2月）

心のともしびテレビ　FBS　（月・水午前9時10分～25分）
2日と4日　女優　村松英子　16日と18日　全盲の歌手
長谷川きよし　23日と25日　未定
聞き手は　劇作家　矢代静一氏と作家曽野綾子氏

心のともしび　ラジオ　RKB　（月～土午前6時40分～45分
RKK（月～土　午前10時10分～15分）

1日　浜尾実・競争　3日戸川エマ・ある友人の人生
4日　霜山徳爾・夫婦愛　5日　水口真一・教師としては失格だな　6日　小堀杏奴・愛の不足
7日　ハヤット神父・？　9日　浜尾実・分ち分うこと
10日　戸川エマ・わたしと小鳥
11日　相良惟一・夫婦の愛
12日　宍倉享子・幸福　13日　小堀杏奴・心づかい
14日　ハヤット神父・？　16日　三浦朱門・枯木
17日　矢代静一・他人が認めるもの
18日　小堀杏奴・夫婦愛　19日　牟礼政美・人間の一面
20日　萩原葉子・試練の月い人　21日　丸吉神父・いちばん偉い人　23日　三浦朱門・体と心の死
24日　林謙一・熟成37年　25日　大原富枝・Tさん夫婦
26日　千葉幸子・思いやりの心を持つこと
27日　曽野綾子・母の若い日
28日　ハヤット神父・聖ヨハネの説教

# 林信（まこと）修道士

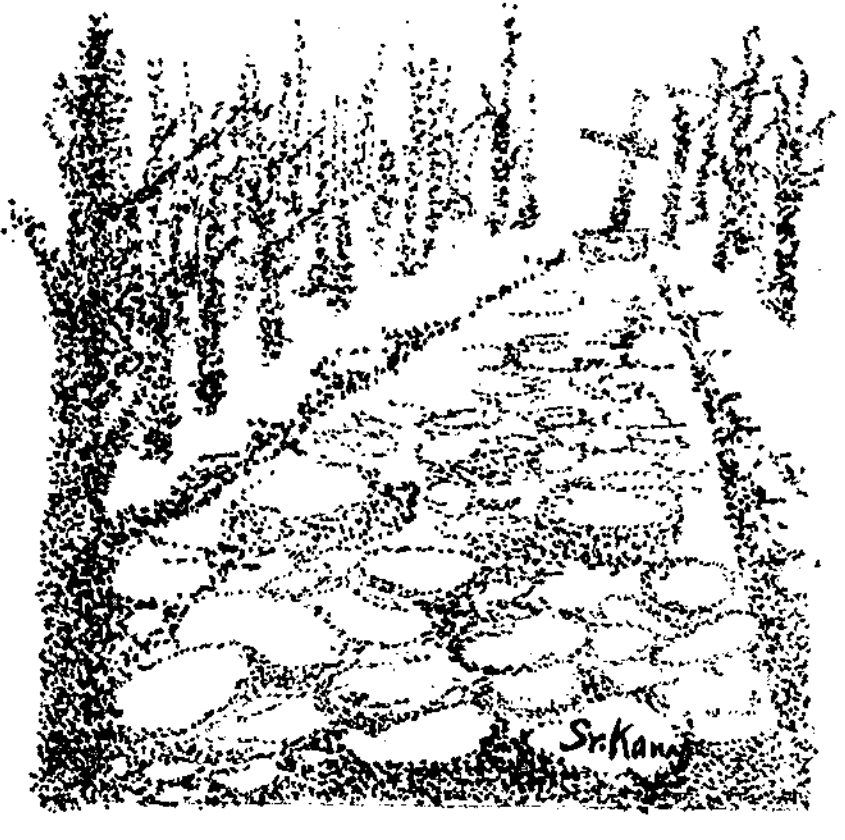
一月八日午前七時熊本市琵琶崎聖母慈恵病院で心臓マヒのため逝去、栗名ヨゼフ　三九歳。甲府市出身、昭和三十五年マリスト修道士会入会、四十一年終生誓願、熊本市のマリスト学園で英語を教えていた。

かわいい
卒園児のための
プレゼントに！
——こどもたちにやさしい心を築く——
せいしよのたとえばなし
①ゆるしてあげましよ　¥二〇〇
②らざろさんとかねもち　¥二〇〇
③だれにもしんせつに　¥二〇〇
④おとうさん　¥二〇〇
⑤まいごのこひつじ　¥四八〇
いえすずのおかあさん　¥三八〇
——母と子の物語風に書かれた聖書物語——

社会に巣立つ
卒業生のための
プレゼントに！
出会いまで　¥二五〇
—だれとの出会い？—
弧独を越えるもの　¥二五〇
—こどくとは？—
愛のたしかさを求めて　¥二五〇
—愛するとは？—
働く人の聖書　¥三〇〇
—聖書は良き友—
30%割引で
和英対訳聖書
—便利で味わいのある聖書—　¥五六〇

大名町教会横
聖パウロ書院
岩田屋五階
セントポール・コーナー
小倉井筒屋八階
セントポール・コーナー

# 教養



シスター　金井照子

## ことば



桑原　万寿太郎

私がいま書こうと思っているのは「ことばの典礼」とか、「始めにことばありき」のことばではない。動物のことばである。本当は動物にはことばはない。それは人間だけのものなのである。実はここからも人間と動物との不連続を認識せざるを得ないという一点なのである。人間だけが道具を使うなどということは問題である。チンパンジーは、檻の外にあるバナナが遠くて、手がとどかないと棒を使ってたぐりよせる。もし見まわしても棒がない時、そこに鉄棒を枠（わく）にはめ込んだ靴の泥おとしがあると馬鹿力をふるってこれをこわし、棒を作って使うのである。チンパンジーは道具を使い、道具を作るといってなぜわるいだろう。いわゆる三派全学連の暴力学生が、工事場の足場の鉄パイプをはずしてゲバ棒に使うくらいのことはするのである。

しかし、チンパンジーにもことばはない。そんな点からも人間の人間らしさと、人間だけのもつことばと深い関係がないはずがないという一点を問題にせざるを得ないであろう。

それだのに、動物のことばというような言葉を使わざるを得ないような現象がある。高崎山のサル（ニホンザル一般に共通）に三十一種類の言葉がある。餌場の真中のボスザルが、「みな引きあげよ！」という言葉もある。列を作って移動する時、後の奴がおくれると「こっちだ」と教える言葉もある。「変なのがいるから気をつけろ」いった警備のサルからの警報もある。もちろん恋のささやきもふくめて三十一も知られている。

スズメにも言葉がある。チュインチュインは快適の表現。ジュクジュクは「いやらしいものが来た」。チ……は「危い逃ろ」。飛びながら「チュビ、チュビ」は「私はここにいます」。アシジの聖人とは程遠い私にもこのくらいわかる。

蜜を集めて巣に帰ってきた働き蜂は仲間に、太陽の方向を基準にとって、蜜源の方向と距離とおまけに香りで花の種類まで教える言葉がある。これは声ではない。巣の面でやる身振り動作、一種のおどりである。私はそれをみて「はあ、私の蜂はこっちの方向、一キロのレンゲ畑に働いているナ」というようにわかる。自転車でいってみると、ちゃんとレンゲ畑があって、私の蜂がおおぜい来ている。

動物のことばは、人間にはちょっと勉強すれば解読されるけれどさきにも述べたように、人間のことばとは決定的にちがうのであるめんどうな事をいわないでも次の話をきいて下さればそれはわかる

ある生物学の研究室に妊娠した雌ザルが飼われていた。このサルはただ一匹檻にかわれていた間、何もいわなかった。ところが赤ん坊が生まれた、その瞬間から、母と子の間に、高崎山のサルの研究で、研究者が知っているサルのことばが次々に交わされはじめたのである。母のことばに赤ん坊はちゃんと声で、あるいは動作で正しく答えるのである。サルの言葉は生まれながらに通じる。しかもそれは同じ種類の間では例外なしに通じるのである。高崎山のニホンザルと丹波の山のニホンザルを動物園の檻に一緒に入れても通じるのである。方言もない。バッテンクサなどというのはない。ニホンザルには神から授かったニホンザルの標準語一つしかない。生まれながらにして、誰にも習わないで日本中どこでも通じるのである。

人間の赤ちゃんはワンワン一つおぼえるのにどれだけかかるだろう。それもはじめは、「犬が来た」も「犬がいる」もワンワンである。名詞と動詞が分離するのはそれからまた一苦労である。習いおぼえるのである。

カイコはクワしか食わない。それは桑に特有なある成分の香をかぐと、生まれながらにしてそこに行って食わずにいられないだけのことである。モンシロチョウはアブラナ科に特有のある成分の香をかぐとそこに行って産卵せずにいられないだけである。それと同じでスズメは仲間のチ……という声をきくと逃げずにいられないし、危急にさらされるとチ……といわずにはいられないのであるそれだけである。

人間はことばで思考し、大思想をも生みだし、大理論をも打ちたて、ことばの典礼の中で神の声もきくのである。動物のことばと人間のことばとの間には何のつながりも出て来ない。

人間らしくあろうとする人間は人間にしかない言葉の神秘をもう一度かみしめてみる必要があるにちがいない。（くわばら・ますたろう、九大教授）

## スミレ

江上栄子

ちかごろ、新聞や雑誌に、花にかんする随想や文章がよく見られるまたハガキ一ぱいに薄墨で「花」の一字が書かれた年賀状が幾枚かあった。花の絵を見るのと違った、花の余情のようなものが、それぞれの筆あとに感じられて楽しかった。それはたぶん、宮中歌始めのお題「花」にちなんでのことであろうか。わたくしは、幼女のときから花が好きで、花屋になるのが夢であったけれど、いまも花好きであることには変わりはない

小さな庭に、足の踏み場もなく草花を植えているので、〈竹馬で歩いたらどうなの〉と口の悪い友だちから、からかわれたりしたがさすがに冬の庭は素枯れて、庭下駄で歩けるほどの黒い土が現われた。

去年はいまごろよく雪が降っていたのではなかろうか。庭の草花たちも白い毛布を冠ったように、しばしば雪に被われた。去年は、どうしたことか、春に咲くはずのスミレが、一月の雪の中で花を開いた。「雪の下の菫の花のよう」とは、可憐で清純なことの例えに引用されるが、雪の下の濃い紫の小粒の花は、まるでアメジストのようで言葉にしがたい風情である

花は女心の歴史の中でのみ開花し、やさしく匂うものと思っていたが、最近「風姿花伝」のページを繰る機会があった。そこには世阿弥（せあみ）が能芸術の極致をきびしく花に象徴したいくつかの言葉に出会った。「秘すれば花、秘せずば花なるべからず」これ先世阿弥が遺した言葉で、私の心に無限に泌みるものがある。

ある雪晴れの日であった。東京から講演のためみえていた私の先生を、板付空港にお見送りしたがそのとき私はとっさに、おみやげにと思って、雪を払いながら庭のスミレを摘んで、小さな花束を作ってさしあげた。ときならぬ真冬のスミレは大層よろこんでいただけた。やがて私は、失った雪庭のスミレの花と引替えにつぎのような二つの歌を作った。

空路にて帰へります師に差しあぐる雪より摘みし筑紫のすみれ

雪の下のすみれを摘みしきのふよりまたしづもるか庭の直土（ひたつち）

私はこのスミレが造花でなかったために生まれた二つの歌の真実について考えたことであった。

そういえば、ちかごろ疎遠になっていた友から、思いがけなく手造りのケシの造花を沢山戴いたことがある。小鹿田（おんだ）焼の壷に挿して本棚の上に置くと、暗い冬の部屋に明かるい雰囲気を作ってくれた。手造りの花にも人間の心が通っているようで、いまも見ると、温い暗示を私に与えてくれるかのようである。街のウインドに溢れている人工の花々にも、あるいは、女の手内職による生活が、かかっているのかも知れないと思うと、造花を冷たく見るのは悪い気がしてならない。

ところで、ことしのスミレは霜にいたんで、荒涼としているが、空木（うつぎ）の木の蔭に、ひところみどりの葉群があって、よく見ると、紫の花がふたつだけ顔をのぞかせていた。（歌人、『形成』同人）

## 本

**「愛と性の秩序」**

A・マタイアス
高田　徳明　共著

現代は性の混乱時代であり、ゆがめられた愛が強調されている。性の理想を示しながら、全人間的観点に立って真実の性と愛のありかたを説いている。内容に客観性とあたたかさがあり、また結婚生活に起こる種々の問題、－妊娠調節、堕胎、離婚…などを結婚の本質的な考えから、具体的には教会の新しい光のもとにとりあげ、幅のある健全な判断が示されている。

（中央出版社・大名町聖パウロ書院発売・一八四ページ・三〇〇円）

# 主の祈り

## 福音全体の要約

「主の祈り」は、すぐれてキリスト的な祈りである。イエズス自ら弟子に教示なさった祈りだからである。主の祈りは福音書の二カ所に記されている。

ルカ書では（十一・2－4）短かい形式のもので、エルザレムにのぼる途中、弟子のひとりにせがまれて教えられたもの。

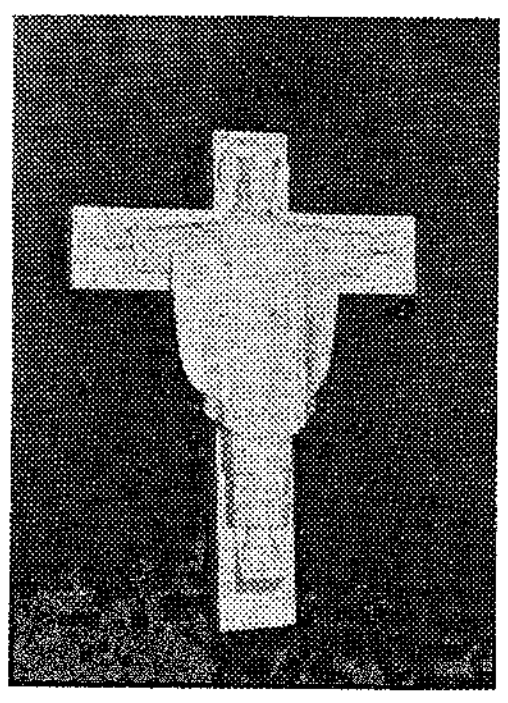
マタイ書では（六・9－13）もっと長い形式のもの山上の説教のなかに位置づけられている祈りについての教えの一部である。このマタイ書のものが現在、教会で使用されている。

ルカの記述をとるにせよマタイのものをとるにせよ、イエズスの祈りは神学的にいって実にふかい内容をふくんでいる。ある教父は、この祈りこそは福音全体の要約であるといっている。この祈りの一語一語を少しくわしく探ってみたい。

### 父よ

『父』は　アラマイ語で「アッバ」という。マルコ書はこのアラマイ語をわざわざ引用している。『アッバ、父よ、あなたにはどんなことでもおできになります。この杯を私から遠ざけて下さい』（十四・36）。

これはキリストのお口から出たことばであり、それはご自分の使命とその教えの核心にふれるものである。このことばはキリストのお口から出るときまったく新らしい意味をもっている。なぜならかれのみが御父の独り子、愛子であられるから。



イエズスはいま天の神にむかって「アッバ」とよびかける資格、幼な児のような信頼をもって御父に子どもとして語りかける資格をおさづけ下さるのである。われわれが御父の子どもになったとき神の国の門がひらかれるのである。

『子どもの状態に立ちかえらないなら、天の国には入れない』（マタイ十八・3）。

祈りのはじめに、まずその祈りを聞いて下さるはずのお方に、信頼をいだかせる、それはまことに心理的ないき方である。

パウロは、われわれが神にむかって『アッバ』とよびかけることができるなら、われわれが聖霊のはたらきを受けているしるしであるという、『神の霊によってみちびかれているすべての人、それが神の子らである。』（ローマ八・15）

イエズスはいくども神に『父よ』とよんでおられるが、それはまったく特別の意味で使われている復活の朝イエズスはことさらに二つの言い方を分けておられる。『私の父、またあなたたちの父、私の神、またあなたたちの神のもとに上る』（ヨハネ二十・18）

### われらの父

主の祈りは、「われわれ」が父にむける祈り、共同体的祈りである。イエズスの弟子たるものは決して個人として祈らない。われわれが共に祈るのには、イエズスの意味ふかい教示による。

『あなたたちのうちの二人が、この地上で心を一つにして何かの願いごとをするなら、天におられる私の父は、それをかなえて下さるだろ。私の名によって二、三人集るところには、私もまたそこにいる』（マタイ十八・19－20）。

「天にまします」は、共同の祈りにふさわしいそうごんさを加えるもの。イエズスも感謝の祈りのなかでこの表現を使っておられる『天地の主なる父よ、あなたを賛美します』（ルカ十・21）。天はもちろん神の唯一の住居ではない神はすべてを超越する偉大なる存在であられる。

## あいとよばれているもの

たけなみ・ひでこ

たとえば
両手にとりだすと
透明で少しばかり温もりを残す
無価値なずっしりおもみだけはかんじる
あるもの

銀皿のうえ
広がりだけそめようとして染まらない
苛立ちだけが広がってゆく
そんなあるもの
だが歴史が流れだし
母の胎内で苦悶する動物は
表現だけ許されはした
なかでも
にんげんは自らその方法を発見した
ことば――より分化させるもの
彼等は輪郭ばかりをなぞりつづけている

ある人の不在で確さを
ある人の存在で接続点を記すとき
それは
夜明けの新鮮な太陽であり
雪渓に咲く岩れんげであり
一条のいぶきであった
虚無な乱用は
切り立つ岩礁を目前に隆起させ
近づかせなかった

はじまろうとしている
はじまっている
おわろうとしているところ
息づくあるもの
それはあいとよばれるもの

（詩人・たきぎの会々員）

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ　吉川　東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊾0568

ダイワハウス
マイホームサークル
DMC
DMCのご相談は……………
大和ハウス工業㈱福岡支店
福岡市博多駅東1丁目1番30号
予約販売課　天本
TEL092代表(41)7431番へ

頭金のご用意はいりません
総工費の1/3を1年から10年までの間に積立てていただき、残り2/3は融資します。1回の積立はわずか5、000円から。しかも積立年数に応じて積立金の5～17％を割引きます。なお割賦利息は年4分6毛。保証人はいりません。

# カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価 一部 十五円


## 新しいミサの祈り・目のつけどころ
## かくされた精神を発掘せよ

ミサの典礼が大きく改正され、まったく新しい姿で施行されるようになってやがて三カ月になる。五年前の昭和四十年三月四旬節第一主日から実施されたミサも、目をみはらせるほどの改正であったけれども、昨年十一月三十日から始まった今回のミサ改正はさらに徹底的なものであった。新しいミサの式次第の印刷物もゆきわたって、ほとんどの教会でいくらかスムーズに式が行なわれているようであるが、新しいミサの祈りと形態の奥にかくされたものを十分に掘り出すまでには、まだかなりの時間が必要なのではなかろうか。そのためにいまのミサの改正の精神をよく理解するうえに役立ついくつかの注目点を参考に挙げてみたいと思う。

1、新しいミサの祈りは、キリスト教的な祈りのもつダイナミックな特徴をよく表わしている。祈りは、われわれを救われた神の愛をはっきり認めること（感謝）から出てくる。それは救いを受けた罪人の祈りであり、また神からいただいためぐみを感謝し、喜びの雰囲気のなかでささげられるものである。それはさらにすべての人に愛をかけておられる神に信頼をかけた祈りであり、従ってすべての人を神のこの愛に引きよせようとする祈りであるはずである。このような祈りが真にキリスト教的祈りとよばれるのであって、このミサの祈りのなかに力強くあらわれている。例えばミサの開始において心の準備として「回心」がうながされるが、これはわれわれの罪をみとめることであると同時に、われわれの救いのためにおよび集めて下さった神の愛を「称賛」するものでもある。

感謝については、新しい奉献文や叙唱、それに主の祈りのあとにつづく副文が、内容ゆたかな表現でもって「感謝のうちに生きるよう」われわれをみちびいている。

また共同祈願においては、個人的な視野のせまい祈りを越えて、ひろい神のお心、全人類の必要事という立場に立って祈らせてくれる。まさにカトリック的祈りである。

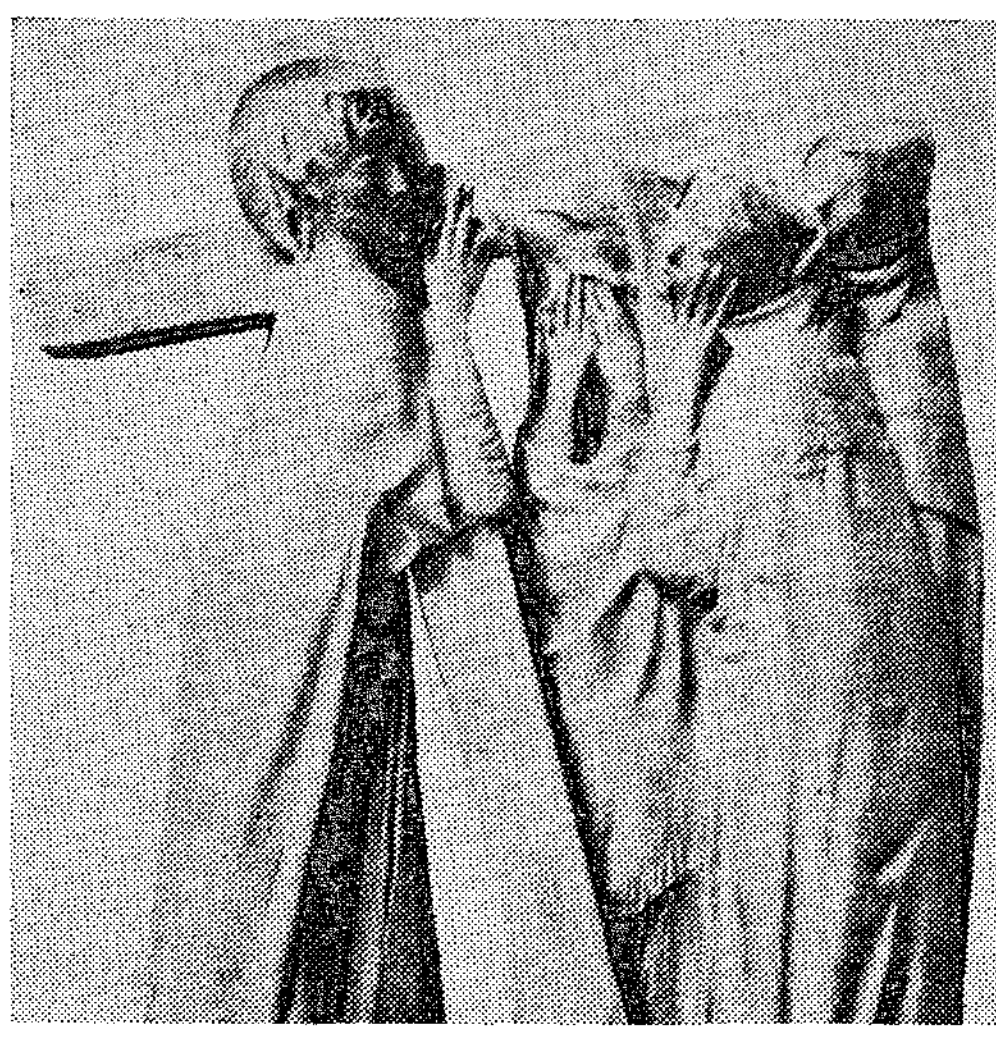
2、このミサ典礼は信者の信仰を養う。

典礼憲章の第五一条は幾年かを一定の周期として、聖書の主要な部分が会衆にむかって朗読されねばならないと規定している。いまでは毎日曜日、祭日、祝日には三つの聖書朗読があり、毎日のミサの聖書朗読の箇所も適当に配分されている。これによって信仰の危機に直面しているわれわれは聖書から信仰をつよめる栄養を吸いとり、危機に対処することができるのである。しかしそのためには神のことばを注意深く受け、理解しにくいことばがあっても落胆することのないようにしなければならない。ミサを通して聖書に親しむことができるが、平常から聖書によく親しんでいることによって、ミサによりよく参加するという道も考えねばなるまい。

3、ミサに集まった信者に適したものを考えること。

いまのミサ典礼では、昔のようにすべてのことが画一的に規定されるということはない。むしろ信者とその場所に合ったものを考えて行なうことができる部分が多いのである。別のことばでいえば、規定されたことでも、ただ形の上だけで守ってゆくのでなく、発展的に行なってゆくのである。例えば推奨されていることを、文字通り実行しようとしても、ある教会の信者にとっては無理なことであろう。むしろ信者にとってよいもの、できるものを行なってゆき、徐々に理想に近づくことである。

具体的な状況にあわせて何をすべきかを定めるためには、現代教会の活動の他の分野におけると同様に、開かれた心と目を持たねばならない。全教会と歩調を合わせてゆくのに必要なことを大切にしながらも、一方では現実の信者の状態を正しく把握して、両方を調和する賢明が要求される。教会によって差異があり、画一を要求しないこと、同時に典礼としての一致を尊重すること。ただわがまま勝手なやり方を導入することは絶対にさけねばならない。



エルザレムの婦人を慰めるキリスト

## 東京・大阪に新補佐司教

パウロ六世教皇は、二月十七日付でパウロ安田久雄師（大阪市北浜教会主任）を大阪教区の田口芳五郎大司教の補佐司教に、またステファノ浜尾文郎師（学生指導司祭）を東京教区の土井辰雄枢機卿の補佐司教に任命された。

大阪補佐司教になった安田久雄師は大正十年生まれ、四十八歳、久留米市の出身（厳父が久留米師団に勤務の軍人であった）。東大理学部生物学科卒。ラテン語を上智大で、哲学はローマ・ウルバノ大学で修めたのち神学をバルチモアのセント・メリー大神学院で修了。昭和三十年五月ニューヨークのブルックリンで司祭叙階、帰国後田口大司教の秘書、三十八年に英知大学副学長、四十二年から北浜教会の主任司祭をつとめている。司教叙階は三月二十一日春分の日大阪玉造教会でおこなわれる。

東京補佐司教の浜尾文郎師は昭和五年生まれ、三十九歳、東京都出身、令兄浜尾実氏は東宮侍従。上智大でラテン語を学んだのちローマ・ウルバノ大学で哲学、神学を修めた。聖会法博士。昭和三十二年十二月ローマで司祭叙階。帰国後は東京大司教館付、東京学連指導司祭をつとめた。司教叙階の日程は未定。

## 天草でキリシタン四百年祭
### 五月に観光協会と共催

熊本県本渡カトリック教会では市の観光協会と共催で、きたる五月二十三日と二十四日『天草本渡キリシタン四百年祭』を挙行する。これはアルメイダ神父が一五七〇年はじめて本渡に宣教したことを記念するもの。式典には教会関係者のほか在日外国外交団の出席も予定されており、第一日は午後三時から市民会館で広島エリザベト音楽大学学生の演奏、地元婦人会の舞踊など、クラッシック音楽の催しがあり、夜八時には教会からキリシタン墓地までローソク行列をおこなう。第二日は朝十時半から感謝のそうごんミサ、午後はポピュラー音楽会が一般市民のためにおこなわれる。

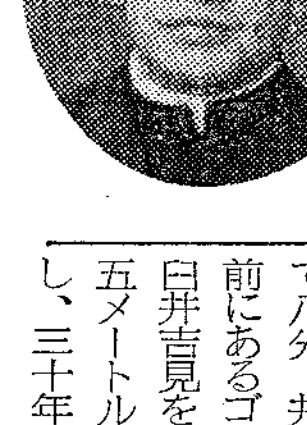
アルメイダ神父はポルトガルの生まれ、はじめ医師、商人として来日したが、イエズス会に入って宣教師になり、九州各地のほか京都にまで足をのばし、天草島の河浦町で一五八三年生涯を終えた。昨年四月、この河浦町でも四百年祭が挙行された。

## 土井枢機卿永眠

土井辰雄枢機卿は、二月二十一日午後十一時五分、東京聖母病院で死去された。七十七歳、霊名ペトロ。葬儀は二月二十七日東京聖マリア大聖堂で挙行され、福岡から平田・深堀両司教が出席された。

土井枢機卿は明治二十五年十二月二十二日のお生まれ、仙台市出身、大正十年五月司祭にあげられ、仙台教区の各地で司牧にあたったあと、昭和八年から十二年まで駐日教皇使節秘書をつとめ、同年十二月二日東京大司教に任命され、三十五年三月日本人として初めて枢機卿となられた。

## 教会めぐり
## 福岡県久留米市日吉町
## 久留米（至聖なるイエズスの聖心）教会





終戦後間もなく、評論家の臼井吉見が〝久留米という街は奇妙なところだ。バラックの中をただ一つ広い道が走り、ごみごみした街の真ん中に、怪物のような教会の塔がそびえている〟という意味のことを書いたことがある。その怪物のような塔のあるのがカトリック久留米教会だ。

この『至聖なるイエズスの聖心教会』は、西鉄久留米駅から徒歩で八分、井筒屋デパートのすぐ手前にあるゴチック式の建て物で、臼井吉見を驚かせた塔の高さは三五メートル。昭和二十八年に着工し、三十年の五月に祝別式が行なわれたが、これは故棚町神父が、精魂を傾けて建設した記念の教会

久留米市でカトリックの宣教がはじまったのは明治十六年。当時の宣教師はソーレ神父だった。いまの三村邦明主任神父はそれから八代め。小教区は大川、柳川、筑後、八女の五市と浮羽町にまたがり、現在の信者は一、二〇〇人、三村師は『田舎の人と旧信者が多く、指導がむずかしい』というがヴィンセンシオ、レジオ、婦人会など、アクショングループの活動はなかなか活発。とくに婦人会は、小教区内の仕事と取り組んで積極的だし、また十一人の青年男女によって、JOC（青年労働者連盟）設立の準備も進められている。小教区内には会社、工場が多いので、JOCの活動には期待が持てそうだ。（円内は三村師）

## 児童福祉献金　1月25日

【教会】

| | |
|---|---|
| 大名町 | 八、四四〇 |
| 浄水通 | 四、〇五〇 |
| 地行 | 二、五〇〇 |
| 西新 | 四、六六〇 |
| 美野島 | 二、三八〇 |
| 茶山 | 三、九〇〇 |
| 大楠 | 二、六六七 |
| 高宮 | |
| 光ケ丘 | 五、七〇〇 |
| 吉塚 | |
| 箱崎 | 一、八一八 |
| 東田島 | 二、五五一 |
| 古賀 | 三、四四一 |
| 二日市 | 二、九二八 |
| 今村 | 一三、〇〇〇 |
| 本郷 | 一一、〇〇〇 |
| 小郡 | 一、三〇〇 |
| 久留米 | 九、七三七 |
| 大牟田 | 三、〇〇〇 |
| 吉野 | 三、一六七 |
| 呼子 | |
| 馬渡島 | 三、〇〇〇 |
| 佐賀 | 五、〇〇〇 |
| 唐津 | 二、〇〇〇 |
| 鳥栖 | 一、七四六 |
| 伊万里 | 一、八〇〇 |
| 武雄 | |
| 鹿島 | |
| 多久 | 一、五〇〇 |
| 門司港 | 一、六二〇 |
| 門司 | 七、三〇〇 |
| 小倉 | 一三、一二五 |
| 湯川 | 六、三三九 |
| 戸畑 | 一三、〇〇〇 |
| 若松 | 五、〇〇〇 |
| 天神町 | |
| 八王寺 | 六、〇〇〇 |
| 黒崎 | 一一、〇〇〇 |
| 本城 | 二、九二九 |
| 水巻 | |
| 直方 | 八、八〇〇 |
| 飯塚 | 二、八七〇 |
| 田川 | 二、一〇〇 |
| 行橋 | |
| 新田原 | 九、九〇〇 |
| 手取 | 七、〇〇〇 |
| 健軍 | 二、〇〇〇 |
| 帯山 | 二、四〇〇 |
| 島崎 | 九、二三六 |
| 八代 | 五、〇〇〇 |
| 人吉 | |
| 水俣 | 九六〇 |
| 玉名 | 一、五〇〇 |
| 菊池 | |
| 荒尾 | 一二五 |
| 本渡 | 四、三〇〇 |
| 大江 | 一、七〇〇 |
| 崎津 | 七、二八一 |

【学校・幼稚園】

| | |
|---|---|
| 大神学院 | 一、五九二 |
| 白百合学園 | 一〇、〇〇〇 |
| 海星女子学院 | 二〇、〇〇〇 |
| 雙葉学園 | 一九八、四一三 |
| 久留米信愛女学院 | 四〇、〇二五 |
| 明光学園 | 一三、七五八 |
| 熊本信愛女学院 | 五〇、〇〇〇 |
| 明治学園 | 四〇、一〇〇 |
| 西新カトリック幼稚園 | 二一、八五〇 |
| 二日市〃 | 二三、四四四 |
| 高宮〃 | 一三、三七七 |
| 八幡〃 | 三五、五〇〇 |
| 福岡〃 | 五、〇〇〇 |
| 吉野〃 | 一〇、〇二三 |
| 茶山〃 | 五、〇〇〇 |
| 小倉〃 | 三四、五二〇 |
| 水俣信愛幼稚園 | 九、〇〇〇 |
| 戸畑天使園幼稚園 | 五六、四〇〇 |
| 古賀暁ノ星幼稚園 | 二三、八五〇 |
| 門司聖母幼稚園 | 三三、一五〇 |
| 久留米聖母幼稚園 | 四一、〇二三 |
| 若松天使園幼稚園 | 二〇、〇〇〇 |
| 大濠幼稚園 | 四、〇〇〇 |
| 人吉幼稚園 | 一六、〇〇〇 |
| 光ケ丘幼稚園 | 一九、五〇〇 |
| 合計 | 九七七、二八四 |

## 3月　四旬節　復活節

**1日（日）　四旬節第3主日**
ユダヤ人は四六年以上もかかって建てた神殿こそ、神の力の現われと考えていた。ところがキリストは十字架につけられて死ぬが復活するご自分こそ、神の力、神の知恵であることを示される。

**4日（水）―― 9日（金）** 日本の神学校教育方針についての会議に平田司教ご出席（大阪で）

**8日（日）　四旬節第4主日**
神は愛によって世界を造られ、それに美と秩序と生命を与えられた。いま神はさらに大きな愛によって罪に死んでいる人類を生き返らせようとなさる。愛とは死ぬべきものを生かし、裁かるべきものをゆるすことである。神はこの世にたいする愛のゆえに、御子キリストをすら惜しまなかった。

**14日（土）　本渡教会で堅信（午後）**

**15日（日）　四旬節第5主日**
たねは地のなかで一度死んでそれから芽を出し成長してゆく。ひとりの人間の死によって実に多くの人が生かされるために、キリストはひとり十字架にのぼられる。そのとき「すべての人をご自分のもとに引き寄せられた」。
**大江教会（午前）と崎津教会（午後）で堅信**

**17日（火）　キリスト信者発見の記念日**
一八六五（元治二）年、長崎大浦の天主堂を見物にきた人たちのなかから浦上のキリシタンが発見された
**福岡大神学院で副助祭以下の叙階式（午前九時）**

**19日（木）　聖母マリアの浄配、全教会の保護者聖ヨゼフ**

**22日（日）　受難の主日（枝の主日）**
きょうイエズスは王としてエルザレムに入城なさる。そのご死去とご復活によって新しい神の国が樹立されようとしている。屈辱の死のなかから栄光の国が生まれるのである。
**西新教会で堅信**

**26日（木）　聖木曜日**
午前中に司教は共同ミサのなかで聖香油を祝別する。聖香油は洗礼、堅信、叙階、病者の秘跡に用いられる。夜は各小教区で最後の晩さん記念のミサがささげられる。
**平田司教叙階の記念日**

**27日（金）　聖金曜日　大斉と小斉**
キリストのご死去の記念式がよる行なわれる。それは悲しみでなく十字架の秘義をたたえるもの。

**28日（土）　聖土曜日**
よるの式は新しい光と水の祝別であり、それにつづくミサのなかで復活のキリストを賛美する。

**29日（日）　主キリストのご復活の大祝日**
キリストの復活を歴史的事実と認めることは信仰の重大な教えである。しかしさらに重要なことは、われわれがキリストとともに新しい人間として生まれ変わることである。信者の宗教生活は結局この一点に集約される。
**大名町教会で司教ミサ（午前九時）**

### 聖体礼拝

第三日曜　地行教会
第四日曜　湯川教会
第五日曜　男子聖パウロ修院

### 祈禱の使徒会

**【一般意向】** 技術・科学の尊重。科学と技術の進歩発展が人々の人格を高め人間相互の理解と愛を深め、人々の心を神にむけるために利用されるように。

**【布教意向】** 布教地における家庭生活。

# カトリック生活

## その基礎的な問題

### 現代の中の信者

現代の太平ムードと退廃を、人々は『昭和元禄』ということばでとらえる。そしてそこには、社会正義に名を借りた物慾が横行し、解放というもっともらしい看板を掲げて、セックスが、その醜悪な姿を、白日の下にさらけ出している。しかも経済成長は、社会機構をいよいよ複雑化し、大衆は労働と生活に追い立てられて、その人間らしさを失いつつあり、そこには、精神的なものは、まったく入り込むすきがないように見受けられる。

こういう社会情勢の中で、こんにち、カトリックの信者はどう生きようとしているのであろうか。もしカトリック生活というものがあるとしたら、今日のカトリック生活とはどんなものだろうか。識者・指導的信徒、シスターの意見と、カトリックの著書の中に、この問題を探ってみよう。

昔は『信者宝鑑』というような本があって、信仰生活の指針となっていた。(T)それは修道生活を模倣したもので、信者の生活を狭くきびしく律するものであった。旧信者が『型にはまり込んでいる』(D)という批判を受けるのは、旧信者の信仰生活が、その影響の中にあったからである。だがいまから見て、いろいろな欠点を指摘することができるにしてもそれはそれなりに立派な信仰の姿であり、その中から学び取るものはあっても、簡単に非難できるものではあるまい。

しかしながら時代が変わった、生活にも環境にも、大きな変化が起こっているという現状では、信者の信仰と、信仰の姿に変化が起こるのは当然のことである。では今日の信者の信仰、あるいは信仰生活はどうなっているのであろうか。

北九州のAさんは、

『いまの信者は信仰に熱意がない』と嘆くが、パウロ会のあるシスターは、

『現代は生存競争がきびしく、うっかりすると生活から落伍しなければならない。そういう状況の中では、教会のことより仕事のほうがさきになるのではないか』

また大名町教会のBさんは、

『現代社会にはレジャーの場所チャンスが溢れている。信者も人間だから、そういう方面に心を奪われるのは当然で、それが信者の気持ちを教会から引き離すのではないか』という。

仕事やレジャーが、信仰よりも先行しているということだが、もし信者にそういう傾向が強いとすれば、それはカトリックのこんごの発展に、大きな支障となるに違いない。

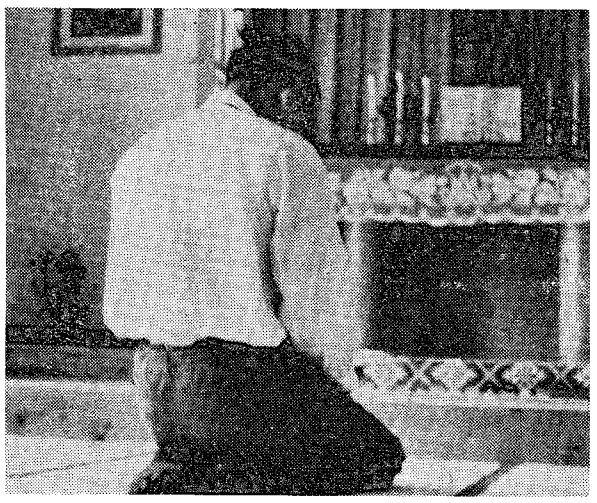
### カトリック生活とは

『そういう人たちについては、教会はもっと積極的に指導すべきではないか』というのは、高宮教会のCさん。だが現実には、神父ひとりではとても指導しきれるものではない(E神父)、ということばが帰ってくるのである。あるシスターは、『神父さまが信者を指導するのは当然のこと。それは告解の場所、あるいは機会あるごとに行なわれているのではないか』というが、E神父は

『そういうことは、一部の信者に対してはできても、大勢の信者にまでできることではない。それよりも信者の一人一人が信仰を確かめ、自覚を持つことが大切だ。今日の信者は、自分の信者生活(カトリック生活)を、よく考えてみる必要があるのではないか』という。

それでは、カトリック生活とは何であろうか。A・リエジェ師はその著『キリスト教的生活』で、信者の生活を『戦士の生活』ということばで表現している。それはイエズス・キリストとともにきせいになる生活ということだが、リエジェ師は、他人への奉仕のために個人的なものをきせいにし、なおそのうえ、使徒職の興隆にまで入って行かねばならないというのである。

リエジェ師のことばは観念的ではあるが、カトリック生活というものを的確に捕えており、私たちは、このことばをきわめることによって、具体的なカトリック生活をはあくすることができるのではあるまいか。



### 神を知れ

パウロ会のシスターは『カトリック生活でいちばん大切なのは、神を知るということではないか』という。それは

『私たちは聖書を黙想することによって、神の人格的なものに触れ、キリストを身近に感じることができる。そうして、神を知ることができれば、神を愛し、愛する神のために何をしなければならないかは、おのずと解ってくるのではないか』ということだ。

また『カトリック生活の知恵(L・J・スーネンス枢機卿)』の第一章の書き出しには、

『わたしたちはみんな、神が、わたしたちの父であることを、みとめています。主祷文をとなえますとき、〝天にましますわれらの父よ〟といって、父というお名まえで、神にこあいさつ申し上げているのですから。しかし、私たちはほんとうに神が父である、ということを、心のそこから確信しているでしょうか』と書かれている。

教会に行けば神について聞き、信者同志が顔をあわせれば神について語る。私たちの周りには、『神』ということばが溢れている。だが、私たちは、ほんとうに神を知っているのであろうか。

神を知るということは、神の業績を知り、その業績をとおして神の人格に触れ、肉身の父のように神をはあくすることであろう。とすれば、そういう形で『神を知っている』と、確信をもって言い放つことのできる人が、信者の中に幾人いるであろうか。

そして私たちは、そういう形で神をはあくしないかぎり、真の信仰に入ることはできないのではあるまいか。

### 祈ることを学べ

祈りは神との対話といわれる。だが、前に述べたような、具体的な神を心に持たないなら、その祈りもほんとうの祈りにはならないのではないか。

E神父は、

『祈りは、黙想的な、静かな祈りでなければならない』という。

黙想的な、静かな祈りとは、具体的な神を心に持って、はじめてできることではあるまいか。

E神父はまた、

『実生活の中で祈らなければならない』というが、それは家庭で祈るということ。日曜のミサで祈るだけでは足りないというのだ。

『いまの信者は、ミサの準備のための祈りをしない』というのは光ケ丘教会のDさんだ。

いまの信者は生活が多忙なうえに、テレビ、レジャーなど刺激が多く、じっくりと祈ることをしないというのである。そういえば、ある信者が、『朝起きて三十秒祈ることもむずかしい。そんなに私たちは忙しい』といっていたが、その真偽はともかく、そういうことでよいのであろうか。

E神父は、

『私たちが神と交わる機会は、祈りを置いてはない。そういう意味で、祈りは信仰生活にとって最も大切な、そしてゆるがせにすることをゆるされないものだ。祈りがなされないなら、典礼も形だけのものになって、その意味を失ってしまうだろう』と、祈りの重要性を強調する。

K・ラーネル師は、『聖心の使徒』三十七年二月号の『日ごとの祈り』に、

『祈りが生活全体をとらえ、生活の中にその精神を吹き込まなかったとしたら――そういう恵みのときが、次第にまれになり、弱まってしまうなら、いったいわれわれは何の役に立つだろう。生活の何の効果もあらわれないこと、泉が枯渇してしまうこと、このような危険からわれわれをよくふせいでくれるものは、すなわち、日ごとの祈りにほかならない』

『祈ることを学べ。祈りは恵みである。しかしまた努力がなければだめであり、訓練によって身につけうる技術でもある。――祈りの文句にこだわらず自分の心配ごとについて、自分の日常生活について、そして神との交わりをいとわしく思うことについてさえ神と語ることを学びうる』と書いている。



### 回心ということ

スーネンス枢機卿は、

『神について語るとき、私たちは、自分たちが、日ごろ使いなれている、ものの見方を、根底から変えなければなりません』(カトリック生活の知恵)という。

これは回心に触れたものであろうが、回心については、リエジェ師も、

『絶対的なものと見なしてきた人間的な価値を、神ご自身の価値に変え、そのご計画の協力者となるように、生活方向を一転させる』(キリスト教的生活)ことだといっている。

カトリック生活の中では、この回心が大きな意味を持っている。ふつうは、回心から洗礼へ向かうものとされているが、実は洗礼のあともしばしば繰り返さねばならないものだ。リエジェ師は、回心を三期にわけて、

『第一期―覚醒のめぐみ。第二期―痛悔、あるいはく改めのめぐみ。第三期―一致のめぐみ』(キリスト教的生活)としているが私たちは、回心を繰り返すことによって、信仰とカトリック生活が深められるのだということを知らねばならない。

パウロ会のシスターは『回心は毎日しなければならないことだ』と言っていたが、熱意のない信者仕事やレジャーを先行させている信者には、この回心が欠けているのではあるまいか。

× × ×

『カトリック生活』について、『神を知る』『祈り』『回心』などについて触れてきたが、いずれもカトリック生活の基盤になるものである。とくに『祈り』は信者が絶対に忘れてはならない大切な勤めで、そしてそれは、私たちをいっそう強くキリストの共同体に結びつけるものだ。私たちはいまこそ、これらのことに思いをめぐらし、神の光栄を目ざして進まねばならないということを強調したい。

(広報室)

### 第六回クルシリヨ開催

**5月2日～5日まで**

第六回男子信徒練成会(クルシリヨ)が五月二日の夜から五日までの四日間、福岡市黙想の家でひらかれる。現代教会の要望にこたえうる信徒を養成するもので、平田司教も多数信徒の参加をつよくすすめておられる。

申し込み＝福岡司教館深堀敏神父あて

〆切り＝四月二十日

参加費＝約三、〇〇〇円(食費と文房具費など)

資格＝男子青壮年信徒

希望者は主任司祭を通してお申し込み下さい。

### 共同体錬成会のご案内

きたる三月三十日(月)から四月六日(月)までの八日間「キリスト共同体錬成会」が福岡市黙想の家でひらかれる。

この錬成会は司祭、修道士、修道女、男女信徒ら、神の民のあらゆる人々が一緒に参加するのが特色で、この点クルシリヨとは異なる。

指導スタッフは、川原師(東京教区使徒職指導司祭)、ルシアン師(フランシスコ会)、畑野氏(聖心大学勤務)。

申し込み方法＝葉書にて左記のことを記入し、三月十五日までに

◉東京都港区六本木四―二―三九 フランシスカン・チャペル・センター内、キリスト共同体錬成会事務局あて。(〒106)

記入内容＝氏名と霊名、年齢、職業、所属団体、教会名、受洗年月日、現住所、参加希望会(福岡と記入)。

費用＝七、五〇〇円、学生は五〇〇〇円。

住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
(支店)　北九州・熊本・佐賀

栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電㊷4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 意欲的なSVPの活動

## 大名と箱崎が集会の記録



貧困者の救済をめざす世界的組織であるビンセンシオ会（SVP）の福岡教区グループ（福岡中央理事会＝会長山田耕司氏＝写真）のうち、福岡市内の大名町協議会と箱崎協議会が、創立いらいそれぞれ七〇〇回と五〇〇回の例会をむかえた。ビンセシオン会は司教公認の使徒職団体で、毎週会員が集まって祈り、指導をうけ、活動方針などを決定している。

福岡教区にビンセンシオ会が創立されたのは十六年前。深堀司教の要請で市内合同の形をとり、地行教会で最初の例会をもった。平田正喜師が指導にあたったが、平田師が大名町教会主任になってからは、同教会に会員が集まり、やがて箱崎教会も協議会として独立、最近は光ケ丘教会も米湊（こみなと）潔氏を会長に、十五名のメンバーで会を組織し、吉塚教会も発会準備中である。

大名町協議会は会長渡辺利男君（福大生）、十二名の会員がおり米国シンシナティ州のアロイジオ会と兄弟関係を結び、情報交換や資金援助をうけるいっぽう、市内の貧困家庭や社会福祉施設などを訪問して、物資の分配、奉仕を教えるなど意欲的な活動を行なっている。

箱崎協議会もこのほど例会五〇〇回をむかえ、四代目会長の平田房力氏と八名の会員が寝の働きに尽力することを喜いあった。指導にあたっているベリボー神父は以前に福島県の若松市にもビンセンシオ会を設立したことがあり、初代会長工藤昭夫氏（九大教授）らの趣意はいまも燃えつづけている。

### 全国理事会に出席

二月の八、九の両日、ビンセンシオ会全国理事会が東京都品川の全国理事会事務所でひらかれ、山田会長と石田副会長が福岡から参加した。会には総理事会々長ヘンリー・ジャコブ氏が出席、ベトナム戦傷者救済運動について説明したが、福岡中央理がおこなった佐賀県松島の援助は、もっともビンセンシオ会的な活動として称賛され、また高校生と大学生よりなる青年委員会の結成と活動も注目された。なお臨席された白柳大司教も日本における同会の重要性を強調し、会員のいっそうの養発を要望された。

## 福岡教区の誕生と最初の司教

このたびの深堀司教のご引退、平田司教の着座を機会に、福岡教区の設立と最初のふたりの司教の業績のあらましをふり返ってみたい。

### 明治・大正時代

幕末にちかく日本の開港のきざしが見えはじめたころ、ローマ聖座はすでに日本全土を一つの代牧区（註）として、パリー外国宣教会のフォルカード師を初代代牧に任じた（一八六四年）フォルカード師は琉球に留まり、日本入国の機会を待ったが、ついに機会をうることなはできかった。



チリー司教

つぎの代牧には慶応二年（一八六六年）プチシャン師がえらばれ十年後の明治九年、日本が二つの代牧区に分けられたとき、南緯代牧区を担当した。明治十七年、クーザン司教が代牧にあげられ、三年後に日本は三つの代牧区に分かれ、南緯代牧区は九州と沖縄に縮少された。クーザン司教は大正元年までの二十六年間、その後継者のコンパス司教は大正十五年まで、この広い地区の司牧にあたった。

クーザン司教が死亡したあと、長崎県だけが長崎教区として邦人にゆだねられることになり、昭和二年五月、まず鹿児島知牧区が、同年七月には福岡教区が新設された。長崎司教に早坂久之助師、また福岡司教にフェルナン・チリー師が任命された。



ブルトン司教

### チリー初代司教

チリー師はパリー外国宣教会員明治四十年来日、長崎地方で布教に従事し、会計もつとめ昭和二年十二月十一日長崎市の浦上教会で司教に叙せられ、翌年一月十六日福岡市大名町教会（明治二十七年建立の赤レンガの建物）で着座式をおこなった。司教館には市内荒戸町三十三番地（現在の西公園電停付近）にあった大きな日本家屋がある。

### ブルトン第二代司教

福岡教区の第二代司教として、一年一カ月後にアルベール・ブルトン師が任命された。ブルトン師も同じパリー外国宣教会に属し、明治三十八年来日、おもに盛岡、新潟、青森など、東北、北陸で活動していたが、右手の小児マヒにかかり、一時フランスに帰って治療をうけた。昭和六年六月、司教にえらばれたときは東京の本郷教会の主任であったが、九月二十九日関口教会で司教にあげられ、十月十八日福岡に着座した。

ブルトン司教が、はじめからもっとも力を入れたのは邦人司祭の養成で、着任の二カ月後に、早くも大名町教会内の伝道場を神学校にあて、昭和七年四月からポア神父を校長に、ゲブリアン小神学校を発足させた。集まった神学生は二十一名。さらに翌八年には、カナダからスルピス会司祭を招いて大神学校設立の準備をはじめ、四年後に哲学科の講義がはじまったブルトン司教はまた、聖母訪問童員会を創立して邦人修道女の養成をめざす一方、いろいろの修道会を招いて、教育・社会事業をすすめた。太平洋戦争のはじまった年の三月辞任。在住期間は十年であったが、昭和二十九年八月鎌倉で帰天、七十二歳であった。

（註＝代牧区とは司教区として設定されるまえの教会地区のことで代牧は司教の位をうけてこの地区の責任者となる。）



## 古老に聞く

# 信仰の英雄、甚三郎の忘れがたみ

## 門司の守山寛一さん

『父はヒイデス（信仰）の固まりのような人で、人の消息を聞いて、相手が商売のことをいうと、〝そうじゃない、私はヒイデスを守っているかどうかを聞いているのだ〟という具合でした』

と語るのは、北九州市門司区柳町の守山寛一さん。父というのは元治二年三月十七日、プチジャン神父によって発見された浦上キリシタンの一人、守山甚三郎さんである。甚三郎さんは後に島根県津和野に流罪され、きびしい拷問（ごうもん）に遭いながら、最後まで頑張りとおした人その手記にはまき冬、厚い氷の張った池につけられ、気を失おうとすると、三間余りの竹の先に鉤（かぎ）をつけ、その鉤に髪毛をまきつけて引きあげられたことが書いてある。

寛一さんはことし八十六歳。上品なおっとりしたお爺さんだが、その額には、この人が生きてきた人生の苦労が、深いしわとなって刻まれている。旅（流罪）から帰った守山さん一家は、金はもちろん、家も土地もない貧乏暮らし。主食の芋さえ満足には食べられなかった。十一歳でデッチ奉公、転々と職業を変わり、小倉にきたのは明治四十四年、三十八歳。西洋料理屋をはじめたが、奥さんの病気で廃業、いったん長崎へ帰り、姉むこに招かれてこんどは門司へやってきた。寛一さんは『門司で牛肉屋をはじめましたが、それからどうやら、軌道に乗ったようです』と語る。

信仰の英雄甚三郎さんと、『愛の結晶』と信者たちに慕われた、母親たきさん（旧姓平山）に育てられ、寛一さんもまた信仰に徹した人。北九州の神父さまが、口をそろえて『守山さんは聖人だ』とほめるほど。大正十一年にはこんな思い出がある。ソビエトで救済され、日本経由で故国へ送られていたポーランドの孤児六〇〇人を寛一さんが中心となって、教会の人たちが輸送船に見舞った。果物や日用品を配ると、孤児たちは貧活を、精神的にも物質的にも可能い日に涙を浮かべて感謝したそうだ。そしてこの船には、たまたま渡航中の渋谷治・荻原晃の二人の神学生が乗っていたという。このときポーランド政府からもらった礼状は、いまも寛一さんが保管している。

『大分の平山司教は母方の七孫福岡司教館の深堀神父は、平山司教とふたいとこ。先日の祝聖式で一緒にいる二人をみたときは、うれしくて、うれしくて、もういつ死んでもよいと思いました』という寛一さんは北九州教会の生き字引き、そして福岡教区にとっても大切な信者さんだ。もうしばらく生きていてください。

### ミサの理解めざして

信徒練成会に参加した人たち（クルシリスタ）の集会（ウルトレア）が二月二十二日福岡大名町教会でひらかれ、「ミサのより深い理解」について語り合った。北九州では三月一日若松で集まりをおこなう。

## 福岡カトリック社研報告

去る二月八日（日）社研の二月例会が、今回は特に福岡教育大学のカトリック研究会部室において午後二時半より六時半頃まで多数の参加者をえて、もたれた。

当日は前月からのつづきで「地上の平和」をテキストとして、その第一章「人間相互の秩序」を中心に話し合いがなされた。この章では、今日われわれが社会生活を営むうえでお互いに尊重し合い、国家生活のうえでもその保障を実現してゆくべき人間の基本的人権と基本的義務とが確認されている。この基本的人権は、各人が全宇宙の物質的事物にも優った尊厳さをもつペルソナ（人格）であることにその基礎をもち、その権利の内容は、要するに人間としての品位ある生

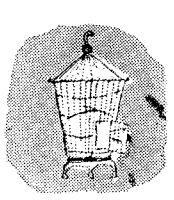
## 回勅「地上の平和」(2)

があてられ、そこに教区最初の神学生が同居することになった。チリー司教は現在の司教館、小神学校や泰星高校、聾唖学園などの土地を購入、教区建設の基礎をおいたが、病いに倒れ、昭和五年五月十日久留米で帰天した。四十七歳、墓は同市のカトリック墓地にある。

## カトリック放送番組（3月）

心のともしび　テレビFBS（月・水午前9時10分～25分）
未　定
心のともしび　ラジオRKB（月～土午前6時40分～45）
RKK（月～土午前10時10分～15分）

2日　三浦朱門・文明と公害　3日　石沢秀二・わからないもの
4日　霜山徳爾・総領の甚六とは　5日　北海道　田中忠幸・冷害で知った人の愛　6日　田中千禾夫・こより
7日　ハヤット神父　9日　三浦朱門・大都会
10日　石沢秀二・ビリへの拍手　11日　遠藤周作・学者
12日　名古屋　八鍬博行・愛はすべてをいやす
13日　曽野綾子・意味のある失敗　14日　ハヤット神父
16日　遠藤周作・裁判　17日　矢代静一・雨と草花
18日　小堀杏奴・兄弟　19日　宮城県　赤川勇治・療友はありがたいもの　20日　三浦朱門・写真
21日　丸山吉高神父　23日　遠藤周作・鼻たれ小僧
24日　相良惟一・兄弟　25日　大原富枝・一人の姉
26日　宮城県　菅原和子・手紙の心
27日　萩原葉子・小鳥を愛する心
28日　丸山吉高神父

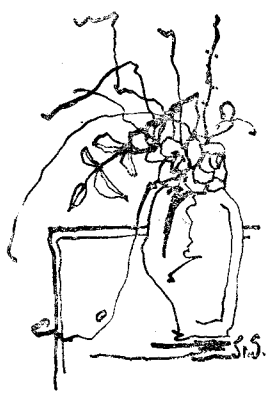
## 苦難から栄光へ！

キリストが歩まれた道は決して
平坦な道ではなかった。
師イエズス・キリストのささやきに
心の耳を傾けて、
苦しみのときをすぎこして、
聖化することを心がけよう。

〝苦しみの秘義〟　¥五二〇
〝カルワリオよりのみ声〟　¥四〇〇
〝心　戦〟　¥三〇〇

## 復活祭のプレゼントに！

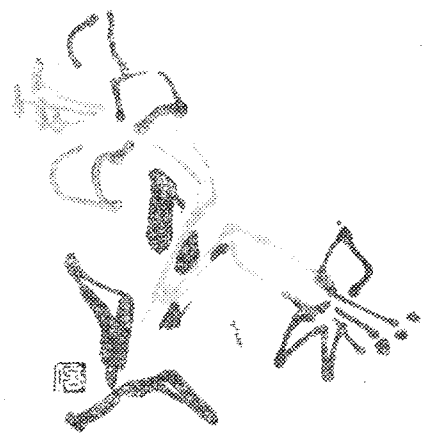
新鮮味があふれキリストの息づきを
感じさせる書。



〝新らしき歌〟　¥七〇〇
現代人に指針を与える書。
〝続新らしき歌〟　¥五〇〇

聖パウロ書院
岩田屋セントポールコーナー
井筒屋セントポールコーナー

# 教養



## 俳句と人生



大山安太郎

俳句の歳時記をひもとくと四季おりおりの花鳥、風物、人事、天文など、多くの季語について解説がほどこされ、いくつもの俳句が並べてある。大体において有名人の句が多いが、必ずしもそうとは限らない。

生きものの小さきかげより春めきて　川崎邦子

「啓蟄」というむずかしい季語がある、言葉の意味としては地中に冬ごもりしていた虫が、穴をはい出ることで、新暦の三月上旬にあたる。この句は春めきでが季題だから、関係のない説明になったが内容的には啓蟄の句ともみることができよう。

もう一句早春の句をあげてみよう。

すぐろなる遠賀の蛍路をただひとり　杉田久女

「末黒」というのは野の枯草を焼きはらった、焼野のあとの黒々と焦げた様子をいうのである。久女は昭和二十一年、太宰府の精神病院で五十七歳で死去している。

この句はさびしい句であるが、私はどうしたせいかきびしい境地に心がひかれる。

冬蜂の死にどころなく歩きけり　村上鬼城

わたくしは宗教家ではないのではっきりということはできないが人生の根本におけるこの淋しさはだれの心にも強くひびいてくるし、また宗教への関心も、このあたりから生じてくるのではあるまいか。

俳句はもともと五・七・五の十七字音が基本であるが、いまではそういう定型にこだわらない自由な句が見つけられる。尾崎放哉の句は、そのような句である。人生の孤独にふれた作品を右の三人の作者から拾ってみることにする。

咳をしてもひとり

たった一人になりきって夕空淋しいからだから爪がのび出す

こんなによい月を一人で見て寝る

ごろりと横になる今日が終わっている

墓のうらに廻る

石はいずれも放哉の句である。

鉄鉢の中へも霰

どうしようもないわたしが歩いている

歩きつづける彼岸花咲きつづける

投げ出してまだ陽のある脚

まっすぐな道でさみしい

以上が山頭火の句。

石の二人はいずれも井泉水の「層雲」の影響をうけた俳人であるが、山頭火は昭和十五年五十九歳で死去、放哉もまた同じ十五年に四十二歳で他界している。

禅寺洞は福岡市出身。戦前は新興俳句の雄であり、戦後はもっぱら口語自由律を主唱し、俳壇に大きな足跡を残している。前記二者は多分に仏教的な諦観の句を残したが、禅寺洞は彼らとは全く趣を異にし、現代の生活から生まれたモダンな発想の句がほとんどである。したがって、ここにひいた句はむしろ彼らしくない句かも知れない。

生きもののあつまり広場をたそがれにする

一日の終わり寒ンの入り日をたしかめに出る

ごみ車をひいてだまっていく人も白馬も

実存的な、しかも虚無的色彩の強い句を抽出して申しわけないが、私にはそのような過程を経てはじめて人は神を求め、永遠を思慕するもののように思われてならないのである。

放哉は

明日は元日がくる仏とわたしと詠んでいる。われわれは、人生をまともに見つめる心をいつまでも失いたくはないのだが、結局、人間はひとりぼっちだし、ひとりぼっちになってはじめて、神との対話が得られるのではないだろうか

（白鳴鐘同人・現代俳句協会員）

# 主の祈り

## み名が聖とされますように

天にまします父である神は、長い歴史をとおして自分を啓示されたが、そのなかでいろいろの名前が神にかぶされている。

ますしあわせと豊かさの与え主として「山の神」とよばれ、つぎに人間の解放者とされたときは「在る者」としてあらわれた。預言者イザヤによれば神は「聖の聖なる者、万軍の神」である。

イエスがわれわれに教えられた神の名は「父」である。この名はイエスに与えられた名である。ヨハネはイエスの祈りをこう伝えている。「かれら（弟子たち）はこの世にいます。とおとい父よ私に下さったあなたの御名においてかれらをお守り下さい。私はかれらとともにいた間、私に下さったあなたの御名においてかれらを守護しました」（ヨハネ17・11―12）

### 神の聖性のあらわれ

「み名が聖とされますように」とは一体どういうことであろうか。それは「神よ、あなたの聖性を人々にお現わし下さい」という意味である。われわれはエゼキエル預言書のなかに次のようなことばを見つけることができる。

「私はあなたたちが汚した私の名を聖としよう」（36・23）

「私は、私の偉大さと聖性とを示し、多くの民の目の前に、私自身をあらわそう」（38・23）

ではどのようにして神の聖性があらわれるのであろうか。エゼキエルはこういう。神は民と新しい契約を結び、これを聖化なさるのである。



### 自分を聖とする

「心のなかで主キリストを聖なるものとせよ」と教えるペトロは同じ信者にむかって聖性への努力をすすめる。『欲望に従うな。むしろあなたたちを召された聖なるお方にならって、自分のすべての行ないを聖とせよ。なぜなら〝私が聖なるものであるから、あなたたちも聖なる者であれ〟と、しるされているからである』（前書1・15―16）。

パウロもこの義務を教える。『実に神の聖旨はあなたたちの成聖にある。神がわれわれを招かれたのは不潔のためでなく、成聖のためである』（テサロニケ前4・3―7）。

だからアウグスチノも「あなたが、み名が聖とされますようにと祈っているとき、よく考えてみるとあなたは神のためでなく、自分のためにそれを祈っているのだ。聖の聖なるお方があなたのうちで聖とされるようにと祈っているのである。聖とされるとは何であろう。それはこの名がいつも聖なるものと認められ、決してないがしろにされないことだ」と教えている。

またある人はこういっている。

「神は人々の目をみはらせ、尊敬をかりたてるような超越的な聖性をあらわすことで満足なさらない。神は人々に自分の聖性を分かち与えようとなさる。だから聖なる神としてばかりでなく、人を聖とする神としてあらわれになる」。御父はまず御子キリストにおいてご自分の聖性をあらわし、御父と御子とから派けんされる聖霊によっていつもわれわれを聖となさるのである。

× × × ×

## 春を待ちながら

河原畑正行

立春のあとに旧の正月がきた。

「年のうちに春はきにけり」と、昔歌人をあわてさせた歳月の動きのゆえか、今年の草木の伸びは、いささか不揃いのようである。

臘梅は盛りを過ぎたのに、木瓜の蕾はまだ固い。においすみれはまだ盛りであるが、紫の花びらは土ぼこりに汚れている。季節を思わせるのは、雪割草のか細い白い花と福寿草の四粒か五粒の黄色の蕾だけである。三群れのクリスマスローズがある。一月になって一、二本咲くには咲いたが、多くの蕾は今なお俯いたままで、咲きしきるのは四月はじめであろう。

花の色がヒエタに見るお膚に似ているので、家ではイースターローズと呼んでいるが、正しくはレンテンローズという種類であることを、最近になって知った。序でながら、英訳聖書には雅歌二・一とイザヤ書三五・一の二個所に、「ローズ」が使用されているが、古文調の邦訳では、「野花」「番紅（サフラン）」と区別され、最近の口語訳は「ばら」「さふらん」になっている。

英訳聖書の中でも、ドゥエイ・バイブルは雅歌では「野の花」とし、イザヤ書では「百合花」となっている。多くの英訳の「ローズ」の大胆さにくらべて、邦訳は植物地理学的にこまかな配慮が偲ばれるようである。英訳の註解書では、「ローズ」は球根類を指し、現代語の意味する植物はレバノンの土地にしかなかったと教えている。同じことは「リリー」についてもいえる由であるが、「またなにゆえに衣のことを思ひ煩ふや。野の百合はいかにして育つかを思へ、労せず、紡がざるなりしかれどわれなんぢらに告ぐ、栄華を極めたるソロモンだに、その服装この花の一つにも及ばざりき」に育ったものには、口語訳の「野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい」を読むと、消えた「百合」が、今更のように美しく思い出されてならない。

古文調の邦訳がくりかえし使う「百合花」は、老人にとっては今更の「野の花」「ポッピー・アネモネ」へとイメージチェンジは不可能であるように思われる。聖書の中の花を考え、またたのしく想像することも、冬枯れの家の庭を眺めるからであろうか。暮れに咲くべかりし水仙も、まだ伸びきれず春待ち顔である。三月ともなれば、クローカス、黄水仙が花を見せるであろう。

十五年前、冬から夏を英国で過ごしたことがある。暖房のきかぬアパートで一日十ドル寒らしの日々を送った。シリング貨一枚を投げ入れると電気ストーブが二時間ほど赤い光を放ってくれたが、暖い春の陽ざしが待たれてならなかった。そんなある朝、いつも通る家の前の芝生の中に、黄色のクローカスが二輪突然咲いているのを発見した日のよろこびをいまだに忘れない。

漱石の日記を読むと、明治三十四年三月十二日の条に「青キ芝ノ中ヨリ黄ト藤色ノチュリップガ二ヨキニヨキ出テ居ルノガ大変美シイ」とあり、また三月十四日の条にも「公園ニチューリップノ咲クハ奇麗ダ」と書かれているが、これはクローカスのことではないかと思ったりする。

チューリップは今少し遅れて咲き、四月二十三日から二週間遅れて行った、ストラットフォード・アポン・エィボンのシェクスピア記念劇場の後庭に、大輪の花が一杯咲いていたのを記憶している。彼の生誕の家の前もチューリップに埋まっていた。シェクスピアは淡す色の桜草を「春を司る神の初児」と呼んでいる。家ではメラコイデス種に新年を感ずる。十二月になると花穂の伸びも急速で、群なす細い茎の奥に花の色さえ見えやがて花かんざしそっくりの花が咲く。例年さゝやかなクリスマス・プレゼントの役をはたしていたのに、この冬はそれができなかった。キャンバスのあらしの余波であった。手のとどき兼ねた庭であったが、忘れられた庭のすみずみから黄水仙が、蕾をさきにして芽生え始めている。

隋農の弁解の言葉ではないが、今更に「野の花がどうして育っているか」と考えることしきりである。（かわらだ・まさゆき・熊本女子大教授）

## 朝食祈禱会

（毎週月曜）

プログラム

七時三〇分、讃美歌、聖書、開会祈祷

七時三五分、奨励（約一五分）

七時五〇分、祈祷

祈祷前に司会者が教会の概要を紹介

八時―八時三〇分、食事ならびに自己紹介、証し

会場・福岡市土居町電停、住友銀行北隣り、茶房「エルム」二階（電一二九―〇七七〇）

これは、福岡市内のプロテスタント、四〇余の教会が市民の救いのために行なっている祈祷会。

東京、大阪では教会一致運動の一環として、カトリックの関係者も多数参加しています。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊿0568

ダイワハウス
マイホームサークル
DMC
DMCのご相談は……
大和ハウス工業㈱福岡支店
福岡市博多駅東1丁目1番30号
予約販売課 天本
TEL092代表(41)7431番へ
頭金のご用意はいりません
総工費の1/3を1年から10年までの間に積立てていただき、残り2/3は融資します。1回の積立はわずか5,000円から。しかも積立年数に応じて積立金の5～17%を割引きます。なお割賦利息は年4分6毛。保証人はいりません。
資料請求券

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第170号




平田司教認可
発行所　福岡市浄水通　福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

# 召命の日に祈り
## 平田司教特別教書を発布

来る四月十二日復活第3の月曜日は第七回「召命の日」として、教皇のご意向により司祭・修道者の召命促進めざす特別の祈りと催しが行なわれる。福岡教区では平田司教から特別教書が発布されるほかは各小教区・修道院毎にこの催しを計画する。最近は司祭・修道者の志願者の数が激減しているので、青少年の心に召命への関心を高めるよう積極的な対策が望まれている。

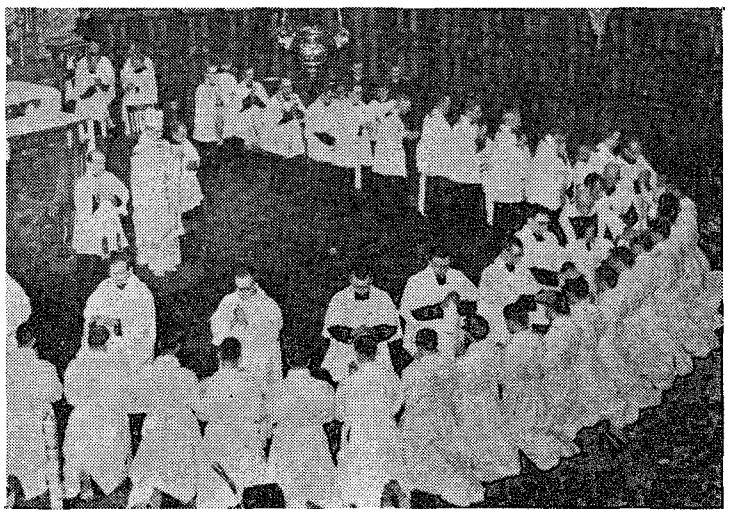
祈祷の使徒会の4月の意向もこのことを取り上げているので、左に意向の説明を掲げたい。

【一般の意向】司祭への召命がさかんになるように

司祭への召命は、文字どおり神からの恵みであり、人間の権威を越える神の働きによるものであることは、教会の伝統的な考え方であります。したがって召命の数が増加するように神に嘆願することは意味があり、かつ重要な信者の務めであると思います。

しかしまた他方、信者のなかから自発的に司祭を志願する青年が出てくるような環境と雰囲気をつくることは、人間の側の働きであります。親や教師やその他の人々が青少年に司祭職を志すように心理的圧迫感を感じさせることは誤りであります。召命の数が増加することは望ましいことでありますが、それだけを望むのは決して実際的ではなく、むしろ現代の青少年をいかに指導するかに焦点を注ぐことが重大であります。

現代の青少年が時代の変化と教会の発展に伴い、いかに自己の理想を発展させていくことができるかは、かれらの指導者の双肩にかかっている問題であります。単に司祭の高い価値と理想を説得し理解させるだけでは役に立たないでしょう。青少年自身がみずから自己を掘げつくす価値を発見するときにのみ効果的となるのであります。祈りと共に人間の側の努力がたいせつなのであります。



### すでに過去の思い出となつた叙階式

**数年まえまでは、年に数回、上の写真のようなそうごんな叙階式がおこなわれていた。数十名の若い司祭が司教の接手によつて聖霊のめぐみをうけ、聖なる奮発心に燃えて教会活動の第一線におどり出ていつた。しかしいまでは司祭志願者の数は激減し、教会のいのちは危機にひんしている。来る4月12日は「召命の日」。キリストの召しをうけて、人々の救いのために働く司祭が多く出るよう祈ろう。**

## 福岡大神で叙階式
### 2名が副助祭に

三月十七日午前九時から平田司教司式により福岡サンスルピス大神学院で、左の通り叙階式がおこなわれた（カッコ内は所属教区）

副助祭＝中（あたり）重広（沖縄）山根克則（東京）

下級聖品＝郡山健次郎（鹿児島）小川靖忠、下口勲、谷川政美、古川正行（長崎）石原広吉（大阪）

剃髪＝高見三明、三村猛、西田満野中真、大山繁、田口孝志（長崎）

## 四句節に愛の運動

沖縄社会福祉事業のために募金

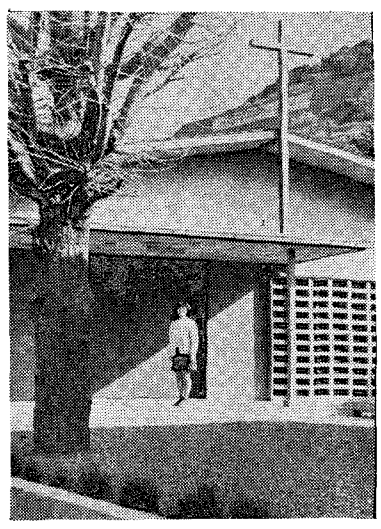
平田司教は全国司教協議会の決定にもとづき、福岡教区の四旬節の愛の運動として、沖縄の社会福祉事業援助のために募金をおこなうよう、各小教区、修道院、施設に要請された。なおこの募金は四月末までつづけられる。

## 司祭異動

大牟田主任畑原富雄師（茶山主任）
茶山主任畠山七郎師（大牟田主任）
健軍主任山田成章師（本郷主任）
本郷主任牧山重光師（司教館付）
帰国ブルク師（琵琶崎修院付）

## 堅信のよろこび

本渡教会　3月14日21名受堅
大江教会　3月15日29名受堅
崎津教会　同　29名受堅
西新教会　3月22日31名受堅



## 教会めぐり
### 北九州市門司区広石町
### 門司港（御公現）教会

門司港教会は、北九州市門司区広石、港を見下ろす山の中腹にある。主任司祭はフランス人のベルトラン神父＝写真。

ここで宣教が開始されたのは明治四十年。創始者は故ベルトラン神父。昭和六年にマルテン神父が建てた、ゴチック式の教会は二十八年の山津波に押しつぶされた。現在の教会ができたのは昭和三十九年の二月。



ベルトラン師は、第二次大戦で有名になったノルマンディの出身。日本に来たのは一九五一年。その前は朝鮮にいて、大邱（たいきゅう）周辺を転々としていた。一九五〇年、休暇をとって郷里へ帰ったが、ローマに着いたとき朝鮮戦争が起こった。この戦争ではミッション会の司祭が十三人も惨殺されたが、ベルトラン師は『休暇がなかったら私も殺されていたでしょう』と感慨深げだった。

ベルトラン師には、門司港にはいってくる外国船の船員を司牧するという、特別の任務がある。門司港には毎月一〇〇隻を越える外国船が入港し、船員たちには教会を訪れる者が多い。一番多いのはフイリッピン人で、そのほか英国人、中国人、印度人などもやってくる。事情があって来れないときはランチでかけつけて、船の上でミサを行なうそうだ。

ここの聖堂は建て坪五〇坪。信者が一五〇人。先日、太刀洗の今村聖母園で会った老婆は、しきりにこの教会をなつかしがっていた。

## 4月　復活節

**5日（日）復活第2主日**

キリストは復活なさったその日の夕方、弟子たちに聖霊を与えて人の罪をゆるす権利をさずけた。これによって明らかなように、罪をゆるされるのは聖霊のお働きによってキリストと共によみがえることである。告白場に近づくときこのことを思い出そう。

**八代・水俣両教会で堅信**

**6日（月）聖母マリアへの神のお告げの祝日**

例年この祝日は3月25日におこなわれるが、ことしは聖週間とかさなったため、この日に移動した。神の御子が救主としておいでになることは、まず母となるべきマリアに告げられた。このときからマリアは人類の救いに協力する使命をおうけになった。

**10日（金）ピエ・ディセポレ福岡修道院で誓願式**

**12日（日）復活第3主日**

福音書によると、復活されたキリストはたびたび弟子たちと食事を共にされた。それは復活した事実を確認させるためばかりでなく、人類全体がキリストによって新しい世界に招き入れられ、神との親しい交わりによばれていることを示すものである。

**第一日曜　今村教会**
**第三日曜　黒崎教会**
**第四日曜　女子聖パウロ修院**
**八代教会**

### 聖体訪問

**19日（日）復活第4主日**

「よい牧者は羊を知り、羊もまた牧者を知っている」。ここで知るというのは、いつくしみをかける、心から通じるという意味。よい牧者キリストは私が何を必要としているかを見て知っておられる。愛のまなざしがいつも私の上にかけられている。そして私のほうはどうか。

**高宮教会で堅信**

**25日（土）聖マルコ福音史家**

**26日（日）復活第5主日**

きょうの福音のなかでキリストは「神秘体」について語られる。幹についた枝のように私たちもキリストという丈夫な幹に洗礼のときから、しっかりと結ばれていなければならない。そしてその結合の度合いは祈りや秘跡、また愛の実行によって強まる。幹からうける樹液によって生かされて実を結ぶこと、それがキリスト者の生活である。

**明治学園で司教ミサと時事講演会**

**29日（水）天皇誕生日**
**健軍新教会献堂式**

### 祈禱の使徒会

**【一般意向】**世俗化した世界で青年が司祭職への尊敬と志望を保持し、育成するように

**【布教意向】**布教国においてその国人の聖職者を適当に養成するように

## 第六回クルシリヨ開催

**5月2日～5日まで**

第六回男子信徒練成会（クルシリヨ）が五月二日の夜から五日までの四日間、福岡市黙想の家でひらかれる。現代教会の要望にこたえうる信徒を養成するもので、平田司教も多数信徒の参加をつよくすすめておられる。

申し込み＝福岡司教館深堀敏神父あて
〆切り＝四月二十日
参加費＝約三、〇〇〇円（食費と文房具費など）
資格＝男子青壮年信徒
希望者は主任司祭を通してお申し込み下さい。

## 上智大学マンドリンクラブ演奏会

三月二十一日午後一時から福岡市民会館で、上智大学マンドリンクラブの演奏会が行なわれた。

前評判がよく会場はほぼ満員の盛況で、照明効果のすばらしさと、クラブ員のマナーのよさが良い印象を残した。福岡雙葉学園高校コーラス部（本多先生指導）の賛助出演もあった。

各種溶接機械器具材料
各種工作機械器具材料
各種労働安全保護具
配管工事設計施行

有限会社　松尾溶材商会

北九州市若松区藤ノ木宮丸1924—20
TEL（093）77—3657～9

大名町英語アカデミー学生募集

ところ：福岡市大名2丁目大名町カトリック教会内　TEL　74-3687
開講：4月15日から中期開講、7月10日まで、毎週月曜・水曜、午後6.00～7.15と7.30～8.45
資格：高校2年生以上の人が入学できます。
授業料：5.500円（前納のこと）　入会金・テキストは無料。
教師：Richrad Harr　O. M., B. A.　Joseph O'connor　O. S. A., M. A.
Rogers Pelow　S. F. M., B. A.　William Schultz　S. F. M., M. A.
Sean Ryle　O. C. M., A.
テキスト：American Language Course は、最初ミシガン大学において立案されたものであり、アメリカ軍によって世界中いたるところで使用されています。この本の目的とするところは、英語を話せない学生たちに対し、自然な会話をするのに、実際に役立つ知識を与えることです。

# カトリック高校生の素顔
## 生まぬるい姿勢から脱皮せよ

六・三・三・四制が登場して二十四年。そのなかで高校の三年間は生徒、父兄ともに最も悩みの多い時期だといわれる。これは高校生の前に大学進学、就職という問題が立ちふさがり、年齢的にも思春期にあたり、恋愛を考え、父母を足がかりに、大人に対する不信と抵抗が芽ばえはじめるときだからである。

そしてその高校生の数は全国で五百万を上まわる。量、質ともに激増した高校生の生態は大きな変化を見せ、教師、父兄の間に、その断絶をいよいよ深めつつあるというのが現状だ。

ではカトリックの高校生は、そういう動きの中で、何を考え、何をしようとしているのであろうか。福岡市内の教会から、高校生会の幹部を集めて話を聞いてみた。

## 進学志望者の甘さ

集まってもらった高校生は、男子四人、女子三人。男子ではA君がことし高校を卒業、ちかく市内のある会社に就職する予定。B君とC君は二年、D君が一年生。女子はEさんが三年、FさんとGさんはともに二年生だ。

『君たちの志望大学は』と聞うと、

『まだ受験のことは何も考えていません』という返事が返ってくる。『受験勉強は』と聞くと、とんでもないという表情。

しかし志望大学がない訳でもない。『南山大学に行きたい』という男子が一人、『教育大学に進みたい』という女子が一人。

この人たちは、大学をどう考えているのだろうか。

『男子なら大学へ行くこと。高校卒のまま社会に出たら駄目になる』というのはC君。B君は、『大学に行けば、勉強しながら人間形成を考えることができる』という。これにたいしてA君は、『進学志望者は、親にめんどうを見てもらっているので考えが甘い。何のために大学に行くのか、自分の目的を自覚することが大切だ』というのが、この人たちにはまだそのものについての考えも煮つまっていないようだ。

H君は、福岡市内某高校の二年生。カトリックではない。志望は東大で『そこが日本の最高学府だから』という。授業が終わるとわき目もふらず自宅へ帰る。夕食までぐっすり眠り、夕食がすむと部屋にこもって勉強に没頭する。寝るのはたいてい午前一時から二時。起床は午前七時より遅くなることはない。H君は中学三年のときには、高校一年の勉強を終わっていたという努力家。彼は『自宅―学校―東大は、明瞭な一本の道だ』という。

B君は『僕はまだ落ちついています』と言って笑うが、H君のように、真正面から大学入試と取り組んだ迫力は感じられない。カトリック高校生のこういう傾向、悪くいえば消極性を、私たちはどう受けとればよいのだろうか。

## 高校生パワーとカトリック高校生

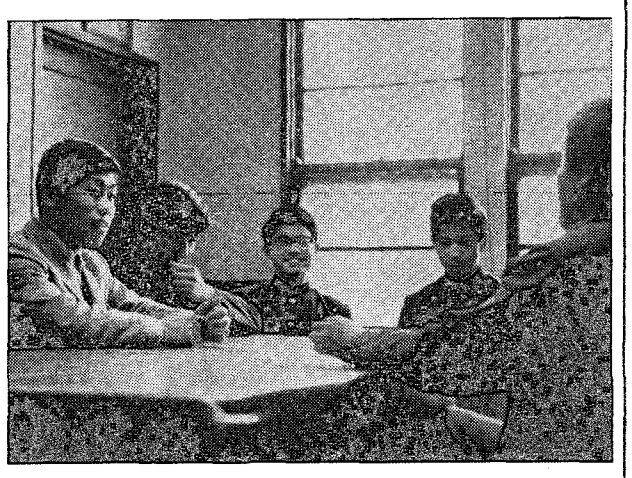
昨年は、高校生が〝安保闘争〟の前面におどり出て、世人の注目を集めた。『高校生の活動グループといっても、これはほとんどが感覚派だ。政治的な行動も、思想的な自覚もない』というような批判があったとしても、彼らが左翼政党や、トロツキスト系の大学生グループに指導され、次第に社会意識に目ざめ、戦後体制に挑戦しはじめていることは否定できない事実である。



これらの高校生にくらべて、カトリック高校生の社会意識はどんなものであろうか。

Fさんの学校は、カトリック系の女子高校。学校でソンミ事件について話し合った。そのときのことを、

『学校では〝戦争が人間を変えるのだから仕方がない〟という意見が多かった』といって残念がる。



楽しげに話し合う高校生たち

うきびしさが必要ではないか。』

そうはいうものの、この高校生たちは、昨年の七月、ビアフラの救援募金で大きな成果をあげた短かいときで三時間、長いときは六時間も街頭に立って、足が痛み声がかれるまで前張った。

そのとき一人の学生は『ビアフラを救うことを思えば、足が痛いなどといっておられません』といい、もう一人は『ビアフラを救うことが神を愛することにつながります』と語った。

カトリックの高校生の心には、神への奉献ということは、しっかりと根を下ろしているのだが……

## 罪の意識にショック

『要理をつめこまれたときは、ひどく反発を感じ、しばらく教会に行かなかった』というC君は、『人生の問題に苦しみ、自殺しようと考えたとき、ある機会に、神さまがおられるということを確信した』と語る。

こういう人は、体験をとおして要理を確認しているのであろうがE神父はそれを、

『それが、神の意志から出てくる決論ではないか』という。

それでは、この人たちが要理から学んだものは何であろうか。

D君は

『要理を学ぶまで、〝罪の意識〟ということは知らなかった』

C君

『〝罪〟ということを知ったときは、大きなショックを受けた』

またB君は

『罪の意識イコールカトリックということではないか』という。

このことについて意見を聞くとシスターのHさんは、

『宗教では〝罪の意識〟がいちばん大きな問題、そしてそれは宗派によって形が異なっている。カトリックでは、霊魂と神の一致を考え、さらに原罪と私たちが犯した罪のために、私たちが神から引き離されていることを自覚し、まず霊魂の救いを求める。そこから真の救済がはじまる。高校生が〝罪の意識〟に気がついたことは、そういう意味でほめてやってよいことだ』と言って、満足そうな微笑を浮かべた。

## 高校生に言いたいこと

福岡市内のある教会。午後になると、学校帰りの高校生がぞろぞろと集ってくる。別に集会があるというのでもなく、トランプをあつかったり、そばの人と話したりといった具合だ。ある信者は、

『この教会に来るといつも高校生が集っているが、いったい何をしているのだろう』という。

『高校生が漫然と教会に集るのはよいことではない』と批判する信者もいる。

だがA君は

『高校生の場合、ほかの人たちはみな世代が違うので、話をすることもほとんどない。せめて高校生どうしは、教会に集って話し合い、お互の理解を深めたい』とその理由を説明する。

E君もこう語る。

『お互いの問題を話しあい、自分の道を探るためにも、高校生が集って話し合うことは必要。友だちに相談せず、自分だけで考えることには不良化の危険がともなう。そういう意味で、教会に高校生が集ることはよいことだと思う』

この高校生がいましていることは、聖書研究、ディスカッション。

『私たちはそれによって自分の信仰を確かめている。高校生の私たちには、いまのところそれ以上のことは考えられない』と口を揃える。

つまり教会に集るということも教会で聖書研究、あるいはディスカッションをすることも、この人たちなりの教会活動で、まわりの大人が口だしをすることではないようだ。

しかし『高校生に言いたいことがある』とJさんはいう。

『〝イエズス・キリストは福音のみ教を伝え、救いの恵みを全人類に与えるために、教会をお建てになりました〟という要理のことばを、高校生諸君は覚えているだろうか。しかも君たちは、キリストの神秘体である教会の一部であり、教会の高校生パワーだ。その君たちが、教会の中にくすぼり、聖書研究やディスカッションに明け暮れていてよいものだろうか。そういう生まぬるさから早く脱皮し、福音のみ教えを伝え、救いの恵みを与えるために、高校生パワーの若さと情熱を生かして、もっと積極的に社会のために働いてもらいたい』

### 最後に男女交際

カトリックの高校生も、年末募金あるいは集会など、男女がいっしょになる機会が多いが、この人たちの男女交際の感覚に探りを入れてみよう。

『恋愛について――』と言いかけると、みんなが顔を見合わせ、そしてどっと笑声が湧きおこる。

『学校が好まないし、そんなことに気をとられていると勉強ができない』というのはFさんだが、Fさんの学校では、『男性からの電話、手紙にご注意下さい』という手紙を家庭に回すそうだ。

Gさんは

『そういうやりかたは嫌だ。ひどく抵抗を感じる』と慨嘆する。

E神父が

『高校生どうしの交際は――』と質問すると、C君が

『私たちの交際はスカッとしたものだ』と答える。

『教会内では男女の区別はない。』そういう点は、信者でない学生たちがうらやましがるくらいだ』というのはA君。

そのうちにもう沢山という顔で、

『大人は、どうしてそんなに男女交際を気にするのか。どうも不潔だ』とD君がいいだした。一本とられたかっこうだが、高校生の対女性感情、対男性感情は、大人が考えるよりもはるかに健全で、進歩しているようである。

(広報室)


住まいづくりの店!
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
(支店) 北九州・熊本・佐賀

栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電㊷4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 多彩なプログラム決まる
## 天草キリシタン四百年祭

既報のとおり、来る五月二十三日と二十四日、熊本県天草島の本渡市で、「天草キリシタン四百年祭」が行なわれる。主催するのは本渡観光協会で、本渡カトリック教会が祭式施行の責任にあたり、熊本県、本渡市、天草市町村会、本渡商工会議所が後援して準備をすすめている。平田司教はじめ国内外の司教のほか、駐日教皇庁大使ウステンベルグ大司教、外務大臣夫妻、各国大使などの招待が予定されている。

二日間の行事プログラムはほぼつぎのように決定した。

**5月23日（土）**

◎歓迎会　午後3時／5時（市民会館）広島エリザベット音楽大演奏、日本舞踊団出演

◎キャンドル行列　午後8時出発本渡教会からキリシタン墓地まで

◎説教と祈願　キリスト平和像まえで

**5月24日（日）**

◎感謝の聖ごんミサ（キリシタン資料館まえ。雨天のときは市民会館で）午前10時から

◎アトラクション　ポピュラー音楽（坂本スミ子ほか）クラシック音楽（エリザベット音楽大）

**〔本渡とキリシタン〕**

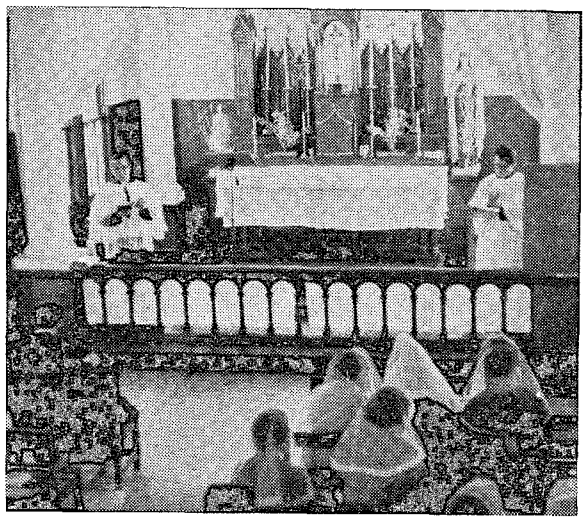
『天草キリシタン四百年祭』は一五七〇年（元亀元年）にポルトガル人カブラル・フランシスコ神父が本渡に来て福音宣教をおこない、はじめてミサをささげた年を記念するもの。カブラル神父につづいてアルメイダ修士（ポルトガル人）と日本人修士ビセンテ・トウイン（漢字不明、医師養南軒パウロの子）の二人も来島、志岐―本渡―河内浦のコースで一五八八年まで伝道にあたったといわれる。

一五七一年には天草五人衆のひとり、天草尚種がカブラル神父から洗礼をうけ、ミゲルの名をもらった。一五八八年にはヨハネ・フランシスコ・ステファノ二神父（イタリア人）も本渡に来ているこのころ九州を平定した秀吉が天草諸島をふくむ肥後の南半分をキリシタン大名小西行長に与えたので、天草地方のキリシタン信仰はますます栄えた。

ロテスタント両教会の約百名の信徒が合同の祈りと讃美歌をささげた。

なお村田牧師は放蕩息子のたとえより、われわれも神から遠ざかっている人にひろい愛をもって接しようと説教した。

（写真は合同祈禱会の堤神父（左）と村田牧師）



二日市教会で合同の祈り

## 世界祈禱の日の催し

二日市カトリック教会（福岡県筑紫郡、堤要吉師）で、三月八日「世界祈禱の日」の催しがおこなわれた。これには同町塔原の日本ルーテル教会の村田牧師と信徒が合流、ミサのあとカトリック・プ

# 福岡にカナの会
## 若い人たちのために

若い人たちのしあわせのためにカトリック信者同志の結婚を世話しようと、このほど福岡市内の信者有志が会を組織してはたらくことになった。この会はイエススが公生活のはじめカナという町で最初の奇跡をおこない、新婚夫婦を祝福した故事にもとづき、「カナの会」とよばれ、すでにいくつかの教区で効果的な活動をおこなっている。

福岡では昨年末ころから平田房刀（箱崎）、横尾精（大名）、坂田三郎（高宮）氏らが語り合って他教会の有志にもよびかけていた去る二月末、規約を作成して平田司教に趣旨を説明、教区の組織としての承認をうけた。四月発足をめざして案内書や申し込み書の印刷を進めているが、こんごは仮事務所の福岡市大名町教会から各小教区に配布される。

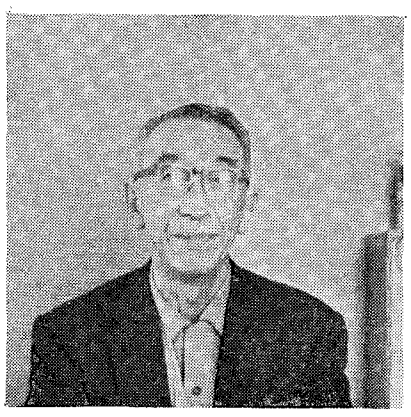
「福岡教区カナの会」は、各教会の主任司祭から任命された委員が事務を推進する。指導司祭は後日任命されるが、祝福された結婚を望むカトリック青年男女は、この会によい配偶者のあっせんを依頼することができる。カナの会では希望にかなうような配偶者を見つけ次第すぐに連絡をとるが、申し込み者個人の事項については絶対の秘密を厳守する。なおこの会は結婚をあっせんするだけであって、結婚の諾否はもちろん本人同志の自由である。

## 時事講演会

主催　小倉カトリック教会
日時　四月二十六日（日）九時から三時三十分まで
会場　北九州市戸畑明治学園
テーマ　現代とカトリック＝時のしるしをみつめる教会

プログラム
1　平田司教司式ミサ（九時ぐって）福岡大学教授久保守氏
2　講演
○ソクラテスと現代（政治と宗教）福岡大学教授今村茂氏
○現代と学生（学生紛争をめぐって）福岡大学教授久保守氏
○安保とカトリック　九州大学教授氷波朗氏
復活されたキリストとともに、教会の内と外で福音の教えのあかしとなるため、まずわれわれの生きている社会とそのなかにある問題にふかい関心をもち、福音的立場から働きかけがなされるようこの時事講演会はめざしている。

# 古老にきく
## 久留米教会とは五十年のつきあい
### 松尾寅十郎さん



松尾寅十郎さん（66）は久留米教会では長老的な存在。先代の乙吉さんが長崎から久留米に来たのは大正三年十一月。四十歳（？）のときだった。当時久留米にいた青島（チンタオ）の捕虜の食料に、ハムソーセージを納めるために招かれたのだという。

ソーレ神父が私財で買ったものだが人格的にも立派な人で、信者の世話はもちろん、信者でない人の世話までよくしていた』

ソーレ神父に対する崇敬は強く話はつきるところがない。

『棚町神父は太っ腹で、考えることもケタが外れていたそれにあの人は使うだけでなく、もうけることも知っていた。ああいう人が、これからの教会にはいよいよ必要になるのではないか』

温厚そうな老人だが、この人の心の中には、やはりケタ外れな何かが秘められているのではないか別れぎわに、『これからは金がないと布教もできない。金もうけというと下卑るが、教会も金の入ることを考えないと何もできませんよ』と言ったことばが印象に残っている。

久留米教会はそれいらいというから、ほぼ五十年間のつきあいということになる。寅十郎さんは、

『代々の司祭で、いちばん印象が強いのはソーレ神父さまと、棚町神父さまだ』という。

『ソーレ神父は久留米教会の基礎をつくった大恩人。神父は医者の免許を持っていて、病人を無料で治療したので、そのために信者になった人もかなりある。これは後に〝斯道院〟という病院が生まれるもとにもなった。教会の土地は、全部ソーレ神父が私財で買ったものだが人格的にも立派な人で、信者の世話はもちろん、信者でない人の世話までよくしていた』

ソーレ神父に対する崇敬は強く話はつきるところがない。

『棚町神父は太っ腹で、考えることもケタが外れていたそれにあの人は使うだけでなく、もうけることも知っていた。ああいう人が、これからの教会にはいよいよ必要になるのではないか』

温厚そうな老人だが、この人の心の中には、やはりケタ外れな何かが秘められているのではないか別れぎわに、『これからは金がないと布教もできない。金もうけというと下卑るが、教会も金の入ることを考えないと何もできませんよ』と言ったことばが印象に残っている。

# カトリック放送番組（4月）

心のともしび　テレビFBS月・水午前9時10分―25分
心のともしび　ラジオRKB（月―土午前6時40分―45分）RKK（月―土午前10時10分―15分）

| 日曜 | テーマ | 著者 | 日曜 | テーマ | 著者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1(水) | 人間の自由 | 霜山徳爾 | 16(木) | 簡単なこと | 坂本三重子（東京都） |
| 2(木) | 真の隣人愛にみちたことば | 横尾元意（山形県） | 17(金) | 服を作る | 曽野綾子 |
| 3(金) | 門出 | 萩原葉子 | 18(土) | （生放送予定） | ハヤット神父 |
| 4(土) | 日食の教訓 | ハヤット神父 | 20(月) | 春 | 相良惟一 |
| 6(月) | 国のため | 浜尾実 | 21(火) | 春 | 林謙一 |
| 7(火) | 本の話(その2) | 遠藤周作 | 22(水) | 春だというのに | 大原富枝 |
| 8(水) | 心のふるさと | 霜山徳爾 | 23(木) | 花を作って下さる方に感謝 | 小松玲子（広島市） |
| 9(木) | 子供のしあわせ | 津田恭司（兵庫県） | 24(金) | かっとすること | 田中澄江 |
| 10(金) | 雑草 | 戸川エマ | 25(土) | （生放送予定） | ハヤット神父 |
| 11(土) | 人間と動物 | ハヤット神父 | 27(月) | 盛り場横町の感想 | 山本健吉 |
| 13(月) | 待つ | 霜山徳爾 | 28(火) | いつまでも若く | 浜尾実 |
| 14(火) | 早春 | 矢代静一 | 29(水) | 子供と犬 | 霜山徳爾 |
| 15(水) | 春 | 小堀杏奴 | 30(木) | こっとう品のオルガン | 福田キヨ（埼玉県） |

〔福岡カトリック社研報告〕

# 回勅「地上の平和」(3)

社研三月例会は「地上の平和」第二章「各政治共同体内における人間と公権の関係」をテキストにして話し合った。

人間共同体はこれを治める権威が必要で、それは神によってつくられたものである。だが権威の命令する力は神に土台をおいた倫理的な秩序から生まれなければならないもので、これに反する法律、命令は市民の良心に義務を負わせることはできない。

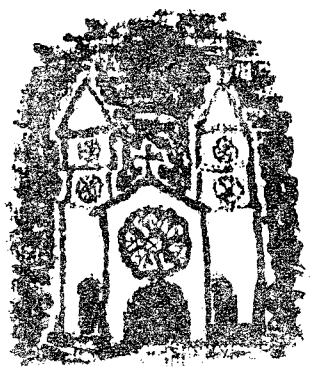
現代では共通善を実現するための公権は、人間の人としての権利と義務を守ることにあると考えられるが、その公権は一方では権利を認め、尊重し、種々の権利のあいだを調整し、これを守り、発展させ、他方では、市民の義務の実行を容易にしなければならない。公権の組織については、どれが最良かを断定することはできないが、三権（立法、行政、司法）分立の政治組織は人間の本性と合致するものと思う。

現代ではいろいろな条件により適確な法的措置は困難なので、為政者にさまざまなことが要求される。市民が公生活に参加するのは権利で、これによって市民と統治者のあいだに接触と対話がおこなわれ、共通善の必要がより明確になる。

話し合いのいま一つの焦点は、このごろ問題になっている「死刑」についてであった。日本でも死刑廃止が論議されているが、刑罰の本質は何かということから話し合いが進められた。これについてはいろいろな意見が出たが、結局は、刑罰の本質は教育しょく罪、予防、みせしめ、広報よりも、一度破られた権威の回復の手段になっているということであった。国家は最高の刑罰として死刑の権利を持っているが、その行使は、共通善の観点からとらえることができるこのようなことから、日本において死刑を廃止することが考えられるのであるが、いまの日本の共通善という観点から現状をみると、結局、悲観的になるほかはないという結論になった。

## 訂正

前号3面の「福岡教区の誕生と最初の司教」の記事中、「クーザン司教が死亡したあと……」は「コンバス司教が…」に訂正いたします。

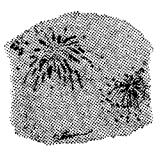
主イエズス・キリストのご復活おめでとうございます

祈りのうちに手をとりあってキリストのみあとにしたがうために

聖書で祈る
ユニバーサル文庫 56
沢田和夫著
価 二二〇円

――人は神の口からでるあらゆることばによって生きる――
（マタイ4・4）

主のおことばは福音である。
主からくる喜びは、
だれも奪うことのできない喜び
ゆっくりと、
聖書をよめば、そこから
祈りがわいてくる。



大名町　聖パウロ書院
岩田屋　セントポール
コーナー

# 父と子と―二王の場合―



谷口鉄雄

二王といえば、書聖と称せられた王羲之（ぎし）と、その子の王献之（けんし）とを指すことは、書道に詳しい人でなくても、すでによくご存じのことと思う。

この父子は、東晋（しん）時代（四世紀）の傑出した書家であり、ことに父の王羲之は、書聖と称せられるほどに後世まで尊崇され模範とされた書家である。

父子二人にわたってその道の大家である場合、父が偉大であり、その名声が大きければ大きいだけ、子にとってはそれが負担であり、負い目になるはずである。

王献之の場合、父の書に対して彼の書を、彼自身どのように考えていたであろうか。それについて次のような話が伝えられている。

あるとき、王氏の家とも親しかった有名な東晋の名臣の謝安（しゃあん）が、王献之に向って、献之の書と父羲之の書との優劣を問うた。それに対して献之は「当然同じくないでしょう」と答えた。謝安が「世人の論は全く違うが」と反発すると、献之は「世間の人に分かるものですか」と答えたという。

「父の書と同じわけはない」「世間の人に分かるものですか」と献之が答えた裏には、父への対抗意識というよりも、むしろ父にまさるとも劣らぬという強い自負がかくされていたようである。

これが単なる負け惜しみのための強がりであれば問題外であるが献之には、そういう自負を彼にいだかせるだけのものが、彼の書にあったはずである。それは、どういう点にあったのであろうか。

献之の書の特色は、今日私たちが見慣れているような草書の体を完成したところにある。同じく草書といっても、献之以前の草書は一字一字こそ草体で書かれていたものの、字から字へと筆勢がつづき、さらには前行の筆の勢が次の行の首にまで及ぶといった風の、連綿とつづく草書の体は、献之にいたってはじめて完成されたのである。

そういう連綿体あるいは一筆書といわれる草書の性格は、いかにも筆勢がすらすらとなめらかで、自然であり、字体がスマートでしゃれているところに特色がある。そこに、従来にない新しい書の様式が生まれたのである。

新しいスタイルが生まれてきた当初にあっては、容易にこれを世間では受け入れるものではない。たいていの場合、堕落だとか、ひとりよがりだとかいって、けなされるのが普通である。

もちろん書には、古今を通じて変らない「不易」の原理があるのであるが、またいわゆる「流行」という変化していく面もあるはずである。

王献之の開拓した新しい書風（これを「今草、きんそう」という）は、その当時ただちに理解され、迎えられたとは思われない。献之と謝安との問答にみられるように、謝安のような知識人においてすらそうであったのである。

東晋の次の宋の時代（五世紀前半）になって、王献之の書の流れをくむ人たちによって、ようやく新しい書風の価値が理論的に主張されるようになった。

「今」の書の特色は「妍」（あでやか）であって、それは一つの様式、スタイルであり、「古」の書の「質」（質実、質朴の意）に対して劣るものではなく、同列の、別個の価値をもつものであるというのである。

そして王羲之父子についても、「父子の間にも、また古と今とがある。献之が妍において妙を極めたのは、もとより然るべくして然るのである」といっている。

王羲之父子を例に挙げたが、新しい世代には新しい様式、新しい価値観があるであろう。そのことを私は理解して行きたいと思う。しかし同時にまた、新しいものと不変の原理とがどのように関係するのか、そのことをも考えてみたいと思っている。（たにぐち・てつお、九州大学文学部長）

教　養



カット・金井照子

# 新らしいあゆみ



永田かよ子

第二バチカン公会議は、信者、修道者、司祭すべての人が〝いま〟という次元に合わせて刷新されることを望んでいる。母なる教会の希望に従って、わたしたちの小さな共同体も刷新をはかっている。では、刷新とはどんなことだろうか。古くからあるものをすべて破壊し、何でも新らしいものに変えることだろうか。否、むしろ真理の源泉により本質的なものに立ち帰り、それを時代の風潮に調和させることである。

私はこのたび、修道会の研修会に出席して非常に深い感銘をうけた。いまもなお、わたしのうちには心の躍動、未来への大きな希望が渦巻いている。科学文明が驚くほど進んだ今日、人々の生活はやさしく便利になった。現代社会においては、共同体意識、団体意識が高まっているのに、相互のコムニケーションなしの極めて個人的な生き方をする人も多い。いま人類は思春期にある。自己に目ざめ、完成するために人類は意識しはじめてきた。神の賜（たまもの）としての良いものは世の中にたくさんある。しかしすべてが各人の利益となるものではない。報道の自由によって提供されるものを、だれもうのみにすることはできない。キリストの知恵で選択しなければならない。わたしたちキリスト者は心からキリストを愛し、キリストのことばに生き、接する人々が、わたしからキリストを嗅（か）ぎとってくれるように、つねにキリストに生きねばならない。内にキリストを宿さないものが、どうして他に与えられようか。

女子パウロ会の創立者は娘たちにすすめている。〝十全的にキリストを生きなさい。キリストの愛あわれみ、謙遜と部分的模倣でなく、道、真理、生命であるキリスト全体を生きなさい。聖パウロのように、わたしのうちにはキリストが生きると言えるまで、キリストを愛しなさい〟と、これこそ教会がその子らにすすめる霊性であると共にわたしたちの目ざすべき目的である。この深い内奥におけるキリストとの一致は、やがて外に向けて行動となってあらわれる。キリストを伝えないことは、わたしにとって禍（わざわ）いであるといった聖パウロの宣教熱にうながされて、福音のメッセージを告げるために、女子パウロ会は時代が提供してくれる新しい手段を有効に使おうとしている。

創立者は六〇年の昔から、すでにマス・コミのバラエティーを予測していたかのように、会則にうたっている。〝救いのメッセージを告げしらせるために出版、映画放送、テレビ、その他時代の進歩発展が生み出す文明の利器を使用すること〟と。人知と人間の働きから出たこれらの見事な発明（神の賜）のために、世の中は相互依存と社会化がますます深まってゆく。その世界の中で、自分の使命を展開してゆく教会の各メンバーは、使命の偉大さと責任をかんじなければならない。

わたしたちは、マス文化がたえず送り出すリズムとイメージによって、マス（大衆）が選択の自由を保ち、人格形成を阻害されないように、かれらを助ける義務がある。わたしたちみことばの普及者にとっては、人類社会における階級も、国境も、人種もさまたげとなるものは何もない。すべての人を心に抱き、キリストの福音を告げるわたしたちを、創立者は〝司祭職に参与する女性〟と呼んだ。自分のおかれた教区の、共同司牧体制の方針にそって協力するわたしたちは、また信者のみなさんとともに、司祭のとどかない面で、司祭職を行なうよう義務づけられている。教区の発展は、すなわちキリストのみ国が広まることであって、そのためにわたしたちは内的準備を深めつつ待機している〝油をたづさえキリストの訪づれを待つ花嫁〟のように。（ながた・かよこ、聖パウロ女子修道会シスター）

# 主の祈り

## 御国が来るように　聖旨が行われるように

### 御国

聖書のなかで神の国とはいろいろの意味にとられている。御国とは、神の王としての働きかけ、この世界にたいしての支配権をさすほか、神が最高の栄誉をうけられ人間の救いが完全に実現するような完成された世界をさす。新約聖書に出てくる御国とはこのようなものであり、現在生長しつつあって時の末にいたって完成するもの、神の栄光と最高支配権、人間の救いと幸福、それらのものが全部ふくまれている。イエズスの弟子はこのような国の到来を祈りもとめるのである。

しかしイエズスは終末的な神の国を人々に告げるばかりでなく、ある意味で神の国はすでに人々のもとに到来しているとも教えている。イエズスがこの世においでになることにより、神の国はすでに、ひそかにこの世に現存しはじめている。キリストはことばとわざをもって、神の国の力を現わし、人々の救いを行なっておられるのだ。（ルカ17の21）。

われわれは神の国に入ることができるよう神に祈るべきであるがまた同時に神の国にふさわしいものとなれるよう、神の助けを必要とする。それは神のめぐみであり子供のような心をもって受けねばならない。「まことに言う。神の国をこどものように受けない人は、そこに入ることはできない」（マルコ10の15）

### 聖旨をおこなう



「聖旨が行なわれんことを、天におけるようにこの地上でも」。この祈りはマタイにだけにあってルカには記されていない。神の国ははじまっているが、まだ完成していない。あるべき姿にむかって進んでいるのである。だから神の聖旨が時とともに実現してゆくように祈らねばならないのである。ユダヤのあるラビ（教師）のことばに次のようなものがある。

「ひょうのように大胆、わしのように身軽く、かもしかのように敏捷、獅子のように勇猛であれ、天にいます父のご意志をおこなうために」。

これはイエズスの山上の説教のことばと全く同じである。「主よ、主よという人が神の国に入るのではない。天にいます父のみむねを行なう人だけである」（マタイ7の21）。そしてイエズスご自身ゼッセマニの園でそのことを身をもって実証された。「父よ、なにとぞ聖旨のままに！」（マタイ26の42）。

ではこれほどまでにイエズスの心をとらえた父の聖旨とは何か。パウロはそれをこう説明する。

「神はみむねの奥義、すなわち時が満ちたときに実現するよう、あらかじめ神がキリストにおいて立てておられた慈悲深いご計画をわれわれにお知らせになった。それは、天にあるもの地にあるものすべてを唯一のかしらであるキリストのもとに集めるということである」（エフェゾ1の9―10）。

すべてがキリストをかしらとして統一されること、神の国の建設こそ父のご計画であり、聖旨である。天使たちの世界ではそれはもう完成している。それがこの地上でも確立するように、まずわれわれは悪の勢力と戦うべきである。弟子達が宣教から帰ってきたときにイエズスは「私は天にひらめく雷のように、サタンが落ちるのを見た」と答えられた。（ルカ10の18）

× × ×

### 草

熊井恵美子（31年2月2日生まれ）

先生<br>
先生　草ってどうして　生えると<br>
やろか<br>
抜いても　抜いても　生えてくる<br>
不思議やなあ<br>
神様に　きかんとわからん

### 伴ちゃん

西岡美鈴（34年7月16日生まれ）

伴ちゃんが<br>
飴を　私の口に　入れてくれた<br>
一生懸命になって入れてくれた<br>
うれしかった

☆この二編の詩は、重症心身障害児施設『みさかえの園』から出た心身障害児詩集『はなじゅうす』に掲載された作品です。心身障害児にもこんなにすぐれた詩を書く能力があるのです。なお『伴ちゃん』は、最後の一行を削りました。これだけで立派に詩になっています。（M）

## 本

◇「期待される人間づくり」カトリック児童局編（ファミリーブックス・9）＝期待される人間それは本人の力だけではどうすることもできないもので、家庭人教師、社会人が、つねに良識をもって対処し、見まもり、育てていかなければならないことだ。本書はそういう意味で、読者に多くの教訓と示唆を与えてくれるにちがいない。（大中央出版社・二六〇円・福岡市大名町二丁目、聖パウロ書院扱い）

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長ルカ　吉川東陽

福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㉜0568

ダイワハウス
マイホームサークル
DMC

DMCのご相談は………………

大和ハウス工業㈱福岡支店
福岡市博多駅東1丁目1番30号
予約販売課　天本
TEL092代表(41)7431番へ

頭金のご用意はいりません

総工費の1/3を1年から10年までの間に積立てていただき、残り2/3は融資します。1回の積立はわずか5、000円から。しかも積立年数に応じて積立金の5～17％を割引きます。なお割賦利息は年4分6毛。保証人はいりません。

資料請求券

昭和30年7月14日第3種郵便物認可 毎月1日発行

カトリック

平田司教認可
発行所 福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏

定価 一部 十五円

# 平田司教 召命の日に教書発布

## 青年たちに強い訴え

平田司教は、去る四月十二日第七回世界召命祈願の日に教書を発布して、司祭・修道者の生活への召し出しについて教区民一同の自覚をよびさました。教書の大要はつぎのとおり。



平田司教

○○○

❶ 教皇が召命の日を定めて特別の祈りと行事をお命じになったのは、ここの数年前から司祭・修道生活への志願者の数が急に減少し、その傾向がいっそうひどくなってきたからである。

❷ 司祭・修道者が少なくなると教会は福音の働きを十分に果たしてゆけなくなる。それは教会にとって致命的な痛手である。福岡教区では邦人教区司祭三十六名、また大神学生六名、小神学生も三十二名にすぎない。いまから数年間は新司祭ゼロの年がつづくわけである。

教書はこのあと若い人々にキリストの召しに耳をかたむけるよう訴えるとともに、家庭と小教区の積極的な協力を求めて、こう述べている。

❸ キリストは諸君のうちからご自分の使命の後継者を求めておられる。司祭・修道者の生活をえらぶには勇気だけでなく、奉仕と献身の精神も必要である。神がいま諸君に見せておられる世界救済のご計画の協力者となるよう決意してもらいたい。

❹ 信・望・愛に生きる家庭こそ第一の神学校である。司祭による説教や勧告以上に親・兄弟のことばや生活には力があり、ふかい影響を与える。

小教区も司祭・修道者の育つ場所である。主任司祭や熱心な信徒によって青年たちは召し出しに目をむけるようになる。

## 霊的花束を贈る

### 教皇の司祭金祝に

パウロ六世教皇は、来る五月二十九日に司祭叙階五十周年をおむかえになる。

モンチーニ師（現教皇名）は一九二〇年（大正九年）のこの日、イタリアのブレッシア市の大聖堂でジャチント・ガッシャ司教から司祭に叙せられた。初ミサは両親の家に近いこの市のマドンナ・デッレ・ガラチエという美しい聖堂であげられた。

平田司教はこの機会に教会の最高牧者にたいする教区民一同の愛と忠誠を表明するために、霊的花束を作成するよう協力を要望した。この花束は各小教区・修道院でミサ、聖体拝領、ロザリオ、ぎせい、教皇のための祈りその他について総計をまとめ、五月十七日までに司教館に報告することになっている。

## 教区総代理に 伊東誠二師

平田司教は、福岡教区総代理に現新田原教会主任伊東誠二師を任命した。



伊東師は五十五歳、昭和十五年六月カナダ・モントリオールで司祭叙階、十一月帰国、福岡小神学校付、太平洋戦争に宣撫（ぶ）班員として従軍、十八年九月今村主任、一年後に応召、終戦の翌年六月満州から復員して佐賀主任、二十三年八月大名町主任、三四年十一月馬渡島主任、三十八年六月から新田原主任になって現在にいたっている。

## 司祭異動

（カッコ内は前任地）

休暇帰国 ラバルタ師（田川主任）、田川主任牧山藤房師（八王寺助任）、休暇帰国サルビ師（唐津主任）、ミラノ会日本管区長館付アックワビバ師（多久主任）、唐津主任ベンツオ師（佐賀助任）

## 校長・修道院長異動

熊本マリスト学園校長パトリック修士は休みで帰国、後任はフランシスコ修士。

福岡サンモール修道院長アン修女は任期満了で東京修院へ、後任はフランソワ・ド・ポール加納修女。同雙葉学園校長ピエール井手澄江修女は日本本部会計。後任はソフイ・金森修女。

福岡海星女子学院校長ネリア村田修女はマリアの宣教者フランシスコ琵琶崎修道院長。後任校長にノエラ笹井修女。琵琶崎修道院長バルトラダ修女は帰国。

幼きイエズス会福岡修道院長小倉ツネ子修女は鹿児島修道院長。後任に平野キミ修女。

コングレガシオン・ド・ノートル・ダム戸畑修道院長沢修女は同明治学園校長。同校長シュラッツ修女は同会日本地区長。戸畑修道院長にオシャナン修女。

## 福岡小神新入生

福岡小神学校（校長中浜一男神父）への今春の新入生は九名。学年別氏名と出身教会はつぎのとおり。

高一＝畑中稔（戸畑）、瀬下幸弘（本城）

中二＝山浦圭（佐賀）

中一＝青木政秋、青木義次、平田馨、平田哲男（今村）、宮崎聖（荒尾）、下谷篤志（豊津）




## 汚れなき聖母の騎士フランシスコ会

（佐賀県佐賀郡大和町）

『汚れなき聖母の騎士フランシスコ会』のシスターたちによる社会法人施設『聖母の騎士会』は、佐賀市から北に八キロ、天山山系の麓、佐賀県大和町大字久池井にある。ここで聖母の騎士会が経営しているのは、特別養護老人ホーム『ロザリオの園』（園長・ヨゼフイナ岩崎貞子＝写真＝）、精薄児施設『いとし子の家』（園長・グロリオーザ早田洋子）』『ロザリオ幼稚園（園長・チェチリア田代りエ）』の三つの施設。





汚れなき聖母の騎士フランシスコ会は、昭和二十五年創立。長崎で戦災孤児を収容したことにはじまるが、会長のフランシスカ中山和子さんと、創立者のミステラオ神父によって、現在地にロザリオの園ができたのは昭和四十一年。三浦事務局長の話によると、いまは三つの施設を併せて『ロザリオの園』と呼んでいるそうだ。

収容人員は、ロザリオ幼稚園・五〇人、老人ホーム・七七人、いとし子の家・五〇人。ここではシスター二十人に医師、看護婦、保母、傭人まで含めると約五十人の人が働いている。シスターたちの起床は五時、夜の消灯が九時半。ほかに夜勤と宿直がある。老人ホームのシスター岩崎は冗談に『骨身を削るように働いて老人たちを天国へ送り込んでいますが、これで私たちが天国へ行けなかったら神さまを恨みますよ』と笑っていたが、脳軟化症の老人や精薄児の世話には、第三者の想像も及ばぬ辛苦があるようだ。

聖母マリアに自己を捧げ、聖フランシスコの謙遜、貧しさ、苦行を実践しているこの人たちが、いまいちばん困っているのは人手、それもシスターたちは口を揃えて『私たちはいつも、召し出しに答える人が殖えるように祈っています。皆さんにも、ぜひお祈りをしていただくようお伝えください』と訴えていた。

# 5月 聖母マリアの月

**1日（金）勤労者の保護者ヨゼフ**

このお祝いはことしから義務的ではなくなったが、メーデーにあたるこの日われわれは勤労の尊さ、その価値を信仰の立場から考えるよい機会であろう。

**2日（土）5日よるまで信徒錬成会（クルシリヨ）。**

**3日（日）復活第6主日**

ヨハネは「神は愛である」という。しかしこのことばも愛しない人には、なんの意味ももたない。愛は観念的なものでなく「いのちを与える」ことである。肉体的ないのちを与えるだけでなく、生活全体が他人のために惜しみなくささげられることである。

**菊池教会で堅信**

**5日（火）こどもの日**

**健軍教会新聖堂献堂式**

**10日（日）主の昇天の祭日**

この祭日は、キリストが主として御父の右の座に着かれたことを祝う。キリストはわれわれに先立ってこの栄光をうけられたが、われわれもこの栄光に招されるためには自分自身とこの世界を恩寵によって支配するよう、努力をかさねていかねばならない。

**広報の日。**きょうの献金はカトリック広報事業にあてられる。

**11日（月）聖フィリッポとヤコボ両使徒**

**北九州地区主催司教歓迎のミサ**（戸畑明治学園で）

**17日（日）聖霊降臨の主日**

聖霊は、教会という神の民全員の活力の源である。この聖霊によってキリストの救いのわざがいまも世の終りまでもつづけられる。人の心を浄化し、信仰と愛を注ぐ一方、この社会にはたらきかける勇気も与えて下さる。「神に、あなたの霊を送り地の面を新たにして下さい」。

**東田島教会で堅信**

**19日（火）―29日（金）東京で日本司教協議会通常総会**

**23日（土）本渡市で天草キリシタン四百年祭（24日まで）**

**24日（日）三位一体の主日**

われわれがキリストとともに神にむかって心から「父よ」と呼びかけることができるのは、聖霊が信仰と愛をわれわれの心に注いで下さったからである。われわれは父と子と聖霊の家族の一員である。

**29日（金）パウロ六世教皇の司祭叙階50年の記念日**

**31日（日）キリストの聖体の祭日**

旧約の民は神殿に保存された契約のひつを最上の宝としたが新約のわれわれにとって最高無比の宝物は、聖体の秘跡そのものである。この秘跡によって、キリストは世の終りまでわれとともに現実に生き、教会全体の礼拝としてご自分を御父にささげておられる。

**北九州市天神町教会で堅信**

### 聖体礼拝

| | |
|---|---|
| 第一日曜 | 久留米教会 |
| 第三日曜 | 天神町教会 |
| 第四日曜 | 熊本恵楓園 |
| 第五日曜 | カノッサ修道院 |
| | 熊本天使園修道院 |

### 祈禱の使徒会

【一般意向】司教たちが教皇と一致してカトリックの教えを固く守り、示すように

【布教意向】布教地でキリストの福音を宣教しているすべての人が実り多い協力をするように。

## 天草キリシタン四百年祭

信者の参加大歓迎

◎5月23日（土）午後3時―5時、市民会館で、歓迎会と音楽演奏（エリザベト音楽演奏）

8時キャンドル行列（本渡市役所前からキリシタン墓地まで）

説教と祈願

◎5月24日（日）午後10時―12時

荘ごん共同ミサ、キリシタン資料館前で（雨天のときは市民会館）

12時30分、カーニバル、市中行進（県警バンドその他）

2時―4時30分、アトラクション、市民会館で。（坂木スミ子その他）

この式典には駐日教皇庁大使ウステンベルグ大司教はじめ司教数名のほか外国大使らもご出席なさいます。教区内外の信者のみなさま、お誘い合わせて、お越し下さい。

本渡カトリック教会
主任司祭デイキン神父

☆会社の姿勢☆

得意先へ信用と誠実
社長自ら先頭に立つ
適正な利潤追求
サービスの徹底
よい製品を顧客の立場で
信用のためなら辞退もせよ
1日の終りに満足感を覚えよう

事務機械・事務用スチール製品
事務用品の総合センター

有限会社 シオタ事務機

福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役 カシミロ 塩田五郎
TEL (092) 52-5755

☆社員募集☆

営業課 19才～29才 男女
商品課 19才～25才 男
経理課 19才～27才 女
固定給

（例）19才（男）24,000円、19才（女）23,000円（交通費 4,500円まで支給、その他諸手当）

勤務時間
平日 8：50～17：30
土曜 8：50～15：30
（日曜、祭日は休み）

# レジオは社会に目を注げ
## 現代化はばむものは何か

**第二バチカン公会議いらい、信徒使徒職への関心が高まり、その重要性が認識されるようになった。だが公会議の要望する使徒職の刷新はその緒についたばかり。にぎやかな論議にくらべると、実践は遅々として進まないというのが実情だ。**

**いま、信徒使徒職は何をしているのか、その刷新はどう進められつつあるか、またその将来は―。最大のカトリック・アクションといわれる『レジオ・マリエ』について、問題を探ってみることにした。**

## レジオ・マリエとは

レジオ・マリエはマリア軍団といわれている。

日本のレジオは、一九四九年、京都、高野教会で、メリノール修女の活動によってはじまった。そして急速に、東京はじめ大阪、福岡など各教区に伸びていったが、現在は地方本部六があり、京都・長崎・福岡・横浜・宮崎・大阪・新潟の各教区に支部がある。

レジオ・マリエは、マリアの謙遜、従順、柔和、英知、愛、信仰を精神とし、キリストの王国を押し広げようと働くマリアと、教会の仕事に祈りと協力を果たしながら、会員を成聖の道に進ませることを目的としている。

では、このレジオ・マリエは、信徒使徒職として何をしているのであろうか。

レジオ会長の**A**さんは、『親睦的な青年会にくらべて、レジオはエリートの集まりだ』という。

レジオ会員には、たしかにエリート意識を持った人がいる。だがレジオ以外の人たちが、レジオをエリートの集まりとして見ているかというと、必ずしもそうだとは言えない面がある。

信者の中には

『レジオがしている仕事は、受付とか家庭訪問で、それは決して積極的な活動とは言えない。それにロザリオの祈り、カテナ、仕事の報告という集会を見ていると、レジオは中年婦人の、自己満足の具にすぎないような感じさえする』

と批判する人がいる。ある教会で、中年の男子信者をレジオに入れたところ、一回集会に出ただけで、あとはよりつかなくなったという話もある。


マリアのまなざしのもとで

個人の接触を大切にしているのだから―』という人もあるが、当のレジオ会員の考えはどうであろうか。

## レジオは エリートの集りか

『平信徒の事業で、その会員（男女）は少なくとも週に二時間司牧助手（病人、貧困者、老人などの訪問、秘蹟受領、児童のカトリック信者を諭（さと）す尽力、さらに未信者の教会及び司祭への紹介、公教要理教授、日曜学校、書籍の分配）として働く』

カトリック大辞典は、レジオについてこう記載しているが、福岡教区のレジオの仕事は、

**A**教会（北九州）…病人の見まい、教会訪問者の応待、職場での布教、要理教授。

**B**教会（福岡）…家庭訪問、教会訪問者の応待、日曜学校、出版物の配布。

といったところ。カトリック大辞典の記載から、まだ一歩もぬけ出てはいない。青森・五所川原教会のフォーレ神父は、レジオのこういう状態をいって、『バチカン公会議がもたらした新鮮な空気は、いつレジオ・マリエに影響するのかと嘆いている』。（カトリック新聞三月二十九日号）

また神父の中には、こういう状態を認めて『レジオ・マリエは、いま一歩突っ込もうという気迫がいちばん困るのは会員の絶対数が少ないことだ。病院の訪問を思い立っても、十人たらずが、誰は公教要理、誰は維持費の計算、誰は未信者との話し合いと言っていると、病院を訪問する者はなくなってしまう。これは**D**さんのいう、仕事の中心が欠けているということで、そのために会員の気持ちが一つの仕事に集中しきれないのだ。こういう状態の中では、刷新の具体化は考えられないのではないか』

フォーレ神父が、カトリック新聞の『レジオの現代化』に書いているのは、大体つぎのようなことだ。

レジオが現代化しないのは、『仕方がない主義』と『固定観念』にある。提要を読むと、その規則は永久に変えられぬような印象を受けるが、しかし世界はたえず変わっているのだから、レジオも現代にあうように変わらねばならない。

フォーレ神父の把握のしかたはやや粗雑で、具体的な点にまでは及んでいない。それにしてもレジオの現代とはどういうことか、またレジオの何が現代化されねばならないのであろうか。


マリアへの忠誠を誓う

## マンネリ化のレジオ

そんなレジオにも、僅かながら刷新の気運が動いていることは確かだ。

指導者の**D**さんは

『どこのレジオをみても、仕事の中心になるものが欠けている』

といい、北九州市の**C**さんは、

『いまのレジオはマンネリ化している。仕事は要領よくやるが、何をしても形式的で、積極的に社会に働きかけねばならない』こう説明する。また、

『今日では、カトリック信者でない一般の人が、社会問題と取り組み、現代社会のヒズミに苦しんでいる人たちのために、積極的に働いている。そういう点ではカトリック全体が遅れているし、この人たちの仕事にくらべれば、レジオの病人訪問や施設訪問はものの数にはいらない。今後のレジオは、社会のいろいろな問題と取り組み、形式的な救済ではなく、問題の原因にまでさかのぼって、どうすれば不幸な人たちを幸福にしてやれるか、というところまで行かなければならない。それは会員の決意と、犠牲がいることで、容易にはできないが、そこまで打ち込めば、会員は人生のほんとうの生き甲斐を見出すことができるし、そこではじめて、信徒使徒職としてのレジオの意義も出てくるのではないか』というのは信者の**H**さんだ。

## レジオの刷新

東京の会議に出たことのある**F**神父は、

『東京の会議では、スタイルを変える話がよく出るが、それは集会のときお茶菓子を出そうとか、喫煙をゆるそうとかいうことに過ぎない』という。

また**D**さんのように、

『レジオの現代化といっても、どういう部分を変えるのか、あるいはどういうところが古いのかわからない』という人もある。

こういう人たちは、まだバチカン公会議のいう『刷新』ということを理解していないのではないか。この『刷新』ということばの意味は、現代への適応ということと。救済への具体的な可能性のひそんでいる現代に、福音を伝える態度を示し、そのために必要な教会の刷新を意味する（公会議解説業書1・序言）のである。とすれば、レジオの現代化とは、レジオの現代への適応であり、現代に福音を伝えるために、レジオを刷新することにほかなるまい。

**E**さんは、

『レジオの現代化は、レジオの会員がまず社会に目を注ぐことからはじまるのではないか』という。そしてまた**E**さんはこうも語る『レジオの会員は、現代社会がどのように動いているのか、そこでどういうことが行なわれているかを知らなければならない。それが解れば、レジオがカトリックの信徒使徒職として、現代社会に何をしなければならないか、自らはっきりしてくるはずだ。それがレジオの現代化で、ロザリオを止めるとか、集会の形を変えるとかいうことは、本質的にはレジオの現代化とは何のかかわりもない』

**G**神父はそのへんの事情を、

『カトリック信者は、少なくともバチカン公会議までは社会に目を向けることを知らなかった。それが、レジオを今日のような消極的な姿にしたのだろう。だが公会議で刷新を要請された今日では、事情は一八〇度変わっている。もちろん、個人接触は大切だが、今日のレジオは、カトリック的ヒューマニズムの上に立って、もっと積極的に社会に働らきかけねばならない』こう説明する。また、

『今日では、カトリック信者でない一般の人が、社会問題と取り組み、現代社会のヒズミに苦しんでいる人たちのために、積極的に働いている。そういう点ではカトリック全体が遅れているし、この人たちの仕事にくらべれば、レジオの病人訪問や施設訪問はものの数にはいらない。今後のレジオは、社会のいろいろな問題と取り組み、形式的な救済ではなく、問題の原因にまでさかのぼって、どうすれば不幸な人たちを幸福にしてやれるか、というところまで行かなければならない。それは会員の決意と、犠牲がいることで、容易にはできないが、そこまで打ち込めば、会員は人生のほんとうの生き甲斐を見出すことができるし、そこではじめて、信徒使徒職としてのレジオの意義も出てくるのではないか』というのは信者の**H**さんだ。

## 司祭はレジオの先頭に立て

『レジオの消極性は中年の会員それも婦人が多いことが原因だ』と（**I**さん）指摘する人があるが、『ハンドブックの研究をはじめたら問題意識が強くなって、ついて行けない人ができた』（**J**さん）という例もある。北九州の**C**さんは、これについてこぎのようにいう。

『問題意識が強くなって、ついて行けなくなるというのはおかしい。それはその人に積極性がないということではないか。レジオには、具体的な方法が欠けているために、困難を突き破れないという例が多い。会長はもっと注意して指導しなければなるまい』

だが『レジオの消極性はそんなことではない』という声がある。

**E**さんは、

『会員が何かしようとすると、いつもブレーキになるのは指導司祭だ。指導司祭は会員が新しい方法を持ち出すと、すぐ警戒するが、それは私たちには、事なかれ主義としか受けとれない』という。**F**神父は、

『そうではない。私たちは確実性を考えているので、納得するように話してもらえば何でもする』と反ばくするが、指導司祭のことなかれ主義に対する批判は強い。

『何かしようとすると、すぐ指導司祭に押さえられて、新しいことは何もできない』というのが真実らしい。

フォーレ神父は『レジオの現代化』に、『きっと私と同じように、多くの指導司祭は種々な問題にぶつかって、あるいは疑問があって、レジオの上の責任者と話し合いたいと思っているだろう。それで出来れば全国の指導司祭の研究会、むずかしいならば二・三カ所のブロック研究会を開いてほしい、それが現代化のはじまりではありませんか』と書いていた。指導司祭の養成という意味で、それはたしかに必要なことだ。しかし福岡教区では、指導司祭の姿勢はまだそこまできていないのではないか。さきに信徒使徒職の座談会をしたとき、『神父は教会の先頭に立て』といった信者がいたが、レジオの場合も同じことがいえるようだ。指導司祭が先頭に立って、はじめてレジオの現代化も推進されるにちがいない。

こうみてくると、レジオの刷新のむずかしさがよくわかるが、何よりもレジオ会員の消極的な姿勢、指導司祭のことなかれ主義が解消されないかぎり、いつまでたってもレジオの現代化は実現されないだろう。


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電㊷4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 教理の相違点を討議

## 熊本の教役者の集いで

去る三月九日夜七時から九時半まで、聖公会・熊本聖三一教会において、ことし最初の集いがあった。司会にはルーテル教会の谷口師が立ち「一致祈祷」と「一致反対論」について、パネルディスカッションを行なった。

双方から二人ずつパネラーが出て、次のような見解を述べた。

❶聖公会の一致運動に対する見解（聖公会・宮原師）。聖公会は一八五八年いらい、十年ごとにランベス会議が開かれているが、一致運動に関しては「聖人」「煉獄」「教皇の制度」が問題になっている。

❷プロテスタント側の「一致に対する反対文書」についての紹介（アセンブリー教会・大庭師）。「一致反対」に関する図書の幅広い研究レポートを、あらかじめ配布して、その要点を紹介した。

❸エキュメニズムについてのカトリック側の見解（健軍カトリック教会・平田師＝公会議の教会の紹介）。カトリック信徒は、この教会のもとにキリストの望む一致の完成のために積極的に働くが、いっぽう一致運動にあたって「諸宗派和解主義はいけない」、「典礼の共同参加はいけない、ただし同じ信仰の宗派はよい」との注意を受けている。人間的制度の改めるべきところは、大いに改めてゆく。

❹真の一致への過程（手取カトリック教会・ノリス師）。一致の完成の暁には、カトリック教会という名称もなくなり「キリスト教会」の名がふさわしくなるでしょう。そこに至るまでは❶心の一致❷教理の一致❸組織の一致の過程を経るとの見解。私たち自身はいま、心の一致の段階で実りつつある。

このあと自由討議に入った。今回の討議は、大庭師調査の「一致反対文書」をめぐって進められるはずであったが、そこに至らぬ前に聖公会の宮原師から、ノリス師の見解に対する質疑があり、それから聖体の教理の相違点に話が進展してしまった。

しかしこれまでには望めなかった「教理の相違点」について話し合うことができた。またプロテスタントの人たちは、カトリックの一致運動の目的が「他のあらゆる教会が、唯一の真のキリスト教会であるカトリックに復帰することにあり、「改革しようとしないローマ」との先入観をもっていることがうかがわれた。しかしこのような誤解も少しは解かれたのではなかろうか。

討論が終わってから、茶話会の席に移った。しかし去年の合同クリスマスの行事をへていまでは、金ザックバランに親しみ語り合う場となった。この集りを組織化するかどうかの話も出たが、従来どおり、当分のあいだ自由に集ってつづけるとこになった。

## イタリア政府から受勲

## 待労院のパチフィコ神父



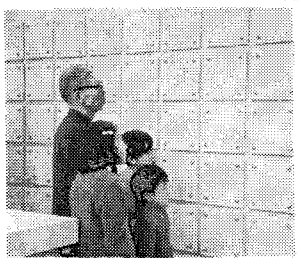
パチフィコ神父（フランシスコ会員、熊本市待労院）は、去る四月五日駐日イタリア大使館で、イタリア共和国騎士の称号と勲章を授与された。中国および日本における神父の長年の献身的はたらきと、とくにハンセン氏病患者にたいする援助によるもの。

パチフィコ神父は一八九八年イタリアの生まれ、七十二歳。司祭叙階後ただちに中国に渡り、漳江で中国語を学んだあと二十八年間、奥地で布教に従事、昭和二十八年中共軍に追われて日本に移り北海道・東京の各修道院をへて現在にいたる。

## 久留米教会に納骨堂完成

久留米教会（主任三村師）では、長いあいだの懸案であったカトリック墓地の件を解決するためこのたび教会の信者席の右側に接して新たに六・五坪の納骨堂を建設したが、四月十二日平田司教をむかえて祝別式をおこなった。

この納骨堂のなかには二〇〇の納骨室があり、各室とも約十二の骨つぼを収めることができる。長年まえから使用されていた市内野中町の墓地には、チリー司教（福岡教区初代司教）ソーレ師、フレスノン師らの墓もあるが、手ぜまなうえ周囲に家が建ちこみ、このまま使用にたえなくなっていた。



納骨室祝別を機会に、久留米教会で平田司教歓迎会をひらき、三村師から信徒の活動ぶりが司教に紹介された。（写真は久留米納骨堂）

## サンモール修道院で銀祝

三月三十日福岡サンモール修道院でシスター・ドミニック相馬とシスター・ピエール井手の誓願二十五周年のお祝いがおこなわれ、平田司教司式の共同ミサがささげられた。



シスター相馬＝写真右＝は名古屋出身。終戦の年の五月横浜からエズスさまに対してマリアさまがいだいておられた心を心として広く周囲の人たちに奉仕をしていただきたい」と激励のことばをおくった。総会につづいて各支部ごとに芸を披露して、四時散会した。



シスター井手＝写真右＝は久留米出身。誓願後すぐに福岡修道院にうつり、三十年十二月から聾学園の高校・中学・小学校長と幼稚園長に就任、このたび日本管区の会計になった。

## 共同体錬成会に35名参加

キリスト共同体錬成会は三月三十日から八日間、福岡黙想の家でひらかれ、指導者をはじめ司祭・修道者・男女信徒三十四名が参加した。浜尾東京補佐司教はこの錬成会の指導のため西下の途中、日航機より号乗っ取り事件にかかって、みんなの前に姿を見せることはできなかった。

## ロザリオ幼稚園新設

### 聖母の騎士会で

本紙一面の修道院めぐりに紹介されているように、佐賀県佐賀郡大和町の聖母の騎士会のシスターたちの手で、ロザリオ幼稚園が新設され、その祝別・落成式が三月三十一日、平田司教によって挙行された。園長はミスチラオ神父、四人のシスターが教育にあたるが、五七八平方メートル（うち一一二平方メートルは修院）の園舎に七十一名の園児が通っている。定員は一五〇名。

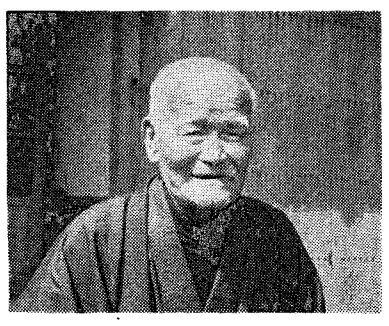
## レジオ・マリエの年次総会

レジオ・マリエの福岡総本部（セナートス）の年次総会（アチエス）が四月十二日午後一時から福岡鯰葉学園で開かれた。各支部から約百名の会員が集って聖母マリアへの忠誠を新たにし、いっそうの奮発心をもって教会内外ではたらくことを誓ったが、平田司教は「福岡教区は日本のレジオの発祥の地であり、多くの会員が熱心にマリアさまの手伝いをしておられるのを見て力強く感じている。イ

## 古老にきく

### 土と信仰に生き抜いた八十余年

### 平田卯太郎さん



平田卯太郎さんは今村教会の最長老。平田三郎司教、平田勇神父の厳父。明治十五年五月生まれ、八十七歳。

「足も弱りましたし耳も遠いし、歯も抜けて、ホントに老いぼれですたい」と微笑を浮かべるが、その顔には土に生き、信仰に支えられてきた力強さを見ることができる。

卯太郎さんが物心ついたときはもう迫害も終わっていたが、長いあいだの潜伏の習慣で、おうっぴらに信者が集まったり、大きな声で祈ったりすることに、何かの遠慮があったそうだ。

卯太郎さんの住む彼坪（かなつぼ）部落は、いまは北野町に属しているが、部落二十七軒のうち一軒をのぞいてみな信者。筑後平野のどまんなかで、米作りと浜水、そしてここの人たちの仕事熱心はあまりにも有名。

「五代目の本田神父様は三十年以上も主任司祭でしたが一となつかしそうに目を細める。「みんなからほんとの親のように慕われとらしたですよ。破れスータン（黒色の司祭服）でも平気。信者が持ってくるものは何でもまっこんでもらってくれました。神父様のよか説教がまだ耳に残っとります」

本田神父は福岡教区が長崎教区から独立したとき、長崎に移った。「そのあとにこられたボネ神父様もまた変わった人でしたな。やかましかったけれども情にはもろいし、けちんぼかと思うと、何でもかんでも信者に振舞ってしまう風でした」。

卯太郎さんはいま長男の清登さん夫婦と、たくさんの孫にかこまれて余生を楽しんでいる。

「司教さまのことがいつも心にかかっています」というその言葉の裏には、司教さまのために自分の余生をささげようという祈りの心がこめられているように思われた。

## 回勅「地上の平和」(4)

### 【福岡カトリック社研報告】

カトリック信者が、まったくキリスト教的信仰をもたない人や、正しい信仰を持たない人たちといっしょに、社会問題を検討したり社会改革を実践する場合に、どんな態度をとったらよいのか。この点についてヨハネ二十三世教皇は回勅「地上の平和」のなかで新しい考え方を明示している。それは「理論」と「運動」とを区別して考えることである。もう少しはっきり言うと、世界観や人生観に関する誤った哲学的諸原理と、経済・社会・文化・政治などの分野で実際に行なわれている諸運動とを区別するということである。

キリスト信者の少ないわが国のことであるから、われわれの信仰的立場と相いれない理論をもって運動を行なっている団体だからといって、ソッポを向いてしまうことはできない。もしそうしたらわれわれは完全に孤立し、職場にとどまれないはめにもなる。「誤謬と、誤謬をおこす人とは区別すべきだ」と教皇はいう。理論は固定し定式化するが、実際に展開していく運動は、周囲の条件のなかで変化してゆく。だから理論が誤っていても、運動のなかには何かよいものを見出すことができるかも知れないのである。

われわれが世界改良の仕事に従事するにあたって推進力となるのは愛である。一般市民と協力して働くときにはとくにこの点に注意しなければなるまい。ゲバラは「憎んで、憎んで、憎みぬくことができぬ人は革命はできない」と言ったという。しかしキリストがめざした"幸いな国"は敵を愛し、友のために生命をすてる程の愛によってのみ樹立されるものである。社会改善についての教会の教えは愛に基づいている。貧しい者、しいたげられた者に対する愛が、社会のひずみ・不正へと目をむけさせ、それを改善する運動へとかりたてるのである。

## 聖パウロ会小神に

福岡市小笹の聖パウロ会小神学校への新入生は九人。うち中一に七人、中二、中三に一人ずつ。同校の神学生は二十一名。

## カトリック放送番組（5月）

心のともしび　テレビFBS　（金午前9時～9時15分 土午前8時20～8時35分）
心のともしび　ラジオRKB RKK　（月～土午前6時40分～45分）

| 日 | 曜 | テーマ | 著者 | 日 | 曜 | テーマ | 著者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | (金) | 国語 | 田中千禾夫 | 14 | (木) | 先生の模範 | 増田常次郎（小市） |
| 2 | (土) | 民主主義の意味 | ハヤット神父 | 15 | (金) | 正直 | 山平徳爾（霜） |
| 4 | (月) | 情報中毒 | 山本健吉 | 16 | (土) | 洗礼 | ハヤット神父 |
| 5 | (火) | 兄弟 | 林謙一 | 18 | (月) | 兄弟 | 石沢秀二 |
| 6 | (水) | 河と駅と坂道 | 遠藤周一 | 19 | (火) | 正直 | 小堀杏奴 |
| 7 | (木) | 私の神経痛 | 川上和子（愛媛県） | 20 | (水) | 人に迷惑をかけて | 曽野綾子 |
| 8 | (金) | ありがとうお母さん | 田中澄江 | 21 | (木) | おバアちゃんの愛情 | 小原節子（高松市） |
| 9 | (土) | 人間の才能 | ハヤット神父 | 22 | (金) | 正直 | 大原富枝 |
| 11 | (月) | 春のよみがえり | 石沢秀二 | 23 | (土) | イエズス様と子供 | ハヤット神父 |
| 12 | (火) | 嫁がせたのちの母親 | 戸川エマ | | | | |
| 13 | (水) | 未熟な母と子 | 曽野綾子 | | | 以下未定 | |


聖母月

五月―
五月―
五月―

一年中で一番美しい月五月は聖母にささげられた月である。陽光に輝く木々のみどり、みどりの葉かげに見えかくれするかわいい花々、自然界も聖マリアをたたえている。

たえまなきアヴェ・マリア　¥三六〇
一日のうちに何回もくりかえす天使祝詞の解説で、わたしたちの祈りの内容をゆたかにする本。

マリアに倣いて　¥三〇〇
キリストによってマリアの子であるわたしたちが母に似るための最良の手引きである。

聖母マリアの栄光　¥四〇〇
聖母のふしぎな力を示す実話が記され、わたしたちに聖母に対する信心と信頼を深めさせるやさしい本。

フレッシュな味を
あけぼの に!!
月毎に、あなたの家に運ばれる「あけぼの」には、沢山の祈りがこめられて、聖母マリアのお恵みが今日もあなたをつつみます。
一年予約　¥六〇〇
半年予約　¥三〇〇



大名町　聖パウロ書院
岩田屋　セントポール・コーナー

# 「よど」号の三日間
## その恐怖と教訓

浜尾文郎



浜尾文郎司教は、文中にある通り、去る二月十七日東京大司教区の補佐司教に任命をうけておられたが、福岡市でのキリスト共団体錬成会に講師として西下の途中、「よど」号に赤軍派によって抑留され、四月三日板付を経て無事羽田に帰られた（編集部）



板付でよど号から降りる乗客
（西日本新聞社提供）

三月三十一日から四月三日までの日航機乗っ取り事件の経過などについては、もうすでにいろいろの情報をご存知と思いますので、ただその間に私が感じたこと、また、いま想い出していることなどあまりまだ頭の中でまとまっていませんが、お話してみたいと思います。

赤軍派がこの「よど」号を乗っ取る行動を開始したときは、私はもちろん、乗客の全員が恐怖におそわれ、声を出すこともできないほどでした。武器でおどろかされベルトで座席に固定され、手は縄でしばられて、福岡板付空港までの僅かな時間に、随分いろいろなことを考えました。

赤軍派の学生が北朝鮮に行くか自爆するか、二つに一つしか道がないと主張するのを聞いたとき、私はここで百数十名の人間が自爆の犠牲となることは、あまりに愚かであり、無駄死であると感じました。一人の犠牲も出さない方法は、北朝鮮に行くしかないと考えましたが、北朝鮮に行った場合の乗客の運命がどうなるかは、全く未知のことで、大きな不安がありさらにカトリックの司祭であるため、他の人より長く、あるいは一生北朝鮮にとどまることになることも覚悟しました。

この二月十七日に、東京大司教の補佐司教の任命を受け、まだ東京の教会のために何ひとつ仕事をしていないことを思うと、東京の大司教はじめ教会のみなさんに本当に申しわけないと思い、また生涯北朝鮮に抑留されても、神のみ国の実現のために生きよう、世界の平和のためにこの犠牲をささげようと、いっしょうけんめい自分に言いきかせたのでした。

ただすぐに気づいたことは、乗客の名簿を見れば私の所在はすぐにわかるし、東京大司教館の方や福岡の方々、とくにキリスト共同体錬成会参加の方々は、すぐに私のことを知り、私のためにお祈りをしてくださるにちがいないということで、教会の共同体の力強さをいまさらのように感じました

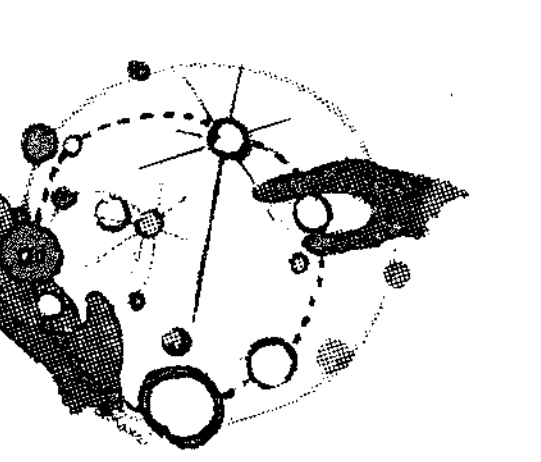
そしてこの確信にくらべ、飛行機の中で、ともに恐れ、心配し、祈る人が果たして何人いるのかと考え、少なくとも私自身、神を知り神とともに他人に仕えるキリスト者として、また司祭として何かなすべきことがあるのではないかと何度も何度も自問自答しました。

今後「よど」号の運命がどう進展して行くのか、大きな不安の中で、いま出来ることは、神に祈る以外にはないと思い、ポケットのロザリオを手にしました。でもその祈り自体が私自身のことで、「北朝鮮へ行きたくない」「こんな中で無駄死にしたくない」という恐怖と不安から、何とか助けていただきたいということだけでしたが、しばらくすると、そんな自分がとてもはずかしく思われ、いままで人々に、キリスト者というものは自分がかかわる他者のために祈る人であると、言いつづけていた私自身が、何という態度だろうかと反省させられました。そこで先に書いたように、この飛行機の中で、塔乗員のため、乗客のため赤軍の青年たちのために祈るのがいま私に与えられた立場であると気づいて、自分に言いきかせる努力をしました。

福岡から北朝鮮に向かって飛び立ったあとで、乗客の中におられたマクドナルド神父さまと五、六分間話をする機会がありました。たがいに告解をし、たがいに「われわれが祈る使命がこの飛行機の中にあるのだ」と確かめあいました。金浦空港に着いてからも、三日に地上におり立つまで、機内の気温が四十度になったり、夜中は零度に下がったり、また赤軍派と外部との交信による結果が、解決の方に向かったり、急変して悪化したり、頭がしっかりしている時には祈り、あるいは仮眠をし、隣りの乗客とか赤軍派の連中と解決策を話し合ったり、何とも言えない不安が続きました。

私たち乗客の一人ひとりの当時の考え方も、みなそれぞれ違っていたでしょうし、たがいに話し合いたい気持を持っていたでしょうが、何しろ百人の者がたがいに話し合うことを赤軍派は極度に恐れそのような機会はとうとう与えられませんでした。また私たちと赤軍派との話し合いも全く実現されず、たまに個人的に話す人もあったという程度でした。いずれにしても、武器を持って脅かしている側と、手をしばられている側とは両方とも対等の立場でなく、人間と人間の話し合いの基礎が全くなかったといえましょう。乗客には暴力で抵抗したり、傷ついたりあるいは発狂状態になって逃亡しようとしたりする人は一人もなく全く強制された服従で、最後まで赤軍派の思う通りになったのは、決して乗客が赤軍派の思想に賛成したり、かれらの人格にほれこんだりしたわけではなく、武器を持っているかれらへの恐怖と無抵抗だったわけです。かれらも武器にたよる以外に、自分の理想を実現できない弱さを持っていたわけでそこには人間間の調和・理解などというものはなかったといえましょう。

人と人とが理解し、信頼するためには、どうしても神の介入が必要と感じます。人を造り、人の心を完全に理解している神の介入なしに、人と人との交わりは不可能と痛切に感じました。（はまお・ふみお）



教　養

カット・金井照子

# 広報の日に

ことしは五月十日主の昇天の主日に、全世界の信徒が教皇さまと心を合わせて、第四回広報の日をむかえる。

広報機関といえば、出版、映画、放送、テレビなど現代生活から切り離しては考えられないほど、いやもしそれがなければ人間活動の全機能が停止してしまうほど重大な役割をもっている。

カトリック教会も広報機関を最大限に活用する。この文明の利器をもって神の栄光と人間の救いに役立たせようとするのである。だからわれわれ信徒も、カトリック広報が盛んになるように積極的に協力し、その利用に意を用いるよう要望されている。

ことしの広報の日は、「世に訴える出版活動の促進」をモットーに、とくにカトリックの出版物の充実と普及に力をそそぐ。

カトリック出版物の発行状況を少し眺めてみると、書籍だけでも年間百冊以上の新刊書が出ているといわれる。これにパンフレット類や雑誌、新聞などを加えると、かなりの数量に上るわれわれがこのたくさんの出版物を前にしてどのような態度を示しているかを反省すべき時である。

カトリックの本はむつかしすぎる、固苦しいなどの先入観をいだいて、読もうともしない。本のタイトルだけを見ているだけではなく、実際に手にとって味わってみよう。レジオや高校生会、婦人会や青年会の集りで本の紹介をし合ったり、感想をのべたり、研究の材料にすることもできる。現代教会の動きを知るためにも、カトリック新聞の購読はぜひ必要である。さらには周囲の人々に自分の読んだ書物や新聞をすすめるほどの熱意をもちたいものである。

## 主の祈り

# 日々のパンを
## きょうもお与え下さい

**日々のパン**

われわれは天の御父に「日々のパン」、生きてゆくのに「必要な」食べものを願う。旧約の格言の書につぎのようなことばがある。

「私は二つのことを、あなたにたのむ…いつわりと、うそとを、私から遠ざけ、私に貧しさも富も与えてくださるな。ただ、私にいるだけのパンをください」（30・7－8）

イエズスも、いたってささやかな願いを御父にするように教えている。

その日その日を生きてゆくのが精一杯という貧しい人たちの願いごとである。それこそ「心の貧しい人」の祈りといえるものである。

神にパンをこん願するだけではいけない。人間は、ひたいに汗して食物をうるために、労働をいとわないという覚悟をきめなければならない。しかも罪によってゆがめられた人間本性に抵抗してゆくには、この決意を日々新たにするだけでなく、いま必要な天の助けも願わなければならない。

人間は決してひとりで生きることはない。だから自分ひとりのためにでなく、「われわれのパン」を願う。われわれはいつもみなと一緒に祈るのだ。

**お与えください**

マタイによると、この祈りの部分では「きょう」が強調されている。物質的な必要を神に願うのだから、明日のことまで思いわずらわずにきょうの分だけを願えばよいという考えであろう。砂漠でマンナを降らせてもらったときもそうであった。主はモイゼにおおせられた、「私は、天からのパンをふらそう。民はでて、毎日、その日の分をあつめるがよい」（出エジプト16・4）。



ところがルカ福音書のほうは見方が違っている。ルカは神の国に身を挺してはたらくものは、衣食住に事欠くこともあると知っている。パウロも飢を経験している（コリント後11・27）。当然のことながら、「まず神の国を探し求めるもの」（ルカ12・31）、そしてそのためにいつ終わるともしれない危険な旅に身をまかせる者は、きょう一日だけでなく、ずっと将来にまで目をむけざるをえない。だからルカは「きょう」よりも「毎日」を強調する。

しかしルカが使徒行録のなかで紹介している信者の多くは、ごく普通の、冒険とは縁のない、兄弟たちのためには持ち物を喜んで与えるような、たとえば、アクイラやプリスカ、フィレモンのような人たちである。

このような信仰の人たちにとっては、きょうのパンを祈り求めるのは、たいして重大なことではない。またりっぱな冷蔵庫をそなえつけ、銀行に相当金額を預けている人が少なくない現代、この祈りを文字どおりに考えるのはあまりに非現実的であろう。しかしそれでもけんそんな心で祈る「神よ、わたしたちに必要なものをお与えください」という祈りが無意味なものになったとはいえない。格言の書の別の箇所にもつぎのようなことばが見られる。「あすのことを誇るな、きょう何が起るかさえ知らないのに」（27・1）。

われわれは、きょうのために祈るか、少し先きのことを考えて祈るか、いずれにせよ、きょうのため神の「特別の」お助けはいらないとしても、日々神からのお助けをうけて、将来の安全をも確保していただかなければならないのである。

×　×

**俳句**

## 天平の鐘

志摩一平

太陽の破片墓域に埋め炭住去る
花は紙片のように空へとけゆく陽の岬
村の終わる水平に夕日を満たしたまま
渇水の空にカッコーワルツの楽
天平の鐘鳴る菜の花音譜の空
鍵でひらく母側にレースの糸流れ

（現代俳句協会会員・海程同人）

◇『夜あけとともに』

神英明著＝良心的に生きようとする若者たちは、現実の生活の中で善・悪の心の戦いに苦脳する。本書は、たえず何かを求めている清純な人たちに、人間の欲求と愛の実践、また現実のあらゆる生活の中に、神の働きがあることを知らせてくれる。教理解説のすぐれた手引き書である。（中央出版社・三八〇円・聖パウロ書院扱い）

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長ルカ　吉川東陽

福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　㊾0568

ダイワハウス
マイホームサークル
DMC

頭金のご用意はいりません

総工費の1/3を1年から10年までの間に積立てていただき、残り2/3は融資します。1回の積立はわずか5、000円から。しかも積立年数に応じて積立金の5～17％を割引きます。なお割賦利息は年4分6毛。保証人はいりません。

資料請求券

DMCのご相談は………………
大和ハウス工業㈱福岡支店
福岡市博多駅東1丁目1番30号
予約販売課　天本
TEL092代表(41)7431番へ

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

# 教区司祭評議会発足

## 教区統治を助ける機関

平田司教は、去る一月着座以来教区の諸活動の組織化の準備をすすめてきたが、その第一段階として司祭評議会を発足させることになり、このほど司祭団のなかから評議員の選出がおこなわれた。司祭評議会の制度は第二バチカン公会議によって設置がきまったもので、教区内の司祭団を代表する諸司祭によって構成され、教区の統治にあたる司教を、助言をもって効果的に助ける機関である。

福岡教区評議員諸師は左のとおり（敬称略）

伊東誠二（総代理）浦口均（書記長）川口康頼（教区会計）平田勇（西新主任）平田正喜（大名主任）青木保（小倉主任）深堀敏（司教館）畠山七郎（茶山主任）有安宗治（小倉助任）バスチ（戸畑主任）デシャンブー（若松主任）ショーツ（吉塚主任）山東龍雄（高宮助任）ブレンチフィールド（熊本地区長）ライル（美野島主任）テンペリーニ（鳥栖主任）なおもう一名は次期佐賀地区長高木善行（大神学院）

## 時事に目ひらく

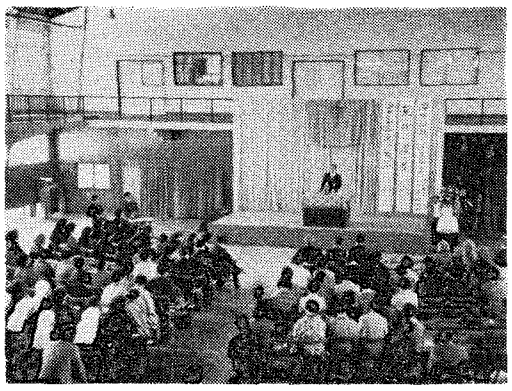
### 三講師招いて講演会

小倉カトリック教会（主任青木保神父）では、時事問題に目をひらき現代社会のなかで信徒としての使命に生き、信仰を宣言してキリストの証人となることをめざして、去る四月二十六日戸畑明治学園で時事講演会を開催した。講師に招かれたのは、福大の今村茂教授と久保寺教授、九大の水波朗教授の三人。講演にさきだち平田司教がミサをささげ、キリストと結ばれた神の民の真の共同体について力説した。講演会ではまず今村教授が、「ソクラテスと現代」と題し、信仰と政治とはまったく次元の異なるものであり、永遠なものをめざす信仰によって政治へのとらわれから解放されるべきだと語った。

久保教授は「現代と学生」と題し、大学制度の根本と、こんにちの学生運動の特色について説明。

最後に水波教授は「安保問題とカトリック」と題し、信者は純粋に宗教的な立場に立って政治を超えることもできるし、自然法の理念に従って政治的判断を下すことでもできると前おきし、安保条約、戦争と平和の問題についてカトリックの考え方をのべた。

（写真は時事講演会）



## パウロ教皇に霊的花束

五月二十九日司祭叙階五十周年をむかえられたパウロ六世教皇へのお祝いとして、平田司教は全教区民に霊的花束の作成協力を求めていたが、五月二十日までにまとまった分を美しい色紙に書いて、教皇のお手許に郵送した。

## 信徒練成会

### 新参加二十三名で

第六回福岡教区男子信徒練成会（クルシリヨ）は五月二日から五日まで、福岡市黙想の家でひらかれた。新参加者二十三名、講師とヴェテン参加者二十一名が連体を返上した真剣なふんいきのなかで、充実した三日間を過した。

なお今秋には初の女子クルシリヨを開催の予定。

## 司祭叙階二十五周年

### 牧山、ポール両神父





牧山藤房師（田川主任）とポール師（福岡御受難会修院）は、このたび司祭叙階二十五周年をむかえたが、五月十二日福岡地区司祭の集会の日、ふたりを囲んで感謝の共同ミサがささげられた。

ヨセフ牧山藤房師＝写真右＝は大正六年生まれ、馬渡島出身、五十三才、ブルトン司教が創立した福岡小神学校の第一回卒業生、昭和十二年哲学科にすすみ、十三年久留米陸軍歩兵隊に入隊、十六年東京公教大神学校に入学、戦争末期の二十年四月十八日福岡で司祭に叙階された。戦後の混乱期に八幡天神町助任、熊本手取助任、福岡小神付、今村助任、崎津、大江主任、大名町助任、久留米助任と席のあたたまるひまもなく司牧の必要に答え、二十七年から十二年間福岡美野島主任、三十九年久留米主任、四十四年八幡八王寺助任、ことし四月末に田川主任に任命された。

ポール師＝写真左＝は米国ネブラスカ州出身、大正八年生まれ、昭和二十年六月三十日司祭叙階、二十八年八月来日、兵庫県塚口助任につづいて大阪府池田主任、昭和四十年から福岡黙想の家付となって今日に至っている。

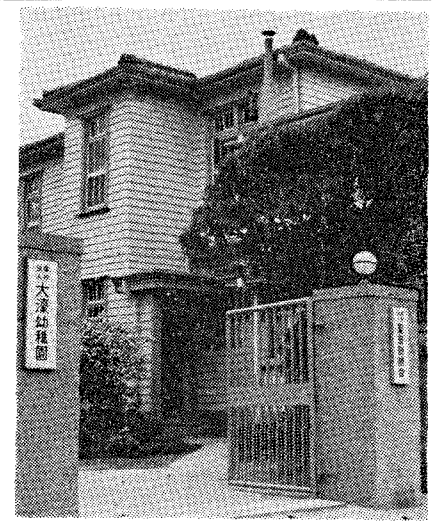
## 修道院めぐり

### 聖母訪問会福岡修道院

福岡市大濠一丁目

保育園と幼稚園を経営している『聖母訪問会福岡修道院』は、福岡市大濠一丁目、大濠電停から、公園の方へ少しばかり歩いたところにある。

この修道院ができたのは終戦後間もなく。向い側にあったもと神学校に、戦災孤児を収容して世話したのがはじまり。いまはこの養護施設は廃止され、戦前からある幼稚園と昭和四十年に開かれた保育園だけ。いまここで働いているシスターは十一人。いずれもノビシア（修練院）で、使徒職に必要な精神と知識を身につけた人たち。保育園ではおムツの洗濯までするが『愛の奉仕と思えば、そういうことも少しも苦にはならない』という。





辻沢院長

『聖母訪問会』の創立者は、パリミッション会の神父で、のちに福岡司教となったブルトン師。ブルトン師は来日後、青森の教会で火事に遭い、三晩も屋外の雪の中で過したため、小児マヒにかかり一時帰郷した。四年後にアメリカを経由して再び来日しようとしたが、カリフォルニアで、日本移民の困窮のさまを目のあたりに見て長崎の『愛苦会』から四人の婦人を呼びよせ、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、サクラメントに、孤児園、幼稚園、日本語学校などを開設した。これが聖母訪問会のはじまりで、それは一九一五年のことだった。マリアの受胎の喜びと感謝にのっとり、世の中の人たちに愛の奉仕をしようというのがこの修道会の精神である。

『私たちの祈りは、語ることではなく愛の行ないで、こどもたちを愛することが、そのまま親たちを信仰に導くことになります』という院長のセシリア辻沢登子さんは京都の生まれ、六十三歳・天草の崎津修道院から、六年前の夏ここに移ってきた。京都人らしく、やさしい、しとやかな雰囲気を持ったシスターだ。

## 6月 イエズスの聖心の月

2日（火）全教区司祭集会

5日（金）イエズスの聖心の祭日

キリストは永遠の神の愛の具体的なあらわれ。よわい者、貧しい者にたいするキリストの愛と神の愛を悟ることができる。『万物を創造された神のうちに永遠からかくされていた神秘』とは、この愛にほかならない。

6日（土）平田司教講演（鳥栖カトリック幼稚園PTA）

7日（日）聖霊降臨後第3主日

悪と戦う人間にとって、絶望は最大の敵である。サタンに負けた人祖にも救主が約束された。福音のために献身したパウロら使徒たちも、復活されたキリストが自分たちと共にいることを確信して『感謝にあふれ』、勇気にあふれて困難にたちむかった。

黒崎教会で堅信

13日（土）九州地区カトリック学校長会議（福岡黙想の家で、14日午後まで）

14日（日）聖霊降臨後第4主日

『私は生きようと死のうと、神に喜ばれることを願っている』。これこそ神を信じているものの本当の告白であろう。神のせっりと全能の力、その愛に自分のすべてをまったく托せる心境である。

美野島教会で堅信

21日（日）聖霊降臨後第5主日

波をおさめ、海をしずめるのは、全能の神のみわざである。聖書のなかで、水と海は悪の力のシンボルとなっている。キリストは嵐の湖をしずめて、なぎとされた。

それは私のうちにある悪の力の征服であり、パウロはそのことをこう教えている。『神はキリストによって、わたしたちをご自分と和睦させた』（第二朗読）。

多久教会で堅信

24日（水）洗者聖ヨハネ誕生の祭日

28日（日）聖霊降臨後第6主日

『キリストは嘗んでおられたのに、自ら貧しいものになられた』。このキリストにならって、教会のわれわれもすべての人が人間らしい生活をおくれるよう働く。『貧困とのたたかいは……すべての人が種族、宗教、国籍の別なく十分に人間らしい生活を送れるような世界、そして他人や自然によって負わされている隷属状態から解放された世界を建設することを目標とすべきである』と現教皇は教えている。

浄水通教会で司教ミサ

29日（月）聖ペトロとパウロ両使徒の祭日

平田司教ご霊名のお祝い

全教区司祭集会

30日（火）パウロ六世教皇戴冠記念日

### 聖体礼拝

第一日曜　馬渡島教会
第二日曜　戸畑教会
第三日曜　人吉教会
第四日曜　美野島教会
　　戸畑ノードルダム修院

### 祈禱の使徒会

【一般意向】青年たちが正しい要望を、自分と社会の善にかなった方法と手段を用いて追及するように。

【布教意向】布教地の援助のため献身しているすべての宣教会が発展するように。

☆会社の姿勢☆
得意先へ信用と誠実
社長自ら先頭に立つ
適正な利潤追求
サービスの徹底
よい製品を顧客の立場で
信用のためなら辞退もせよ
1日の終りに満足感を覚えよう

事務機械・事務用スチール製品
事務用品の総合センター
有限会社 シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
TEL（092）52-5327

☆社員募集☆
営業課　19才～29才　男女
商品課　19才～25才　男
経理課　19才～27才　女
固定給
（例）19才（男）24,000円
19才（女）23,000円
（交通費　4,5000円まで支給，その他諸手当）
勤務時間
平日　8：50～17：30
土曜　8：50～15：30
（日曜、祭日は休み）

# 教会は社会にどう立ち向うか

## 課題は信者とその把握



米国生まれの反戦運動は、カンボジアと反殺で一気に燃えあがった。写真はワシントンのデモ。

**第二バチカン公会議以後、カトリックのなかには『社会に働きかけよ』という声が高まってきたが、いっぽう教会の外側には『カトリックは社会に何をしているか』という詰問の声がある。こん回はそういう教会と社会の問題に光を当て内と外との考えの違い、こんごの教会の姿勢などについて考えてみたい。**

## 教会の消極性

去る5月17日、福岡市大名町教会のレジオ会員が、久留米市の養護施設『天使園』を訪問した。男女あわせて10人。ほとんどが未信者との接触、公教要理の仕事を終えてきた人たち。

女子は紙芝居でこどもたちを慰め、男子は夏めいてきた陽射しの中で、園庭の草刈りに汗をながした。代表者のNさんは『来てよかった。信徒使徒職として、こんごも施設訪問に力を入れたい』といっていたが、最近はどこの教会でも、信徒使徒職の活動がさかんになってきた。

それはそれでいいことだが、しかしこの人たちの目、行動は教会の内がわだけに止まり、どうして教会の外がわにある社会に向かわないのだろう。

教会の中に『社会に働きかけよう』という声のあることはたしかだが、それはかけ声だけで、教会も信者も、具体的には何もしていないというのが実情。そういう教会の姿勢を、ある人は『これまでの迫害から生まれた消極性』といい、ある人は『教会の形式主義に根ざすもの』というが、もと新聞社でデスクをしていたKさんは、

『教会が社会に対して消極的だというのは、社会意識がないからではないか』と疑問を投げかける。

『カトリックの人たちは、ただ祈っているだけで、社会で何が起こり、どういうことで人間が苦しんでいるか、それに対してどうすればよいかということを知らないのだ』カトリックともあろうものがそれでよいのかといいたそうな口ぶりだ。

『いままでのカトリックは、社会から遊離し、共同体である人間社会に対して、ほんとうのかかわりを持たなかった』とF神父はいう。ではこんご、カトリックはどう社会に立ち向えばよいのか。F神父は

『一般社会が持たないものを与えるのが、カトリックの奉仕ではあるまいか。それは物質、政治に限らず、人間として求め、渇望しているものを、カトリックが指示するという形になろう』という。

## 教会の外の声

カトリックが社会に働きかけようとするとき、何よりも必要なことは、社会で何が起こっており、社会（カトリックの外がわ）の人たちが、それに対して何を考え、何をしようとしているかということはあるまいか。

私たちが教会でミサにあずかっている間にも、社会では何かが起こり、何かが起こりかけているはずだが、教会の中から外を見ても、私たちはそれを知ることはできない。またぶらぶらと街を歩いてみても、何かが起こっていると思われることは何もない。喫茶店では若い男女が向いあってコーヒーをすすっており、パチンコ屋にはサラリーマンがあふれている。まことに平和そのものだが、日華事変の始まる前、昭和十年前後にも、こういうふん気があったということは、知っておいた方がよいだろう。

『いま、アメリカのベトナム、カンボジアでの戦争行為を中心に、大きな不安が世界を覆い、どこの国でも、さまざまな問題が人間を苦しめ、またその影響を受けた政治のひずみは、社会に多くの悪を生みつけている。

それは日本も例外ではなく、こういう状況の中では、私たちは何により処を求め、何を目標に生きてよいのかわからない。その答は大学の先生からも得られないし、経営学のいう『生き甲斐』などで解決できるものではない。だからいまの私たちは、自分を問いつめ過失と誤りをくり返しながら生きていくよりほかに方法がない』というのは、もと旧制高等学校の教授で、いまは市民運動に参加しているH先生、七十歳。

そういう意味では、現代はさまよえる時代、『歴史の過程でみられなかった広範な問いが、いま人間に向けられている』とH先生はいう。

また九大理学部の学生M君は、

## 戦争と人間疎外と

そういう外がわの声に対して、カトリックがわの反応はどうか。

『H先生の意見には同感。私たちが暖かに眠っているとき、ベトナム、カンボジア、さらに沖縄では平和を乱され、多くの人が餓えている。私たちはそのことを自分の生活に結びつけて反省し、社会にも働きかけねばならない』と九州大学大学院のSさんはいう。

カトリックの中に『社会問題研究所（社研）』というものがある。その中央委員をつとめ、九州法学部長で、福岡支部の指導者でもあるM先生によると、『社研は、教会の共同体であり、社会集団の一員である人間の生き方を考えるもの』だというが、Sさんはその社研のメンバーの一人で、若い女性、またM先生はこういっている。

『ベトナム戦争はきたない戦争だ。パウロ六世もそれははっきり言っている。だが日本が協力しないと戦争が終るかというとそうではない。もちろん人道主義的な立ち場から、協力には反対しなければならないが、戦争と人間のつながり、人間の欲望、弱さ――自分の欲求のために、他を犠牲にしてはばからない人間の在り方を問題にし、カトリックの立ち場から、その答を探さねばならない』

大名町教会の信者で、レジオの会員であるAさんはいう。

『いっぽうには機械文明による人間の疎外がある。そこから社会悪が生まれ、人間の悲惨がはじまることとはよくわかる。いままで、カトリックがそういうことに目をそそがず、何もしなかったのは残念なことだ。』

『現代は機械が人間を支配する時代だ。人間は機械にはめこまれるだけでなく、人間自身が機械として扱われている。私たちは、いま人間が人間として生きるにはどうすればよいかを真剣に考え、そのために行動しなければならないのではないか』というが、おなじようなことを、ベ平連の小田実（まこと）は、『人間のなかの歴史』につぎのように書いている。

『学生たちが騒ぎ、若い労働者がストライキをし、〝市民〟がデモをし坐り込みをするのも、意識的であれ無意識的であれ、〝機械〟から自分を切り離し、それによって〝人間〟である自分を確立する努力のあらわれであるにちがいない』

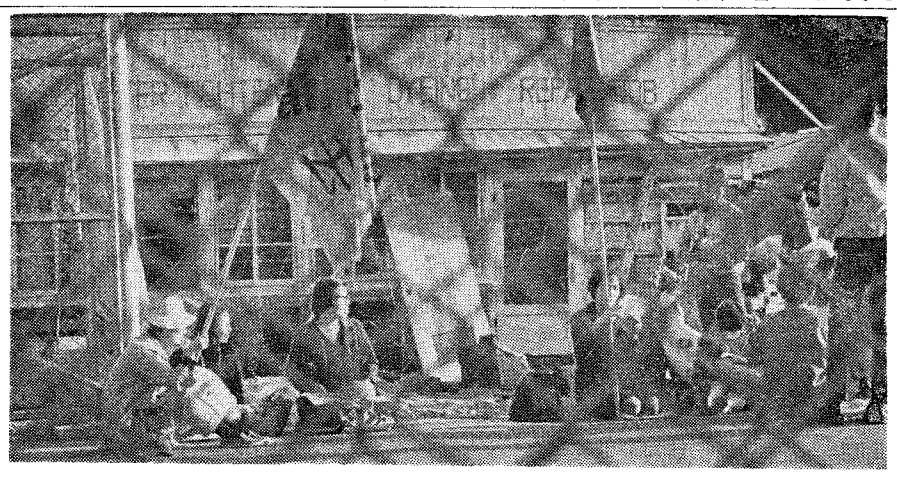
『カトリックは、慈善事業と教育事業のほかに何をしたか』とは、教会の外がわでよく聞くことである。それは社会に対して何もしなかったカトリックへの、その人たちなりの皮肉かも知れない。ある新聞社の婦人記者Nさんは、

『カトリックがベトナム戦争に何かする、あるいは世界平和に貢献するということは、少しばかりおかしいのではないか。カトリックにあるのは祈りで、カトリックでは祈りさえすれば、すべてのことが解決されるのではないか』というが、これは、いままでのカトリックの在り方に対する痛烈な皮肉である。

『こんな皮肉を聞くと、悟りすましたような顔をしている信者が目に浮かんでくるし、ミサが終るとともに、ぞろぞろと帰っていく人たちの姿がちらつく。バチカン改革というものが、この人たちのどこで理解されているか、あるいはどこから浸透していくのかと思うと、気が遠くなるような絶望感を覚える。このぼう大な信者と、制度の中にどっぷりとつかりこんだ教会が、バチカン公会議の精神を理解し、社会に立ち向うという日が果してやってくるだろうか』と、額にシワを寄せて語るのは信者のBさんだ。

## 制度の中につかっている教会

## キリストの救いを念頭に



基地撤去に坐りこんだ婦人たち。（私たちは社会のできごとの意味をよく考えなければならない）

『教会よお前もか』と、週刊朝日の記者に書かせた、京都・丸田町教会（プロテスタント）の造反があったのは昨年の八月十日。

主宰者のA君（京大生）は、そのときつぎのように語っている。

『この矛盾した世の中で、ぼくたちはどうしたら罪をおかさずに生きていけるのか、その答えを教会に求めてきました。ところが教会は伝統の中で、形式化し、安易に福便にコトをすまそうとしてちっともこっちの問いかけに本気で答えてくれない。

信仰というのは、神と自己との直接のかかわりを通しての、ピリピリした緊張関係であるべきですから、形式化した〝制度〟としての礼拝をすて、真の礼拝の意味を考えよう、と始めたんです』

また青年会のB君（同志社大生）は、

『信仰には、二つの面があります。一つは、神の前で悔い改めることによって魂の救いを求める、という〝内面信仰〟もう一つはそれをふまえた上で現実社会とどうかかわってゆくか、という〝実践的信仰〟。イエスはその教えを必ず身をもって実践しました。ところが、うちの××牧師の説教は、いつも〝内面的信仰〟を強調するばかり。こんなことなかれ主義では、マアマアといっているうちに戦争に協力していた戦前の教会と全く変りありませんよ』といっている。

大学騒動を発端にした、古いものをゆさぶる造反のパターンだといえばそれまでだが、ここにあるのは、カトリックにもそのまま通じる問題。そして、

『カトリックはいままで量的なことがらだけに重きをおきすぎ、共同体である社会に関心を示さなかった。これはキリストの福音から考えるとおかしいことだ。キリストは〝人間を救うためにきた〟といっている。私たちはその救いを念頭に、人間に救いを与えるのが当然の義務ではないか』というF神父の意見と、本質的にどれほどの違いがあるであろうか。

週刊朝日の記者は、丸太町教会のこの状態を『造反に揺れはじめたキリスト教というところ…』と書いているが、むしろ同志社大学神学部土肥昭夫教授の、

『キリスト教は近代社会が成立すると同時に、それに組みこまれてしまった。制度になってしまったものは、浮世のギリにしばられてことなかれ主義におちこみやすい。社会が動揺して危機意識がたかまっていないまま、教会に対して、マジメな信者たちから疑問が出るのは当然じゃないですか』という意見の方が、問題の中心に触れているようだ。

時代は目まぐるしく移り変っていく。カトリックといえども、時代の流れに目をそそぎ、社会の動きを見きわめなければ、生きた宗教として現代社会とともにあることはできない。

カトリックの中に、丸太町教会のA君やB君のような意見を口にする者がいなかったということはそのまま、カトリックの制度化がいかに根づよいかということであり、いっぽうでは、カトリックがいかに生きた社会から自をそらしていたかということではないのか。

公会議解説叢書『現代世界憲章解説』は、その序論で『現代世界憲章――によって教会は従来の態度を捨て、現代の技術文明社会に立ち向ったのである』といっている。だが、いまの日本の教会ではそれは『現代世界憲章解説』にそう書いてあるだけ。現代社会に立ち向うということは、まだ始まってもいないのだ。

こんご、カトリックがいかに現代社会に立ち向うか、その課題は社会をどう把握（はあく）するかということと、ミサが終ると、後ろもふり向かずに帰っていく信者たちをどう動かすかということ。そのためには、司祭にも信者にも強い反省と決意が要求されるであろう。


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電㊷4015

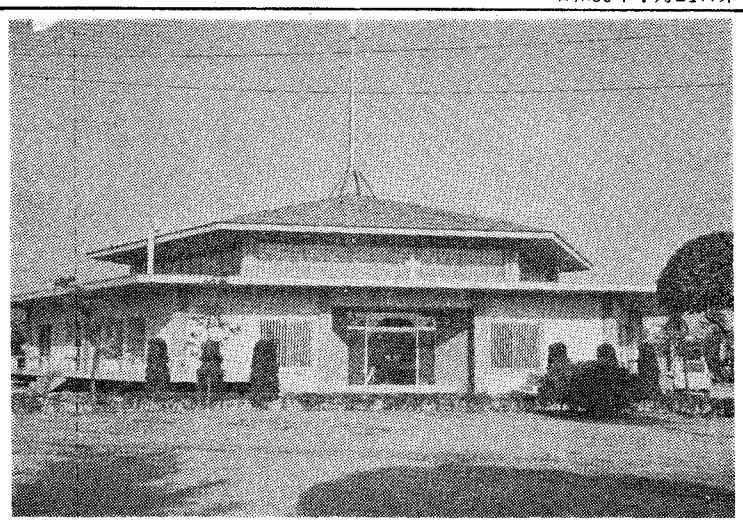
麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 小雨をついて五百人が参加

## 熊本市健軍教会祝別式



熊本市健軍町、聖コロンバン教会（主任山田成章神父）は、五月五日新聖堂の祝別式を行なった。この聖堂は昨年十二月に着工してこの四月末竣工したもので、床面積五七二平方メートル、中央の十字架頂点までの高さは一九メートルで、赤色の屋根、グレーの壁、六角形の珍らしい建物、祭壇と信者席をかこんで周囲に小聖堂、香部室、集会室、聖歌隊室、炊事場などがある。設計は福岡の菅民、施工には松尾建設があたった。

祝別式は午後一時から、折りからの小雨をついて、司祭、修道者信者など五百人が参列、当教会の主任であった大分の平山司教も加わって、平田三郎司教司式のもとに厳粛にとり行なわれたが、平田司教の『教会の使命は、福音宣教と神への賛美にある。人種、階級の差別なく、キリストの弟子をふやすよう決心して、きょうのお祝いを心にとどめたい』という説教は、聖堂竣工の喜びに満ちた人に大きな感銘を与えた。この式典には寺本熊本市長や石坂県知事夫人も姿を見せた。教会の創立は昭和二十七年。現在の信者数は約四百人。

（写真は完成した健軍教会）

# 信徒と意見を交換

## 北九州で平田司教歓迎会

五月十日、主の昇天の祭日に、北九州地区全教会主催による平田司教歓迎会が、戸畑明治学園でおこなわれ約千人の信徒らが参加した。十時から司教を中心に共同ミサがささげられたが、司教は説教のなかで、福岡教区の司祭、修道者の召命の減少にふれ、神の民全体が召命を育てる責任をもつことを強調した。

ミサのあと地区長バスチ神父と信徒代表福嶋順三氏が、教区のかしらに従順と愛をもつことばをのべた。各小教区の代表者を交えての午さん会につづいて二時間半にわたり、司教と信徒のあいだでざっくばらんなこん談がもたれたが教区の財源、幼稚園の経営や布教利用、納骨堂建立、キリスト教の土着化の問題のほか、地区の信徒使徒職協議会結成の準備などについても意見を交換した。



# 熊日賞うける

## 木村リョウ校長

熊本信愛女学院（熊本市上林町）校長木村リョウ修女（幼きイエズス修道会）は、女子教育の振興に尽くした功績によって、このたび熊日社会賞を授与された。

シスター木村は、明治四十一年和歌山県の生まれ、昭和六年、和洋女子専門学校を卒業し、和歌山大阪、長崎、兵庫で教職につき、終戦直後の二十二年、熊本信愛女学院に教頭として赴任、二十五年校長、理事となり今日に至っている。昨年、四十年間教育ひと筋に生きたということで藍綬褒章をうけた。

# 沖縄援助献金

| | |
|---|---|
| 大名町 | 一〇、〇〇〇円 |
| 浄水通 | 四、〇〇〇 |
| 地行 | 四、九〇〇 |
| 光ケ丘 | 一三、〇一〇 |
| 西新 | 五、六〇四 |
| 美野島 | 二、六五五 |
| 高宮 | 三、〇〇〇 |
| 茶山 | 四、二九〇 |
| 箱崎 | 二、三〇一 |
| 大楠 | 一、一一五 |
| 二日市 | 三、〇〇一 |
| 久留米 | 一三、七四〇 |
| 吉野 | 五、二三〇 |
| 今村 | 二七、〇〇〇 |
| 本郷 | 二〇、六〇五 |
| 小郡 | 六、三一〇 |
| 馬渡島 | 五、〇〇〇 |
| 佐賀 | 二〇、〇〇〇 |
| 唐津 | 二、六〇〇 |
| 門司港 | 一〇、〇〇〇 |
| 門司 | 三三、五〇〇 |
| 小倉 | 一八、二八五 |
| 湯川 | 六、八六〇 |
| 若松 | 一〇、〇〇〇 |
| 黒崎 | 一〇、〇〇〇 |
| 八王寺 | 五、〇〇〇 |
| 本城 | 三、七〇〇 |
| 水巻 | 一〇、〇〇〇 |
| 直方 | 五、〇〇〇 |
| 田川 | 三、四一一 |
| 行橋 | 七八、九七七 |
| 新田原 | 三〇、〇〇〇 |
| 本渡 | 五、〇〇〇 |
| 健軍 | 二、五〇〇 |
| 水俣 | 二、一〇〇 |
| 崎津 | 一、〇〇〇 |
| 島崎 | 一三、八〇〇 |
| 明光学園 | 一八、二九六 |
| 雙葉学園 | 三〇、七六七 |
| 熊本信愛女学院 | 一一三、九〇〇 |
| 久留米〃 | 一一九、六九三 |
| 今村聖母園 | 三、五〇〇 |
| 新田原病院 | 七、〇〇〇 |
| 馬渡聖母園 | 五、〇〇〇 |
| 熊本天使園 | 一、二〇〇 |
| 菊地ヨゼフ修院 | 一、〇〇〇 |
| ピエ・ディセポレ〃 | 一、〇〇〇 |
| 聖パウロ〃 | 二、〇〇〇 |
| 聖母訪問〃 | 五、〇〇〇 |
| カルメル〃 | 五、〇〇〇 |
| 援助〃 | 二、八〇四 |
| トラピスチヌ〃 | 二、〇〇〇 |
| 八代パウロ〃 | 二〇、〇〇〇 |
| 島崎聖母会 | 一八、七六一 |
| 琵琶崎修院 | 三〇、〇六一 |
| 人吉修院 | 一〇、〇〇〇 |
| 合計 | 八二〇、四六六 |

## 熊本合同運動会

熊本市内四教会と菊池教会の合同運動会は、五月十七日、聖霊降臨の祭日に、少年の町グラウンドでおこなわれた。これは教会という家族の誕生を祝うこの日に信者間に家族的ふんいきをふかめるために毎年計画されているもので、九時半からの野外ミサ、国旗掲揚につづいて十五種目のプログラムが展開、肥後人特有の声とりくなかで、ひときわ他を圧した島崎教会が優勝した。

# 殉教碑前で祈り

寛永十二年十二月に熊本城外の禅定院で処刑された小笠原玄也ら十五名を顕彰する花岡山の「小笠原マリア殉教記念碑」の前で、四月五日午後三時から熊本市内信者による祈祷会がおこなわれた。この記念碑は三十六年前、当時の手取教会の主任マルタン神父らの尽力で建立されたもの。

# 祈りとロザリオの三十年

## 熊本の高木慶一さん



古老にきく

『召命を受ける人が減ったのは家庭教育の不備が原因。カトリックの信仰は、こどもの時から教えこまなければダメです』

熊本市島崎、聖テレジア教会の高木慶一さん。浦上キリシタンの中心人物だった高木仙右衛門の孫で、ことし六十九歳。『祖父の話は父からよく聞かされたが、それは本に書いてあるとおりです』とうちの四男の善行さんは、福岡サンスルピス大神学校の校長。また長女の幸子さんから五番めの貞子さんまで、そろって修道院のシスター。聖心女子大学に在学中の孝子さんもシスター志望で、文字どおりのカトリック一家。『これも祈りのおかげです』というが、慶一さんの家では、朝夕の祈りとロザリオを、この三十年間一日も欠かしたことがないそうだ。

住まいのすぐ近くにある石山は慶一さんの所有。この山の石は、京都から彫刻家がわざわざ買いにくるほどの上質、浦上天主堂のご像もこの山の石で刻んだものだという。慶一さんには、門司の守山寛一さんのような、渺々とした感じはないが、濃い眉、切れの長い太き目には、実業の場で鍛えぬいた人の、激しい気迫がみなぎっている。

慶一さんが熊本にきたのは五歳のとき。はじめ修道院でミサにあずかったがその後手取教会、島崎教会と移ってきた。十二人の子持ちで、そのうち四男の善行さんは、福岡サンスルピス大神学校の校長。また長女の幸子さんから五番めの貞子さんまで、そろって修道院のシスター。聖心女子大学に在学中の孝子さんもシスター志望で、文字どおりのカトリック一家。『これも祈りのおかげです』というが、慶一さんの家では、朝夕の祈りとロザリオを、この三十年間一日も欠かしたことがないそうだ。

住まいのすぐ近くにある石山は慶一さんの所有。この山の石は、京都から彫刻家がわざわざ買いにくるほどの上質、浦上天主堂のご像もこの山の石で刻んだものだという。慶一さんには、門司の守山寛一さんのような、渺々とした感じはないが、濃い眉、切れの長い太き目には、実業の場で鍛えぬいた人の、激しい気迫がみなぎっている。

高木仙右衛門は、一八六七年（慶応三年）、浦上本郷原の茂吉の葬儀に端を発した、いわゆる浦上四番崩れで投獄されて拷問を受け、さらに明治政府のキリシタン弾圧では、守山甚三郎とともに津和野に流され、悲惨な拷問に耐えて最後まで信仰を守りとおした人。

慶一さんが熊本にきたのは五歳のとき。はじめ修道院でミサにあずかったがその後手取教会、島崎教会と移ってきた。十二人の子持ちで、そのうち四男の善行さんは、福岡サンスルピス大神学校の校長。また長女の幸子さんから五番めの貞子さんまで、そろって修道院のシスター。聖心女子大学に在学中の孝子さんもシスター志望で、文字どおりのカトリック一家。『これも祈りのおかげです』というが、慶一さんの家では、朝夕の祈りとロザリオを、この三十年間一日も欠かしたことがないそうだ。

住まいのすぐ近くにある石山は慶一さんの所有。この山の石は、京都から彫刻家がわざわざ買いにくるほどの上質、浦上天主堂のご像もこの山の石で刻んだものだという。慶一さんには、門司の守山寛一さんのような、渺々とした感じはないが、濃い眉、切れの長い太き目には、実業の場で鍛えぬいた人の、激しい気迫がみなぎっている。

高木仙右衛門は、一八六七年（慶応三年）、浦上本郷原の茂吉の葬儀に端を発した、いわゆる浦上四番崩れで投獄されて拷問を受け、さらに明治政府のキリシタン弾圧では、守山甚三郎とともに津和野に流され、悲惨な拷問に耐えて最後まで信仰を守りとおした人。

慶一さんが熊本にきたのは五歳のとき。はじめ修道院でミサにあずかったがその後手取教会、島崎教会と移ってきた。十二人の子持ちで、そのうち四男の善行さんは、福岡サンスルピス大神学校の校長。また長女の幸子さんから五番めの貞子さんまで、そろって修道院のシスター。聖心女子大学に在学中の孝子さんもシスター志望で、文字どおりのカトリック一家。『これも祈りのおかげです』というが、慶一さんの家では、朝夕の祈りとロザリオを、この三十年間一日も欠かしたことがないそうだ。

住まいのすぐ近くにある石山は慶一さんの所有。この山の石は、京都から彫刻家がわざわざ買いにくるほどの上質、浦上天主堂のご像もこの山の石で刻んだものだという。慶一さんには、門司の守山寛一さんのような、渺々とした感じはないが、濃い眉、切れの長い太き目には、実業の場で鍛えぬいた人の、激しい気迫がみなぎっている。

# カトリック放送番組（6月）

心のともしび　テレビFBS　（金曜午前9時―9時15分　土曜午前8時20分―8時35分）

6月5日、6日　ゲスト　塚本神父　聞き手田中澄江、河内桃子
6月12日、13日　ゲスト　佐多稲子

心のともしび　ラジオ　RKB　（月～土午前6時40分―45分）　RKK　（月～土午前10時10分―15分）

| 日 | 曜 | 著者 | テーマ | 日 | 曜 | 著者 | テーマ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | (月) | 曽野　綾子 | 白い金魚 | 9 | (火) | 遠藤　周作 | すみませんが |
| 2 | (火) | 矢代　静一 | 正直はよいかと | 10 | (水) | 浜尾　実 | 尋ねあえる仲 |
| 3 | (水) | 林　謙一 | 正直 | 11 | (木) | 松原幸子（北海道） | 私の老父 |
| 4 | (木) | 里見　文子（新潟市） | 感心なお婆さん | 12 | (金) | 小堀　杏奴 | 嫁と姑 |
| 5 | (金) | 霜山　徳爾 | 嫁と姑 | 13 | (土) | 徳川　神父 | ナマ放送 |
| 6 | (土) | 徳川　神父 | ナマ放送 | 15 | (月) | 相良　惟一 | 嫁と姑 |
| 8 | (月) | 田中千禾夫 | 日本人の微笑 | 16 | (火) | 田中　澄江 | 蛇 |

# 福音的見方とは

## 〔福岡カトリック社研報告〕

さきほど東京でカトリック社会問題研究所の全国委員会がひらかれた。集まった約三十名の委員はそれぞれの専門領域から社会問題を研究するかたわら、各地で研究会を組織、指導して社会における教会の役割に積極的な責任を感じている人たち。福岡カトリック社研もそのひとり水波教授に指導されている。ここでは社会の情勢や社会内の諸問題を専門的に観察するばかりでなく、教会の社会理論を研究して、この社会に福音の光をあてようとしている。

今回の全国委員の会合では、まず会員が長期的なプランと視野に立って一つの問題を追及し、委員たちが各々の専門分野からそれを研究してゆき、その成果を何らかの形で公表してゆくことがきまった。ところがこれからは何を問題としてとり上げ研究すべきかについてふかく考える段階で、全委員の間につよい反省がなされた。

その反省とは、これまでの研究では、ともすると単なる健全常識とか一般的な見方に終わってしまい、現在の社会問題、時事問題に照らされ、日常生活をみちびく福音の光を全身に浴びているだろうかたいして、カトリック的な見解をはっきり出すとか、何を社会問題として追及すべきかなどが、おろそかにされていたのではないかというのである。NHK解説室顧問東大教授、東京家裁判事などという、日本の社会の第一線で活躍している人たちが大部分を占めたこの会合で、「福音的見方の欠除」が真剣に討議されたことはいまの日本の教会の姿を象徴しているように思われる。

教会は今世紀に入ってからまたとくに公会議の前後から活発に社会問題にたいする考え方、立場を示してきた。ヨハネ二十三世教皇は、キリスト教的社会理論はキリスト教的人生観の一部であると強調し、パウロ六世教皇は、教会と社会の対話を種々の形で推進し、第二バチカン公会議は現代社会における教会の態度を明らかにした。これらの社会的教えを日常の生活の中に実現させるのは、われわれ信徒のつとめである。

今回の全国委員会が痛く反省したのは、社会問題について献身的に、専門的にはたらこうとしているものが、まず「教会の教え」に照らされ、日常生活をみちびく福音の光を全身に浴びているだろうかということであった。

# おすすめのことば

海は広い　しかし空はもっと広い
いや　空よりも広いものがこの世にある　それは人の心だ
―ビクトル、ユーゴー―

この言葉は，旅するものを心から慰める観があり，いつしか忘れえぬ言葉となった。ドイツの小さな村，オーベルアンメルガウで，10年に1度の村民をあげての受難劇が行われるという。その生きた信仰の再現の後に聖地巡礼ができる。この旅はどんなにすばらしいものであろうか。

信仰するものとして生涯に一度は，聖地をおとずれたいと誰しも思う。きっとそれは想像した美しさというよりはむしろ現実の信仰のきびしさが，教えられるのではないだろうか。

ローマ，アシジ，ルルドとはばたく旅人の心は，海，空よりも広く深い信仰の偉大さを，実感されることだろう。

自分のためだけではなく，隣人の共有の宝として，この旅行に参加されんことを。

カトリック広報室長　武島　一鶴


☆10年に1度
オーベルアンメルガウ
で開催される
受難劇観賞と
聖地巡礼の旅
（Aコース）7月31日～8月20日
（21日間）　523,000円

☆毎年恒例
第3回ローマ・ルルド訪問の旅
（Bコース）10月13日～10月24日
（12日間）　320,000円

主催
カトリック中央協議会広報室
日本航空
近畿日本ツーリスト
（※詳細は下記の所へご連絡下いませ。）

＜お問合わせ及び申込み先＞
福岡市天神1―11―17（福岡ビル1階）
近畿日本ツーリスト㈱九州航空営業所
担当：いけがや，いつつじ　TEL 092（77）0886

## 天草キリシタン400年祭

# パウロ教皇からも祝電

## 多彩なプログラム展開

本渡市に福音の教えが種まかれて四百年、これを記念する式典が五月二十三、二十四日の両日、盛大に挙行された。

第一日は午後三時から本渡市民会館で歓迎会。ジャディ駐日イタリア大使、フェライオーリ駐日バチカン大使代理はじめ、ポルトガル、スペインの大使代理、アイルランド名誉領事のほか、タバレス（マカオ）司教、カリネン（メルボルン）司教、平山司教、深堀司教、それに横山市長ら地元各界代表らが出席。開会宣言、来賓紹介のあと、各国からのメッセージ朗読、各国国旗の掲揚があり、平田司教がパウロ六世教皇からの祝電を披ろうした。

広島エリザベト音大の合唱団が殉教者をたたえて『しきしまの』をうたい、また地元婦人会やコーラスグループ『杉の子コール』の郷土民謡や踊りがあった。夜八時から行なわれる予定であったローソク行列は、雨のためとり止めになったが、熊本や福岡、東京から集った多数の巡礼者らで、本渡の街はカトリック的ふんいきに包まれた。

第二日は、殉教の丘の天草切支丹館前広場で予定されていたミサも、天候不順のため会場を変更、市民会館で十一時から平田司教司式で約三十名の司教、司祭がそうごん共同ミサを行ない。平田司教は『いまから四百年前、戦争にあけくれ、よわい人達の人権が無視されていた時代に、はじめて愛と平和、人間尊重の教えが宣教師によってもたらされた。対立と断絶の時代である現代にこの教えを一層つよく生かすことこそわれわれの努である。』と説教。最後に教皇祝福が与えられてミサをおえたが、午後二時からは記念音楽会がひらかれ、東洋舞踊やエリザベト音大生の合唱や器楽演奏のほか、坂本スミ子ショウやカーニバル市中パレードなど、多彩な祝典プログラムがつづいた。（写真は四百年祭そうごん共同ミサ）＝第一列左からフェライオーリ師、カリネン、タバレス、平田、平山、深堀の各司教）



## 〔四百年祭メッセージ〕

### 信仰の模範を称賛

### ポルトガル司教団

ポルトガル司教団は、天草キリシタン四百年祭にお招き下さった平田三郎司教様にふかい感謝の意を表します。

ポルトガル人アルバレスがはじめて日本に着いたのは、一五四三年のことでした。それにつづいて聖フランシスコ・ザビエルがパウロという霊名で洗礼をさずけた安次郎をともない、一五四九年八月十五日鹿児島に、福音の教えをたずさえて上陸いたしました。

フランシスコ・カブラル神父は一五七〇年六月十八日天草志岐にまいり、宣教活動を開始しましたが、かれとともに働いたトレス・フェルナンデス、ビレラ、ガゴ、ヌネス、その他多くの宣教師、日本人修道者らの努力によって、天草の改宗は急速に増加し、一万二千人にも達したといわれます。これら天草の宣教師のなかにあの有名なルイス・デ・アルメイダがおりますが、アルメイダは西洋医学を日本に紹介するとともに、大分に社会事業をおこして貧しい人々のために働いたあと、イエズス会修道者、そして司祭として福音のたねをこの天草の地にまでもたらしました。

日本での福音宣教の成功はヨーロッパにまで伝わり、日本ゆきを望む人々の数が大いに増加しました。一五八二年九州の大名が少年使節をローマに派遣しましたが、このこともまた、日本への関心を高める原因になりました。

日本・ポルトガル両国間の文化面での交流については、すでによく知られている通りです。当時の科学発見の恩恵が、信仰の恵みとともに宣教師によって日本にもたらされましたが、他方、日本の方からもヨーロッパにすばらしい影響が及んでいたのであります。それは長い迫害にもめげず、日本人信徒が確固たる信仰を保ちつづけているということでありました。

ポルトガル人宣教師らもこの迫害のあいだに、たくさん殉教しました。たとえばフランシスコ・パチェコ、カルバロ、アカドらがそれですが、数十人におよぶ日本人男女信徒が、長崎を中心として、神のため生命を惜しみなくささげました。

これら殉教者の模範に加えて、日本の最初の司教に任命されたマルチンスとセルケイラも、わたしたちと同じポルトガル人だったのです。このようなわけで、ポルトガル司教団と日本のみなさまとは特別ふかい関係があると考えますこの度、天草キリシタン四百年祭が盛大に挙行される機会に、マカオのクラベス司教に託して、リスボンの枢機卿とポルトガル司教団はみなさまにお祝いのことばと、心からの祝福をお送りいたします

### 将来への新たな勇気

### イエズス会総長より

本渡カトリック教会ならびに四百年記念関係者のみなさま。このたび天草本渡の宣教四百年記念に当り、心からのご挨拶とお祝いを申しあげることができますことは、私の深く喜びとするところです。

顧みますと、初期キリシタン史にあります通り、神の教えを天草の島々に伝えるために、当時の宣教師が熱誠を尽して働き、信者もまたこれにこたえて強いりっぱな信仰を示しましたことは、ただ感歎のほかはありません。しかもこの人々にはやがて大きな困難や苦しみが待ちうけており、信仰を守りキリシタンの教えの証しをするために、遂には殉教をもとげたことに思い至りますと、深く胸にせまるものがあります。

このようにして苦しい迫害にもめげず、信者たちがりっぱに信仰を守り通しましたことは、同じ教えに従う私達の大きな誇りであると同時に、将来にむかって新たに勇気がわき起って来るのをおぼえます。

今や天草宣教の草創の時代は遠く過ぎ去り、世情は一変しましたが、現代においても、やはりいろいろな困難な問題や、克服すべき課題からのがれることができません。けれども神の真理と慈愛は、いつの時代にも変ることがありませんので、このたびの機会に往時を回想して思いを新たにすることは、まことに意義が深いと言わなければなりません。このようにして数々のキリシタンの歴史を秘めた地を思うにつけ、全能の神の恵みと、四世紀にわたる天草の信者のりっぱな模範によって、かつて本渡の地にまかれた信仰の種が、必ずや多くの実を結び、いつまでも神の教えの生きた証しになることを信じて疑いません。

# 主の祈り

## わたしたちの罪を　ゆるしてください

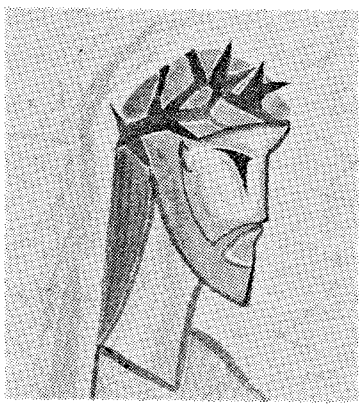
### わたしたちを　おゆるしください

わたしたちの罪をゆるしてくださいというこの願いは、日々のパンをお与えくださいという願いと密接なつながりをもっている。人間のしあわせの条件は、自分の欠点に負けないこと、神のあわれみを信じて心の平安を保つにある。『人はパンだけで生きるのではない。神の口から出るすべてのことばによる』（申命8・3）。だから日々のパンを願ったわれわれはすぐにつづいて、神のゆるしのことばを待望するのだ。神との友情、神の子としての資格を回復するゆるしのことばこそ、何物にもまして必要なのである。

マタイもルカもこの願いのなかで『負い目』ということばを用いているが、これは神にたいしてあやまちを犯した人間の罪のことである。ルカには別の箇所につぎのようなことばがある。「あなたがたは、（ピラトに虐殺された）ガリラヤ人たちは他のすべての人によりも、とがの負い目があったと思うのか」（13・2―4）。

### わたしたちが　ゆるすように

イエズスの弟子たるものはゆるしを願うばかりではいけない。自分の方からも積極的にゆるしの態度をとらねばならない。『わたしも、わたしに負い目のある人をゆるしのことばこそ、ゆるします。』ここで『ゆるします』と現在形になっているのは、過去のことをご破算にし、しかも将来にも同じようにするという決意の表明でもある。人の罪をゆるすことは、神からゆるしていただくための必須条件なのである。



マタイを見ると『主の祈り』のあとに次の補足がある。

『もし、あなた達が人のあやまちをゆるすならば、天の父もあなた達をゆるすだろう。しかし、人のあやまちをゆるさないならば、父もあなた達のあやまちをゆるさないだろう』（6・14―15）。

同じ、マタイの18章に出てくるように、あなた達も慈悲ぶかいものでありなさい。さばくな、そうすればさばかれない。人を罪に定めるな、そうすれば罪に定められない。許せ、そうすれば許されるだろう。与えよ、そうすれば与えられるだろう。

『神にたいするわれわれの負い目はばかり知れぬほどに大きい。まず人間と神との間のへだたり、聖性への要求に応じきれぬわれわれの力不足など。しかしだからといってわれわれの改心をすすめる神の声がまったく無意味なものになってしまうほどではない。両者のへだたりは大きくても人はゆるしの手を神にさしのべることはできる』。

慈悲ぶかい神の模範にならうことを、われわれは真剣に約束しなければならない。

『あなた達の父が慈悲ぶかいように、あなた達も慈悲ぶかいものとなりなさい』。

『負債人のたとえ』は、まさにこの教えのドラマ化である。聖書註解者は次のように説明している。

『神にたいするわれわれの負い目はばかり知れぬほどに大きい。まず人間と神との間のへだたり、聖性への要求に応じきれぬわれわれの力不足など。しかしだからといってわれわれの改心をすすめる神の声がまったく無意味なものになってしまうほどではない。両者のへだたりは大きくても人はゆるしの手を神にさしのべることはできる』。

慈悲ぶかい神の模範にならうことを、われわれは真剣に約束しなければならない。

『あなた達の父が慈悲ぶかいように、あなた達も慈悲ぶかいものとなりなさい。さばくな、そうすればさばかれない。人を罪に定めるな、そうすれば罪に定められない。許せ、そうすれば許されるだろう。与えよ、そうすれば与えられるだろう。



## 別府『白菊寮』を中心に　展開する感動のドラマ

### 映画『ある兵士の賭け』（石原プロ）

この映画は石原プロが世界の市場を目標に、日米のヤングパワーを動員して製作した衝撃の戦争ドラマ。監督はハリウッドの次代の担い手といわれるキース・エリックウッド、脚本は鬼才ヴィンセント・フォートレーと猪又憲吾。石原裕次郎、三船敏郎、浅丘ルリ子新珠三千代に、ハリウッドからデール・ロバートソン、フランク・シナトラ・ジュニア、ディナ・メリルなどが参加しておりこれら国際スターの華やかな競演はみものである。

昭和三十五年米軍座間（神奈川県）司令部付輸送中隊長、クラーク・J・アレン大尉が座間―別府間の二週間踏破を計画、それに賭けられた金を、成功すれば別府の養護施設『白菊寮』に寄付するという、星条旗紙の広告からものがたりがはじまる。

このアレン大尉は、北鮮の前線で誤って子供づれの市民を射殺した男。この事件を知っているためアレン大尉の慈善行為を阻止しようとする報道カメラマン北林、それに白菊寮の長田シゲ女史がからみ、アレン大尉がベトナムで戦死するまで、感動的なドラマが展開される。

これは一九六〇年から六五年に起こった実話。『白菊寮』の園長長田シゲ女史は、福岡教区光ケ丘にいたことがあり、作家長田幹彦氏の令妹として知られた人。戦争の罪悪と、人種、国境を越えた人間愛を、格調高く歌いあげたこの映画は、見る人のこころに激しい感動を呼び起こすにちがいない。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊷0568

ダイワハウス
マイホームサークル
DMC
DMCのご相談は……
大和ハウス工業㈱福岡支店
福岡市博多駅東1丁目1番30号
予約販売課　天本
TEL092代表(41)7431番へ
頭金のご用意はいりません
総工費の1/3を1年から10年までの間に積立てていただき、残り2/3は融資します。1回の積立はわずか5、000円から。しかも積立年数に応じて積立金の5～17%を割引きます。なお割賦利息は年4分6毛。保証人はいりません。
資料請求券




平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

## 司祭評議会

# 司教・司祭の結束こそ

## 教会活動の根本条件

福岡教区では、去る六月二日、司祭評議会が発足し、そのメンバーが平田司教から発表されたが、この司祭評議会の精神や目的はなんであろうか。最近ローマの聖職者聖省から司祭評議会のあり方について指示が出たので、かんたんに紹介しよう。

(一) 司教は、自分に委せられた部分教会を統治し、神の民を司牧する責任を負わされている者であるが、この任務をよく果たすためには、司祭の助けが必要である。

この司祭も神の民に奉仕するために召され、司教に従属しながら種々の職務にたづさわる。

司教と司祭は緊密に結ばれ、一つの家族のようになって全世界のために使徒的活動に従事する。この一致こそ教会のはたらきの根本条件である。

これまでも司教は、教区統治の重大事項については司祭と評議してきたが、公会議以来は一層両者の結束と協力が要望され、司祭団を代表する評議会が、教区統治にあたる司教を助言をもって効果的に助けることを規定した。

(二) 司祭評議会の設置は義務であり、司教はこれをとおして司祭たちとの接触をはかり、かれらの意見や希望を知り、教区の状況にかんする適確な情報を得ることができる。

司祭評議会は、教区の司祭全体を代表するものである。すなわちできるだけ司祭たちの種々の役務(主任司祭や助任司祭など)や地域や年令層を代表できるようにする。

会のメンバーの任命は司教がおこなうが、大部分のメンバーは司祭達の自由な投票によって選ばれる。また司教が自ら指名する者もいるし、特別の職責のために自動的になる者もいる。

(三) 司祭評議会は、司教による教区統治を助けるものであるから信徒の聖化、教理、統治一般に関する最も重要なことがらを検討する。さらに司祭生活についても司祭的役務にかんすることがらもとりあつかう。

この会は、決議権をもつものではなく、したがって司教を拘束する何らの権限ももたない。司教は評議員との共同審議で教区の善のために必要なことを協議したあと自らで最終決定をくだす。

# カナの会準備進む

## 全国化への動きも

去る五月ひらかれた定例司教協議会の総会に、信徒使徒職司教委員会は、結婚互助会(カナの会)の活動を全国的に促進することを報告したが、福岡教区で平田房刀氏らを中心にその結成準備がすすめられている。

カナの会はカトリック信者同志の結婚の世話するのが目的であるが、女子信者が男子信者に比べてはるかに多い現状で、信者でない人との結婚についてもあっせんをする。したがって未信者でもカナの会に入会できる。

委員は結婚希望者に入会をすすめ、会員になったものの調査表を事務所(福岡教区では大名町教会が仮事務所)の備付け台帳に登録する。会員は自由にこの登録台帳を閲覧することができる。

カナの会はせまい地域間に限らず、全教区からさらに全国化することによって一層いちじるしい効果が期待される。


## 万国博

## バチカン・ナショナル・デー

## 7月31日(金)お祭り広場

午前10時～10時30分
**教皇特使マレラ枢機卿を迎えて**
バチカン市国の国旗掲揚
国歌吹奏
万国博協会会長歓迎の辞
特使の答辞、キリスト教館公式訪問
午後3時～4時15分
**平和のためのミサ**
特使、日本司教団、司祭による共同ミサ

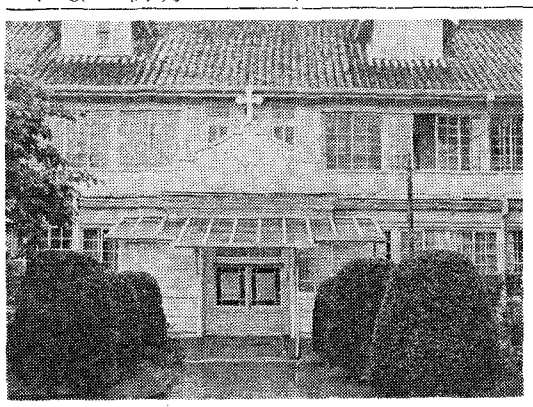

## 司祭異動

(カッコ内は前任地)

行橋主任青木功師(大楠主任)
大楠主任堤要吉師(二日市主任)
二日市主任浦口均師(司教館付)
パリ会北九州本部付ボンヌカズ師(行橋主任)、帰国バイヨ師(天神町主任)、天神町主任キニュー師(黒崎助任)、本城主任パスカレル師(水巻主任)、病気療養ルリヱ師(本城主任)、水巻主任ベルトラン師(戸畑助任)、秦望高校付深堀敏師(司教館付)

### ルリヱ師重態

北九州市八幡区赤坂本城のカトリック教会の主任であったルネ・ルリヱ師(パリ外国宣教会)は、前立腺ガンの疑いで治療中であったが、病状が悪化したため、六月十三日、行橋市新田原の聖母訪問会シスター経営の病院に移った。六月二十八日現在すでに意識はまったくなく危篤がつたえられている。



## 修道院めぐり

# 熊本修道院

マリアの宣教者フランシスコ会

熊本市島崎町八二〇

明治三十一年、パリからきたコール神父が、本妙寺でライ患者のむれをみて施療所を作ったのがはじまりという『マリアの宣教者フランシスコ修道女会熊本修道院』は、本妙寺にほど近い熊本市島崎町にある。

門を入ると、植え込みをとおして正面に聖堂がみえ、そのすぐ左手が修道院の建てもの。この修道院のなかには、ライ患者を収容した『待労院』、養護施設『聖母育児園』、一般医療の『慈恵病院』のほか、准看護婦養成所、改築中の幼稚園などがあり、シスター、雇員をあわせて、常時四百人の人が働いている

『マリアの宣教者フランシスコ修道女会』は、一八七七年、マリー・ド・ラ・パシオン嘉員によって創立されたが、現在欧州、小アジア、アジア、アメリカ、アフリカ、オセアニアに三五七の修道院を持ち、修道女の数は一万人を越えているという、観想と活動を兼ねた修道会で、布教の方法として各地の司教のもとめに応じ、育児、養老、医療、教育などの事業に当たることになっている。必要があれば危険な遠隔地まで出かけるそうだが、それだけに、働きと祈りを交互に織りこんであるという日課は、シスターたちにとってなかなかきびしいもののようだ。


ネリア院長

院長のシスター・ネリアさんはこの四月福岡の海星女子学院の校長から転じてきたばかり。埼玉県の出身で、戦前戦中はローマ、戦後は神戸にいたことがあるという。

『すでに軌道に乗った事業なので、ことさらにすることはありません。建てものが古いのでそれを改築すること。整理しなければならない問題が少し。ほかには将来の発展のための計画をたて、業務の合理化をはかりたい』と、やる気じゅうぶん。キリッとした感じの、意欲にあふれたシスターだった。

# 7月

2日(木)　聖母ご訪問の祝日
5日(日)　聖霊降臨後第7主日

キリストは大工の子としてさげすまれた(階級的差別)。聖パウロは肉体に一つのとげがあって苦しむ(肉体的または精神的な弱さ)。私たちは何かの弱点をもっているが、神の道具となるのに妨げとならない。

**聖ペトロの献金の日**(きょうの献金は全教会の必要のため世界に送られる)。

12日(日)　聖霊降臨後第8主日

神の民である私たちは預言者としての使命をもっている。この世を改革し、悪と戦うことである。

19日(日)　聖霊降臨後第9主日

神の民である私たちは、まことの希望をもたずに生きている人たちに、希望を与える使命をもっている。一本のローソクであっても、生きる喜びのもとになることがある。

26日(日)　聖霊降臨後第10主日

キリストはパンをふせして群衆にお与えになった。私たちも喜びをひとに与えることによって、どこまでもふやすことができる。

31日(金)　万国博バチカン・デー

# 8月

2日(日)　聖霊降臨後第11主日

天よりのパンをうけるものは、もう飢えることはないといわれている。しかしこのパンによって、他人のために奉仕したいとの飢はますます強くなるはずだ。

6日(木)　主のご変容の祝日
9日(日)　聖霊降臨後第12主日

キリストは天から下って、人々を御父のもとに引きよせようとなさる。私たちもキリストとこの世の人々のところに出ていって、御父を知らせなければならない。

16日(日)　聖母被昇天の祭日

キリストの生涯とおなじく、マリアの生涯は、神の民ひとりひとりの生涯の原型である。神への服従と愛、人々への献身と苦しみをマリアから学びたい。

22日(土)　聖母の汚れなき み心
30日(日)　聖霊降臨後第14主日

イスラエル人は、ヨズエを介して神への忠実を誓い、ほかの神にはいかないと宣言した。十二使徒も、永遠の生命の与え主であるキリストから離れ去ろうとはしない。

25日(火)～27日(木)　福岡教区幼児教育連盟主催研修会
30日(日)　聖霊降臨後第15主日

私たちにとってまことの知恵は「神である主の命令にしたがい、その掟と法令を実行する」ことである。しかしそれは律法主義におちいることではない。

### 聖体礼拝

(7月)
第一日曜　直方教会
第三日曜　水俣教会
第四日曜　女子フランシスコ福岡修院
(8月)
第一日曜　聖母訪問新田原修院
第二日曜　飯塚教会
第三日曜　佐賀教会
三位一体吉塚修院
第四日曜　八幡援助修院

### 祈禱の使徒会

(7月)
【一般意向】聖職者と信徒が教会の内的一致の達成を熱望するよう。
【布教意向】フィリッピンの教会のため。
(8月)
【一般意向】キリストと教会を迫害する者が真の教えを知ることができるよう。
【布教意向】中東の教会のため

# 7月

2日(木)　聖母ご訪問の祝日
5日(日)　聖霊降臨後第7主日

キリストは大工の子としてさげすまれた(階級的差別)。聖パウロは肉体に一つのとげがあって苦しむ(肉体的または精神的な弱さ)。私たちは何かの弱点をもっているが、神の道具となるのに妨げとならない。

**聖ペトロの献金の日**(きょうの献金は全教会の必要のため世界に送られる)。

12日(日)　聖霊降臨後第8主日

神の民である私たちは預言者としての使命をもっている。この世を改革し、悪と戦うことである。

19日(日)　聖霊降臨後第9主日

神の民である私たちは、まことの希望をもたずに生きている人たちに、希望を与える使命をもっている。一本のローソクであっても、生きる喜びのもとになることがある。

26日(日)　聖霊降臨後第10主日

キリストはパンをふせして群衆にお与えになった。私たちも喜びをひとに与えることによって、どこまでもふやすことができる。

31日(金)　万国博バチカン・デー

# 8月

2日(日)　聖霊降臨後第11主日

天よりのパンをうけるものは、もう飢えることはないといわれている。しかしこのパンによって、他人のために奉仕したいとの飢はますます強くなるはずだ。

6日(木)　主のご変容の祝日
9日(日)　聖霊降臨後第12主日

キリストは天から下って、人々を御父のもとに引きよせようとなさる。私たちもキリストとこの世の人々のところに出ていって、御父を知らせなければならない。

16日(日)　聖母被昇天の祭日

キリストの生涯とおなじく、マリアの生涯は、神の民ひとりひとりの生涯の原型である。神への服従と愛、人々への献身と苦しみをマリアから学びたい。

22日(土)　聖母の汚れなき み心
30日(日)　聖霊降臨後第14主日

イスラエル人は、ヨズエを介して神への忠実を誓い、ほかの神にはいかないと宣言した。十二使徒も、永遠の生命の与え主であるキリストから離れ去ろうとはしない。

25日(火)～27日(木)　福岡教区幼児教育連盟主催研修会
30日(日)　聖霊降臨後第15主日

私たちにとってまことの知恵は「神である主の命令にしたがい、その掟と法令を実行する」ことである。しかしそれは律法主義におちいることではない。

### 聖体礼拝

(7月)
第一日曜　直方教会
第三日曜　水俣教会
第四日曜　女子フランシスコ福岡修院
(8月)
第一日曜　聖母訪問新田原修院
第二日曜　飯塚教会
第三日曜　佐賀教会
三位一体吉塚修院
第四日曜　八幡援助修院

### 祈禱の使徒会

(7月)
【一般意向】聖職者と信徒が教会の内的一致の達成を熱望するよう。
【布教意向】フィリッピンの教会のため。
(8月)
【一般意向】キリストと教会を迫害する者が真の教えを知ることができるよう。
【布教意向】中東の教会のため

## 女子クルシリヨ

### 開催のお知らせ

福岡教区ではじめての女子クルシリヨ(信徒練成会)がつぎの通りひらかれる。

一、とき　9月12日夜～15日
一、ところ　福岡市默想の家
一、参加者　女子信徒と修道女総員三十五名
一、会費　三千八百円(文房具費をふくむ)
一、申込み先　福岡市浄水通三九カトリック司教館内　クルシリヨ事務局あて9月1日まで

## ガラシヤ夫人

### 墓前祭

日本婦人のかがみとして有名な細川ガラシヤ夫人の三七〇年忌が六月七日、熊本市の泰勝寺でおこなわれた。これは財団法人武蔵会(島田真喜会長)が墓前祭として毎年この日におこなっているもの。

熊本手取教会のコーネリー神父がミサを司式し、熊本信愛女学院の生徒や婦人会員らが夫人廟に花束と聖歌をささげたあと、島田会長が「風雪のガラシヤ夫人」と題して一時間にわたって話した。


☆ 事務機械 ☆
- オリンピアタイプライター
  ポータブル31.000～電動タイプ
- シャープ卓上電子計算機
  マイクロコンペットQT－8
  電子ソロバン99.800～13機種
- リコー・コピア電子・湿式複写機
- 外事務機械　6回分割払可

事務機械・事務用スチール製品
事務用品の総合センター
有限会社 シオタ事務機
TEL (092) 52－5327
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎

☆ スチール製品 ☆
- ロッカー
- 書庫
- デスク
- イス
- 金庫
- 物品棚
- キャビネット
- 会議用テーブル
- 保管庫
- 他スチール製全般

平日　8：50～17：30
土曜　8：50～15：30
(日曜祭日は休み)

# 平田司教に聞く……

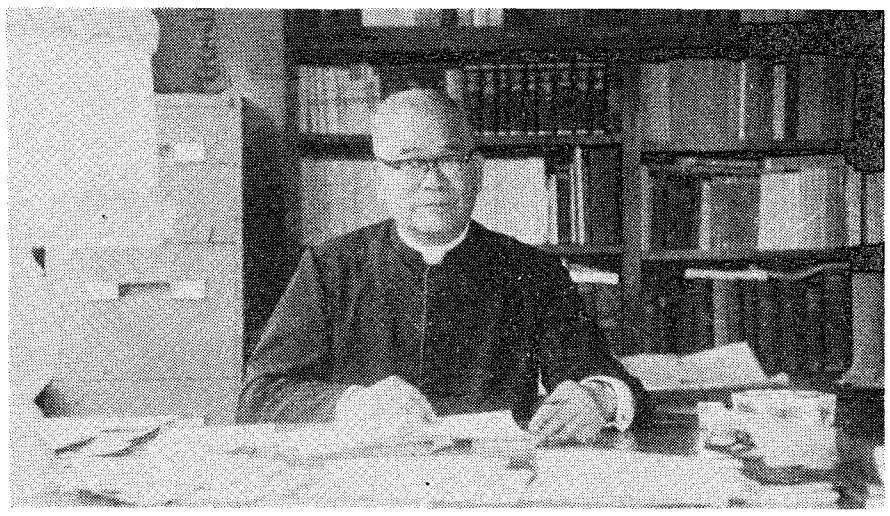
# 教会の建設は聖職者と信徒で

大分のペトロ平田三郎司教が福岡教区司教に任命されたのは昨年十二月二日。そして翌一月二十三日には、福岡市大名町教会で盛大な着座式が行なわれたその日、取材にきた某新聞社のデスクは『立派な式典ですね』と驚いていたが、それからもう半歳が過ぎてしまった。

最近の平田司教は、毎日席の暖まる暇もない忙がしさ、その多忙の中から、このほど『教区司祭評議会』が発足。司教の教区統治がようやく始った感じだが、本紙六月号はそれについて『平田司教は、さる一月着座いらい教区の諸活動の組織化の準備をすすめてきたが、その第一段階として司祭評議会を発足させることになった……』と報道した。

六月下旬、つゆめいた雨の降る午後、福岡司教館に平田司教を訪ね、教区の問題などについて話を聞いてみた。

(写真は書斎で執務中の平田司教)



## 大分教区のため

## 外国で募金

平田司教が、大分の初代司教に就任したのは昭和三十七年。それまで大分は宮崎教区に含まれ、福岡教区司教が兼任していた。

大分に着任してみると、司教の住まいは司祭館の一室、しかも教区は無一文というありさま。いらい司教は、教区の基礎作りに献身することになる。

司教は当時を思いだして『無一文で何ができますかと笑うがときもかく『無一文の中から何かを作りださなくては——』と思いついたのが、外国に募金に行くこと。パリのサンスルピス大神学校、カトリック大学などで学んだ司教は外国に知人が多かった。フランス、イタリア、アメリカ、カナダなどに二、三カ月ずつ、前後二回も出かけていった。募金といっても教会を回って説教し、その謝礼に寄附を受けるのだが、一日に五回も六回も話さなければならない。かなりの重労働だ。司教は『あのときはもう一生懸命でした』というが、二回めに出かけるときは、ある大司教に『平田君は勇気があるね。私なら一回でじゅうぶん、二回も行こうとは思わない』といわれたそうだ。

新教区の基礎作りはずいぶん骨が折れた。そして教会の新しい指向をさぐり、意欲的に活動した平田司教が力を入れたのは、将来第一線で働く司祭と信徒の養成。

『司祭の種子(たね)を育てるために、毎年ミサ答えの侍者を一カ所に集め、四日間にわたって敬神徳の学習をしましたよ』と当時の思い出を語る。この五月、司教は召命にかんする教書を発布したが司祭志願者の減少は、すでにそのころから司教の心をとらえていたようだ。

『信徒使徒職の方はなかなかむづかしかった。どうしても仕事が具体化しない、活動につながらないのですよ』。

信徒使徒職の方は、たびたび黙想会をひらいたそうだが、しかし、これは成功とまでは行かなかったようだ。

## 霊的影響を

## 受けた人たち

平田司教は大正二年七月生まれ福岡県三井郡大刀洗町今村教会で受洗した。厳父の卯太郎さんは八十八歳。同じ三井郡の北野町で、長男の清登さん夫婦と、たくさんの孫、ひ孫にかこまれて余生を楽しんでいる。

『私が司祭になったのは、まったく両親のおかげです』そういう司教の口もとに誇らしげな微笑がただよう。卯太郎さんは、平田司教——三郎さんが生まれると、その場で神に捧げる決意をして、幼少年時代の教育もすべてその方針にそって行なった。三郎さんがふところに抱かれて聞いた子守唄も、そういう祈りをこめた卯太郎さんの自作。『私が司祭になったのは、水が低きに流れるようなものでしたね』と、司教の声も感慨深げだ。

司教は、長崎海星中学校から東京大神学校の哲学科へ、昭和十年にはパリのサンスルピス大神学校へ遊学。さらにカトリック大学で神学を学び、十四年六月二十九日ノートル・ダム大聖堂でウェルデイエ枢機卿によって司祭に叙せられた。

『パリでの私は、すばらしい聖職者に教えを受け、ほんとうに幸せでした』とくに霊的な影響を受けたのは、ストラスブルグのウェーベル大司教と、いまはブザンソンの大司教になっているラリエ師。パリ大神学校の教授、校長という地位にありながら、神学者としての名誉をかえりみず、司祭養成に総てを捧げつくした姿に、強く胸を打たれたという。

この教授たちの仕事は講義のほかに、毎週二人あて三十分、四十人に及ぶ神学生を指導すること。とても自分の勉強どころではなかった。そういう姿が、境遇での義務感というのか、神のために働くということを、行動の中で、暗黙のうちに教えてくれた。『夕食のあと、パリの空をみあげて、あれだけの仕事は、神を見ていなければとてもできることではないと思いめぐらしたことを、いまもはっきり覚えています』となつかしそうだが、その声にも期せずして力がこもったように思われた。

## 欧州の戦火を

## あとに

第二次世界大戦がはじまると、フランス人の司祭は次つぎに動員され、平田司教はパリ郊外の教会で司牧にたずさわるようになったが、ドイツ軍に神学校の三分の二を占領され、燃料や食料の欠乏に苦しんだ。

昭和十五年、サンスルピスでの修練を終えた司教は、欧州の戦火をあとに、日本海軍の特務艦『浅香』に便乗、帰国の途についた。

この船の中では奇蹟に近いことに出あった。浅香の副艦長は平田という人だったが、司教はこの人のところに『私は宣教師で、毎日礼拝をする義務があります。どうか許可してください』と、遠慮がちに申し入れた。すると副艦長に『あなたは神父さまでしょう。なぜ神父といわないのですか。どうして』と詰問された。

平田副艦長の夫人に聖心の出で副艦長も毎日、聖書を読み、公教要理の勉強をしていて、『神父さまをこの艦に乗せたことは大きな名誉です。ご遠慮なさらずミサをおたてください』といって、わけなく許してくれた。

この船は、希望峰を回って、四十五日めに日本にたどりついた。司教は『キリスト教というだけで注意人物にされる日本軍の、しかも海軍の船の中で、信仰を持った軍人に会い、ミサまで許可されるとは夢のようなことでした』という。その平田副艦長はいまも健在、東京で医者をしている。『ぜひもう一度会いたい』そうだ。

## 積極的な宣教活動を

この一、二年、福岡教区でも、何かしなければという気運が盛りあがってきた。だが行動ということになると、教会にも信者にも問題がある。その一つは、信徒使徒職の目が、どうしても教会の外がわに向かないこと。口では『社会に働きかけよう』と言っても、その行動は、教会のワクから一歩も出ようとしないのだ。

またある集会で聞いたことだが何か新しいことをしようとすると、すぐに神父に押さえつけられる。それを信者は『神父さまがブレーキをかける』とか、『神父さまはことなかれ主義だ』というふうに表現する。『信徒使徒職といっても、私たちにはどんなにして社会に働きかければよいのかわからない。いまの段階では、むしろ神父さまが先頭に立って、信者をリードすべきではないか』という信者もいる。

もう一つ大きな問題は、信徒使徒職の活動を横目で見ながら、自分では何もしようとしない信者。実は信者の大部分がそうなのだがこのミサに出るだけの人たちをどうするかということ。

平田司教は、そのような問題についてこう語る。

『教会は、聖職者だけのものではありません。あくまで司教、司祭、信者が共同で責任を持つべきものです。こんごはそういう意味で、おたがいに従来に増して責任を深めて行きたいと思います。

また教会の中には、まだむかしの考え方が残っていて、なかなか積極的になれないようですが、古い考え方は切り捨てて、信徒使徒職に主体性をもたせ、積極的な宣教活動をはじめなければなりません。教会の新しい活動のために必要なら、信者に公会議の精神について学習してもらいましょう。司祭がブレーキになっているのであれば司祭の研修会もいたしましょう』。

ここには、いままで福岡教区で聞かれなかった積極的な発言がある。

『司祭評議会、構想中の司牧評議会を諮問機関として、これをもとに教区の進歩をはかりたい』という司教の胸中には、大分初代司教の経験、福岡教区での六カ月の体験をもとに、教区統治の構想が、すでにできあがっているのではあるまいか。

## 社会問題にたいする

## 姿勢

六月の安保闘争は、決戦という呼び声に反して、あっけない幕切れを見せた。だが、ベトナム戦争、カンボジア進攻、沖縄問題など、新資本主義と、国家社会主義の、息づまるような支配体制下の問題があり、その背後で進行している冷たい危機は、大きな不安を社会にもたらしている。

カトリックが、社会に働きかけようとするとき、まずぶち当たるのはこれらの社会問題だ。これをいかにハアクし、どう取り組むかということころに、こんこのカトリックの大きな課題がある。では平田司教は、この社会問題に対してどんな姿勢をとろうとしているのであろうか。司教はいう。

『安保の問題はむずかしい。国民の考えが二つに割れているほどですから、これは簡単に決論を出すことではありません。

しかし戦争は悪ですから、当然さけるべきであり、また価値観を転倒させるような政治、経済の問題にも、教会の人間尊重という立ち場から、やはり反対すべきだと思います』

これは信仰を踏まえたカトリック的良識、そして具体的ではないが、司教の社会問題にたいする姿勢が、端的に打ち出されていると見てよさそうだ。

## 信者が法悦を

## 感じとる教会に

戸外には、夜をぬらしてシトシトと雨が降っている。その雨の中に出ていこうとするとき、司教は『上田前大分市長は、〝ミサが終ったあと、信者が法悦を感じて帰るような教会でなければならない〟と言っていました。私も同じ考えです。そのためには、司教も司祭も信徒も変わらねばなりません』と言った。

福岡教区にも問題が多く、司教の前途にはいろいろな困難が横たわっているにちがいない。だがこの人は、どんな困難も乗り越えて行きそうだ。そんな感じがした。

☆　☆　☆　☆　☆

### お礼

私の霊名の祝日にあたりましては、神父さま、修道者、信徒の皆さまからお心のこもったお祈りとお祝いをいただき、何とお礼を申し上げてよいかわからないほどです。皆さまが教区のかしらにたいしてお示しになったこの尊敬と愛は、教会と神ご自身にたいするふかい信仰と忠誠の真心のあらわれに他ならないと思います。

おひとりびとりに直接お礼を申し上げたいのですが、それもかないませんので、紙上をかりて感謝の意を表明させていただきます。

ありがとうございました。

福岡司教　ペトロ平田三郎

住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
(支店) 北九州・熊本・佐賀

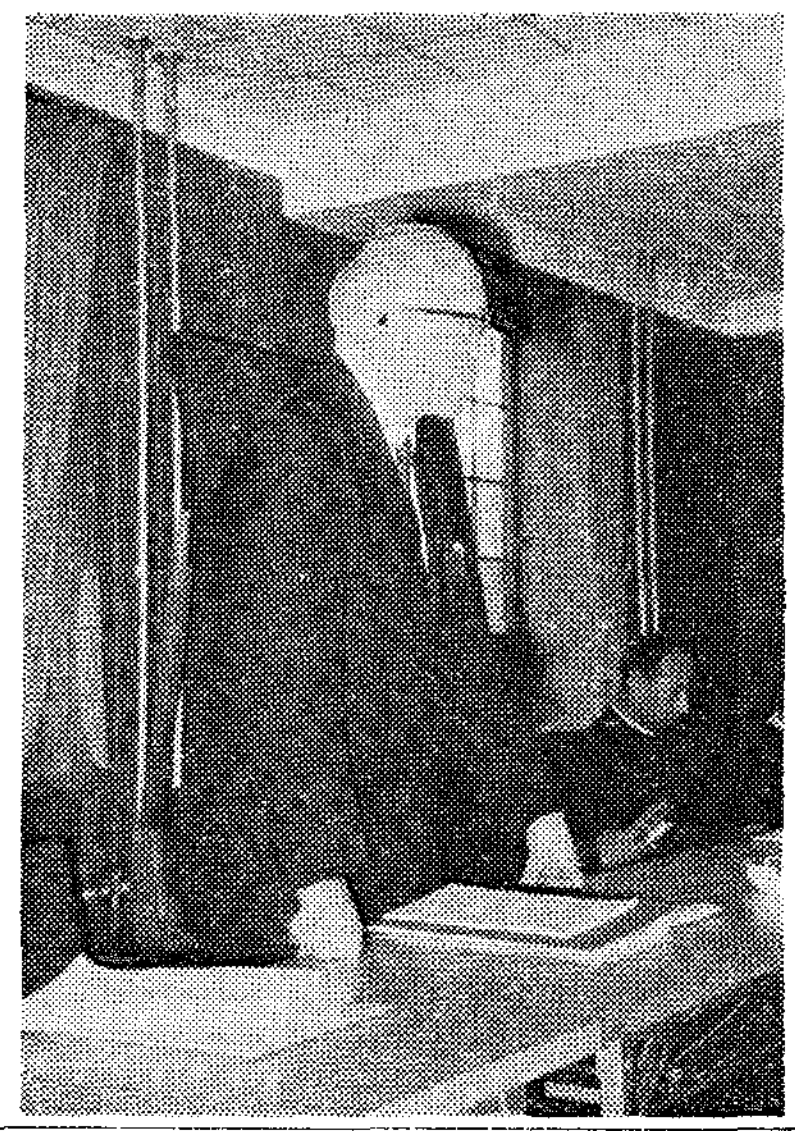
栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電㊿4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 健全な人間形成めざして
## 九州地区学校長会ひらく

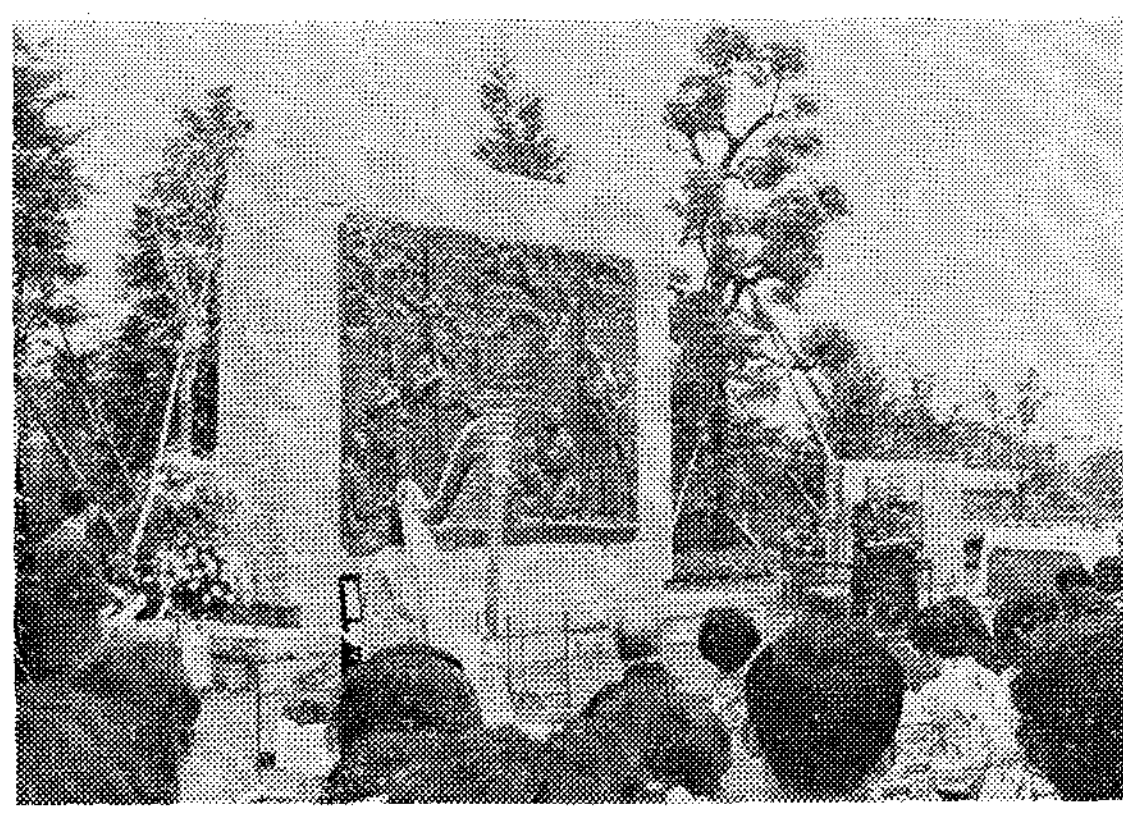


六月十三、十四の両日、福岡市の黙恐の家に九州地区二十六カ所のカトリック学校長が参集、教育の緊急問題について話し合った。

十三日午後二時から大友成彦理事（ラサール学園校長）の司会で議事が始まり、平田司教がカトリック教育者として反省すべき諸点についてのべたあと、教育協議会理事長ヘルベック師が、いまこそ教育者は自信をもって、健全な人間形成にあたれと激励した。さらに岩浅（いわさ）事務局長は、高等教育の改革中間報告と初等・中等教育の改革議案（最近、中央教育審議会から坂田文相に提出されたもの）について説明、夜は水波朗九大法学部長が「学生問題」について講演した。

第二日目は「カトリック学校の役割・使命」「宗教々育、宗教科・倫社」などについて討論、午後四時すぎ散会した。（写真は講演するヘルベック師）

# 大分殉教公園完成
## 平田司教も祝別式に



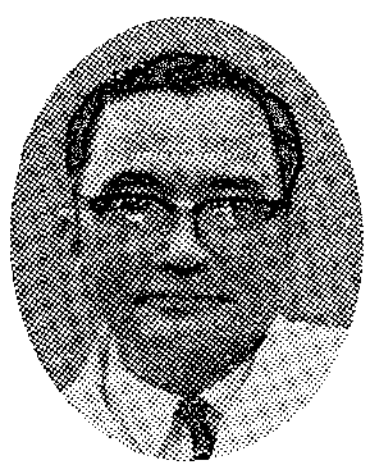
昨年十二月建設された大分市大手公園の、聖フランシスコ・ザビエルの銅像に引きつづき、キリシタン殉教記念公園が同市の葛木（かつらき）に完成、去る六月五日午前十時から平山司教によって祝別、殉教者顕彰のミサがおこなわれ、福岡から平田、深堀両司教も参列した。

この公園はもと大分市長、大分県キリシタン史跡顕彰会長上田保氏の念願が実ったもの。かつて大友宗麟時代に栄えたキリシタンが、禁教の嵐のなかに県下いたるところで殉教の血を流し、とくにこの葛木付近一帯、方四キロのせまい地域で寛文年間（一六六一－一六七三年）を中心に、八十四才の老翁から十四才の少女まで、およそ二百人の殉教者を出している。上田氏がたまたま公園設営のため購入した土地（二千坪）は通称〝獄門原〟とよばれていたところだった。

公園中央の碑（たて二・三メートル、よこ四・五四メートル）は老夫婦と幼い孫娘が磔殺されようとしているところにキリストがほのかに聖姿を表わしている壮大なブロンズ・レリーフ。

落成式は、建設のため五千万円を寄付した足立正平翁のお孫さん千和さん手でレリーフと句碑の除幕がおこなわれ、木下県知事、後藤文夫氏らが祝辞をのべた。（写真は殉教公園落成式）

# 井手一郎氏表彰



医療法人雪の聖母会経営の聖マリア病院（院長井手一郎氏 写真）は、五月二十二日、岐阜県県民体育館でおこなわれた第三回全国保健衛生大会で、公衆衛生事業功労者とし表彰された。

なお井手一郎氏は五月三十日、長野市市民会館でひらかれた第二十一回結核予防全国大会で功労者として表彰をうけた。

# 広報の献金（5月10日）

| | |
|---|---|
| 大名町 | 九、〇五〇円 |
| 浄水通 | 三、〇〇〇 |
| 地行 | 六、五〇〇 |
| 光ケ丘 | 五、四五〇 |
| 西新 | 三、五〇〇 |
| 美野島 | 一、〇〇〇 |
| 高宮 | 三、八〇〇 |
| 吉塚 | 三、〇〇〇 |
| 茶山 | 四、五〇〇 |
| 箱崎 | 一、五一五 |
| 大楠 | 二、六一一 |
| 東田島 | 一、五七〇 |
| 古賀 | 三、一〇六 |
| 二日市 | 三、三五一 |
| 久留米 | 一五、八一〇 |
| 大牟田 | 四、〇〇〇 |
| 吉野 | 二、二一五 |
| 今村 | 三五、六〇〇 |
| 本郷 | 一二、二〇一 |
| 小郡 | 一、七〇〇 |
| 呼子 | 三、八七九 |
| 佐賀 | 三、〇〇〇 |
| 唐津 | 一、三〇〇 |
| 伊万里 | 二、〇〇〇 |
| 鳥栖 | 一、五四〇 |
| 武雄 | 八一五 |
| 多久 | 一、〇一〇 |
| 門司港 | 一、八〇〇 |
| 門司 | 四、五八五 |
| 小倉 | 一三、一四五 |
| 戸畑 | 一一、三五〇 |
| 若松 | 五、〇〇〇 |
| 天神町 | 六、〇〇〇 |
| 黒崎 | 七、〇〇〇 |
| 八王寺 | 三、三〇〇 |
| 木城 | 一、三九〇 |
| 水巻 | 三、〇五五 |
| 田川 | 一、六六〇 |
| 行橋 | 五、六五〇 |
| 新田原 | 七、〇〇〇 |
| 手取 | 五、〇〇〇 |
| 人吉 | 八、〇〇〇 |
| 本渡 | 四、〇〇〇 |
| 健軍 | 四、七五〇 |
| 帯山 | 二、四四五 |
| 崎津 | 六、八〇〇 |
| 島崎 | 一五、六〇〇 |
| 玉名 | 二、〇〇〇 |
| 菊池 | 一、五〇〇 |
| 合計 | 二五七、〇五三 |

# 古老にきく
## 足のつづく限り信者を訪問
## 福岡の畠山しずさん



畠山しずさん、七十七歳。福岡市茶山教会、畠山七郎神父の母堂。昭和八年、岩手県から移ってきた。中学校の英語教師だった主人に死なれ、九大の湯川教授夫人に招かれてきたのだが、当座はパウロ書院の前身、カトリック書院で働いた。このとき四十歳。

大名町教会の伝道婦になったのはそれから間もなく。当時、福岡市内には大名町教会があるだけ、だから市内は言うまでもなく、西戸崎から宇美、能古ノ島へと足がつづくかぎり、信者の家を訪問して廻ったそうだ。しずさんは『戦争中、み堂の入口に〝キリストはスパイ〟とはり紙されたのを覚えています。いやでした』と語る。終戦数カ月前には、外人神父が全部カンキンされ、教会の建物も軍に没収された。

洗礼をうけたのは明治三十六年。面白い話がある。大司教座聖堂のある東京の関口教会が、フランスパンを作って販売していた。しずさんの家では、内務省に務めていたお父さんが脚気で、そのパンを買って弁当にしていたがパン代を集金にくる老人の話しを聞いているうち、一家七人が、そろって関口教会で洗礼をうけることになった。そしてこれはつい先日、そのときパンを配達してくれた新村という人と、福岡の町でぱったり出あった。『ほんとうにびっくりしました。いつどこでだれにあうかわかりませんね』。

福岡に来たとき、長崎の信者さんの信仰をみて感心したというしずさんは、『信者さんの熱心さはいまもむかしも同じでしょうが、いまの人たちには、何となくもろさがあるような気がします』と、ちょっぴり、いまの信者の批判を聞かせてくれた。

# 秋に結婚講座をひらく

来秋十一月七日から十五日まで、福岡市でカトリック結婚準備講座がひらかれる。これは他教区ですでに数年前から実行されてめざましい効果をあげており、近く結婚を予定している男女が一諸に聴講して、結婚の重大な価値について認識する。信者でない人にも広く参加を呼びかけ、講師には司祭、信徒（既婚者）、医師、心理学者らが加わる。説明書は近く各教区に送られる。

# 沖縄援助献金（追加分）

| | |
|---|---|
| 手取教会 | 二七、〇〇〇円 |
| 大牟田教会 | 二〇、〇〇〇 |
| 天使の聖母修院 | 三、〇〇〇 |
| 八代白百合学園 | 一四、〇〇〇 |

# カトリック放送番組（7月）

心のともしび　テレビ FBS（金曜 午前9時～9時15分／土曜 午前8時20分～8時35分）

| 月曜 | 司会 | ゲスト | 月曜 | 司会 | ゲスト |
|---|---|---|---|---|---|
| 3（金） | 矢代静一 | 遠藤周作 三浦朱門 | 17（金） 18（土） | 対談・遠藤周作と田中澄江 | |
| 4（土） | 〃 | 岸田今日子 田中千禾夫 | 24（金） 25（土） | 矢代静一 曽野綾子 | 菅原通斉 |
| 10（金） 11（土） | 遠藤周作 田中澄江 | 南田洋子 | 31（金） 1（土） | 矢代静一 | 三浦朱門 曽野綾子 |

心のともしび　ラジオ RKB――月～土、午前6時40分～45分／RKK――月～土、午前10時10分～15分

| 日曜 | 著者 | テーマ | 日曜 | 著者 | テーマ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1水 | 矢代静一 | ルルドの泉 | 17金 | 山本健吉 | 長崎の外国人 |
| 2木 | 又吉正栄（沖縄） | 友情 | 18土 | スタインバック神父 | ナマ放送 |
| 3金 | 山本健吉 | 心の鍛練 | 20月 | 石沢秀二 | 正直いろいろ |
| 4土 | 徳川神父 | ナマ放送 | 21火 | 戸川エマ | 入院して知る |
| 6月 | 佐田稲子 | 病気の友人を考える | 22水 | 霜山徳爾 | 日本のこども |
| 7火 | 浜尾実 | 健康のありがたさ | 23木 | 久井菜知子（広島） | 間違い電話 |
| 8水 | 小堀杏奴 | 病気 | 24金 | 遠藤周作 | 変な犬 |
| 9木 | 菊池敏子（大阪） | 愛をもって | 25土 | スタインバック神父 | ナマ放送 |
| 10金 | 曽野綾子 | 忘れたい話 | 27月 | 石沢秀二 | 二つの顔をもつ男のつらさ |
| 11土 | スタインバック神父 | ナマ放送 | 28火 | 林謙一 | 病気 |
| 13月 | 霜山徳爾 | 病気になって得る | 29水 | 山本健吉 | 本当の登山家 |
| 14火 | 大原富枝 | わが親友・病気 | 30木 | 角芳光（広島） | 父の事故に思う |
| 15水 | 相良惟一 | 病気 | 31金 | 田中千禾夫 | 老いたる柱時計の感謝の詩 |
| 16木 | 中村隆俊（広島） | 尊敬する友人 | 8月1土 | スタインバック神父 | ナマ放送 |

# 教会の社会的教え
## 〔福岡カトリック社研報告〕

社研のメンバーが、数名の教会外の人たちと社会問題へのかかわり方について話し合ったさい、つぎのような話しが出た。

ある市民運動をしているAさんは「教会は自分の救いにのみ汲々としていて、社会の問題に真剣に立ち向っていない」といい、Bさんは「教会は社会回勅などによって社会問題にたいして、大きな関心を示してきたし社会を神のみむねにそったものとして建設するための指針を、その時代々々において明らかにしている」とのべた。

Bさんのこの弁護にたいして信者のCさんがこんなことを言った「教会は確かに人間社会の諸問題に福音の光をてらし、この世を神の教えに従って正しく建設する。そしてこれを日常の生活のなかに実現させるのが、私たち信徒のつとめであることもわかるが、しかし正直に言って私には、教会の社会的教えを読んでも、具体的にはどうすべきか、よくわからない」。

教会が福音の光にてらして、社会のあるべき姿を示すのは、説教とか、実現不可能な理想を述べることではない。むしろ教会は、信徒がそれを実現するための召命と手段を、キリストから受けていることを思い出さねばならない。

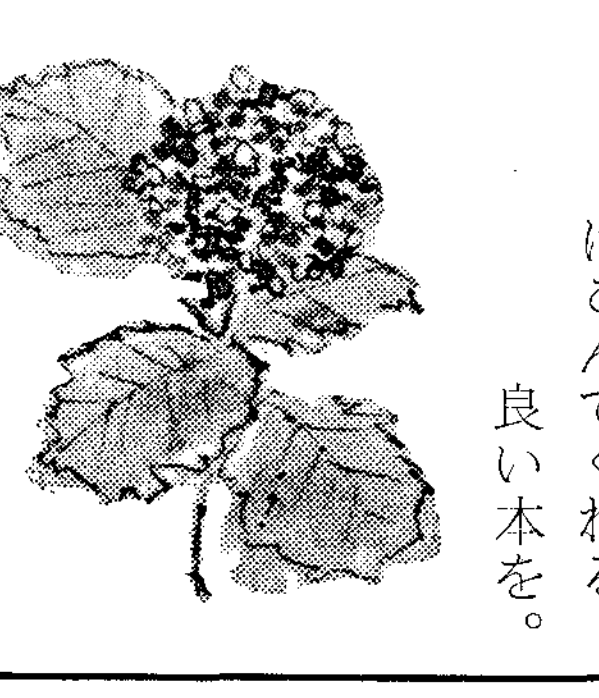
従って信徒が、教会の社会的教えを聞くとき、これにこたえることのできる自分を自覚し、与えられる恵みを希望することこそ大切ではなかろうか。そしてこの自覚と希望に立って、まず教会の社会的教えを学ぶことに努力し、つぎに、これを生きる力を熱心に求め祈るべきであろう。

教会憲章は、「信徒は啓示された真理を、よりふかく理解するよう熱心に努力し、英知のたまものを絶えず神に祈り求めなければならない」と言っている。

キリストは信徒を、福音の力が社会の中に輝きわたるための証人とし、さらに信仰の心と言葉をさずけてくださっている。だから信徒が、社会の問題に福音の光を照らして、教会の社会的教えをまじめに学び、祈り求めるなら、聖霊は必らず、一人びとりの心に働いて動かしてくださるだろう。こうして信徒は「福音の光と教会の教えにみちびかれて決然として具体的に行動する」のである。（信徒使徒職教令）


七月

さわやかな陽（ひ）の光、
初夏の太陽がつくりだす
木陰に坐して
よみましょう。
心のかてと、うるおいを
はこんでくれる
良い本を。



一 新しき創造　ピーター・ミルワード著　郡山直訳　二八〇円　一五六頁
聖書のテーマにそってなされる瞑想は読む人を、超自然の高みに誘い真理にふれさす。

一 道すがら　押田成人著　四〇〇円　二二二頁
やさしくつづられた話の中に、著者の人格からにじみでる徳が、読む人に写されるような本。

一 三千年の知恵のことば　大滝玲子訳　二二〇円　一一一頁
旧約聖書の中から、わたしたちの日常生活に直接役立つものが盛られ、霊的読書にも、祈りにも、自由に、好みのままに使える本。

一 キリストと語る②　J・M・グロネロ著　長沢トキ訳　一、三〇〇円　六八一頁
短かい聖句を毎日黙想することによって、日々が楽しく、生き生きしたものになる。

岩田屋5階セントポール・コーナー
大名町　聖パウロ書院

# 女子パウロ会の宣教

## 宣教女は神の郵便屋さん

シスター永田かよ子　シスター塩谷英子　シスター萩原菊枝

教養

マス・コミという、現代的な手段と方法を使って、みことばを宣教する『女子パウロ会』が生まれたのは、いまからおよそ五十年まえ、イタリアの修道女テレザ・メルロによってであった。

テレザはヤコボ・アルベリオーネ神父の指導を受け、マスコミを利用する使徒職に着手、観想生活と活動生活を、実生活に合わせたのだった。ラファーナ枢機卿はテレザについて『彼女は活動のさなかにあって、観想の人だった。すべてにおいて神をみ、神を欲し、神に仕え、神を伝える』といっている。

またトレヴィゾの司教ミストロリーゴ師もつぎのようにいう。

『彼女と聖パウロ女子修道会を考えるとき、いつもわたしの脳裏には、美しく意味ぶかい一本の木とその実のイメージが浮かぶ。多くの枝をはって高々と茂っている木は、集って公会議をひらいている教会だ。熟しつつあるその実の一つは、疑いもなく聖パウロ女子修道会だ』

出版物を使って布教するパウロ会の宣教女は、当時『神の郵便屋さん』と呼ばれていたそうだが、私たちが本を抱えて、家から家へと、神のみことばを配ってあるいているこの仕事は、たしかに『神の郵便屋さん』と呼ばれるにふさわしいだろう。

さて、私たちの、その郵便屋さんの仕事とはどんなものだろうか毎日している家庭宣教のひとコマを眺めてみることにしよう。

私たちの一日の仕事は、起床ベルが鳴る朝の五時半にはじまる。バネ仕掛けの人形のように、ベッドを飛びだすと、それからおよそ二時間三十分、黙想・ミサ聖祭・聖体訪問など、沈黙のうちに主と語らい、八時半になると、二人が組になって、それぞれの宣教の場へ出発して行く。

イスラエルの村々をめぐりながら、福音を宣べられたキリストにならい、家庭を訪問する私たちははじめての家へ、

『ごめんください。カトリック教会からうかがいました。ちょっと話を聞いていただけないでしょうか』といって入って行く。私たちがそこで出会うのは、幼な子を抱いた主婦、汗にまみれて働いている父親。またあるときは、臨終の近まった老人に会うこともある。

私たちは、一日に、少くとも百人以上の人と話を交すが、その中には、明らかに敵意を示す人、迷惑そうな顔をする人があり、そうかと思うと、精神の苦しみを訴える人もいる。私たちはこの人たちとの出会いの、ひとつひとつを大切にし、何とかしてこの人たちの心に、キリストのみことばを受肉させようと努力する。



そういう仕事のなかで、何よりも嬉しいのは、はげしく拒絶していた人が、しだいにおだやかになり、熱心に話を聞いてくれるときそんなときは、自分のなかに生きているキリストが、相手の心をやわらげ、福音で満たしてくださったと、しみじみと感じ、思わず涙ぐむことがある。

『この苦しみから脱け出したい』という人もいる。私たちはこの人たちとの出会いの、ひとつひとつを大切にし、何とかしてこの人たちの心に、キリストのみことばを受肉させようと努力する。

夕方にはそろそろ足が重くなってくる。それでも私たちは、ミサをささげる司祭に心を合わせ、神の豊かな慈みと祝福を祈り、『私たちのミサ』をおささげする。そして、心の中で『一期一会（いちごいちえ）』ということばの意味を反すうしながら、さらにつぎの家庭へと足を運んで行く。

一日の布教を終えて、修道院に帰りつくのは、暮れ近い五時。ほっとする間もなく、聖堂にひざまづき、きょう一日の感謝をささげる。聖体訪問の間にも、きょう会ってきた人たちのことを思い、その人たちの悲しみ、苦しみをそれらは結局大きな列車の進行を止めることはできなかった。それではこの列車に乗っているお客はその終点を無視してただただ窓から見える風景や、周囲に乗り合わせた人たちにかまけてばかりいてもよいのであろうか。いや、それでは終点につくことさえ忘れてしまう。

また反対に道中の何物にも関心を持たず、いたずらに終着駅でのできごとばかりを気にしていては人生は全くつまらない。常に老人への準備を計画し続けることがたいせつである。それではこの計画は肉体的に、精神的に、経済的に社会的にどのように進めていったらよいのであろうか。

それには男性、女性がひとりひとりで準備し、固めていくよりは夫婦ふたりで話し合い、助け合っていく方がはるかにおもしろく、楽しく、しかも効果的である。本書にはこれについての具体的な処方箋が詳しく説明され、ときには薬の配合禁忌や服みすぎ、中毒などについての注意事項もつけられている。この意味から本書は行き届いた、親身にあふれ、愛情のこもった処方集であるが、そこにはまた人の愛、神の恵みのありがたさ、とうとさを映し出すことも忘れられていない。

この本は何回もくり返して読む哲学書である。単なる宗教書ではなくて、一つの調和を語る随筆であり、あらゆる年層を通じての性教育書でもある。（東京大学医学部講師）（聖パウロ女子修道会発行・〒740円、271ページ）

本

『カンドウ全集』池田敏雄編

この本は、昭和のはじめから三十年ごろまでに、日本の各地でおこなわれたカンドウ神父の講演を集めたもの。師の講演は読む人の心にひびき、深い感動をあたえさらに、思索を深めて人格の形成に役立つ。良識とユーモアに富んだ師は、フランスのバスクに生まれ、宣教師として大正十四年に来日、その後十五年間、東京大神学校の校長をつとめながら、日本の社会に広く貢献した。（中央出版社・二七一ページ・七八〇円）

# 主の祈り

## こころみ

### 試みにあわせず　悪から救って下さい

現行祈祷文のなかで「われらを試みに引き給わざれ」となっているが、神が人を誘惑するかのような印象をうける。実際には神は決して人を誘惑なさらない。「こころみのときに、神が私をこころみるといってはならない。なぜなら神は悪にいざなわれることもできず、また人をいざなうこともできないから」（ヤコボ1・13）われわれは試みにおちいらないようにと御父に願う。イエズスもゲッセマニの園で弟子たちにいわれた「誘惑におちないようにめざめて祈れ」（マテオ26・41）誘惑におちいることは、弟子たちにとって最悪の事態である。信仰を失う危険をともなうからであるイエズス自身かれらのために祈っておられる。「シモン・シモン、私はあなたたちのため、信仰がなくならないようにと祈った」（ルカ22・32）。

聖パウロも富の誘惑についてのべている。「富をもとめる人々は誘いとわなと、人間を堕落と滅亡とに落しこむ愚かしい欲望に陥るのである」（チモテオ前6・9）。人間は試みにたいしてはなかなか抵抗できない。神の助けと力に守られる必要がある。人間のもろさを考えると、長生きは必ずしも神の恵みとはいえない、若死にするほうがよいのではないかとさえいうものもいる（知書4・7・11―参照）。



### 試みか誘惑か

誘惑とは、相手を悪にさそいこむこと、または悪に直面したときの心の動きをいう。創世記の冒頭に出てくる蛇はエワに、してはならないことをすすめている。だから誘惑とは、人間を道徳的な正しさからふみ外させる危険をはらむいろいろな生活状況をさす。

試みというのは、誘惑よりもよい言葉である。旧約聖書には、「神が民から試みられる」（出エジプト17・7）とか、神が民の前に「ご自分の実力を証明する」の日、誇りに変るだろう」（前者1・6―7）。

この試みは決してきびし過ぎることはない。ただ大切なのは試みのときに神に祈ることを忘れないことだ（コリント前10・12―14参照）。

信仰は知性の確信であるばかりでなく、全生涯をかけている。だから信仰には危険や困難がつきものなのだ。『信仰のためしは、忍耐を生み、忍耐は業によって完成される』（ヤコボ1・3―4）。

### 悪より救って下さい

ここで悪とは、悪人、悪魔、悪いことばも考え、または悪全般を指す。弟子たちのためのキリストの最後の祈りはこれである。

「私はかれらを、この世からお取り下さいというのではなく、悪からお守り下さいとお願いいたします」（ヨハネ17・15）。

# 短歌

## くれなゐの雲

志摩　みどり

明けてゆく空見るはたのしとをとめいふ電燈消して病室をいづ

手洗ひの液あたためて診察室に君来たまふを朝々待ちき

考へ方変へて婦長にならぬかと友は電話に簡単にいふ

友の家にひと日ゐしかばくれなゐの雲のひかりは丘の上に満つ

（アララギ会員）

# 老人の処方箋

## 「年をとるものふたりで」を中心に

安部　英

日本人の寿命はこの十年間に急速に延びて西欧諸国のそれと全く同じになってしまった。

最近発表された厚生省の、昭和43年簡易生命表によると、男性は六九、〇五年、女性は七四、三〇年で、ことし生まれる子供は皆この高齢まで生きることが期待される。いいかえれば一たび生まれた以上日本人は特別の事故や事情がない限り、どうしても七〇歳（交通事故などで横死する人が相当あるので、実際にはこれ以上の年齢になる）の高齢まで生きなければならないことになっている。われわれの身辺をみてもこのような年よりの人が急速に、そして確実にふえている。

このことはわれわれ個人にとってはまことにありがたいことであるが、さてこの人たちの生活について考えると、その生活環境を作る家族、家庭の事情、あるいはその人たちを収容する老人ホームの設置、さらにはその人たちの健康をまもる老人医学の問題などと、これに直面している者はもとより、やがてはそれが自分たちの問題となることを自覚するものたちにとって、これらが厳粛な難題として前面にけわしくそびえている。それは逃げることのできない個人の問題であると同時に、また社会や国家など共同生活体の宿題でもある。この宿題をまっ正面から取り組もうとするのがポール・ショウシャール、ジャクリンヌ・ショウシャールの『年をとるのも二人で』である。

そこではまず老人の本態をつかむところから始まる。すなわち年をとるとはいったいどういうことか。老人は生まれたばかりのみどりごから生長発展したもの、そして順を追い、理に従ってからだの部分が退化萎縮していくものであるが、それは当初から決められた軌道を走る列車に似ている。途中で多少各駅停車の多いものもあれば、終点まで直通する超特急もある。なるほどこれまでにも若返り法とか、いつまでも年をとらない法とかが、肉体的にも精神的にもいろいろ試みられてきた。しかしそれらは結局大きな列車の進行を止めることはできなかった。それではこの列車に乗っているお客はその終点を無視してただただ窓から見える風景や、周囲に乗り合わせた人たちにかまけてばかりいてもよいのであろうか。いや、それでは終点につくことさえ忘れてしまう。

また反対に道中の何物にも関心を持たず、いたずらに終着駅でのできごとばかりを気にしていては人生は全くつまらない。常に老人への準備を計画し続けることがたいせつである。それではこの計画は肉体的に、精神的に、経済的に社会的にどのように進めていったらよいのであろうか。

それには男性、女性がひとりひとりで準備し、固めていくよりは夫婦ふたりで話し合い、助け合っていく方がはるかにおもしろく、楽しく、しかも効果的である。本書にはこれについての具体的な処方箋が詳しく説明され、ときには薬の配合禁忌や服みすぎ、中毒などについての注意事項もつけられている。この意味から本書は行き届いた、親身にあふれ、愛情のこもった処方集であるが、そこにはまた人の愛、神の恵みのありがたさ、とうとさを映し出すことも忘れられていない。

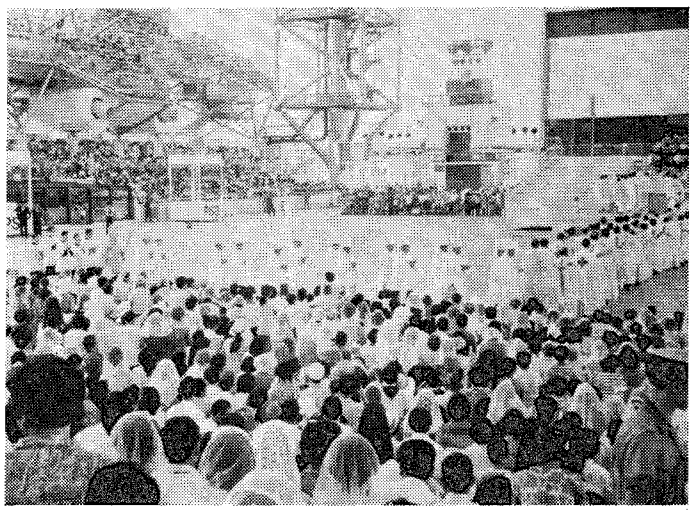
この本は何回もくり返して読む哲学書である。単なる宗教書ではなくて、一つの調和を語る随筆であり、あらゆる年層を通じての性教育書でもある。（東京大学医学部講師）（聖パウロ女子修道会発行・〒740円、271ページ）

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川　東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話　代表　㊿0568

ダイワハウス
マイホームサークル
DMC
DMCのご相談は……
大和ハウス工業㈱福岡支店
福岡市博多駅東1丁目1番30号
予約販売課　天　本
TEL092代表(41)7431㈱へ
頭金のご用意はいりません
総工費の1/3を1年から10年までの間に積立てていただき、残り2/3は融資します。1回の積立はわずか5、000円から。しかも積立年数に応じて積立金の5～17%を割引きます。なお割賦利息は年4分6毛。保証人はいりません。
資料請求券

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通　福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

# お祭り広場で荘厳ミサ
## 盛況だったバチカンの日



万国博バチカンの日は、教皇特使パウロ・マレラ枢機卿をむかえ、七月三十一日、多彩なプログラムのうちに開かれた。

朝十時十五分、特使は萩原徹政府代表となりんでお祭り広場の貴賓席につき、日本、バチカン両国旗掲揚のあと、「日本万国博には

カトリックとプロテスタントとの協力でキリスト教館がたてられ、ローマ教皇庁もこれに正式に参加した。わたしは神がこの産業文化の大祭典である日本万国博を祝福して下さるよう祈る」と、日本語であいさつした。つづいてキリスト教館のテーマ〝目と手一人間の発見〟を、地元のカトリック系諸学校生徒が、歌と踊りでみごとに表現、観衆の喝采をあびた。

午後四時からは、同じお祭り広場の中央に設けられた大祭壇で、世界の平和を祈るそうごん共同ミサがささげられた。約二万人の参加者の前で、ミサ中田口大阪大司教が教皇メッセージを代読したが、教皇はそのなかで「平和維持のため非常な努力をすると同時に、経済的・技術的進歩をとげてきた日本国民が、さらに道徳的にも向上し、国際正義にもとづき、世界のめぐまれない国に援助をつくすよう希望する」とのご意向を明らかにされた。

（写真はミサの入堂式）

# 福岡市で結婚講座
## 一般の参加も歓迎

近く結婚しようとする人たちに幸福な家庭を準備させる結婚講座（主催結婚講座センター、後援西日本新聞社事業本部）が、十月三十一日から二週間にわたり、福岡市でひらかれる。

この講座はレデンプトール会のモーレン神父とその協力者によってすでに東京、横浜などで十年前からおこなわれているもの。九州での開講ははじめて。参加できるのは婚約者、または結婚を前提として交際している人たち。原則として二人一緒に参加することになっている。なお、カトリック信者にかぎらず、広く市民に参加をよびかけ、愛の貴さ、結婚の偉大さ、家庭の使命、家庭と社会との関係、夫婦愛、子供の教育などについて正しい観念を与える。この期間中、毎週土、日、火、木曜日の夜六時三十分から二時間、心理学者や医師、既婚者らが講義をし、参加者同志の話し合いをする。会場は未定。問合わせ、福岡市美野島二―五―二九、ライル神父、電34―0377に。

# ルリエ神父逝去



パリ外国宣教会司祭ルネ・ルリエ神父は、七月二十八日午前十一時、行橋市新田原病院でガンのため逝去した。六十二才。新田原教会で二十九日午後四時から平田司教と多数司祭の共同葬儀ミサのあと、湯川カトリック墓地に埋葬された。

ルリエ師は一九〇八年九月フランスの生まれ、三十四年パリ外国宣教会本部で司祭になり、昭和十年来日、久留米で日本語習得のあと、十三年から戦争をはさんでの十五年間北九州市戸畑教会主任、二十五年に八幡区陣山に教会と聖

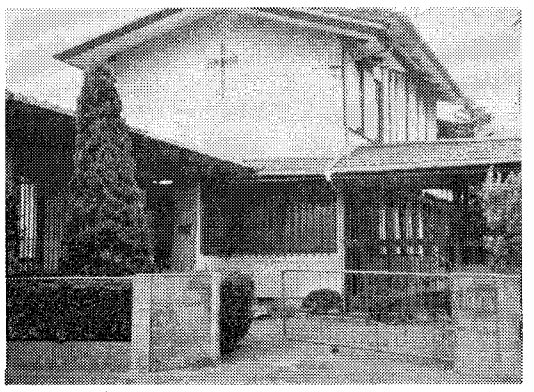
小崎育児園を建設、二十八年に育児園を現在の本城に移して、めぐまれない子供たちの世話にあたりなお、マリア保育園のほか、三十五年には同園横に本城教会を新設して司牧にもあたった。四十三年六月に前立腺ガンのため入院、手術後一時健康をとりもどしたが、去る六月中旬から新田原病院に移っていた。

八月三日午後三時半からマリア保育園で施設葬がおこなわれ、北九州市の社会事業関係者から弔辞がささげられた。

### 司祭異動

司教館は平田勘五郎師（浄水通主任）浄水通主任伊東誠二師（新田原主任）新田原主任山川辰幸師（吉野主任）吉野主任吉瀬孝三郎師（小神付）小神付平田寛師（健軍助任）

# 聖三位一体の聖体宣教会
## 福岡市吉塚天満町



修道院めぐり

福岡市吉塚五丁目でバスを降りて、ゴミゴミした街並を歩いていくと、カトリックらしい、こざっぱりした建物がある。これが『聖三位一体の聖体宣教会』をいう変った名の修道院。

『聖体を通して聖三位の光栄を帰し奉り、福音の勧めによって成聖の道を励み、福音の使者として神の教えを広める』ことを精神とするこの修道会は、一九三六年、パブロ・マリア・グスマン神父、シスターエンリケタ・ロドリゲスによってメキシコで創立された。日本にきたのは一九四九年、下関がはじめて。このうだ吉塚の修道院は、地元の希望と、深堀前司教



齊藤院長

たい』と話していた。

シスターたちは初聖体の準備、聖堂の世話、毎週土曜には一〇〇人の小学生の公教要理、ローマ字英語の指導と、なかなか多忙。なかにはマリア・デーラ・ニメスさんのように、『国際経済大学（佐世保郊外）』にスペイン語の教授にいっている人もある。

院長はマリア・ジョセフィナ、斉藤万里子さん、四十四歳。東京生まれの若々しく愛らしい院長さんだ。

### 女子クルシリヨ

女子クルシリヨ（信徒練成会）は、九月十二日夜七時から十五日夕方まで、福岡の黙想の家でひらかれる。

### お盆と平和の行事

【お盆の死者ミサ】吉塚教会では八月十三日夜七時半から、地元の人たちを招いてお盆行事と死者ミサをおこなった。

東田島教会は十五日夜ミサのあと、町内の人を交えて盆踊り、花火大会、フォークダンスをひらいた。二〇〇名の参加で大盛況。

光ケ丘教会では十五日朝十時から死者ミサをおこない、隣接の納骨堂で祈りをささげた。

【平和祈願のミサ】吉塚教会では八月十五日ルルド洞くつ前で平和祈願のミサをささげ、ひきつづき特設のやぐらをかこんで盆踊りを楽しんだ。

### 五日間の黙想

福岡学生会

福岡カトリック学生会（会長宗信夫君＝九大医学部）では、八月二十日夜から二十四日昼まで、高宮教会で恒例の黙想会をおこなった。山東龍夫神父の指導で男女十八名の大学生が「聖書の実践」をめざして、真剣な祈りと話し合いをつづけたが、平田司教もげんその必要について説教し、最終日、味わいのふかいフォーク・ミサで散会した。

# 9月

1日（火）邦人・福岡地区司祭集会
6日（日）聖霊降臨後第16主日
メシアの到来のしるしの一つは、救いのよろこびが貧しい人々に与えられることだと、預言者は語った。キリストは、この預言のとおり、当時もっとも軽べつされていた人々、罪人やライ病者、下層の人に好んで近づき、かれらの友となり、神のいつくしみを明らかにした。今日の教会は、このキリストの模範を十分に生かしているだろうか。
8日（火）聖マリアの誕生
10日（木）日本の二〇五名の福者殉教者
キリシタン時代に全国で多くの人が信仰のために生命を捨てた。そのうち二〇五名が公式に教会で尊崇されている。福岡、佐賀、熊本にも殉教の場所は多い。
12日（土）15日（火）女子クルシリヨ開催
13日（日）聖霊降臨後第17主日
イエズスにむかって「あなたは神の子キリストです」と言えるのは、信仰のめぐみによる。しかし「苦しむしもべ」としてキリストに従うには、強い信仰の勇気が必要だ。行いを伴う信仰とは「自分を捨て、自分の十字架をせおってキリストに従う」信仰である。
14日（月）十字架称賛の祝日
悲しみときせいのしるしとしての十字架ではなく、キリストの栄光とわれわれの勝利のしるしとしての十字架を賛える。
15日（火）悲しみの聖母　敬老の日
母はこどもとともに苦しむ。マリアは御子キリストとともに苦しむ特別の使命を与えられていた。キリストの兄弟となるべき多くのこどもを生むために。
20日（日）聖霊降臨後第18日
平和をつくり出すことは大変な仕事である。平和は戦いなしには生まれない。それはまず自分の欲望との絶えまない戦いから始まる。他人にたいする優越感、それが人種差別、さく取の原因であり、闘争と憎しみが生じてくる。
23日（水）秋分の日
27日（日）聖霊降臨後第19主日
富を独占することは人間正義からいっても、信仰の立場からも許されないことである。国家間においても、個人間でも多く持っている者は、不足して苦しんでいる者を助ける義務がある。独占された富は腐敗する。「水一杯でも飲ませる人は、決して報いを失うことはない」とキリストは申される。
29日（火）大天使ミカエル、ガブリエル、ラファエルの祝日

### 教区内司祭の黙想会

9月6日―11日　北九州パリ宣教会司祭
10月10日―17日　熊本コロンバン宣教会司祭
10月18日―24日　邦人司祭

### 祈禱の使徒会

【一般意向】新聞雑誌の編集者が教会の教職に協力して、忠実に効果的にはたらくように
【祈禱意向】さまざまの文化に適応した典礼が、いつそう容易に、信者と教会との密接な結合に導くように

### 聖体礼拝

第一日曜　西新教会
第二日曜　飯塚教会
第三日曜　佐賀教会
第四日曜　八幡援助修道院

☆事務機械☆
・オリンピアタイプライター
ポータブル31.000～電動タイプ
・シャープ卓上電子計算機
マイクロコンペットQT―8
電子ソロバン99.800～13機種
・リコー・コピア電子・湿式複写機
・外事務機械　6回分割払可

事務機械・事務用スチール製品
事務用品の総合センター
有限会社シオタ事務機
TEL（092）52―5327
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎

☆スチール製品☆
・ロッカー　・書庫
・デスク　・イス
・金庫　・物品棚
・キャビネット　・会議用テーブル
・保管庫　・他スチール製全般
平日　8：50～17：30
土曜　8：50～15：30
（日曜祭日は休み）

# ジョックに聞く
# 自己のすべてを犠牲にして取組む
## 社会活動とそのむずかしさ

この数年、カトリックの中では「社会に働きかける」ということが、繰りかえし話題になってきた。しかしそれはかけ声ばかり、実際はいまだに方法をはあくできず、右往左往しているというのが現状のようだ。

そういうとき、社会の底辺で働く労働者にまじり、この人たちとともに、社会のムジュンと闘っているジョックの姿には、社会に働きかけようとする教会に、大きな示唆と反省を与える何かがあるのではなかろうか。

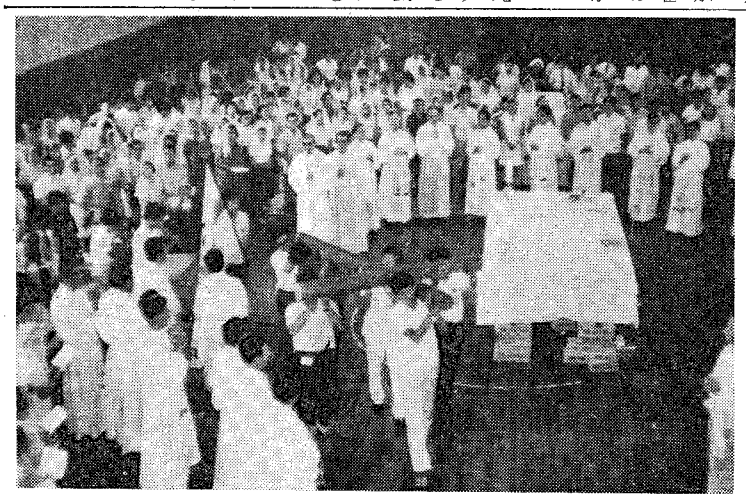
八月十日、おりからの炎暑のなかをジョックの拠点ともいうべき北九州に出かけ、指導司祭とジョシストに、その活動のもようを聞いてみた。

## 北九州に集中

ジョック（JOC・カトリック青年労働者連盟）は、ベルギーのカルデン神父によってはじめられた。カルデン師は首都ブラッセルに近いアルという町に生まれ、一九一二年、レケン教区の助任司祭となった。ここで男子青年労働者のグループを作り、その第一回の集会で、労働問題をとりあげたが教会の小さな革命といわれるジョックのスタートであった。

ジョックが日本に来たのは一九四九年。パリ外国宣教会のムルグ神父によって、北九州ではじめられた。いま教区でジョックが活動しているのは、門司、小倉、黒崎、八幡、若松。近ごろ久留米にもできるそうだが、ほとんどが北九州に集中している。

北九州のジョックは女性を含めて約六十人。広域のわりに人が少ないのは、その活動のむずかしさによるという。指導司祭のA神父は、ジョックの活動は非常に困難で、その困難を耐えぬく覚悟ができれば、簡単に会員になることはできません。それに会員の資格が年令三十歳まで、未婚者でなければならないということも影響しているでしょう』と話してくれた。



苦しみの十字架はみなと一緒にになって

## 合理化反対で首

ジョシストたちの信条は、『社会の底辺で苦しんでいる労働者の中で、神とともに働き、その人たちといっしょに向上しよう』ということ。ジョシストのBさんは、

『この人たちの中にも神がいると思います。だから私たちは、この人たちの中の神をひきだし、ともに苦しみ、導いてゆきたいのです。』

社会の底辺で働く労働者――その人たちの働いているところは、中、小企業の、組合もない、せいぜい二、三人の工員が働いているという町工場が多い。そういう工場で働いている人たちは、ろくに休憩もされない過重労働と、私たちが想像もできないような低賃金に苦しんでいる。『この人たちにはレジャーも娯楽もないだろう。私たちと同じ人間が、こういう状態にあってよいのか』というのが、ジョシストの気持である。だがこの人たちの中にまじって働くということは、そんなに生まやさしいことではない。工場の中でジョックの仕事をはじめると、たちまち親方の押さえつけがのしかかってくる。ジョシストCさん（女性）の話だが、こういうことがあった。

Cさんが勤めていたのは、小さな町工場。Cさんを入れて三人の女性が働いていた。ある日、その一人がCさんのところにやってきて『Cさん、大変。近いうちに新しい機械を入れて、機械を使えない者は追い出すという話よ。どうしたらいいの』と訴えた。ちかごろはやはり合理化がはじまった訳だ。Cさんは合理化反対のリーダーとなった。だが組合を持たぬかなしさ、Cさんはすぐ首になってしまった。

この事件は裁判に持ちこまれた。工場の側に労働基準法違反があり、弁護士のすすめで、工場がCさんにあやまってケリがついたが、このような合理化反対、あるいは組合を作るという闘いの中で配転になり、首にされるということは、ジョシストにとってはふつうのことだそうだ。

## 資本家との対決の中で

こんな闘いは、ジョシストが自己のすべてを犠牲にしなければできない。資本家の悪に面と向って対決してゆく中では、自己の昇給も昇進も考えることはできない。一般の信者には、こういうジョシストを『ジョシストは職制になることを禁じられている』と思っている人があるが、A神父は『それが誤解ですね』という。

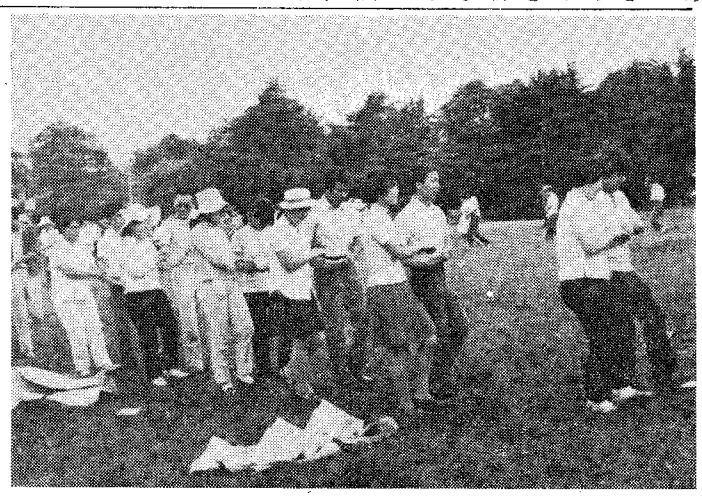
『ジョシストの中には、職制になる人がないでもありませんが、私たちはそれを悪いことだとは考えません。ただジョックにはジョック規則がありますから、そういう場合は、その人にふさわしい別の使徒職に代ってもらうのです』

ジョックのそういう姿勢の裏には、貧しい人たちとともにあるためには、自分も貧しい者でなければならないという考え方がある。それは、キリストの貧しさに習うということだ。この人たちはそのために、聖書の研究と、自分の生活と活動の見直しを怠たらない。多忙な中から、毎週集って聖書の研究会をひらく。聖書に書かれたキリストの生活を見直し、自分たちの生活と活動を見直し、反省する。Bさんはそれを、

『ジョシストはみな若いので、信仰的には初歩の人が多いのです。だから私たちは、信仰を活動の中に見失なわないためと、自分たちの活動を片よらせないためにたえず聖書に学ばねばなりません』と説明する。

この人たちが、自らを、底辺の労働者とともに置くことを、どんなに真剣に考えているか、つぎの挿話は、何よりもよくこの人たちの考えを伝えてくれるのではあるまいか。

ジョシストのDさんは、ある工場で下請けを使って働いていた。ジョックに入って、下請けの人たちの苦しい条件と生活を知ると、これではいけないと考えはじめた。『自分も、下請けの人たちと同じ立場に立たなければ、使徒職を果たすことができない』『自分が貧しくなければ、この人たちの中にいても神を証明することはできない』そういう思いが、走馬燈のように頭をかすめた。Dさんは間もなく、下請けの人たちの組合を作るために奔走した。Dさんを待っていたのは、やはり配転という障害だったが、Bさんは、こういうDさんの動きを『Dさんの行ないはジョック精神のあらわれです』といっていた。



わかい労働者の友となって

## 誤解されたジョック

社会の底辺で働くジョックについては、いろいろな誤解がある。それがジョックが北九州から外に広がらない原因になっているが、神父の中には『ジョックがやっていることはいきすぎている。危険だ』と考えている人があり、そういう神父は、実際にジョックを自分の教会に入れようとしないそうだ。

『いきすぎ』あるいは『危険』ということが、何を根拠にしたものかはわからないが、その前提には、労働運動を共産党と同一視しての事なかれ主義、ことばを変えれば憲病以外の何ものでもあるまい。今日、カトリックの『社会への働きかけ』が進渉しないことの中には、神父のそういう不徹底な姿勢が、大きな障害になっているのではないかということも、いちおう考えてみてよいのではあるまいか。

ジョックに対する誤解は信者の中にもある。そのひとつに『ジョックは教会の中の仕事をしない』という声がある。これも全く根拠のない非難であって、そういうことをいう人達には、ジョックがいまやっている仕事、その困難さかげんを知っているかと質問したくなる。A神父は、

『そういう声を聞きますが、ジョックは社会で働くグループ、教会内部の仕事まではとても手がつきません』と言っていたが、カトリックの中には、そういう臼さきだけの批判が多すぎるのではあるまいか。

そういうことには近よらないという、古い考え方が横たわっているのではないか。もしそうであればこれはこっけいなことで、労働者のために働くという点でにていても、共産党とジョックではすでに出発から違っているのである。こういう考え方は、裏を返せば、実はジョックに対する理解が全くないということになりはしないか。また『危険』ということばは、宣憲の干渉に会うことをさしていると思われるが、それは権力を恐れての事なかれ主義、ことばを変えるということも、も一度よく考えてもらいたいと思います』

三時間にわたる討議を終えたときは、すでに陽が沈み、教会のまわりは薄暗くなっていた。爽竹桃のピンクの花が、くっきりと電灯の中に浮き出ている。その電灯の下で、Bさんは

『将来は信者さんたちとも手を取りあうつもりですが、現在の姿勢は崩したくありません』といいA神父は

『将来社会問題にもタッチするよう努力しますが、そのためには人材の養成と、会員の一人一人に、自分の使命を自覚させねばなりません』と語った。電灯の下におぼろに浮かんだ二人の顔を見ながら、この人たちの活動を少しでも容易にするために、信者も使徒職も、ジョックの精神と活動を理解し、積極的に協力しなければならないと強く感じたが、いっしょにいたレジオのFさんは、

『各教会に、レジオやジョックを作りたいですね。神父さまの中には、ジョックを作ろうというとうちには立派な婦人会がありますという人がいます。そういうことでは、いつまで立っても教会の一致はできませんよ』と語っていた。

## ジョックを批判する

ジョシストの話を聞いていると、その積極性、勇気など、頭の下がることが多いが、しかし批判が全くないわけではない。

福岡の信者Eさんは、『ジョックの活動の困難なことはわかるがしかしその活動が、社会の底辺で働く労働者を救うことだけに終始してよいものでしょうか。ほかの使徒職、また外部の団体とも協力して、活動の幅を広げるべきではありませんか』といい、つぎのような意見を述べてくれた。

『社会の動きが複雑になり、大きな社会問題が、つぎつぎに社会の表面に出ているとき、ジョックは労働者の救済、それも個人の接触になるという、コソクなやり方で満足していてよいものでしょうか。私はそれより、労働者全般の問題に目をそそぎ、大きな意味での労働者救済に乗り出すべきではないかと考えます。またジョックという枠の中に止まらず、信者とも、他の団体とも協力しあわなければ、今日の労働者運動はできません。そこまで行って、はじめてカトリック労働者運動としての、ジョックの意義が認められるのではないですか。私は指導司祭にもジョシストにも、社会の在り方がジョック創立当時とは一変してい


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

栄養のバランス
牛肉、かしわ、豚肉類
松井忠食肉店
北九州市小倉区旦過市場内
電㊷4015

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL 65・4718

辞書は三省堂

# 福岡教区信者状況

（昭和45年6月30日現在）

| 教会＼種類 | | 洗礼 臨終外 大人 | 洗礼 臨終外 子供 | 洗礼 臨終時 大人 | 洗礼 臨終時 子供 | 求道者 | 結婚 信者間 | 結婚 混宗 | 信者数 今年度 | 信者数 昨年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 邦人司祭地区 | 茶山 | 2 | 21 | 0 | 0 | 4 | 4 | 1 | 466 | 433 |
| | 大名町 | 38 | 17 | 1 | 0 | 30 | 8 | 14 | 975 | 935 |
| | 二日市 | 8 | 4 | 1 | 0 | 7 | 4 | 1 | 200 | 194 |
| | 箱崎 | 1 | 1 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 110 | 112 |
| | 東田島 | 7 | 8 | 0 | 0 | 12 | 0 | 2 | 189 | 169 |
| | 光ケ丘 | 9 | 15 | 0 | 0 | 5 | 5 | 10 | 407 | 392 |
| | 本郷 | 0 | 18 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 678 | 663 |
| | 今村 | 4 | 18 | 3 | 0 | 3 | 6 | 3 | 1,200 | 1,266 |
| | 地行 | 2 | 6 | 0 | 0 | 19 | 1 | 0 | 281 | 308 |
| | 浄水通 | 2 | 2 | 2 | 0 | 30 | 0 | 3 | 206 | 208 |
| | 古賀 | 3 | 5 | 0 | 0 | 13 | 0 | 4 | 206 | 173 |
| | 久留米 | 7 | 31 | 7 | 6 | 9 | 0 | 10 | 1,156 | 1,194 |
| | 馬渡島 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 462 | 492 |
| | 美野島 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 172 | 186 |
| | 西新 | 6 | 6 | 1 | 0 | 7 | 3 | 2 | 474 | 458 |
| | 小郡 | 2 | 3 | 0 | 0 | 3 | 1 | 2 | 183 | 172 |
| | 大楠 | 2 | 5 | 0 | 0 | 9 | 0 | 1 | 144 | 186 |
| | 大牟田 | 17 | 10 | 0 | 0 | 6 | 1 | 5 | 299 | 288 |
| | 高宮 | 7 | 13 | 0 | 0 | 19 | 3 | 5 | 557 | 501 |
| | 呼子 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 437 | 459 |
| | 吉野 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 43 | 55 |
| | 吉塚 | 7 | 5 | 1 | 0 | 10 | 2 | 4 | 359 | 347 |
| ミラノ会地区 | 伊万里 | 6 | 2 | 0 | 0 | 5 | 1 | 1 | 148 | 147 |
| | 唐津 | 7 | 8 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 212 | 222 |
| | 鹿島 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 90 | 104 |
| | 佐賀 | 8 | 13 | 28 | 0 | 26 | 1 | 3 | 455 | 430 |
| | 武雄 | 3 | 3 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 76 | 73 |
| | 多久 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 86 | 90 |
| | 鳥栖 | 1 | 6 | 0 | 0 | 4 | 1 | 1 | 148 | 140 |
| パリー会地区 | 八王寺 | 26 | 4 | 0 | 0 | 20 | 2 | 6 | 310 | 310 |
| | 本城 | 8 | 2 | 0 | 0 | 19 | 0 | 0 | 200 | 200 |
| | 飯塚 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 178 | 208 |
| | 小倉 | 15 | 39 | 1 | 1 | 33 | 2 | 25 | 2,208 | 2,154 |
| | 黒崎 | 23 | 12 | 0 | 0 | 22 | 6 | 12 | 1,029 | 1,027 |
| | 水巻 | 1 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 337 | 317 |
| | 門司 | 9 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 426 | 392 |
| | 門司港 | 2 | 4 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 151 | 154 |
| | 直方 | 4 | 4 | 0 | 0 | 4 | 3 | 1 | 185 | 181 |
| | 新田原 | 0 | 34 | 9 | 2 | 6 | 7 | 2 | 1,344 | 1,355 |
| コロンバン会地区 | 川内 | 4 | 2 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 121 | 152 |
| | 町田 | 9 | 4 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 424 | 405 |
| | 神畑 | 46 | 14 | 0 | 0 | 37 | 4 | 10 | 1,176 | 1,068 |
| | 天戸 | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 378 | 375 |
| | 若松 | 4 | 10 | 0 | 0 | 7 | 6 | 2 | 648 | 647 |
| | 湯川 | 6 | 18 | 0 | 0 | 3 | 2 | 1 | 379 | 380 |
| | 橋尾 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 51 | 56 |
| | 吉人 | 4 | 1 | 8 | 0 | 10 | 1 | 1 | 234 | 246 |
| | 渡軍 | 7 | 2 | 2 | 0 | 6 | 0 | 2 | 169 | 173 |
| | 池侯 | 7 | 7 | 2 | 1 | 23 | 0 | 6 | 394 | 399 |
| | 菊水 | 2 | 5 | 0 | 0 | 11 | 0 | 1 | 350 | 342 |
| | 帯山 | 7 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 178 | 174 |
| | 江津 | 2 | 5 | 1 | 0 | 17 | 0 | 1 | 264 | 246 |
| | 崎名 | 2 | 9 | 1 | 0 | 2 | 1 | 4 | 565 | 573 |
| | 取代 | 1 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 321 | 354 |
| | 八 | 14 | 4 | 13 | 7 | 33 | 1 | 1 | 473 | 465 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 65 | 61 |
| | | 22 | 15 | 3 | 0 | 20 | 5 | 9 | 835 | 829 |
| | | 8 | 3 | 9 | 0 | 7 | 0 | 4 | 277 | 261 |
| | | 402 | 475 | 93 | 17 | 534 | 98 | 181 | 24,151 | 23,903 |
| | | | | | | | | 増加数 | | 248 |

# 教区年度統計発表

このたび発表された福岡教区の昭和四十五年六月末日現在統計によると、信者総数は、聖職者と信徒あわせて二万四千九百五十九名。大人、子供の臨終外の受洗数は八百七十七名で、昨年に比べ五十二名の減。求道者も五十九名減少している。なお他教区への転出が転入より約三百名多い。これも農村人口の大都市への流出のためと見られる。また使徒職団体の会員がおしなべて減っているのも目立つ現象である。

| | | |
|---|---|---|
| **信徒の総数** | | 24,151名 |
| **地区別信徒数** | | |
| 邦人司祭地区 | | 9,266 |
| ミラノ会地区 | | 1,215 |
| パリ会地区 | | 9,494 |
| コロンバン会地区 | | 4,176 |
| **小教区数** | | 58 |
| 巡回教会 | | 10 |
| **信徒増加** | | |
| 臨終外の洗礼 | | 877 |
| 本教区外からの転入 | | 427 |
| 他理由による | | 189 |
| **信徒の減少** | | |
| 死者 | | 156 |
| 他教区へ転出 | | 713 |
| 他理由による | | 374 |
| **臨終時の洗礼** | | 110 |
| **聖職者** | | |
| 司教 | | 2 |
| 邦人司祭 | 教区司祭 | 38 |
| | 修道司祭 | 7 |
| 外人司祭 | | 63 |
| **神学生** | | |
| 教区大神学生 | | 8 |
| 教区小神学生 | | 32 |
| **修道士** | | |
| 邦人 | | 2 |
| 外人 | | 6 |
| **修道女** | | |
| 邦人 | | 386 |
| 外人 | | 39 |
| 修練・志願者ら | | 146 |
| **カテキスタ** | | |
| 男子 | | 1 |
| 女子 | | 18 |
| **学校** | | |
| 大神校校 | 1 | 61 |
| 小神学校 | 2 | 58 |
| 短期大学 | 1 | 161 |
| 高等学校 | 9 | 5,479 |
| 中学校 | 7 | 2,224 |
| 小学校 | 3 | 1,371 |
| 各種学校 | 5 | |
| 幼稚園 | 57 | 10,689 |
| 保育所 | | |
| 日曜学校 | 41 | 3,324 |
| 学生寮 | 3 | 1,017 |
| **病院** | 3 | |
| ベット数 | 207 | |
| **老人ホーム** | 5 | 317 |
| **養護施設** | 11 | 581 |
| **信徒使徒職団体** | | |
| JOC（F） | 8 | 89 |
| レジオ支部 | 27 | 264 |
| 学生会 | 10 | 133 |
| SVP会 | 9 | 61 |
| ボーイスカウト | 5 | 151 |
| 医師会員会 | 2 | 5 |
| 国鉄職協会 | 3 | 41 |
| 看護協会 | 3 | 48 |

# 熊本で街頭募金
## ルーテル教会と共同で

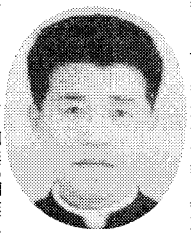
熊本市内四教会では七月中旬、同地のルーテル教会と共同で、四日間にわたりペルー大震災救援の街頭募金をおこなったが、信徒の積極的な活動で合計四十万円の浄財があつまった。募金は東京のローマ教皇庁大使館に送られた。


（写真は募金風景）

# 池田紀行師叙階

福岡市吉塚教会出身のマリア会員池田紀行師は、去る七月四日東京カテドラルで自柳大司教から司祭に叙階された。

池田師は昭和十五年福岡市の生まれ、三十三年福岡泰星高校一年のとき大名町教会で受洗、三十五年東京暁星高校卒業、マリア会入会、三十九年上智大卒業後、三年間泰星高校で教諭として勤務、四十二年東京カトリック大神学院入学、四十四年卒業。両親の敏雄さんとアサノさんは粕屋郡粕屋町阿恵に居住。吉塚教会では七月十二日に池田神父の歓迎記念ミサがおこなわれた。



# 田中輝義師帰国

一昨年四月ローマで司祭に叙階され研学中であったフランシスコ田中輝義師は、病床の父親（福岡県糸島郡二丈町）を見舞うため帰国したが、両親に洗礼をさずけて九月中旬ローマにむかう。



田中師は昭和七年まれ、糸島高校大名町

# 聖ペトロ献金

（七月五日）

一一、〇〇〇

# 司教が社研グループを激励

福岡カトリック社会問題研究会（水波朗九大教授会長）の若いグループ一同は、七月四日平田司教とはじめての公式会合をおこなった。この会合ではまず同会発足から三年間の経過を報告。司教は「教会にはりっぱな社会理論がある、しかしいまは理論から日常の具体的な社会問題に取り組み、その解決を正しく求めてゆく時であろう。そのためにも各教区に社会問題を研究する人々のグループの結成が大切である。みなさんいっそうの努力を望む」と激励。深堀敏師を本会の指導司祭に任命することを発表した。

同会は東京にあるカトリック社会問題研究所（ムルケ神父所長）の教区フレンチともいうべきもので、月例会をひらいている。水波教授をかこんで

上智大卒業。二十五年十二月福岡市地行教会で受洗、三五年カルメル修道会に入り、三九年四月ローマの聖テレジア学院神学部に留学。同会ミラノ管区に所属。

# 高校生大会ひらく

カトリック高校生会では、八月十七日から三日間、久留米市の信愛女学院短大で教区大会をひらいたが、約八十名の学生、教師が「燃えいづる陽」のテーマのもとに、若さと熱意を使徒職に燃え上らせる道をさぐった。会場を心よく提供した学校側の行きとどいた配慮に、参加者一同ふかく感謝していた。内容詳細は次号に発表。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 浄水通 | 四、六〇〇 | 天神 | ― | 古賀 | 二、八〇九 | 人吉 | 一〇、〇〇〇 | 荒尾 | 二、八〇〇 | 手取 | 三、〇〇〇 |
| 地行町 | 三、八〇五 | 黒崎 | 八、四一八 | 二日市 | 一四、二〇〇 | 木渡 | 四、〇〇〇 | 健軍 | 四、〇〇〇 | 新田原 | 四、二八八 |
| 光ケ丘 | 五、四五〇 | 八王寺 | 五、〇〇〇 | 久留米 | 四、〇〇〇 | 健軍 | 六、六七三 | 健軍 | 三、二六〇 | 行橋 | 四、六七〇 |
| 西新町 | 四、五〇〇 | 本城 | 一、四二〇 | 大牟田 | 三、〇〇〇 | 菊池 | 二、六一〇 | 帯山 | 一八、〇〇〇 | 八代 | 七、五七〇 |
| 美野島 | 二、三一〇 | 水巻 | 三、一〇七 | 唐津 | 一、三〇〇 | 玉名 | 三、〇二〇 | 水俣 | 三、〇二〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 高宮 | 一〇、二五〇 | 直方 | 二、〇〇〇 | 佐賀 | 一、七〇〇 | 島崎 | 一九、〇〇〇 | 崎津 | 四、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 吉塚 | 一、二〇〇 | 飯塚 | 二、〇〇〇 | 武雄 | ― | 島崎 | 二、〇〇〇 | 崎津 | 一、五〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 茶山 | 四、五〇〇 | 田川 | 一、六〇五 | 鹿島 | ― | 名取 | 三、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 箱崎 | 一、六七〇 | 行橋 | 三、八〇〇 | 多久 | ― | 菊池 | 三、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 大楠 | 四、二八八 | 新田原 | 七、〇〇〇 | 門司 | 一、七四五 | 池侯 | 二、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 東田島 | 三、〇〇〇 | 手取 | 一二、〇〇〇 | 門司港 | ― | 菊池 | 二、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 古賀 | ― | 荒尾 | 四五〇 | 小倉 | 五、五五九 | 玉名 | 二、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 二日市 | 二、八〇九 | 人吉 | 一〇、〇〇〇 | 湯川 | 一、六〇〇〇 | 島崎 | 一九、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 |
| 一四、二〇〇 | 木渡 | 四、〇〇〇 | 若松 | 五、〇〇〇 | 崎津 | 四、〇〇〇 | 八代 | 六、〇〇〇 | 大江 | 一、〇〇〇 | |
| 合計 二五六、四二九円 | | | | | | | | | | | |


読書の秋にお届けする　良識とユーモアの書　カンドウ全集

哲学者　安部能成氏
日本人の心理と習慣に熟した親友

仙台司教　小林有方師
カンドウ師の目標は、日本的教養を高め、その頂きにキリスト教精神の実りの花を咲かせることにあった

池田敏雄編
B6・函入り

第一巻……講話集
人間の問題と問題の人間
¥780

第二巻……人物紹介講話集
物質主義か
精神主義か
¥700

第三巻……戦後の論文集
¥650

第四巻……随筆・日記・書簡集
¥870

別巻1……人類愛の使徒
¥500

信仰と教養の書としてぜひ座右におそなえください。

望パウロ書院
大名町　TEL㊷―4588
セントポールコーナー
岩田屋　TEL ㊷ 0131

# 教養



## 他人もいるのだ

吉向キヱ

原爆二十五周年をあすにひかえた八月八日の夜、わたしは長崎市稲佐山の頂上にある展望台にのぼった。宝石をちりばめたような長崎市内の夜景、五島灘のゆるやかなうねり、岬の燈台の灯、満天の星空、すべて二十五年まえの原子野を想起する者には胸迫るものがあった。

展望台は、夜のむし暑さをしのぎに来る人たちもいてにぎわっている。ふと展望の目を足もとに移すと、展望台上はマッチの軸、たばこの吸いがら、キャンディの包み紙、新聞紙の切れはしなどあちこちに散乱し、階段の手すり、展望台のまわりのさくは落書きでおおわれている。さくは鉄鋼でできているから刃物か釘のようなものでやったのであろう。「ミッちゃんきみが好き」などというのが目にとび込んだ。風の吹きぐわいによってか、下の共同便所からいやなにおいが立ちのぼってくる。わたしはわびしい思いで展望台を下りた。

後日、その話をしていたら、よく旅行する友人が、日本じゅうどこへ行っても多かれ少なかれ、公共の場所というのはそんなものよ、と言った。地方自治体は、腕っぷしが強く、人間性にあふれた見張人を高給で雇い、公共の場所に配置する。見張人は朝から夜まで交替でたえず見廻り、ゴミや紙くずをゴミ箱以外の所に捨てる人をを目撃したら、おとなでも子どもその場で捨てたゴミや紙くずを拾わせ、ゴミ箱に捨てさせる。落書きも同じ、現行をとり押さえて教育する。そんなふうにならないものだろうか。GNP第二位の文明国人には、このうえなくばかばかしいことにはちがいないけれど。

公共道徳などというなまぬるいものではない。こういう実状の根底にあるものは、非常に重大なことに思えてならない。この世には自分だけがいるのではなく、他人もいるのだ。あたりまえではないか。だが、このあたりまえのことが、なかなかあたりまえにならないのである。そこで、幾度も幾度も認識し直す必要があるのだ。この世には自分だけがいるのではなく、他人もいるのだ、と。いま、国じゅうあげて大騒ぎしている公害も、この時点から出発しないと解決しないのではないか。

哲学者森有正氏は、日本人における人間関係は、上下関係を軸とする二項方式的私的結合が中心になっている、すなわち、日本人は君臣、師弟、恩人に対する関係、兄弟、親子、夫婦、どれもこの上下的、私的二項関係に極度に敏感であり、それ以外の、つまり、他人に対しては極度に無関心であると指摘している。社会（自分と他人との集合）という視野がはなはだしく欠けているのである。残念ながらこれはほんとうのようである。

では、第三者的なものに対して私的なものと同じように敏感で、注意深く、建設的であるために、いま、わたしに何ができるか。

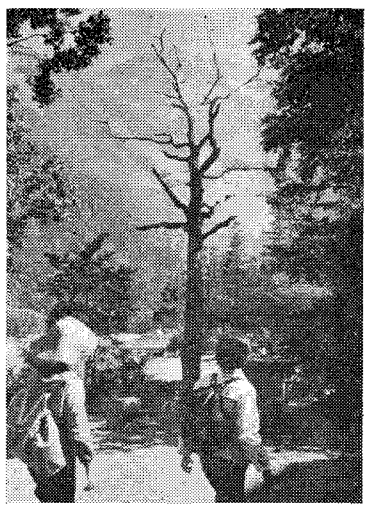
ブラジルはサッカーの強国で知られているが、そのサッカーの中心であり、ブラジル国民のアイドルは、サッカー・キング、ペレである。ペレは十六歳でサントス・クラブのプロとなり、四カ月でブラジル代表になり、現在なおその地位はゆるがない。ことし二十九歳になったペレが、「あなたはサッカーから何を得たか」という問いにこう答えている。

「フットボールは自分にすべてを与えてくれた。まず、人間として、他人を尊敬すること、忍耐心、共同生活の秩序を学んだし、小学校しか出ていないわたしに、外国やその国の人々を知る機会を与えてくれた。それはずいぶん大きな収穫であった……」

ペレは自分の選んだ仕事（スポーツ）を通じて、自分に不断に克かちながら、労働を通じて、他人に対する関心を収穫したのである。

森有正氏は「"他人に対して"それこそが現実であり、それ以外に人生と世界との意味はない」と断言している。とすれば、わたしたちもペレのように、自分に即して勤勉に仕事をし、その堆積を待ち、労働を通じて人を見、自然を見、世界を見ることを学ぶしかない。これは、わたしも、いますぐできることだ。

稲佐山にのぼった翌日、長崎文化会館で原爆関係の資料を見た。その中で永井隆博士の色紙の一枚が、いまさらのように鮮かに脳裡に残った。「如己愛人」（よしむき・きえ、聖パウロ会シスター、「あけぼの」編集者）



## 俳句　赤のまま

斉藤雪江

干拓の実り田に赤きバス走らす
実り田にバスの歌声ころがり出る
今日も続く闘争曼珠沙華の列
女教師の哀しさ　たどる草紅葉
池涸れて料亭長き脚を持つ

（自鳴鐘所属）

# 聖書とミサ

## 神の前に集まり　信仰を叫ぶ民

昨年十一月末から施行された新しいミサ式次第では、ミサ聖祭は司祭と信者の相互のあいさつで始まる。「主イエズスの恵み……皆さんとともに」「また司祭とともに」。このようなやりとりは、じつは神の民の喚声、歓呼から起こったもので、長い伝統をもっている。いま聖書のなかにそのあとをたどってみたい。

### かちどき

サムエル上によると、フィリステ人と戦っていた選民は、勝利をうるためにシロにあった聖ひつを陣営に移した。そして聖ひつが「陣営につくやいなや、イスラエル全体は地をとどろかせるほどの叫び声をあげた」（4・4―5）が、さらにエルザレムに運ばれたときにも「ダヴィドとイスラエルのすべての人々は、歓呼とラッパのとどろきのうちに、主の聖ひつを運んでいった」（同下6・15）といわれている。

民がエリコを攻略したときもかれらは主の聖ひつをかつぎ、ラッパを吹きならし、かちどきをあげながらこの町の周りをまわった。「み民が大声で叫んだとき、城壁はくずれおち、人々はまっしぐらに町に攻め入って、それを占領した」（ヨズエ6・6―20）。

やがて民の歓呼は王をたたえる儀式の一部として採用された。サロモン王の即位のときにも、「司祭サドクは、天幕から油の角をとり、ラッパのひびきとサロモン王万才というみ民の歓呼のなかで、サロモンに油をそそいだ」（列王上1・39）。



### アーメン

民を神の前に結集させる強く簡潔な歓呼は〝アーメン〟である。アーメンとは「賛成」という意味で、第二の法の書をみると、神の掟を守らぬ者への呪いにたいしてみ民はアーメンと答え、（27・15、19）また神への賛美にたいしてもアーメンを叫んでいる。

「イスラエルの神ヤーウェは、永遠から永遠まで、たたえられよ。すべての民は、アーメンと答えよ」（詩一〇六・48）。

### 信仰の誓い

民の歓呼、はだんだん一種のやりとりの形式に発展してゆく。シナイ山の契約を更新する毎年の大集会において、ヨズエは神の恵みをのべたあと、こう言う。

「お前たちは主を恐れ敬まい、完全な誠実さで仕えよ、もし主に仕えるのを望まなければ、だれに仕えるかを選べ。私と私の家族は主にのみ仕えたい」。民はこれにたいし信仰を表明して「私達も主にのみ仕える覚悟だ、主と私達の神だから」と答える。

ヨズエと民とのやりとりは、神への奉仕をめぐってさらにつづいてゆく。

### 希望の叫び

来るべきヤーウェの日の到来を預言者たちは、角笛のひびきと喚声のなかで告げる。「主の日は近づいた、その恐ろしい日が、その日は怒りの日、角笛のひびき、ときの声の日」（ソフォニア1・14―16）。初代教会の信者も「アラナタ、主よおいで下さい」という祈りの叫びのなかで、この日を待望した。

このように歓呼は、信仰のほかに民の結合、待望を表わすものである。これが今回のミサ新典礼にとり入れられたのだ。最初のあいさつ、あわれみの賛歌、栄光の賛歌、信仰宣言、朗読のあとの「神に感謝」。感謝の賛歌などみなそうである。

# 中宮寺の思惟像



谷口鉄雄

戦時中、私は広島高等学校（旧制）の先生をしていましたが、戦争が苛烈になるにつれて、私の教え子の中にも、大学に進学すると間もなく軍隊に召集されるものが多くなりました。私の親しくしていた数人の大学生も、そのことを予測して、出陣する前にぜひ奈良の仏像を見て廻りたいと、私のところに相談にきました。

当時は、すでに食糧事情も非常に悪くなっていたときで、奈良に行っても旅館すらおぼつかない時勢でした。そのことを説いて思いとどまらせようとしたのですが、かれらは、お寺に泊めてもらうかあるいは野宿してでも奈良を廻りたいと熱心に説きました。

そうしてかれらは、ついに奈良の見学に出かけましたが、その後やはり命運のごとくに召集され、戦場に出て行って、その中のいく人かは、ついに帰らぬ人になってしまいました。私は、いまでもその学生たちのことを思うと、目頭が熱くなります。

かれらが、リュックサックに入れて奈良見学にたずさえて行ったのは、和辻哲郎さんの『古寺巡礼』です。私も、学生時代にはじめて奈良見学に行ったとき、たずさえて行ったのは、やはり和辻さんの『古寺巡礼』でした。いまでもはじめて奈良見学に行く学生に私がすすめるのは、『古寺巡礼』と会津八一さんの歌集『鹿鳴集』です。

『古寺巡礼』は、和辻さんが三十才のときに書かれたものでありそこには古美術への若々しい情熱と鋭かな感受性がありますが、さらにその上に、東西の文化史にわたる広い知識に裏づけられた東西文化の比較論が、豊かな構想力をもって自由に展開されています。そういう点が、人々の心を強くとらえたのだろうと思います。

しかし、ただ一つ（ここでは一つだけ挙げますが）、私には不満の点があります。それは、奈良の中宮寺の弥勒（みろく）菩薩（ぼさつ）像にかんするくだりです。

中宮寺の弥勒菩薩像はあまりにも有名であって、すでに写真でなじんでいる人も多いでしょうし、また修学旅行のときには必ずといっていいほど見学に立ちよる仏像です。

この像は、もと如意輪（にょいりん）観音とよばれていましたがこの像と同じ姿勢をとった野中寺（大阪府）の像に彫られている銘文によって、弥勒菩薩ということに訂正されました。

ご存じのように、この像は、左足を垂れて蓮の台の上にのせ、右足を左足の膝の上にあげ、右手を曲げて頬にあてた、いわゆる半跏（はんか）思惟（しゅい）像です。

非常にやさしい、慈愛にみちた像であって、和辻さんは、この像を西洋の聖母マリア像と比較しつつ、「人間の心奥の慈悲の願望がその求むるところを人体の形に結晶せしめたものである」といい、「純粋な愛と悲しみとの象徴」とたたえています。

それは、その限りにおいて、和辻さんのいわれる通りだと思います。しかし、それだけでこの像の意味がつくされているでしょうか。もっと大事なこと、いや、いちばん肝心なことが抜けてはいないでしょうか。

この像の写真をお持ちの方は、この像の足の指先を見ていただきたい。蓮の台の上にのせられた左足の指先は、べったりと台の上に着いているのではなく、指先がぴーんとそりかえっています。右足の指先も同じように緊張してそりかえっています。足の指先を緊張させて立てるのは、私たちの体験から考えても、思惟を一点に集中して張りつめているときの姿です。

仏教では、思惟というのは、単に思考するという意味ではなく、非常に深い重い意味があります。中宮寺のこの弥勒思惟像は、単にやさしい慈愛の像であるだけでなく、その慈愛の相の底に、人間の存在に対する深い悲しみの思惟のあることを、その姿をとおして見なければならないと思います。

私は、戦場の露と消えたあの学生たちが、私たちを沁めた人間の存在について、いまもなお、深い永遠の思惟の中にあることを信じて疑いません。（たにぐち・てつお、九州大学文学部長）

◇本◇

『新しき創造』聖書の主題による瞑想詩、ピーター・ミルワード著、群山直訳＝新しい人、新しい世界、新しい天と地、そして新しい創造は、キリストの教えにおいて現代のわれわれに与えられている。キリストの教えは永遠に古くしかも永遠に新しい。著書は聖書のテーマを追いながら、キリストが二千年のむかし、人間に示したことを再発見するよう、読者に訴えている。（ユニバール文庫・一五六ページ・二八〇円）

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊷0568

大名町英語アカデミー
第2学期学生募集
開講　9月21日（月）　終講　12月16日
日時　毎週月曜・水曜，午後6時　から　7時15分
午後7時30分から8時45分
授業料　5，500円（入会金とテキストは無料）
教師　シュルツ神父ら外人教師数名
申込先　福岡市大名2丁目　カトリック教会
（西鉄グランド・ホテル前）TEL㊷―3687

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行

カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

# マリア信心と典礼は

## 教会憲章の黙想と研究から

十月はロザリオの月として伝統的にマリアへの美しい信心が実践されてきた。最近この信心はいたるところでおろそかにされているように見えるが、典礼の強調によって信心を無価値または余計なものと見なすようになったのであろうか。しかし典礼さえあれば信心は不要であるとの論理は成立しない。とくにマリアへの正しい信心は、教会のなかで公会議以来いっそう強く勧められているのである。

(1) まず教会憲章は、最後の一章を特別にさいてマリアがキリストおよび教会の秘義のなかで、どのような地位を占め、どんな役割を果たされるかを見事に説明している。この章を熟読したあとで、最近使用されている新しいローマ典礼暦、ミサの祈り、朗読聖書配分などを調べると、どれもがこの章に盛られていることにもとづいて編まれていることが解る。

(2) ローマ典礼暦によると、たとえば「神の母聖マリア」という荘厳な基本的称号が、一月一日すなわち主の降誕と公現の祝日のあいだに祝われる。それはマリアが神の託身の神秘と密接に関わり合うことを示す。

降誕祭や公現祭と同様、お告げや奉献の祭日もまず「主を賛える祭日」であるが、マリアはイエスを世に与えたものとして登場する。マリアの無原罪と被昇天は、神の母である地位から当然出てくる特典である。神の母、無原罪、被昇天、この三つが厳密な意味で「マリアの祭日」である。御訪問は五月末日に移されてマリア月のしめくくりとなる。

(3) マリアのミサで使用されていた聖書朗読箇所は、これまで知恵文学の書が大部分で、使徒書からは全くなかった。ところでマリアを神の英知と同一視することは誤解を招きやすいし、寓喩的解釈に不慣れな現代人には受け入れられにくいものである。

教会憲章では、マリアへの旧約聖書の適用は創3・15、イザヤ7・14、ミケア5・2―3だけである。すなわちベツレヘムの婦人、みごもって子を生む処女、誕生の地ベトレヘムである。

新しい朗読配分では、五世紀ごろの被昇天（実は神の母マリア）の祭日のものを参考にしている。使用されているのは、イザヤ7・10―15（処女が子を生む）ガラチア3・29―4・7（キリストは女から生まれる）ルカ1・39―56（ベトレヘムにイエズス誕生）。

(4) 現行のマリアのミサで旧約聖書はどのように使われているだろうか。まず無原罪では救いの最初の告知（創3・9―15、20＝教憲55）御告げではイザヤ7の預言、さらに契約のひつに関連ある箇所（歴代上15・3―4など）シオンの娘に関するもの（ソフォニア3・14―18）。詩篇では一三一、八六、一二二番などである。新約聖書ではガラチア4が中心になり、神の母の祭日に使われる。無原罪と御誕生ではキリスト者の召命の神秘を教える（エフェソ書1・3―6など）が使われる。マリアこそこの召命を完全に果たされた方である。被昇天はコリント前15で、キリストの復活とわれわれの復活のあいだに、マリアのそれを見る。

福音朗読については大きな変更はなされていない。

(5) 聖母マリアのミサ典礼が、教会憲章によって刷新されたいまマリア信心も同じ線にそって深められなければならない。

この信心は『一時的な感情や、あるむなしい軽信のなかにあるのではなく、真の信仰から出るものである』。そのためにマリアの役割と特権がいつもキリストにむけられていたことを、正しく認識しなければならない。われわれがキリストのご生涯のすべての神秘を悟れば悟るほど、その協力者であるマリアの姿が鮮明に浮び出てくる。そしてこどもであるわれわれは、母マリアの徳を学びとることが容易になってくるのである。

# リーダー養成研修会

## 北九州で、杉田師指導

北九州地区では信徒使徒職準備会主催で、八月三十日信徒リーダー養成の研修会を八王寺教会でひらいた。参加したのは司祭六名のほか男女信徒五十名。「七十年代に生きるカトリック者」をテーマに、信徒使徒職司教委の秘書杉田稔神父が指導にあたった。

まず「ひとはわれわれ信者をどういうような人間だと思っているか」を話題に五つの分科会で話し合い、一般教外者の信者観、北九州の信者は、信者のつとめのうち何を重要視しているか、私自身はどう考えているか、私は聖人になれると確信しているか、どんな努力をしているか、私はどんな布教をしているかなど、具体的な問いかけをめぐって掘り下げがなされた。

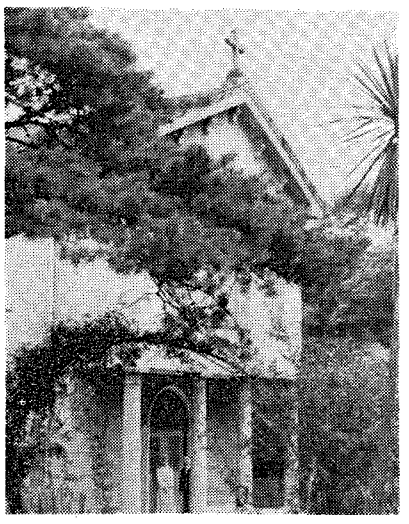
午後の部では杉田神父が「七十年代におけるカトリック者のヴィジョン」について、約一時間講演し、福音は信徒の理想をどう教えているか、公会議は何を要求しているか、最近の教会の動きから何を学ぶべきかなど、いまからの信徒の歩むべき道を明示した。つづいて分科会で講演内容を語り合ったが、教会の内部での使徒職だけでなく、ひろく社会に働きかけることこそ、これからの目標でなければならないとの自覚を深めた。

# 10月　ロザリオの月

3日（土）　幼いイエズスの聖女テレジア
4日（日）　聖霊降臨後第20主日
キリストの死と復活のめぐみに強められている夫婦は、誰よりもりっぱな結婚生活をいとなむべきではなかろうか。結婚のモラルが乱れている現代の社会に、正しい結婚、うつくしい家庭生活の模範を示すことも、使徒職の一つの道である。
手取教会で司教ミサ
ロザリオの聖母
7日（水）
11日（日）　聖霊降臨後第21主日
神のことばをきいて、それを悟るのがまことの知恵である。「私はいかに生きるべきか」の根本的な問題は、この知恵によって解決が与えられる。この知恵は光であると同時に熱であって、われわれの行動の源泉である。知恵が浅いと悟ったことも実践できない。金持の青年の欠点はそこにあった。
八王寺教会でドルエ師（ダイヤモンド祝）とボンヌカズ師（金祝）のお祝い
コロンバン宣教会司祭黙想会
熊本マリスト学園創立十周年記念式
アビラの聖女テレジア
カルメル会の改革者。9月27日に教会博士として宣言された。
13日（火）
15日（木）
聖霊降臨後第22主日
18日（日）
「奉仕する教会」ということばがよく聞かれる。なにも新しい表現ではないがどこまでひろく、ふかく奉仕するのかという点で、教会はいままでのせまいわくをのり越えようとしている。いまわれわれはキリストの福音を教えるだけでなく、社会のあらゆる階層の人々と苦楽をともにしながら、人間的向上に積極的に寄与しなければならないのだ。
教区邦人司祭黙想会
戸畑明治学園創立六十周年記念式と新校舎落成式
聖霊降臨後第23主日
四方の国々からさまざまの民が集まってくる。めくらも不具者も産婦も一つの大きな群となって父である神のもとに帰えってゆく。これは旧約の預言者が画いた人類のすがたである。父の家からにげ出し、遠い国に離散して苦しんでいた人間たちが、キリストにみちびかれて、はじめて救いと平安を見出すことができたのだ。
21日（水）
25日（日）
久留米信愛女学院創立十周年記念式
聖体礼拝
28日（水）
第一日曜　呼子教会
第二日曜　崎津教会
第三日曜　カルメル修院
第四日曜　高宮教会　手取教会　菊池教会

### 祈禱の使徒会

【一般意向】神学者や神の言葉の説教者が、教授や説教において教会の教職に忠実に一致するように
【布教意向】青年のあいだに、布教国の使徒職への意識と愛を育てるために



# ノートルダム修道院

## 北九州市戸畑区仙水町

北九州市戸畑区仙水町の『明治学園』は、十月二十一日創立六十周年の記念式典と、新築中だった教室と講堂の落成式をあわせ挙行する。この学校ははじめ明治紡績の附属で、明治小学校といっていたが終戦後明治紡績が解体するとき、経営をノートルダム修道会に移譲した。福島から修道会がきたのは一九四九年学校のはじまったのが一九五〇年。

このノートルダム修道会は、フランスの福者マルグリート・ブルジョワが、カナダに渡り、土地の人のために学校をひらいたのがはじまり。日本にきたのは一九三二年で、福島県福島市だった。現在福島市、調布市、戸畑区、奈良市、大分市に修道院がある。

戸畑区の修道院長は、メリー・オーシャンヌシーさん＝円内写真＝四九歳。カナダ、オンタリオ州の出身で、昭和三十一年に来日した。福島市の修道院に五年、東北大学で一年間勉強したこともあるという。専門は英文学、大柄でフランクな感じのシスター。

『この学校では、なによりも知恵、意志、感情のバランスのとれた、ほんとうの人間を作りたいと思っています』と語るシスターの表情は、ほんとうに真剣そのものだった。



修道院のシスターは二十一人。うち十八人が日本人で、みな明治学園の先生。キビキビした動作は見ていて気持がよいが、このシスターたちは、修道服を平服に着かえて外出するそうだ。

# 平田司教入院

平田司教は、健康診断で精密検査の結果、糖尿病の徴候が見られたため、九月九日から熊本市のイエズスの聖心病院に入院、治療をうけておられる。一日も早く健康を回復なさるようお祈りしたい。

# パウロ教皇、11月マニラへ

パウロ六世教皇は、今秋十一月二十四日からフィリッピンのマニラで開かれるアジア司教会議に参加なさる。そのあと豪州のシドニーでも太洋州司教会議が開催されるが、教皇は同司教団の要請に応じてシドニーにも赴かれ、その会議に参加なさる。

# 教皇から表彰

十月四日に行われた第一回カトリック社会福祉全国大会で、熊本市のマリアの宣教者フランシスコ修道院のシスター堤フサとシスター野田ヤスは、パウロ教皇祝福の表彰状を授与された。永年奉仕の業績によるもの。詳細は次号で。

# 神学講座

教区主催の神学講座第二学期が十月六日（火）から始まる。今回は「現代世界憲章と実生活との結びつき」について、ラベル、岩村両師が分担講義する。毎火曜日午後一時から三時半まで、福岡鯖葉学園。十二月十五日終講予定。修道者だけでなく、ひろく信徒一般の聴講が期待されている。参加者は「現代世界憲章」を持参のこと。

# 司祭異動

北九州本部付ボネ師（帰国）戸畑助任ベリオン師（日本語学校）休暇コーネリー師（手取助任）

☆会社の姿勢☆

得意先へ信用と誠実
社長自ら先頭に立つ
適正な利潤追求
サービスの徹底
よい製品を顧客の立場で
信用のためなら辞退もせよ
1日の終りに満足感を覚えよう

事務機械・事務用スチール製品
事務用品の総合センター
有限会社 シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
TEL（092）52-5327

☆社員募集☆

営業課　19才～29才　男女
商品課　19才～25才　男
経理課　19才～27才　女
固定給

（例）19才（男）24,000円
19才（女）23,000円
（交通費支給，4,500円まで　その他諸手当）

勤務時間
平日　8：50～17：30
土曜　8：50～15：30
（日曜、祭日は休み）

# 反省期のアクション・グループ

## ビンセンシオの活動をとおして

今日の日本には、沖縄、ベトナム、公害、教科書問題など、さまざまな問題が横たわっており、多くの人たちがこれらの問題のために闘っている。だがカトリックの中は全くの無風状態、沖縄の屈辱の中からの叫びにも、水俣病患者の悲惨な闘いにも、関心を示そうとする人はいない。ただひたすらに、自分の霊の救いを祈っているというのが現状だ。

〝カトリックが現代社会に対して、どんなに正しいことをしているか〟が問われているとき、僅かに面目を保っているのは、ひとにぎりの信徒使徒職――ジョック、あるいはビンセンシオなど、アクショングループに集まっている人たちの活動だが、この回はビンセンシオ会と、その活動をとおして、カトリックの問題点を探ってみよう。

## 土管部落に救援物資

ビンセンシオ・ア・パウロ会は一八三九年、フランスの学生フレデリック・オザナムによってはじめられた。学生たちが、カトリックの教義について討論していたとき、オザナムは『いまは観念の世界に遊んでいるときではない。まず実践しよう』と主張し、年長の友人バイイとともに、学生たちのポケット・マネーを集め、豆炭を買って、貧しい人たちのところへ持っていったのがはじまりだと伝えられている。

福岡市大名町教会のビンセンシオ会は、九月六日に七四四回目の例会を迎えた。これは指導司祭が、いまのA神父に移ってからのことで、その前も伊東神父がレジオとビンセンシオ会の指導に当っていた。それがほぼ二十三年前のことである。

ビンセンシオ会が、深堀前司教の提案によって、A神父の指導下に入ったのは終戦後。A神父は、当時のことを次のように語ってくれる。

『あれはちょうど終戦直後、福岡市長浜（現競艇場附近）に、〝土管部落〟と呼ばれる貧民部落がありました。戦災で家を失った人たち、引揚者などだったと思いますが、私たちは週一回、土管に住んでいる人たちを訪問して、バター、メリケン粉、米、衣料といった、アメリカの救援物資を分けてやりました。会員は六、七人、大学教授、大学生、医師というメンバーで、大学生には、いまの九州大学教授、水波先生、石橋先生、工藤先生などの顔がまじっていました』

このビンセンシオ会の仕事は、貧しい人たちへの愛の奉仕。クリスマスの前に、街頭募金を行なうので、信者の中にはビンセンシオ会を慈善団体のように思っている人があるが、前会長のHさんは『ビンセンシオ会は、〝キリスト教的愛徳の実践〟を精神とした、レッキとした使徒職です』と、慈善団体でないことを強調する。



救援出発前に打合わせ

## 意味を失った援助

いま福岡教区で、ビンセンシオ会が活動しているのは、（福岡）大名、箱崎、吉塚、光ケ丘、今村、久留米、明光学園（北九州）門司、湯川、新田原、（熊本）手取島崎と、それに佐賀を加えた一学園、十二教会。

この人たちの日常活動は、施設訪問、病院訪問、家庭訪問といったところだが、それに施設、病院では喜ばれても、家庭訪問のばあいは、必ずしも歓迎してもらえないそうである。訪問するのは日曜日ではそういう人たちも、貧乏ながらひとおりの生活をしていて〝人の世話になりたくない〟という気持ちを、はっきりと口に出し、品物を渡そうとしても受けとらないという。

『物品が喜ばれたのは終戦当時までは精神的に、貧しい人を援助するときではないでしょうか』とHさんはいうが、ビンセンシオ会はもともと、貧しい人たちへの物質的援助を目的とした会。そして貧しい人たちに物資を恵み与えるという行為は、Hさんの否定はあっても、結局は慈善の域を越えるものではあるまい。

カトリックの慈善行為は、しばしば問題になるが、そこで指摘されるのは〝今日では、慈善を受ける側の人たちにも、人間として生きるために必要なものを、国家に要求する権利がある。カトリックの慈善行為は、国家に向かおうとするその人たちの姿勢に、ブレーキをかける〟ということ。

## 多くの信者が無関心

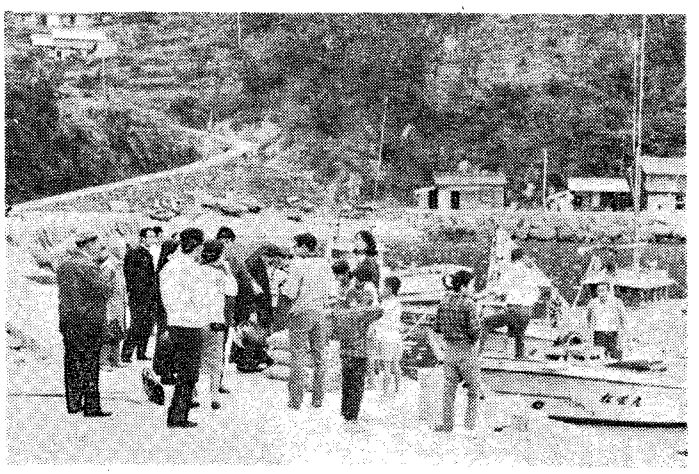
『小教区ごとにビンセンシオ会を置きたい』ということと、『若い会員をふやして若返りをはかりたい』ということは、中央理事会（教区単位の呼称）の願いだが、いずれも、教会側の消極的な姿勢と、若い人たちの無関心が原因して、はかばかしい進歩が認められない。会員のYさんは、

『司祭、修道者が一体となって、愛の行動を起こさねばならないというのに、多くの信者が無関心というのは、神父の指導に欠陥があるのではないでしょうか』といい、またHさんは、

『カトリックの信者は、自分ひとりの祈りに満足していて、愛徳の実践ということについては全く関心がありません』といっているが、信者のなかには、

『ビンセンシオ会が信者の関心をひかないのは、慈善団体と思っている人が多いためで、それはビンセンシオ会の活動が消極的だからではないですか』という人がいるというのだぞ』というのは、ある新聞社の老デスクからよく聞かされることばだ。

レジオやジョックの人たちと話したときにも感じたことだが、カトリックのアクショングループは、その姿勢と活動が、現代社会にマッチしているかどうか。また第二バチカン公会議の、『現代に適応する』ということを実践しているかどうかを、反省しなければならない時期にきているのである。



離島で救援活動開始

## 松島救援、アクション団体の活動に示唆

だがビンセンシオ会は、昭和四十三年、でっかい仕事に手をつけた。それはカトリックの離島、松島の救援だ。

ビンセンシオ会が玄海灘に浮かぶ、佐賀県鎮西町松島に、救援の手を差しのべたのは四十三年の七月。福岡教育大学のカト研と、箱崎ビンセンシオ会が、松島でこどものための夏期学校をひらき、そこで婦人会から、島の電灯工事のことを聞いたのがはじまり。

松島は周囲四キロの小さな島。島民は一七〇人（二四世帯）、半農半漁だがほとんどがその日暮らしで、二四世帯のうち三分の一が生活保護の対象というありさま。

松島に電灯をつける工事費は、総額一三一五万九四七六円。そのうち四三八万六四九二円が島民の負担、あとは国と県で補助するが、電灯をつけるためには、さしあたって頭金九一万一五〇〇円が必要だ。このとき、島にあったのは積立金四〇万円、それに漁協から三〇万円を借り受けたが、あと二一万一五〇〇円が不足。

ビンセンシオ会は、そういう島の窮状を救うために、松島問題対策実行委員会を作った。Hさんが委員長と会計を兼任、全国理事会に働きかけて、全組織の運動に発展させることができた。

この救援のために、対策委員会で扱った金額は、全国理事会からの借り入れ金、寄附金をあわせて六五万一五〇〇円。うち二〇万円が松島の救援金、ほかに松島訪問に使った経費が一万円。差引き四十四万円残ることになるが、全国理事会への返済を見越すと、こんご救援に使用できる金は二〇万円しか残らない。

この二〇万円は島民と相談して、借金の穴埋めより、島の収益をはかるために、ワカメ養殖に当てることになったが、ことしの全国理事会では、電気工事がワカメに化けたという声も出たそうだ。

対策委員会では、この援助を最後に、ビンセンシオ会の全組織による救援を打ちきり、こんごは、福岡中央理事会の問題として援助を続けることにしたが、Hさんはこんごの松島について、

『松島にもビンセンシオ会を作り、その人たちが中心となって、自分たちで自分たちの生活を改善しないと、この島の人たちの自立も、発展もむずかしいのではないでしょうか』と語っている。

松島とビンセンシオ会の出会いは、いわば偶然のことで、その経過にも、将来にも、なお検討の余地が残っていそうだが、しかしいちおうは、この救援は成功したと見てよいようだ。そして地方のアクショングループの活動に、大きな示唆となるのではあるまいか。（広報室）

## ビンセンシオ日本全国理事会の現状

わが国にビンセンシオ会が始まったのは大正三年、東京の暁星学校の岩下壮一、戸塚文卿ら学生によると言われているが、現在、組織の上では、全国理事会（東京）の下に中央理事会（東京、横浜、大阪、福岡、長崎）があり、さらに地区理事会（同一市内にいくつかの協議会があるところで、函館、盛岡、名古屋、京都）、その下が小教区や団体単位の協議会となっている。協議会数は九九、全国の会員数は四六二名（本年一月現在）。

福岡中央理に属する会員は約百名、うち約六〇名が女性会員。社会人と学生はほぼ同数。


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話㊸4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

社員募集
男子　ちくわ、かまぼこ、塩干物販売　年令問わず、未経験者も可
女子　経理事務、簿記二級以上一名　多少経験ある者　三名　年令18才―30才
福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長　ペトロ下田数信
TEL 88―1135～7

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

夜間部・調理師養成科
国家試験を受せず調理免許をとれます
10月生願書受付中
学校法人　福岡家政学院
福岡市天神三丁目6～35
TEL 76―6155

辞書は三省堂

# 幼児教育の真髄を求めて
## 島原で教師研修会

福岡教区内の幼稚園・保育所で幼児の教育にあたっている教師たちの第六回研修会（幼児教育連盟＝倉食育木保師＝主催）は、八月二十五日から三日間、長崎県島原市の九十九ホテルでひらかれた。三一五名の教師が一堂に会した、開会式では、永年勤続者の表彰のあと平田司教が全員を激励、大会祈願を唱えてミサにうつった。

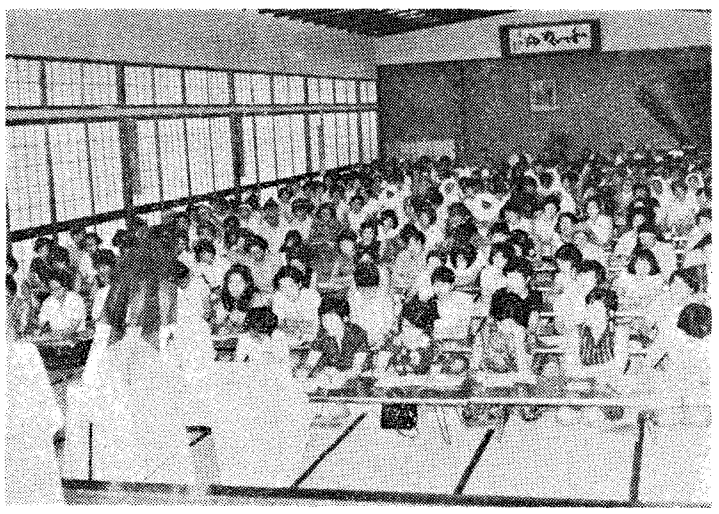
今回の大会では二つの講演をはさんで三つの分科会をひらき、それぞれ紙芝居と人形劇、テレビとラジオ・レコード、幻灯映画と童話を、研究題目として討議しあった。講演ではまず岡山清心女子大学長シスター・渡辺和子が「カトリック保育のあり方」と題して「人間一人ひとりを人格として大切にすることこそ保育者としての第一の心がけであり、物質と安楽のみを求めて刹那的、自己中心的になっている現代のこどもたちに自分を与える心、苦しみの意味を教え待つことと思いやりの心を吹きこむように」と強調、カトリック教育の真ずいを余すところなくのべて、聴衆を魅了した。

また九州大学心療内科助教授杉田峰康氏は、こどもにあらわれる心身の障害について、心身医学の立場からゼンソクやジンマシンなどの例をあげて説明、教師は身体の健康だけでなく心のすこやかさにまで留意すべきであろうと語った。

最後に「私たちは、幼な児が親とともに神の祝福を尊ぶ人に成長してゆく手助けとなれますように神の祝福を求めます」との共同宣言をおこなった。

表彰をうけた永年勤続者の氏名は左のとおり。

松尾静香氏（小倉カトリック、三四年）池田ミキ氏（戸畑天使、三二年）津田ヨシエ氏（直方平和二七年）ドレル神父（直方平和二六年）（写真上は研修会）



# 女子クルシリヨ
## 使徒職活動へ第一歩

第一回女子クルシリヨ（信徒練成会）は、九月十二日から十五日まで、福岡默想の家でひらかれた新参加者は六十五才の老令者を筆頭に四十名。残暑のきびしさにもかかわらず全員熱心に研修と祈りにとりくみ、各地からおくられた感的花束にはげまされて、使徒職への熱意をたかめた。なお、長崎から五名、大分から三名のクルシリスタが、応援にかけつけた。

クルシリヨに参加した一信徒はつぎのように語った。『クルシリヨという言葉を耳にするたびに、参加したいとのぞんでいました。指導神父様や準備くださる方々にむかえられたときは、初代教会の信者の献身愛徳もかくやはかりであったろうと感激しました。いまはもうおめぐみをどのように伝えたらよいかと、そればかり考えています。』

# 熊本で『講演のタベ』
## ガラシヤ夫人と小笠原一族をしのび

熊本市内四教会では、十月七日と八日、県立図書館ホールで「講演のタベ」をひらく。熊本が生んだ細川ガラシヤ夫人と花岡山で殉教した小笠原一族をしのびながら、現代に生きる道を考えようというもの。講演者は京都の古屋司教と長崎純心短大の片岡弥吉教授のふたり。

七日は「生きるよろこび」（古屋司教）と「ガラシヤ夫人と花岡山の小笠原一族」（片岡教授）。八日は「現代人の生き方」（古屋司教）と「殉教と信教と現代―小笠原一族をしのんで―」（片岡教授）。入場無料。市民によびかけているが、〝新（あたらし）主子とチエチリア会〟の舞踊出演もある。

# 市民クリスマス準備会

熊本市ではことしも昨年につづき、市内カトリック・プロテスタント教会と関係団体の主催で、市民クリスマスを開催することになった。すでに二回以上の準備会をひらいて決定したところによると「同じ救主をもつ市内キリスト信徒が、クリスマスという機会を用いて一堂に集まり、救主のご降誕を祝い、同時にクリスマスの福音を広く市民に伝える」という趣旨のもとに、十二月十八日夜、熊本県立図書館ホールで、聖劇、講演、合唱などをおこなう。組織委員長は福田令寿氏、事務局長は石井昇牧師。

# ピアノ演奏
## 岡本喜久子さん

九月八日、北九州市戸畑文化ホールでおこなわれた九州沖縄音楽祭で、ピアニストの岡本喜久子さん（小倉教会所属）はABC交響楽団と共演（平井哲三郎指揮）ウエーバーのコンチェルトシュトウックを演奏して好評を博した。

# 唐人墓移転
## ビリヨン師建立のもの

山陽新幹線の建設工事は五十年春完成をめざして順調に進んでいるが、門司と下関を結ぶ新関門トンネルの斜坑口となる北九州市門司区和布刈（めかり）の〝唐人墓〟の移転が問題となっている。

この唐人墓は、元治元年（一八六四年）、イギリス・フランス・オランダ・アメリカの四ケ国連合艦隊が、下関砲台を攻撃した〝馬関戦争〟のとき、戦死した外国兵士の遺体をとむらうため、摩応年間にフランス艦隊の手によって建立された。当初は、同区大久保の森の中に建てられていたが、田野浦港や関門海峡が見える位置にと明治二十八年フランスの宣教師ビリヨン神父によって現在の和布刈に移され、翌年九月五日に除幕式を行なった。

# 結婚講座順延

来る十月三十一日から福岡市で開く予定であった結婚準備講座は、指導主任モーレン神父の急病のため、中止することになりました。明年二月中にはいろいろの準備を整えて、開講できると思いますので、どうぞご期待ください。

ライル神父

# 古老ばなし



北九州市八幡区八王寺、パリー外国宣教会北九州本部の、フランソワ・ドルエ師は、この十月で司祭叙階六十周年を迎える。師はフランスの西、アンジェの生まれでことし満八十三歳。

# 司祭叙階六十周年を迎えたドルエ師

司祭になったのは一九一〇年、その翌年の一九一一年に日本へきた。『マルセーユから上海を経由して長崎につきました。当時は三十五日間もかかりましたが、途中でいろいろな国に上陸、見物しながらでしたから、いまから思うとゼイタクな旅でした』と、老顔に気持ちのよい笑いを浮かべる。

宮崎でジョリー神父について日本語を修得したあと、当時長崎にあった公教神学校で、ラテン語の教師を勤めた。黒腐大司教、山口大司教もそのころの生徒だったという。

大名町の主任司祭になったのが昭和四年。そのあと八幡、黒崎の陣山、小倉、八王寺と異動したが八幡では、戦争中のいちばんひどい時代に、製鉄所のすぐそばにいた。憲兵、特高の干渉のはげしいときだったが、ドルエ師だけは、いちども疑われたことがなかったそうだ。師の人柄が、そんな人種にも信用されていたのだろう。

師は日本にきてから今日まで、一度も帰国したことがない。『もう誰もいませんよ』と、淡々とした返事が返ってくる。いかにも日本に根が生えたという感じだった

# 〔福岡カトリック社研報告〕
## 断絶について

九月十五日午後二時から大名町教会で例会。テーマは『断絶について』。まず八月二十一日から横浜でひらかれたカトリック社研問題研究所主催の夏期セミナー『現代社会における断絶』に参加した会員からかんたんな報告があり、それをめぐって会員の意見が発表された。

現代は、ジャーナリズムによって分裂と断絶の時代として過度に強調されているきらいがある。世代間の断絶はいつの時にもあったもので、われわれはおたがいの意志が通じないと、断絶があるからと、歩みよりの努力を一切あきらめてしまう危険がある。

たしかに誠意をもって話し合っても通じない、複雑な問題が多いが、その原因は青年期が長期化したことと、高度経済成長による社会の物質的ゆたかさにあるのではなかろうか。

またわれわれの使用する言語に共通のものがあるのに、若い世代に特有の言語もあって、それが第三者には理解しにくいということもある。かれらは既成観念に反ばつし、直感によってものをとらえ、いままでの言葉では表現できないものを、新しく表現しようとしている。

若い世代がいま造り出そうとしてあせっている文化を、古い世代のものは異質のものと感じざるをえないが、それが新しい時代の思想や理論となりつつあることは否定できない。そこにやはり回勅『地上の平和』に言われた『時のしるし』を発見しなければならないのではないか。

若い世代に話しかけるときに、権威主義的にこちらの考えを絶対化して押しつけてはならぬ。対等の立場に立って受容される権威が生ずるように努力すべきだ。

社研次回例会は十月十一日午後二時、大名町教会で『信徒の社会参加について』。

# カトリック放送番組　（10月）
## 心のともしび

ラジオ　RKB　月～土　午前6：40～6：45
　　RKK　月～土　午前10：10～10：15

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1日 | （木） | 秋田市津川修平 | 足もと |
| 2日 | （金） | 林　謙一 | 許すということ |
| 3日 | （土） | ハヤット神父 | （なま放送） |
| 5日 | （月） | 遠藤周作 | 幼なじみ |
| 6日 | （火） | 霜山徳爾 | いのちの始めと終り |
| 7日 | （水） | 藤田圭雄 | 年をとる |
| 8日 | （木） | 沖縄渡久山春子 | 信仰を求めて |
| 9日 | （金） | 林　謙一 | 年をとる |
| 10日 | （土） | 徳川神父 | （なま放送） |
| 12日 | （月） | 相良惟一 | 年をとる |
| 13日 | （火） | 大原富枝 | いよよ華やぐいのちなりけり |
| 14日 | （水） | 田中千禾夫 | 童は生きる |
| 15日 | （木） | 広島市石橋晴美 | 愛の重み |
| 16日 | （金） | 小堀杏奴 | 年をとるという事 |
| 17日 | （土） | ハヤット神父 | （なま放送） |
| 19日 | （月） | 矢代静一 | 芥川さん |
| 20日 | （火） | 戸川エマ | 老後生活を考える |
| 21日 | （水） | 田中千禾夫 | 草履の向き |
| 22日 | （木） | 香川県中川欣子 | 求めることのない親切 |
| 23日 | （金） | 三浦朱門 | 財　産 |
| 24日 | （土） | 徳川神父 | （なま放送） |

# 個展ひらく

横尾龍彦氏（明治学園教諭）は九月二十三日から三十日まで、福岡市天神二、住友生命ビル二階、福岡フォルム画廊で個展をひらいた。日本画の技法を巧みに使って中世の宗教絵画ふうのイメージを水彩で描きあげている。三〇数点。

# 岡崎師叙階

ヨゼフ岡崎才蔵師（戸畑教会出身、神言会員）は、来る十月十日名古屋市の神言神学院聖堂で、相馬司教から司祭の聖位をさずかる。なお同師の初ミサは翌十一日午前九時から戸畑教会でささげられる予定。

訂正

前月号第三面の『福岡教区信者


秋

みのりの秋です。

「神の協力者であるわたしたちは、神の恩恵を無駄に受けないように…」（コリント前6・1）ふさわしい実をむすぶために、いま一度、公会議の精神を身につけましょう。

特にたいせつな文書である「教会憲章」、「現代世界憲章」、その働きに具体的指針を与える「信徒使徒職に関する教令」を熟読することによって、ふさわしい実をむすぶための道しるべとなるでしょう。

一、教会憲章　一八〇円　一四〇頁

第二バチカン公会議における、神学上最も重要な憲章である。

司教職の団体性、神の民である教会の意義、洗礼堅信の秘跡にもとずく信徒のキリストにおける一致と使命についてなど、教会生活に関係の深いことがらについて教える。

一、現代世界憲章　二五〇円　一五二頁

教会は現代の人間社会の中にあり、その外にあるのではないということが教えの重点である。

一、信徒使徒職に関する教令　八〇円　五五頁

解説付　二〇〇円　一〇六頁

「教会憲章」第四章の一般信徒についての神学的基礎づけから、信徒の使徒職への召し出しの教えを展開し、使徒的活動と種々のありかたを示し、それを組織するため一般原則、また教会当局との関係についてものべている。

大名町　聖パウロ書院
岩田屋5階　セントポール・コーナー

# 新しい歌を聖主に



田中輝義

最近よくキリスト教の土着化とか日本化が討論されています。長い伝統をもつ欧州の各国でも、もっと自分達にぴったりするキリスト者の生活について討論しています。でも、キリスト教の普遍性をしっかりと保ち、各国民、各個人の心の性質に応じて、実生活の全体を神への生きた返事となす信仰生活が目指されないならば、土着化されたキリスト教は私たちの生活を深めるよりも、一つのいたずらな幻想か芝居と化すかも知れません。

今日では欧州でも日本でも多くの観光客が見られます。有名ならば、どんな宗教的場所の中にも遠慮なく押し寄せて来ます。旅行から帰ったら、多くの写真を証拠にして、あれも見たこれも見たと語ってくれます。この度一時的ですが足かけ七年ぶりに帰国しましたので、久しぶりに古い日本を味うために、法隆寺や中宮寺に赴いてみましたが、そこでもゾロゾロとやって来る内外の観光客に出会いました。昔の人達が心をこめて刻んだり描いたりした、永遠者の、有限者への反映の種々相を前にしても、なんと足早に通過してゆく人が多いことでしょう。ちょうどこれと同じ傾向が現代の私共の信仰生活の中にもあるのではないだろうかと、ふと思わせられてしまいました。

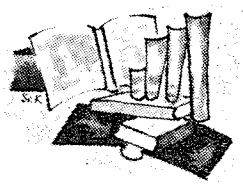
あの神学書もこの聖書解釈書も読んだとか、あの仕事も成功したし、この仕事もうまくいっているとかいう傾向が、進歩的で頭のいい司祭・神学生・信者・修道者の中に秘かにうごめいていることはないでしょうか。昔よりも現代のキリスト者の方が遥かに多くの学問的裏付を持っているのは疑えませんし、現代の使徒職は能率的で無駄がないかも知れません。でも現代の私たちは、昔のキリスト者よりも深い信望愛の中で、人となり人と共にいます神に忠実に生きているでしょうか。頭で知っていることでも、自己の全部を透明にする程の澄んだ心で体験して生きているでしょうか。少くとも私は返すことばを持ちません。

キリスト者の生活が、聖父に向って聖子によって聖霊の内に信望愛が支配する日常生活の明け暮れでありますならば、キリスト教とは、人となり給うた神が、聖父と共に息吹き給う聖霊の内で、人と共にましますいなる現実それ自体、つまりイエズスご自身ではないでしょうか。

聖書の各々の書は神の言葉そのままではなく、例えばイザヤとかエレミヤとかヨハネという人格を通じて、神の霊がお話しになったものであり、いわば白色光線をプリズムで分光した各々の色彩のようです。それにもかかわらず、聖霊に吹かれた聖書のことばは常に古くて新しい言葉です。しかし特定の聖書解釈学者や神学者のことばはどんなに名声が high くても、流行の着物のように移り変ってゆきます。つまりどんな聖書科学も、神学も、人間精神の有限性を排除し脱することが出来ません。人は神になることは出来ませんし、神は人が人であるのをお消しになりません。それで価値高いそれらの学問が、そのままそっくり信望愛と同一ではありませんし、キリスト教自体ではないわけです。神はアブラハム・イザク・ヤコブの神であり、哲学者の神ではない、といわれますが、神学者の神でもない、と現代ではつけ加える必要があるかも知れません。

人間の生活の全部が、例外なく時間的存在の姿の中に、新しいエルサレムに向って動かされており存在の主が、各人の自我よりも各人に近く内在し給うのならば、現代のキリスト者である私どももその大いなる現実、その無限の現存の中に、自己全体を沈めることなしに、人間としての存在の意味もキリスト者としての生活の品位も回復し維持することが出来るでしょうか。現代こそ心の内面で神と対面し、本当に新しい歌を聖主に歌うべき時代です。(たなか・よしてる・カルメル会司祭)

# 教養



## 短歌

### ルリヱ神父を悼む

安藤美則

幼な児のごとくに痩せて臥り給ふ癌の神父はフランスを恋ひ

髪うすくなりて寒夜を臥し給ふと妻が夜なべに編む黒頭巾

みなしご孤児の父の神父は息絶へて童のごとき顔しめ給う

# 対立が対立を生む

佐野前光

ハイジャックが世界的現象になって、アラブの問題は、ついにそれに関連した国々を内乱の様相にまで発展させてしまった。

こうしたことが問題となるとき必ずこの行きすぎた行動を支持しようとする連中が出てきて、そのためにいたずらに事態を紛糾させる結果となって、その認識の愚かさにやり切れぬ思いをさせられることがままある。なぜこのように一方的な暴力を肯定するのであろうか。どのように素晴しいイデオロギーをバックボーンに持っていたとしても、それが暴力的な表現となってくれば、それを防禦するための対立が生まれてくるのは当然といわなければならない。こうして対立は対立を生み、人類の歴史は、小休みない闘争によって埋められねばならないことになってくる。

イスラエルやアラブ諸国の対立に、やり場のない悲しみを感じているとき、ある新聞の一隅で日本の国内での、しかもそれが僧侶(そうりょ)を中心とする、異様な問題に行きあたって、さらに悲しみを大きくしたのである。

いま社会的に問題となっている公害に対して、その一切の責任が企業主にあり、従って公害によって被害死した人びとの怨念を救うために、仏教の秘法を行じて、企業主を呪殺する呪殺祈禱団と天書した幟(のぼり)を立て、僧衣に天台笠といういでたちで、堂々の行進をつづけているというのである。しかも観音経を、呪殺の中心としているという。

四十才近い一ケ寺の住職を中心に、宗教大学の若い学生の集団であるが、かれらは何を仏教的な真実としているのであろう。先に書いたように、対立が対立を生むイデオロギーは、釈尊が絶対に排撃したところで、それについてはつぎのような説話が教典に伝えられている。

釈尊は、その子ラゴラを自分の弟子とせず、弟子舎利弗(しゃりほつ)に委託された。あるとき舎利弗とラゴラが、三衣一鉢の無所有の"行"として、托鉢をつづけられたとき、とび出した暴漢によって、ラゴラは叩きのめされ、血まみれになってしまった。

かれは仏教で密行という、自分の善行を秘して誇示せぬことをもって、僧団中随一といわれるほどの内面的な人であったが、ついに次のような発言をしないではいられなかった。それは動物にどのような美食を与えても、動物はそれに対して何の関わりもない、という意味で、暴漢に対する報復的な気持が述べられていた。困り果てた舎利弗は、ラゴラをともなって釈尊をたづね、その解決を願った。そのとき、釈尊は『耐えることの中にこそ喜びと正義がある』と答えられたのであった。

ここでいう耐えるということはもちろん等閑にすることではなくその苦しみを、相手がくみとることによって、自然に暴力を否定するようになることを意味し、このことは単に仏教ばかりでなく、あらゆる宗教を通じて、実践のイロハということができる。それを何ぞや、僧衣のまま呪殺祈禱団などと誇号するに至っては、かれらの存在価値が全くないといわれても仕方がないことであろう。

呪殺したからといって、企業主がその非を認めることにはなり得ない。それこそかれらが拠りどころとしている観音経の『還著於本人』の意味するところが、かれら自身のものとなってくるのだ。非行に対する企業主の認識は、かれらの肉体的な抹殺によっては実現できない。このような報復主義は今日では法律的な刑罰としても、過去のものになってしまっている。

そこには宗教的な真実性がないばかりでなく、ただ今日的なハイジャックを模倣し、好奇の目を集めるような、いやらしさばかりが胸をついて仕方がない。けれどこうした連中に対してわれわれは怒ってはならない。その非を知らしめ、宗教的実践がどのようなものであるか、われわれ自身が行する以外に道はないであろう。(さの・ぜんこう・福岡県浮羽郡、本仏寺住職)

# 回心の祈り

## 痛悔をもって神のあわれみを願う

# 聖書とミサ

ミサを『告白の祈り』ではじめるのは、むかしからの古い習慣である。いまのミサでは、もっと短かい文のものがいくつかあって、選択できるようになっている。

聖書をあらためてひもとくまでもなく、われわれはみな神からそむき去った罪びとであり、心を改めてもう一度神のもとに帰ってゆかねばならない者なのである。

### 嘆願の叫び

旧約時代には民はなにかの災難をこうむると、まず痛悔の儀式を神のまえでおこなった(10・1)。

『司祭たちよ、袋をつけて嘆け祭壇に仕える者よ、泣き叫べ。袋をつけて夜をすごせ、神に仕える者よ。断食をきだめ、主の家に集まり、主に叫びをあげよ』(ヨエル1・13~15)。

民が公けに罪を嘆き、ゆるしをこん願する形式は、いろいろ規定されていたが、そこに民全体の罪という意識、共に罪のゆるしを願うという習慣が確立されていたことが解る。たとえば判事の書によると、隣国に敗れたイスラエルはたちに主にむかって叫び声をあげ、『私たちはバアルに仕えて、あなたを捨て罪をおかした』といった(10・10)。



バビロンから帰国した民は、再建した神殿で、民としておかした罪を告白する祈り(詩篇)を神にささげている。

### 心の痛悔

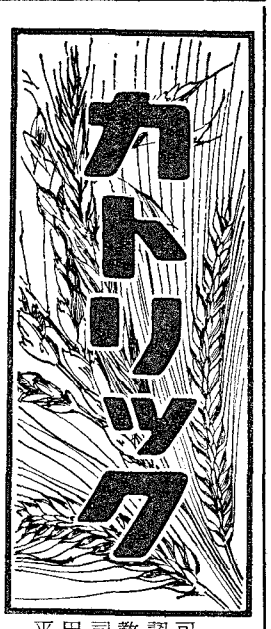
痛悔の表現が儀式化してくると心のともなわない形式だけのものになりやすい。預言者たちがくりかえし注意したのが、この形式主義の危険である。そんなものは神のねうちもないばかりか、信仰者の心をむしばむ。ホゼアはそのような祈りを朝の露にたとえる。『エダよ私はお前のために何をしようか。あなたの慈しみは、朝の雲のようだ、すぐ消える露のようだ。私が望むのは、いけにえではなく、愛なのだから』(6・4―6)。

### 真のよろこびへ

詩篇のなかには罪のゆるしを願ったあとで神のあわれみを賛えるものがいくつかある(たとえば55、79)。

このような詩篇は、償罪の日にはじまって幕屋祭の喜びの祝祭に終る、現なる週間のために作られたものである。その第一日に大祭司は、そうごんな儀式のなかで全民族の罪を告白してゆるしを願った。そのあと民は全員で神を賛美した。

これは来るべき新約の出来事の前表としておこなわれたもので、




平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀敏

定価　一部　十五円

# ダイヤモンド祝と金祝

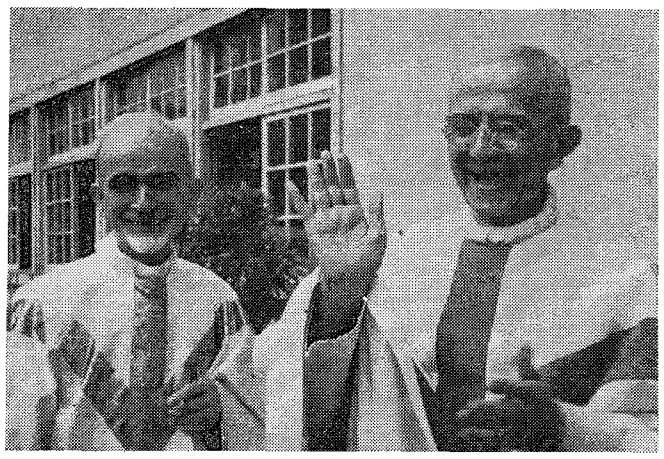
## 喜びのドルエ、ボンカズ両師

十月十一日日曜日北九州市八幡区八王寺教会で、ドルエ神父の司祭六〇周年ダイヤモンド祝と、ボンカズ神父の同五〇年金祝が祝われた。九時のミサは教会の庭でおこなわれ、地元と近隣教会の信者多数が出席、熊本から列席の深堀司教が、両師の模範的生活をたどりながら司祭職の偉大さを説教した。

翌十二日には平田司教はじめ教区内外の司祭たちが同教会で共同ミサをささげ、日基教団の村上牧師らも参列して、この宣教師の大先輩の功労をたたえた。またことし銀祝二十五年の牧山藤房神父のお祝いも一緒に行われた。

ドルエ神父は八十四歳、フランスの生まれ、明治四十三年司祭になり、翌年一月長崎上陸、一年半宮崎で日本語習得、昭和四年まで長崎公教神学校で学生の指導にあたり、その間二年校長をつとめた。ついで福岡教区にうつり、十年まで大名町主任。そのあと戦中戦後のもっとも困難な時期に十五年間八幡教会に在任のかたわら戦争孤児の救済につくした。この事業はいま八幡区本城の聖小崎（男子）と門司区光町の天使（女子）両育児園にうけつがれている。二十五年から二年間小倉主任、ついでパリ会北九州地区長になり、三十三年以後は八王寺主任としていまなお布教の第一線に活躍している。

ボンカズ神父は七十七歳、南フランスの生まれ、大正九年司祭、同年長崎に上陸、宮崎で日本語を習い、以後長崎公教神学校で哲学を担当、八代、人吉、熊本、飯塚などの教会を司牧、福岡の最初の神学校でラテン語を教えたこともあり、昭和二十九年田川教会と幼稚園を創立して十五年間在任、最近まで行橋主任をつとめた。


よろこびのボンカズ師（左）とドルエ師

# 教皇表彰の栄誉

## 生涯を社会福祉に

十月四日東京商工会議所ホールでひらかれた第一回カトリック社会福祉全国大会（カリタス・ジャパン設立総会）で、愛と奉仕に生涯をかけた多くの人々が表彰をうけた。勤続45年以上の六名には教皇パウロ六世表彰がさずけられたが、うち二人は熊本市島崎町のマリアの宣教者フランシスコ修道院のシスター堤フサさんと野田ヤスさん。



堤フサさんは明治32年5月長崎県西彼杵郡外海町黒崎の生まれ71歳。熊本の同施設で52年間奉仕。老令にもかかわらず、十年一日のように雑役に精出している。

野田ヤスさんは明治32年3月京都府福知山市の生まれ71歳。札幌広島、東京、人吉、熊本の病院で50年間看護婦として献身。

# 勤続20年以上

勤続20年以上で社会福祉司教委員長の表彰をうけたかた（氏名の上の数字は勤続年数、下の数字は年令）



【医療施設協会関係】
イエズスの聖心病院　20鈴木賜（五二）新田原病院30牧山ミテル（五六）26横山翠子（四九）25河野ミツヨ（六四）24浜口シズエ（四五）23山下寿美江（四七）23江川キワ（四八）21山野シゲ（四七）久留米聖マリア病院　22井手速見（六一）22井手一郎（五九）琵琶崎聖母慈恵病院43内田ヨシ（六五）川原ユキエ（五八）21籠田屋ソイ（四七）

【児童収容施設協会関係】ナザレ園乳児部34杉山スミエ（五六）24高野フジノ（四三）22江口勢子（四六）聖小崎育児園23山本初子（四一）天使育児園21中尾チヨ（六一）久留米天使園26稗角ウメ（五二）20丈察イセ（四九）清心慈愛園21平田ミサヲ（四〇）琵琶崎聖母愛児園33高橋トエ（六一）21畑中チヅ（三七）20内田キクエ（四七）熊本天使園41野上トキ（五五）39谷中ユキ（六〇）29山下ミト（四九）21石田ミツ（五五）ナザレ園27飛永久子（五〇）23尾下チヨノ（四三）20大庭弥生（四一）20大田キクエ（三八）熊本少年の町26矢野美恵（五八）26野田スミエ（四五）25尾上ウキ（五八）

【保育施設協会関係】光の園保育園22細見千代子（六二）小百合保育園23楳沢俊子（五四）

【老人施設協会関係】今村聖母園27平田カズエ（五一）22井手クニエ（四一）聖心老人ホーム41堀ミツ（六四）

なおこの他に勤続10年以上のかたにカリタス・ジャパン会長表彰が授与されたが、福岡教区関係でこの表彰をうけたのは68名に達した。

# 11月

## 死者の月

**1日（日）諸聖人の祭日**
キリストの神秘体に属するすべての者の家族的だんらんの祝祭である。洗礼をうけた者も、うけていない者もいる。キリストの名前さえ知らなかった人もいるだろう。罪をおかすことの少なかった純潔な人もいれば、大罪をかさねた人もいる。しかしいまはみな神の愛につつまれ、神の子としてキリストを中心に一つの家族となっているのだ。

**2日（月）諸死者の日**
**光カ丘教会で堅信**
仏教ではお盆の行事がある。カトリックではきょう死者をしのび、死者のために祈る。
11月1日から8日まで墓地をおとずれて祈ると、全免償が得られる。また諸死者の記念がおこなわれる日に、聖堂をおとずれて、主祷文、使徒信経を数皇のご意向のためにとなえるものも、全免償をうける。なおこの日司祭は三つのミサを立てることができる。

**3日（火）文化の日　侍者の集まり**（福岡大神学院で）
**8日（日）聖霊降臨後第25主日**
貧しい女は、銅貨二つを献金箱に入れた。それはかの女の全財産であった。キリストは多くの人を救うために、ご自分のすべてを、いけにえとしておささげになった。最後の血の一滴までも、何一つ惜しむことなく、最大の愛をこめて。
**熊本地区信徒使徒職協議会の集まり**

**9日（月）ラテラノ聖堂献堂**
**聖職者・神学校司教委員会**（平田司教上京）

**10日（火）―13日（金）司教協議会臨時総会**
**15日（日）聖霊降臨後第26主日**
キリストが世の終りについて語ったのは、この世界のおそるべき破滅の予告ではなくて、世界の完成、救われた者がキリストのもとに集まり、キリストが永遠に神の右にすわる栄光の日の到来することを教えるためである。われわれはこの日を確信して生きているのだ。

**19日（木）福岡大神学院祭**
**21日（土）聖母奉献の記念日**
**22日（日）王であるキリストの主日**
キリストは、神の御子、世界の救主として王とよばれる。そしてわれわれはこの王と共にこの世界を正義と愛と愛憩によって支配する使命をうけている。われわれも王である。そのために大いに戦わねばならない。

**23日（月）勤労感謝の日　佐賀地区信徒使徒職協議会の集まり**
**29日（日）待降節第1主日**
きょうからクリスマスすなわち、神の御子イエズスのご降誕を準備する期間に入る。

**30日（月）使徒聖アンドレア**

### 祈禱の使徒会

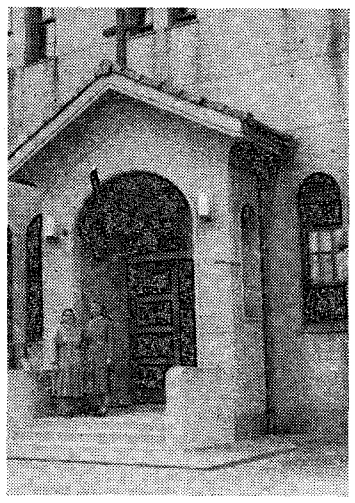
【一般意向】戦禍と貧困による孤児のため
【布教意向】インドにおける信徒使徒職のため

### 聖体礼拝

第一日曜　光カ丘教会
第二日曜　大江教会
第三日曜　トラピスチヌ修道院
第四日曜　荒尾教会　琵琶崎修道院
第五日曜　玉名教会

# 援助修道院

## 北九州市八幡区山寺町





北九州市八幡区、黒崎駅からバスで四、五分。山寺町の小高い山の上に、赤い色のほそ長い建て物がみえる。これが『援助修道院』である。

シスターの一人は『私どもはそれぞれの地方で、社会や教会が必要とする仕事をします。だから養護施設を持っているところもありますし、家庭の仕事を助けているシスターもいます』という。現在ここでは幼稚園と老人ホームを経営しており、働いているシスターは十九人。

シスターのなかには、革命の中国から逃れてきた人もまじっているが、革命時の中国はすごかったらしい。多くのシスターが国外に追放され、殺された人や行方不明の人も少くないという。

この修道院ができたのは一九三六年。当時は八幡区春の町にあったが、戦後ここに落ちついた。ここは旧陸軍の敷地で、はじめのうちは壊れかけた兵舎に住んでいたという。そのうちに兵舎の米軍がシスターたちの住居を建ててくれたので、それを診療所に使用、一般病者の診療をはじめた。毎日七、八十人の患者がきたが、これは駅前に厚生年金病院ができたとき閉鎖した。

院長は小南好子さん（円内写真）。一九二六年生まれで山口県の出身。ちょうど上京中で会えなかった。

なお援助修道会の本部は東京の市谷にあり、ほかに大宮に修練院神戸の灘と広島に支部がある。

# 岡崎万蔵師

## 戸畑で初ミサ

名古屋市の神言会神学院で勉学中の岡崎万蔵師は、十月十日同地で相馬司教から司祭に叙せられたが、翌十一日出身地の北九州市戸畑教会で九時から初ミサをささげた。岡崎師は昭和十六年生まれ、戸畑教会で受洗、名古屋南山高校卒業後、神言会に入会。令姉は長崎純心修道会のシスター。

同日司祭にあげられた神言会の川上進師は、出身地長崎県五島に帰る途中、叔父にあたる小出末光氏の所属する福岡市浄水通教会でミサをささげ、親族や小神学生らに司祭祝福を与えた。

### マニラで叙階

福岡大神学院の中（あたり）重広氏と山根克則氏は、十一月二十八日比国マニラでパウロ六世教皇から司祭の聖位にあげられる。

新学年学童・学生用デスク

コクヨホームデスク　特別価格提供
（定価 25,900円）

・天板モルパ使用（ドイツ特許）
・時計・シャープナー・温度計・カレンダー
・螢光灯付

お近かくの教会又は本社へ申込み下さい

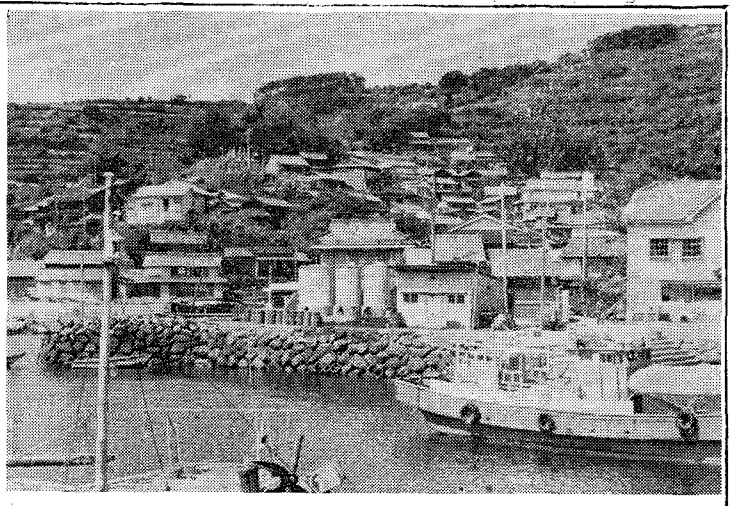
シオタ事務機

福岡市大柿2丁目13番21号
塩田五郎
TEL ㊷―5327

'70年特別提供

オリンピアポータブルタイプライター
33型（英独仏語）10台限定
¥31,000 を ¥24,000　3年間無料保証

他 シャープ卓上電子計算機
東芝記録加算機ピコ



馬渡島の船着き場

# 玄海灘に浮かぶ切支丹の島
## 過疎の危機をどうするか

佐賀県の唐津沖、玄海灘の波に浮ぶ小島のひとつ馬渡島（まだらじま）は、切支丹の島として古くから知られている。

切支丹の島といえば多くの人が、父祖から受けついだ信仰を守り、ひっそりと暮らしている信者たちを連想するに違いない。昨年の一月、詩人の片瀬博子さんが西日本新聞に書いた『馬渡島の女たち』も、そういう現点から、この島の婦人たちの信仰に触れたものだった。だが現代は、この島にも岸を洗う波とともに押し寄せ、島の人たちの生活に影響を及ぼしているはずである。

こん回はこの馬渡島に目を向けて、島の人たちの生活、信仰、そしてその中にある問題を探ってみよう。

## 先史時代から人間がいた

呼子の港を出てほぼ二十分、波の上に細長く見えていた島が、みるみる近くなってくる。緑に覆われた、ちょっと能古の島に似た感じのこの島が馬渡島だ。

この島の起源については、詳しいことは何もわからない。だがこの島からは、土器や石器の類が出土しているから、すでに先史時代には、人間が住みついていたものと思われる。また中世から近世にかけては、馬の放牧に利用されていたというから、馬渡というこの島の名も、あるいはそのことに関わりがあるのかも知れない。

福岡を出るとき、広報室の深堀神父に『船を下りて坂をのぼるとすぐ教会です。すぐそこに見えていますよ』と聞き、船着き場の近くにいた女の子も『この道を真っすぐにいくとすぐです』と、進行方向を指さして教えてくれた。そのつもりで山ぞいの小道を歩いたが、すぐのはずの教会は、なかなか姿を現わしてくれない。たっぷり一時間、残暑のきびしい爪先きあがりの山道を歩いて、教会に着いたときは汗まみれ、息切れがして司祭へのあいさつもレレろもどろの有様だった。

## だれてきた信仰

夜になって、神父様からあらかじめ連絡してあったとみえて、教会の長老で、町会議員を勤めているという牧山高治さん（六〇歳）が訪れてこられた。牧山さんはこの島の生まれで、ことし九十三歳という島の最年長者、牧山モヨさんの次男である。高治さんは、

『島の信仰も、近ごろは大人、子どもともにだれてきました。半農半漁という生活のせいもありましょうが、ミサに来る者がだんだん減ってきました』という。

牧山さんの子どものころは、教会のしつけがきびしかった。学校から帰ると、すぐ教会に馳けつけて公教要理の勉強をする。先生に『キリスト教より学校の方が大切だぞ』と言われたこともあるそうだが、家では、母親の前で、その日に習った公教要理を暗唱し、忘れたところがあると、思い出すまで食事をすることができなかった。

そんな勉強をして教会の試験で一番になると、初聖体のときにマリアの旗を持つことが許された。

『初聖体のときマリアの旗を捧げ持って、教会にはいっていった時の感激は、生涯忘れるものではありません』とモヨさんはいうが、そういう体験を積み重ねているだけに、牧山さんの信仰は、日曜のミサを怠る人の多いことに我慢ができないようだった。

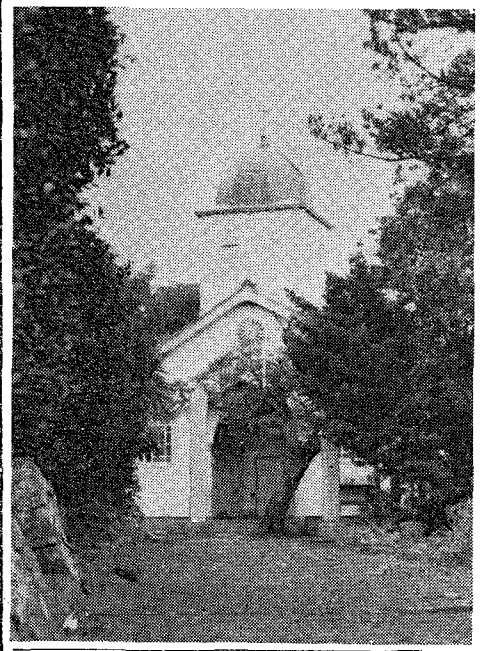
昭和のはじめ、平戸からここに移したという聖堂の横に、日本建築の司祭館があり、その座敷に落ちついたのが午後の五時。半端な時間と、身体の消耗はどうしようもなく、しばらくは神父様の世間話に耳を傾けているだけだった。

### 明治初年の祈り

（カッコ内は訳）

パーテル（父）とフィリヨ（子）とスピリト・サント（聖霊）のみ名によりて。アーメン。

天に在す我らのおん親、み名のたっとばれ給え、み国の来らせ給え、天に思召すままなるが如く地においてもあらせ給え。一日のおん糧いをこんにち我らに与え給え。われらが人に赦す如く、我らのとがを赦し給え。我らをテンタサン（悪魔）に放し給うことなかれ。我らを凶悪よりの逃し給え。



馬渡島教会正面

## 安定した島の生活

馬渡島の切支丹は、天保年間に、有右衛門という人が来たのがはじめてと、島の古老はいうが、ほかに、寛政年間に弾圧を逃れてきた信者が定住したという説もある。どちらにしても、江戸時代からこの島に信者がいたことになるが、いまこの島にいるのは、明治初年に長崎県の五島、平戸、黒島などから移住してきた人たちの子や孫たちである。

この島は、本村と新村の二つの集落に分かれていて、船着き場に面して密集している民家のあたりが本村。島の上部の山間に、教会を中心に散らばっているのが信者たちの家で、この集落が新村である。

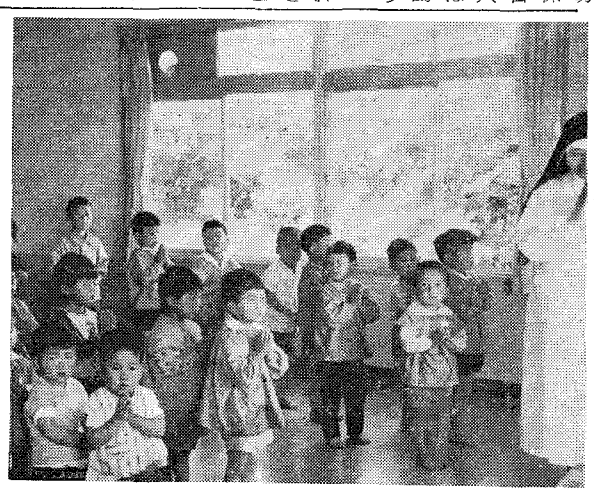
新村の信者たちは、仏教を信仰する本村の人たちとは、何かにつけてしっくりといかず、しぜん二つの集落の間には交流が絶たれていた。交流がはじまったのは終戦後、いまは何のわだかまりもなく、新村の信者たちも、本村の漁業組合に加入しているそうだ。

主任司祭は、

『最近は島の暮しもずっと楽になりました。衣食住とも、もう町の人たちの生活と変りはないでしょう。ほとんどの家が、テレビや電気洗濯機をそなえつけていますよ』というが、戦争前と終戦前後には、かなり苦しい時代があったようだ。

高治さんは、そういう島の窮乏の時代を、

『私のこどものころは、学校へいくにもハダシで、雨の降る日は衿ぎれを頭から被って出かけました。弁当は芋で、米の飯なんか食べたことはありません』と話してくれた。昭和十二年から二十五年までに、島の生活に耐えきれなくなった二十世帯に近い人が、相ついでブラジルへ移住したことからも、島の窮乏がどんなものであったか想像できるが、こういう窮乏の裏には、本村との交流がなく信者だけ孤立していたということが原因としてあったのではあるまいか。



聖母保育園のこどもたち

## 島を去っていく若い人たち

司祭館に一泊して翌朝目が覚めたのは七時。神父様はすでに近くの聖母の騎士修道院にミサを立てにいって不在。朝食もそこそこにまかないのAさんに案内してもらい、ある信者を訪問するために教会を出た。

Aさんは無口な人だが質問すると、平日にミサに来る人は三十人に満たない。島の人たちの漁場は近海でタイ、イカ、イワシなどがとれている。主要農産物は芋で、毎年相当の収獲があり、それはほとんどアルコールの原料と、豚のエサになるということを、ぽつぽつと話してくれる。そういえば、山の段々畑はほとんど芋畑で、黒みをおびた葉が地を這って茂り、朝風に涼しくそよいでいる。

そういう、とりとめもない話をしているうちに、Aさんが思いがけないことを言いだした。それは若い人たちはみな出稼ぎにいって、島には老人と子どもと、婦人しかいないということだった。Aさんの話によると、男も女も、学校が終るとすぐ島を去っていく。男は神戸でダルマ船に乗り、女は大阪方面の織物会社で働いている。そしてそのほとんどがそこで結婚して島へは帰って来ないという。

『都会に出た人たちは、教会に行かなくなるそうですが、私たちが守ってきたこの島の信仰は、将来どうなるのでしょうか』と、Aさんは首を傾けていた。

Aさんの話を聞きながら、カトリックの亀鑒を目撃したような感じがしたが、いっぽうでは、島の信者、司祭、カトリックが、離島のこういう状態に対処してゆくのに、どんなに手を打ったところで、時代の波をくいとめる道はないのではないかと、暗く不安な気持になった。

## 旧信者の信仰

帰りの海は風が強かった。人の背丈の二、三倍もあるかと思う波が寄せてきて、そのたびに船が大きく揺れ動いた。甲板の上に寝そべって、片瀬さんの『馬渡島の女たち』のことを考えていたが、そのなかにつぎのようなことが書いてあったのを思い出した。

『読書しない彼女たちには教会、教えられたことだけが反復して体の中に刻みつけられている。信仰は知によるのではなく血によるのである』それはただん、男にも通じる旧信者の信仰の姿であろう。しかしこういう主体性のない信仰が、現代の中で生きのびることができるであろうか。

そこには多少の問題があり、馬渡島の現状も、そういう問題とどこかでつながっているのではあるまいか。波の向うに遠ざかっていく島を見ながら、そんなことを考えていた。

### 馬渡島教会の沿革

明治十三年、ペリュー神父（パリ会司祭）が宣教開始。最初は平戸から年二回ほど島を訪れていた。

現在の教会は、ブルトン神父が昭和四年、平戸の古い教会を移して改築したもの。ブルトン神父以後の主任司祭は平田周師、木村義門師、伊東誠二師、現任は田川清美師。


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話 ㊸ 4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

社員募集
男子　ちくわ、かまぼこ、塩干物販売　年令問わず、未経験者も可
女子　経理事務、簿記二級以上一名　多少経験ある者　三名　年令18才―30才
福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長　ペトロ下田数信
TEL 88―1135～7

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊼ 2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL ㊺・4718

辞書は三省堂

# 創立60周年のお祝い

## 戸畑明治学園

## 講堂・新校舎も完成

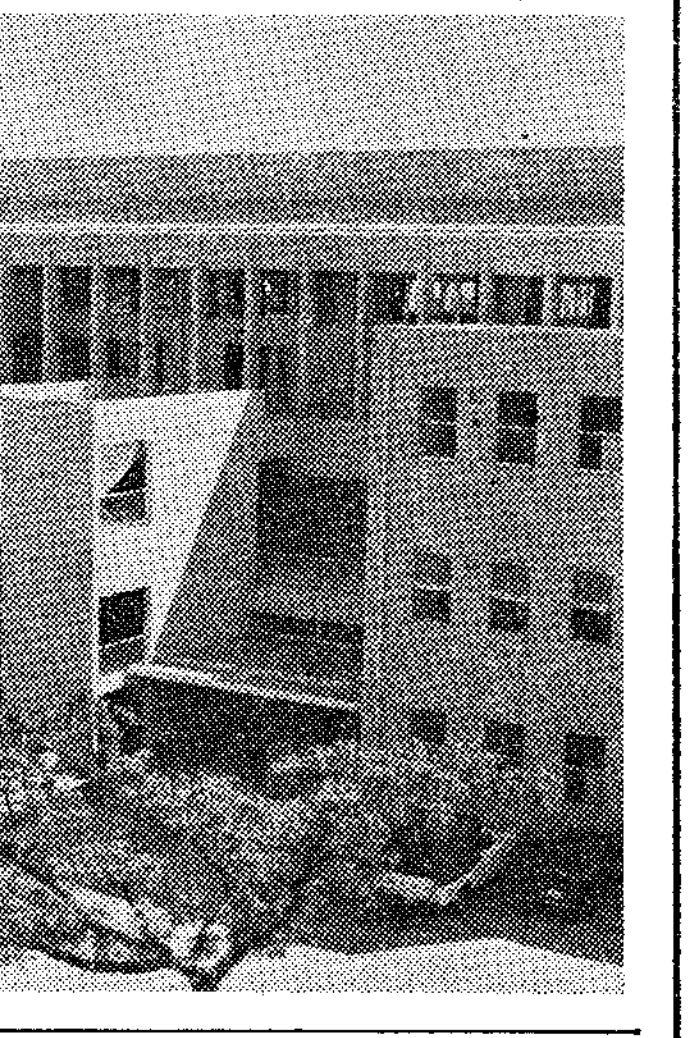


戸畑明治学園（北九州市戸畑区仙水町、ノートル・ダム会経営）の創立六十周年記念式典と新講堂落成式は、秋晴れの十月二十一日午後二時から挙行された。それに先きだち平田司教が、神の栄光に結びつく教育の場になるようにとの祈りをこめて建物を祝別した。新装なった講堂での記念式典では澤妙校長が「創立者につづく多くの人の労苦の結実を、いま私たちはよろこびのうちに刈り入れているのです」と感謝をひれきした。

来賓祝辞では、平田司教はじめ亀井県知事、谷市長、安川第五郎（創立者の令弟）、剣木亨弘参院議員、安川寛前理事長、佐藤直助（カトリック教育協理事）らが学園の一貫した教育方針の実りをたたえた。とくに平田司教は「全人教育をめざして知徳体の調和ある訓育の成果をここに見ることができる」と語った。

明治学園は安川敬一郎氏が高潔な人材養成をめざして、明治43年に私立明治専門学校付属小学校として創立したもので、戦後経営困難で昭和24年ノートル・ダム会に移管された。翌年女子高校が併設され、男女共学の中、小学あわせて生徒数は一九七〇人、職員は一〇〇人。

こんど新設された講堂は一三六六席、視聴覚、音楽、家庭、食堂などをふくむ六三二一平方米の設備で、また四階建女子中学の教室校舎一棟も完成した。設計施工は竹中工務店。なお記念行事として三浦朱門氏の講演と安川加寿子氏のピアノリサイタルがおこなわれた。（写真円内は澤校長右は新校舎）



# 創立記念に校旗授与

## 熊本マリスト学園

熊本マリスト学園（男子高校・中学、パトリック校長、熊本市健軍町北原）では、十月十三日午後九時半から創立十周年の記念式と文化祭を、市民会館大ホールで挙行した。

まず平田司教が新しい校旗を祝別して、同学園の教育が多くの人に高く評価されていることはうれしいとあいさつ。つづいてNHKニュース解説でおなじみの藤瀬五郎氏の「七〇年代の課題」と題する記念講演があり（要旨別項）、榊原舞踊研究所のメンバーによって、日本、中国、タイ、インドなどの舞踊がひろうされた。午後は生徒の文化祭で、音楽、英語、演劇、体操など各部が日ごろの訓練の成果を発表、その他美術や書道の展示もあった。

マリスト学園は昭和三十五年五月に本館建築に着工、翌年学校法人認可をうけて四月第一回高校生が入学。中学は三十八年四月開設。現在生徒数は高校四七二人、中学四一二人（寮生は両方で六〇〇人）。経営にあたっているマリスト修士会は神戸市にも学園をもっている。

# 日曜の代りに土曜 午後のミサもできる

十月六日午前十時半から第一回司祭評議会からひらかれ、いくつかの県案が話し合われたが、つぎのことが平田司教によって決定発表された。

❶主日のつとめを果たすことができるよう、土曜日の午後にミサを行なうことについて。これから主任司祭は賢明な判断にもとづき、常時あるいは臨時に主日にかわる土曜日ミサをささげることができる。この場合、小教区共同体の一致がみだれないように留意する。

❷納骨堂建設についての見解。これからは教会の同一棟または敷地内に納骨堂を設けないようにする。各地区の必要に応じて聖堂から離れた場所に、合同の納骨堂を持つことが望ましい。

❸信徒使徒職協議会設立について。各地区の実情に応じて信徒と相談の上、できるだけ速やかに同協議会を設立する。

❹神学校後援費について。年額五百万円を目標に、地区別で募金をおこなう。

❺混宗結婚の障害免除について。これからは各主任司祭が自分で免除を与えることができる。

# 藤瀬五郎氏講演要旨

日本はこれからも経済大国として発展してゆくだろうが、国内的に、国際的に大きくなってゆくさまざまの格差をどうするかは七〇年代の課題である。物質的繁栄のかげに、公害、道徳低下などの問題もあり、利潤追求のみに心を奪われるなかで、人間の真の価値はふみにじられている。人間性の回復とくに恵まれない人達の向上を考えるべきだ。マルクスは貧しさからの人間解放を叫んだが、今は物質的豊かさからの人間解放こそ重大である。七〇年代の日本をになうのは青年達であり、諸君はその責任に答えるための十分の力をいま養わねばならない。

# 新園舎落成

## 聖母愛児幼稚園

マリアの宣教者フランシスコ会が経営する聖母愛児幼稚園（熊本市島崎町）では、創立二十周年を期して新しい園舎を完成、去る十月七日午後二時から深堀司教（平田司教入院のため）の司式で祝別され、関係者を招いて落成式をおこなった。

新園舎は延面積約千三百平方メートル、教室八、アトリエ一のほか園長室、職員室、母親集会室、遊戯室（三〇五平方メートル）があり、設計は地元の川崎建築構造設計事務所、施工は同じく地元の岩永組、園長はシスター菊池冨美子、保母十一名、園児数二八〇名。過去二十年間の卒園者数は二、〇四〇名。

# 成功だった

## 熊本講演会

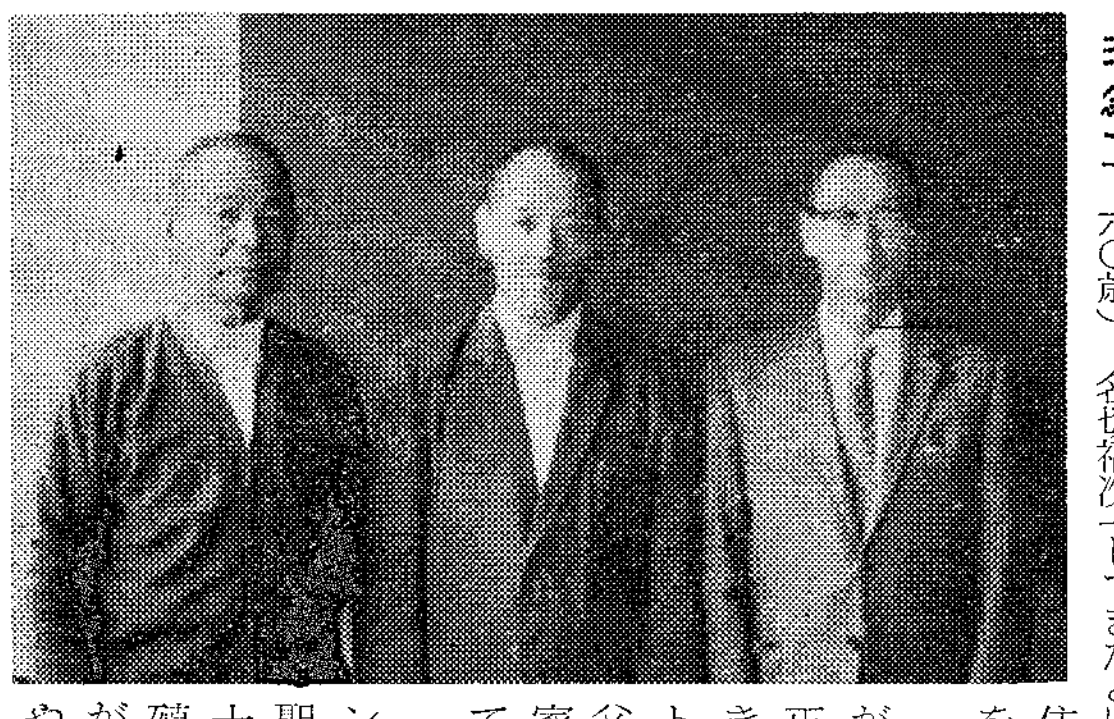
十月七日と八日の両日、熊本市内四教会主催の「講演の夕べ」が県立図書館ホールでひらかれた。二日間で約千百名の聴衆が集まったが、京都の古屋司教の「生きるよろこび」「現代人の生き方」と長崎純心短大の片岡弥吉教授の「ガラシャ夫人と花岡山の小笠原一族」「殉教と背教と現代ー小笠原一族しのんで」の四講演は聴衆にふかい感銘をあたえた。ある主婦は「熊本にこんなりっぱな殉教者がいたことを知って、郷土にたいする誇りを新たにした」と語り、またある青年は「私は信仰と愛にもとづく本当の人生を歩む決心をした」と感想をのべていた。このたびの講演会の出席者には氏名、住所、感想などを記入してもらったが、これを機会に教会とのつながりを保つようにつとめる。

なお講演会に先立つ十月四日日曜日午後二時から平田司教司式で手取教会の祈祷会がひらかれ、ことばの祭儀と聖体降福式のなかで会の成功を祈った。

# 古老にきく

# 新田原教会の草分け

## 北川、大石、名切さんの思い出話



新田原教会の北川政蔵さん（六九歳）、大石久太郎さん（六〇歳）、名切福次郎さん（六四歳）の三人は、いずれも長崎県五島出身の信者で、教会の長老。教会のできる前に移住してきたというこの人たちに、移住当時の事情や思い出を語ってもらった。

新田原に五島の信者が移住してきたのは大正十四年。築城（ついき）にあったトラピスト修道院の谷上楠夫神父が、兄の栄作さん一家を招いたのがはじめてという。

チリー司教、ブルトン司教の尽力でここに聖堂ができたのは昭和十一年。移住者の数が殖えてからのことだが、それまでは修道院や、山かげの小屋でミサにあずかっていたそうだ。

『トラピストがあり、広い土地があるということで出てきましたが、昼間は地主の土地の開墾、自分の借りた土地は夜開墾しました』と三人はいうが、その地主の土地の開墾料が坪あたり二十銭。おまけに開墾した畑に作った芋は、人の指のように小さく、手に握らないので椀に盛って食べたという。

そういう生活から抜け出したのは終戦後、農地改革で土地が自分のものになってから。

三人の古老は、

『どうやら生活も落ちついてきましたので、これからは神父さまをもりたて、この教会を立派なものにしたいと思っています』と語っていた。（写真ー左から北川、名切、大石の各氏）

# 〔福岡カトリック社研報告〕

# 社会参加について

十月十一日午後二時から大名町教会で例会。出席者約四十名。信徒の社会参加について深堀神父が公会議文書を中心に教会の考えを説明。つづいて四時まで討議。大神学生十数名も参加して活発な意見が交わされた。

信徒はとくに王的使命の達成のために、社会のなかに入ってこれを内側から刷新し、正しい秩序を確立してゆかねばならない。神の御子はこの世界と生きた人間を救うために、現実社会に人となられた。現代世界憲章は、信徒の社会参加の具体的分野として三つをあげている。

一つは人間の尊厳を守り高めること。つぎに人間社会の結合を強化すること。最後に人間活動に重要性と意味を深めること。したがって人間の尊厳を傷つけたり、家庭を破壊するような社会状態があるならば、これに対して異議を申し立て、秩序確立に努力すべきだ。

この説明をもとに行われた討議では、信徒が社会にはたらきかける使命について無関心であったのではないか、それは自分の信仰と能力への自信不足に由来するかも知れない。社会のなかでただ従順まじめな存在であればよいという「いい子」であることのみ願って、悪いことをみても顔をそむけるだけで過してきたきらいがあるのではないか、などの反省が大いになされた。しかしもっと具体的な道の発見の手がかりを見いだすに至らなかったのは残念であった。

社会十一月例会テーマは未定、十二月は公害について、水波、土田、白水各氏が意見発表する。

# 移住献金（9月13日）

| | |
|---|---|
| 大名 | 九、三〇〇 |
| 浄水通 | 一、七九〇 |
| 地行町 | 五、五〇〇 |
| 光ケ丘 | 四、四〇〇 |
| 西新町 | 四、五〇〇 |
| 美野島 | 三、一五〇 |
| 高宮 | |
| 吉塚 | |
| 茶山 | 三、五〇〇 |
| 箱崎 | 一、七九四 |
| 大楠 | 二、五二四 |
| 東田島 | 二、三〇〇 |
| 古賀 | |
| 二日市 | 一、九七七 |
| 久留米 | 一三、〇〇〇 |
| 大牟田 | 四、〇〇〇 |
| 吉野 | 三、一六〇 |
| 今村 | 一五、〇〇〇 |
| 本郷 | 五、六〇〇 |
| 小郡 | 一、四五〇 |
| 呼子 | 一、八七六 |
| 馬渡島 | 三、〇〇〇 |
| 佐賀 | |
| 唐津 | 一、三〇〇 |
| 伊万里 | |
| 鳥栖 | 一、二〇〇 |
| 武雄 | 六〇〇 |
| 鹿島 | 五〇〇 |
| 多久 | 八三〇 |
| 門司 | 三、〇〇五 |
| 門司港 | 二、三六〇 |
| 小倉 | 一五、二〇〇 |
| 湯川 | 四、七五〇 |
| 戸畑 | 一四、〇〇〇 |
| 若松 | 四、〇〇〇 |
| 天神 | 六、一五〇 |
| 黒崎 | |
| 八王寺 | 五、〇〇〇 |
| 本城 | 一、五八〇 |
| 水巻 | 三、七一〇 |
| 直方 | 一、一〇〇 |
| 飯塚 | 一、五〇〇 |
| 田川 | 一、四五〇 |
| 行橋 | 二、五二四 |
| 新田原 | 八、四二五 |
| 手取 | 一〇、〇〇〇 |
| 荒尾 | 二〇〇 |
| 人吉 | |
| 本渡 | 四、〇〇〇 |
| 健軍 | 五、四〇〇 |
| 帯山 | |
| 水俣 | |
| 大江 | 三、六四〇 |
| 崎津 | 三、七〇〇 |
| 島崎 | 一九、五〇〇 |
| 玉名 | 一、二四〇 |
| 菊池 | |
| 八代 | 五、四〇〇 |
| 合計 | 二三〇、〇八五円 |

# カトリック放送番組（11月）

FBSテレビ、心のともしび

土曜・午前8時25分―35分
日曜・午前8時30分―45分

1日（日）ゲスト相馬均、聞き手浜尾司教・曽野綾子

7日（土）8日（日）ゲスト・ラサール神父、聞き手・浜尾司教、曽野綾子

14日（土）15日（日）遠藤周作・三浦朱門対談

21日（土）ゲスト・石垣純二、聞き手・遠藤周作、三浦朱門

月刊 カトリックグラフ

No. 3　12月号　クリスマス号　発売11月15日
年間予約 ¥2,000（〒共）

十二月号予告

■ クリスマス特集
● ある未熟児の誕生日
● 二人の尼僧物語
人身売買の手先??ー修道会
会社倒産でえた人生教訓

■ カラー連載
オラショ 長崎
ステンドグラス物語
カラー訪問記

11月号　大好評発売中　¥150

樅の木の陰に咲いた信仰の花
仙台藩キリンタンの壮烈な殉教譜

ほんまにシンドかったワァ
万博キリスト教館ホステスの座談会

金山大使と李議長の対談
お互い"キリスト者"でトクしています

大特集 東京カテドラル

反児童マンガ亡国論

発行所　850 長崎市本河内町196　聖母の騎士社

# 教養

## 聖なる造型

平田寛



大阪万国博覧会美術展の小テーマの一つは、「聖なる造形」ということになっていて、カタログによると、この小テーマに関するだけで、古今東西あわせて一七一点の作品が用意されたという。一覧したのを機に、小さな感想を述べてみたいと思う。

聖なる造形という言葉には、二つの意味がふくまれている。一つは聖なるものの造形という意味であり、一つは聖化されている造形という意味である。前者は宗教的主題をもつ造形芸術の意であり、後者は造形をとおして感得される聖性を意味する。造形の本質は、題材の如何にかかわらずその表現方法にのみ認められるとする、近代そして現代に支配的な美術観にたては、聖なる造形というのは、後者の場合に意味がある。今日、われわれは傾向としてその立場に身を置きやすい。たとえば、レンブラントの老人の顔をえがいた小さな習作がある。幽暗のなかで、そこだけが光をあてられた老残の、凄くみる眼差の表現に、聖なる造形の名を附することはできる。一方、聖なる造形の名のもとに陳列されているが、法隆寺の孔雀明王の画幅は、中国仏画の拙劣な模倣にすぎず、中世絵仏師の因襲化した技法には聖性の輝きはとぼしい、と思う。

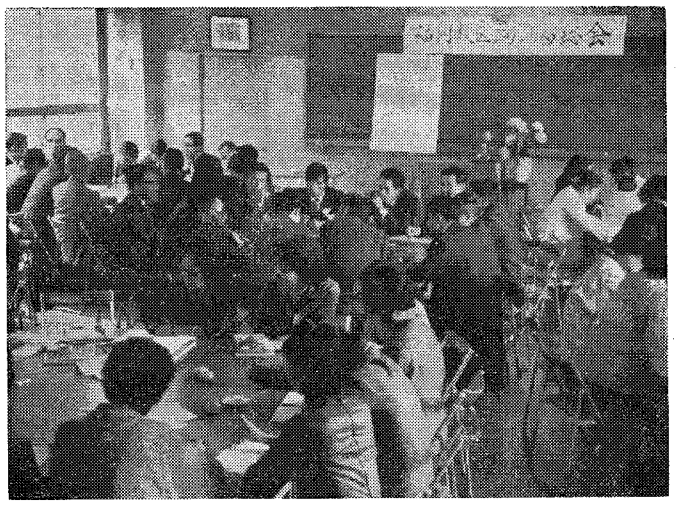


額装華厳五十五所部分　(藤原時代)

しかし逆に、造形力の面では拙劣な東欧のイコンやスペインの聖母子像は、野卑な生活の臭いとともに、聖なる造形の直截な存在感を示している。レンブラントにみられる、精進によった純化の聖性とことなり、造形にやどる実在の聖性といった趣をもっている。この場合、精進という言葉にたいし帰依（きえ）という言葉を対置することができ、聖なるものへの素直な帰依の深さが、聖性の実在を告げている。前者が、感覚の混沌のなかで聖なるものへと接近する努力のあかしであるのにたいし、後者は、混沌たる感覚のなかにも啓示される、聖なるもののあかるさであり、喜びである。造形の自己目的的な面にのみ留意し、美的価値と聖的価値の異をつよく意識する近代的美学論に影響されているわれわれにとり、前述の聖母子像やイコンがしめすこの帰依の聖性は、まことに驚目に値する。造型の洗練に欠けるが故にかえって聖なる造型の一面がなまな形で露われ、独特の直截な存在感がわれわれの心を撃つ。

この帰依の聖性は、高野山の聖衆来迎図など、わが国の藤原時代の仏画にも共通してみとめられるもので、この場合には、高度に洗練された造型のなかに、やわらぎやすらぐ聖性の啓示がある。さらに、藤原仏画のなかには、たとえば東大寺の額装された華厳五十五所絵（挿図）のように、不思議なユーモアをたたえる作品がすくなくないが、それもまた、やすらぐ聖性に裏打された啓示のあかるさと同質のものに思われる。さらにまた私には、この啓示のあかるさは、いわゆる宗教芸術と称されるものには、本質的に存在しているように思われてならない。キリスト教美術と仏教美術は、そうした聖性の実在を示す双璧であることは、あらためて確認してよいことであろう。あえていえば、両い宗教に高い芸術がある。たかい造型にはふかい聖性が宿る。

ところで、そのような造型の聖性は数学的証明のようなかたちでわれわれに認知されるものではない。たとえば、愛を知るものは、愛の実在の証明によって愛を知りうるのではない。逆に、量るべからざるの故をもって、愛を感得し愛を知るのである。そのように造形における聖性もまた、人智と人巧についての自足的論理のなかでは、証明され知られることもないであろう。人智と人巧を生動せしめている生命的な理を実感する時は



# 皇教パウロ教皇
# 極東、豪州を歴訪
## マニラでアジア司教会議



パウロ六世教皇は、十一月二十六日から十日間の予定で、はじめて極東・東南アジア、濠州を歴訪なさる。この長いご旅行のスケジュールと目的について教皇ご自身、去る十一月四日の一般謁見で語っておられる。それによると、教皇のご一行は26日ローマ発、テヘランをへてフィリッピンの首都マニラへ。ここでアジア司教会議に出席してこの広い地域ではたらく司教らと話し合う、これがこんかいのご旅行の主要目的の一つ。マニラ滞在の三日間に、アジア諸国から集った人たちの司祭級階式を司式なさる。またこの機会にカトリック・ラジオ放送局（ラジオ・ヴェリタス）の開設式に臨席。

マニラからポリネシアの西サモアを訪問ののち、シドニーにむかわれる。三日間滞在中に地元およびニュージーランドとオセアニアの司教団、信徒と親しく交わされるが、濠州開発二百年記念の国家祭典にも特別に臨席なさる。

シドニーからジャカルタにむかい、一日滞在して現地の司教らとお会いになる。そこから香港にむかい（12月4日）、三時間余りの短かいご訪問で、偉大な中国々民に敬意を表される。そしてセイロンのコロンボをへて十二月五日ローマにご帰還。

このたびのご旅行は、これまでの教皇のご旅行と同じく多くの宗教的性格のものである。したがって国家の元首や一般市民も歓迎もうけられるが、本質的には教皇としての立場から、宗教的、霊的、宣教的意図をもっておこなわれる。

### 司祭異動
（カッコ内は前任地）

【熊本コロンバン会地区】
崎津主任オッコンネル師（玉名主任）本渡主任リンチ師（帰国）帰国コーア師（崎津主任）帰国デイキン師（本渡主任）帰国オマラ師（荒尾主任）玉名主任キルケン師（帰国）

# 社会参加を考える
## クルシリスタの総会で

福岡教区の男女クルシリスタ、これまでに信徒練成会（クリシリヨ）にあずかった人たちの総会は約九十名の参加のもと、十一月十五日（日）午前十時から福岡雙葉学園でひらかれた。

教区では男子のクルシリヨをすでに六回、女子のほうを一回をひらき、約二百名が教会内外の活動のリーダーとして活躍しているが、こんかいは『信徒の社会参加』をテーマに、つねに前進し社会のなかに入ってゆくべき教会の手足となって使徒職をおこなってゆくにはどうすべきかを話し合った。

会は米湊氏のオリエンテーションに始まり、松尾氏が去る十月の信徒使徒職推進全国大会の参加報告をおこない、東京から来福の佐藤吉茂氏が二時間にわたって、社会参加とはどんなことか、これまでの信徒の地位、バチカン公会議以後の新しい道、家庭、職場、地域社会、他の諸団体との関係における使徒職実行の具体例をのべた佐藤氏の講演は、社会参加という信徒の活動分野が社会人・家庭人としての信徒だれにでも可能なものであることを聴衆にふかく印象づけた。

中食のあとグループに分かれて約一時間、社会参加のあり方を自分たちでさらに掘り下げたが、ミサの中で平田は司教「一本のたいまつでは力よわくても、みなさん全員が一緒にたいまつをかかげるならば、この世界にキリストの福音の火を燃えたらせることができる」と激励のことばを述べた。

教区では第二回女子クルシリヨを来年三月下旬に、また第七回男子クルシリヨを五月上旬にひらく予定。

（写真上はクルシリヨ総会）

修道院めぐり

# 聖母訪問会新田原修道院
## 福岡県行橋市大字東徳永



国鉄行橋駅から南へタクシーで十数分、ススキの茂った草原の前に新田原病院があり、その棟つづきに、この病院を経営している聖母訪問会の修道院がある。

新田原病院は典礼暦にサナトリウムと書かれているように、もともとは結核患者の療養所だが、いまはほかに胃、肝臓。心臓、老人病などの患者を収容し、現代の医療機器も完備している。

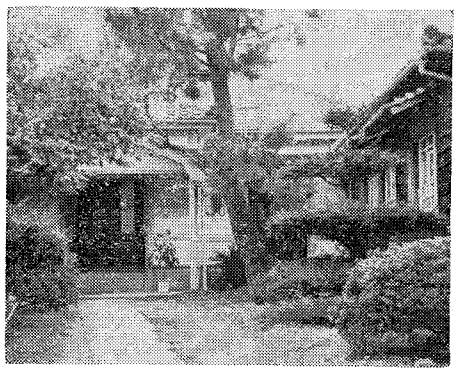
聖母訪問会がこの病院をはじめたのは昭和八年。長崎方面から移住してきた信者と、地元の貧困者のために、修道会の創立者で、福岡教区の司教だったプルトン師の提案でつくられたものだそう。

当時は十人あまりの患者と三人のシスターだけだったのが、三十七年後の今日では入院患者九十人シスター十五人にふくれあがり、シスターたちは地元出身の数人の看護婦さんとともに、毎日仕事に振り回されているような忙がしさだという。

夜になると、病棟の中をせせらぎのように祈りの声が流れてくるそうだが、患者の一人は

『棚町神父さまも、ルリエ神父さまも、あの祈りを聞いて昇天されたのですよ』と、感慨深そうに語っていた。

修道院長はベルナデッタ藍田さん。愛知県常滑（とこなめ）の出身。修道会に入ったのは昭和三十四年。病院長のマリア中井さんは大阪女子医専卒の女医。西陣織で知られた京都の西陣生まれで、四十年に修道院に入った。ふたりとも謙虚な感じのシスターで、いかにも誠実そうな話しぶりが印象的だった。



# 大神学院祭

十一月十九日、福岡大神学校に平田、平山両司教、七十数名の司祭が集って、学院祭がおこなわれた。年に一度母校にもどって司祭職への誓いを新たにするもの。司祭叙階十年をむかえた川添師（長崎教区）がミサ中説教した。

# 合同主催
# 市民クリスマス

熊本市のカトリック・プロテスタント教会合同主催の市民クリスマスは、12月18日夜6時半から、県立図書館ホールで行われる。最後に市内目貫き通りでクリスマス・ローソク行列も予定されている。

### 手で聖体をうけることができる

日本の司教協議会はローマの典礼聖省から『聖体を手に授ける』許可を受けているが平田司教はこのたび福岡教区内でも、その実施を許可した。それは従来の拝領方法（口をあけて舌に司祭が聖体をのせる）を廃止するということではない。

# 朝食祈禱会に
## カトリックからも参加を

福岡市のプロテスタント諸教派は、超宗派の立場で、毎月日曜日午前七時半から約一時間、朝食祈禱会をおこなっている。会場は市内上呉町電停、住友銀行北となり茶房「エルム」二階（電二九―〇七七〇）。会費一〇〇円。

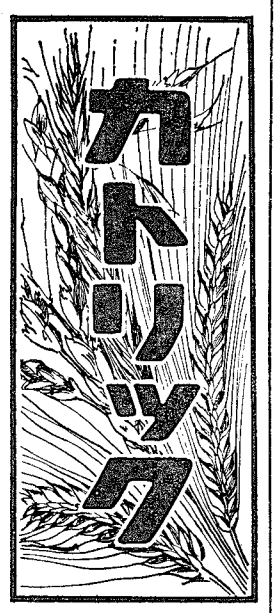
祈禱会では、賛美歌、聖書奉読祈禱、奨励、主の祈りの順序ですすめられ、かんたんな朝食のあいだに自己紹介や証しをする。教会内外のいろいろな意向のため、また福岡市民の救いのために祈る。

東京、大阪では、教会一致運動の一環として、カトリック教会から多数司祭・信徒がすすんで参加している。

福岡でもカトリックからの参加が強くのぞまれている。来年六月に全国の朝食祈禱会（第十回）が福岡でひらかれる。

### 堅信のよろこび

本郷教会で十二月一日四十五名が受堅


平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円


# 12月
## 待降節　降誕節

1日（火）福岡地区司祭集会
2日（水）日本聖公会福岡教会聖別式に平田司教列席
3日（木）聖フランシスコ・ザビエル司祭
わが国が戦争に明けくれていた戦国時代の天文18年、キリストの福音の教えを伝えた。
6月（日）待降節第2主日
新しい時代はこようとしている。古いものが大音とともくずれおちて、新しい天地が現われるのだ。神の御子がこの人間の世界にお入りになるのだから。このお方を迎えるわれわれに要求されるまことの改心、それは宇宙の変貌よりも重大なことである。

今村教会で堅信

8日（火）無原罪の聖マリアの祭日
マリアが原罪を免かれたことは、一つの例外であることに違いはないが、キリストが十字架のあがないによって、やがて全人類に罪に打勝つ力が与えることを予告するものであった。
12日（土）熊　本天使園落成式（司教司式）
13日（日）待降節第3主日
洗者ヨハネは、来るべき救主キリストの証人である。証人とは、キリストを受け入れさせる心の準備をさせる者である。ヨハネはその模範的な生き方によって当時の人たちにキリストを受け入れる準備をさせた。われわれはいま何をしているか…。

福岡大神学院で下級聖品の叙階式
20日（日）待降節第4主日
いまや神の御子が人となってこの世にお降りになることが決定的となった。天使がブリエルはマリアに神のご計画を告げ、マリアは救主の母になることを承諾したのだ。
21日（月）聖トマ使徒
25日（金）主の降誕の祭日
きょうはクリスマス。24日の夜からどの教会もキリストのご誕生を祝う人でいっぱいになる。世界に神の御子がお生まれになったことほど喜ばしいことはない。それは神がわれわれに大きな祝福を下されたことの明らかなしるしなのだ。

大名町教会で司教ミサ

26日（土）聖ステハノ殉教者
27日（日）聖家族の主日
神の御子を自分たちのこどもとして教育するヨゼフとマリア。これは全くユニークな家庭であろうが、われわれの家庭そのものも、大きな責任が果たされる場所である。家庭を大切にするとは、いわゆるマイホーム主義になることではない。
28日（月）聖なる幼な児殉教者

### 聖体礼拝

第1日曜　二日市教会
八代聖パウロ修院
第2月曜　本渡教会
久留米信愛修院
第3日曜　唐津教会
本城教会

### 祈禱の使徒会

【一般意向】祈りの必要
【布教意向】回教徒との対話


新学年学童・学生用デスク

コクヨホームデスク 特別価格提供
（定価 25,900円）
・天板モルパ使用（ドイツ特許）
・時計・シヤープナー・温度計・カレンダー
・螢光灯付

お近かくの教会又は本社へ申込み下さい

シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
塩田五郎
TEL ㊷―5327

'70年特別提供
オリンピアポータブルタイプライター
33型（英独仏語）10台限定
￥31,000を￥24,000　3年間無料保証
他 シャープ卓上電子計算機
東芝記録加算機ピコ

# 社会参加に立上るカトリック

## その考え方と障害処理に問題

十月三日から五日まで、三日間にわたって東京カトリック神学院で行なわれた、第二回信徒使徒職推進全国会議で、『教会の社会参加』ということが浮かびあがってきた。そして十一月十五日、福岡市聖業学園で開かれた第二回ウルトレア総会は、社会参加を『信徒の社会参加』という形でとりあげ、『社会参加』という、カトリックでは聞きなれないことばが、急に信者の注目を浴びてきた。

では、その社会参加とはどういうことであろうか。ウルトレア総会を足がかりに、その意味と考え方を探ってみよう。

第二バチカン公会議以後、キリストの教えの光のとらえ方に変化が起こり、司祭もシスターも変ってきた。一般信徒も進歩的になり、修道者でも社会人でもない在り方を反省しはじめてきている。いかまでがカトリックは神と人の縦の線だけを考え、人間と人間の横の交流を忘れていた。教会も信者や未信者を、世俗の危険から清らかで安全な教会へ導き入れることだけをしてきたが、それが社会の外側に別の集団を作ることになりそのために教会は社会に立ち遅れキリストの愛も理解されなくなった。

これからの信者は、社会の一員として社会に参加して、社会に神の平和と正義をもたらし、疎外されている人間性を回復するとともに、社会の秩序をキリスト教的秩序に引きあげねばならない。

では社会参加とは、具体的にはどんなことであろうか。その方法として (1) 家庭、(2) 職場、(3) 地域社会、(4) 諸団体の中で、信者が何をすればよいかを考えてみよう。

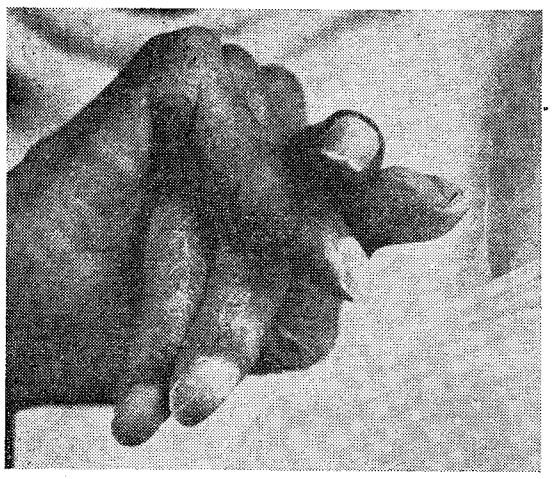
(1) 家庭で＝信徒はまず家庭の浄化と建設を考えねばならない。家庭を放置しても、教会の事さえしていればよいという考え方は誤まりだ。

(2) 職場で＝職場では信者生活に徹して誠実に仕事をし、人間の内容から溢れる暖かさで人に接するとともに、環境の改善にも努力しなければならない。

(3) 地域社会で＝地域社会では信徒も教会も、孤高な姿勢であってはならない。地域社会に参加し、そこの人々のために奉仕しなければならない。

(4) 諸団体と＝プロテスタントとの合同祈祷会や研究社会問題の推進し、平和と正義の実現に努力しなければならない。とくに赤い羽根募金には積極的に参加すべきである。

以上は福岡市でのウルトレア総会における、東京教区・クルシリヨ練成委員長、佐藤吉茂氏の講話を要点筆記したもの。そしてこの日総会に参集したのは、神父、シスターをふくむ福岡教区のクルシリスタ八十一人と、ゲスト神学生十人。



水俣病で機能を失った手

## 日常問題に終始しないで

佐藤氏はいう。『はじめての社会参加の話なので、ごく初歩的なことしか言えませんでした。だがこの日の印象は、社会参加というよりも日常的な問題、それも信徒が、当然しなければならないのにしていなかった、そんな問題の復習という感じが強かったようで、神父のAさんは、

『気になったのは、佐藤氏の話も、グループ別ディスカッションも、日常の問題に終始して社会意識にも、社会参加にも触れるところがなかった。はじめにちょっと出て来た人間性の回復ということを、もっと掘り下げるとよかったのではないか』といい、信者のBさんは

『佐藤さんの話は、信徒が社会に参加するというより、教会の外側にいる人たちの中に入ってゆくことで、狭く考えればそれも社会参加かも知れないが、少くとも、今日、一般の人たちが考え、希望している社会参加ではない』という。

またCさんのように、佐藤氏の話を要点筆記したのは、神父、シスターをふくむ福岡教区のクルシリスタ八十一人と、ゲスト神学生十人。

## 欠けている社会参加の姿勢

それでは、ほんとうの社会参加とはどういうことであろうか。A神父は

『現代社会憲章の冒頭にあるが現代人の喜びとの希望、悲しみと苦しみ、とりわけ、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものはキリストの弟子たちの喜びと希望悲しみと苦しみであるということがすなわちカトリックの社会参加だ』

カトリックの社会参加とはまた先日大名町教会に集って貰った信者の一人、Dさんは、『カトリックの社会参加とは布教することではない。神の愛に立って、社会にいかに正しいことをするかということだが、そのためには、自分を犠牲にしてもという覚悟が必要だ。それがなくては、ほんとうにカトリックが社会に参加することはできない』と言っていたが、同じ日集ったEさんは、

『カトリックの社会参加とは、カトリックが社会運動をはじめることだ。現代社会には、社会組織の欠陥や矛盾から生まれる問題のために、一般市民や下層階級の生活がおびやかされるようなことが多くなってきた。われわれは社会の変化、進行に気をつけて、どこから、何の原因でそういう問題が起こるかを知らねばならない。それが社会に対する姿勢を作り、社会運動もそこからはじまるわけだ。カトリックの社会参加が進まないのは、カトリックの内部にそういう社会に対する姿勢が欠けているからではないか』とカトリックの社会に対する姿勢の欠除を指摘した。

現代社会には公害をはじめ、むずかしい社会問題がひしめいている。たとえば、政府が公害防止対策を懸命になって打ち出しているいまでも、新日窒水俣工場の、水俣病患者に対する補償はまだ解決していない。地元の評論家、石牟礼道子さんは、水俣病の悲惨を追求した『苦海浄土』（講談社）のあとがきで、新日窒の態度を『恐るべき厚顔無恥、もはや人間の皮をかなぐり捨てたもの』といい死につつある患者の怒りをつぎのように書いている。

『銭は一銭もいらん、そのかわり、会社のえらか衆の、上から順々に、水銀母液ば飲んでもらお。上から順々に、四十二人死んでもらう。奥さんがたにも飲んでもらう。胎児性（水俣病）の生まれるように。そのあと順々に六十九人、水俣病になってもらう！』

一信者は、人間のこういう悲惨なことばを聞いたことがあるか。これは素朴な漁民だった患者の、死に直面した悲しみと怒り、新日窒への憤りが結晶したもので、こういう悲惨なことばは、かつての殉教者の口からももれなかったであろうという信者のFさんは、さらに、

『こんな人たちをじかに自分の目で見たとき、この人たちを救おう、この人たちのために働こうと思わない者はあるまい。そして、カトリックは、いままでこの人たちの苦しみに、一度目を向けたことはないのだ。カトリックの社会参加は、家庭聖化とか地域社会への奉仕とかということではない。こういう人たちのために働くのがほんとの社会参加だ』と憤りをぶちまける。

## 自主行動を発揮せよ

『カトリックの社会参加は、いまさら持ち出すまでもなく、これまでも〝社会に働きかけるよ〟ということばで、しばしば繰り返されてきた。それがかけ声だけで終り、いっこうに進まないのは、信徒にそれを理解する力がないとともに、司祭が先頭に立って指導しないからだ。私は幾度それを司祭に言ったかわからないが、司祭は逃げてばかりいて、そういう話には耳を貸そうともしないと、大名町教会の集りでまっ先に発言したのは、旧信者で老年のGさんそれについてHさんはつぎのようにいう。

『司祭が動かないのは司教団の圧力があるからではないか。政治問題には関与しないという逃げ口上はいい加減にして、司教団にも新しい問題についてリードしてもらいたい。側近にブレーンになる人を置いて、そこから新しい考え方を吸収してほしい。』

司教団―司祭―信徒のつながりは絶対に必要なものであるが、しかしその中に今は社会参加の障害がふくまれていることは、どこの教会に行っても聞くこと、それは組織に安住して、自主的行動を発揮しようとしないということである。また司祭が信徒のブレーキになっていることも同じようなことで、進歩的な信者なら、誰でもが口にすることだ。そして記者の勤めている新聞社のあるデスクの、

『カトリックの中には、古くから培われてきた体質があって、その体質が変らなければ、真の社会参加は実現しまい。カトリックが今日まで社会に果たしてきたことを反省し、その上に立たない限りカトリックの社会参加など思いもよらないことだ』という意見も外部からの、きびしい批判として受けとってよいだろう。

× × ×

『社会参加』ということは、全国の教会でこんごも繰り返し論議されるであろうが、社会参加の意味がほんとうにハアクされ、それを推進するときぶつかる壁を打ち破らない限り、カトリックの社会参加は実現しないだろう。そして生まぬるいことをしていると、かえって社会のもの笑いになることも知って置いたほうがよさそうだ。

## 馬渡島の記事について

カトリック新聞（十一月二十九日号）

『カトリック新聞』十一月二十九日号は、本紙十一月号の『玄海灘に浮かぶ切支丹の島』を紹介しその中で、本紙の『こういう主体性のない信仰が、現代の中で生きのびることができるであろうか』という部分をとりあげ『しかし、離島の老人たちの古い信仰の内容までを問題にすること自体がむしろ問題ではないのかーと思えないでもない。

島の信仰は自然消滅してゆくだろう。それとも細々と引きつがれて生きのびてゆくかもしれない。だがそれは自然に成りゆくようにまかせておいていいのではないか古老の持つ平穏な信仰は、そのまま、そっとしておいてやりたい。何もかも問題的にとりあげなくてもよいのではないか』と書いている。

本紙の『主体性のないうんぬん』の部分は、島からの帰り、船上で自然に出てきた感想をそのまま書いたもので、ことさら問題としてとりあげたものではない。それは文章を注意して読めばすぐに解ることだ。しかもこれは、島の現状を見たうえで、旧信者の信仰の姿をかえりみたまでのこと、決して古老の信仰を問題にしたのではないのである。

『カトリック新聞』の執筆者が、どんな読み方をして、こういう見解を持ち出したのか知らないがこんな小さな点を問題にするより若い人が出かせぎに出て、老人、女、子どもだけが残るという島をどうするか、カトリックはこういう状態をなぜ放置しておくのかということを問題にした方がよかったのではないか。むしろ『島の信仰は自然消滅してゆくだろう。それとも細々と引きつがれて生きのびてゆくかもしれない。だがそれには、自然に成りゆくようにまかせておいていいのではないか』という書き方の方が、現代のカトリックの考え、バチカン公会議の精神を無視した、愛情のない、傍観的な意見だと思うがどうであろうか。（広報室）

× × ×
× × ×


住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市神田町47番地　電話㊸4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

社員募集
男子　ちくわ、かまぼこ、塩干物販売
女子　年令問わず、未経験者も可
経理事務、簿記二級以上一名
多少経験ある者　三名
年令18才―30才
福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長　ペトロ下田数信
TEL 88―1135～7

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL㊺・4718

辞書は三省堂

# 信徒使徒職 協議会結成へ前進
## 地区信徒の話し合いで

教区司祭評議会は去る十月はじめの会合で、できるだけ速かに地区信徒使徒職協議会を設立することを決定したが、早くも各地で会結成への動きがはじまった。

北九州では、この春から教会代表が会合をかさねて、組織化と規約の作成準備など、具体的な歩みをすでに進めており、八月末には使徒職研修会をひらいた。

熊本地区では、十一月八日午後三時から、手取教会に県下の代表八十名が集って初の会議をひらいた。はじめに平田司教が、信徒は自分たちの独自の使命を果たすために、下から盛りあげる形で協議会を作るようにと勧告したのについて、各小教区でのこれまでの活動状況を報告し話し合った結果来年一月中に第二回目の会議をひらいて発足準備委員を選出することを決定した。なお当日はカナの会や神学校後援、街頭募金、十曜日の主日ミサなどについても司教とゆっくりご懇談した。

福岡地区では、十一月二十二日午後一時から、信徒約四十名が大名町教会で、クリスマス扶け合い募金運動の件を討議したあと、使徒職協議会結成を話し合った。協議会の必要と性格についての説明につづいて、意見の発表、質疑応答がかわされたが、十二月十三日にも一度会をひらき、準備委員会を作ることを決定した。

佐賀地区でも、十一月二十三日午前十一時から平田司教のミサにあずかり、教会代表や婦人会、レジオなど活動団体役員ら約五十名が中食をはさんで、過去一年間の活動状況を発表した。同地区ではこれまで信徒布教会の名称で組織化された全信徒の会があり、規約にしたがって協議や活動をおこなっていたが、いままでのような活動では現代の教会の要望に十分に答えていないのではないとの反省が強く打出された。平田司教は協議会のあり方、信徒の責任についてくわしく説明して、一同を激励した。



# 街頭募金はじまる
## 年末助け合い運動

クリスマスと年末の助け合い街頭募金がことしも各地でおこなわれる。

【福岡地区】一六〇万円を目標に、11月29日から12月23日まで、福岡市と近郊、久留米市、大牟田市で、信徒の積極的運動としておこなわれる。募金のうち一〇万円が事務費と予備費、百万円は諸施設や貧困家庭に物品を購入して配分、五〇万円は財団法人カリタス・ジャパン（日本の全カトリック社会福祉事業の統轄団体）を通して、超重度身体障害者のホーム〝こひつじの苑〟（京都府）設立資金に加えられる。なお一部は最近大水害をうけた東パキスタン救援にも送られる。

【北九州地区】プロテスタント諸教会と合同で募金をする。期間は12月1日から30日まで。目標額百万円でカネミ油症患者救済のほか地元の社会福祉施設におくられる。この合同募金運動のため十月から地区の全キリスト教会連合の役員会が数回ひらかれ、実行委員長に若松教会の松尾光敏氏がえらばれた。

【佐賀地区】佐賀市を中心にビンセンシオ会が主体となって、信徒が12月13日と14日の両日旺日に街頭募金をおこない、地元の貧困者を援助する。

【熊本地区】プロテスタントの人たちと合同で、12月12日から20日まで、ネパールの医療活動の援助のためおこなう。

# 少年侍者のあつまり
## 福岡大神に三六〇名

十一月三日文化の日、福岡大神学院で少年侍者のつどいがひらかれた。集ったのは日ごろ教会でミサに奉仕している中・小学生ら三六〇名。福岡、北九州、熊本、佐賀はじめ、長崎大司教区からも満員バス二台で合流、広い大神学院もこの日だけは元気一杯のこども達のカン声につつまれた。神学生も童心にかえってバレー、野球、サッカーに興じたり、引率の司祭父兄も加わったつな引きなどに楽しい交歓のひと時を過ごした。

この集りは、純心なことも達に司祭召命への目をひらかせようと神学校見学をかねて毎年ひらいているもの。（写真＝少年侍者たち）

# トーレス神父四百年祭
## 天草・苓北町

十月十八日熊本県天草郡苓北町の志岐城下公民館でトーレス神父四百年祭がおこなわれた。

式典は午前十時からまず森町長のあいさつがあり、スペイン大使のメッセージについでパチェコ神父（長崎市二十六聖人館長）が「迫害前の志岐教会」と題して講演をおこない、ルイス・デ・アルメイダから寺沢志摩守までの同地方の宣教活動を紹介した。最後に本渡教会主任デイキン神父とパチェコ神父共同ミサがささげられ十一時半閉式した。

トレス神父は一五四九年ザベリオと日本に渡り、七〇年十月二日志岐で生涯を終えた。ザベリオが日本を去ったあと宣教の最高責任者として指導にあたり、志岐で二回宣教師会議をひらきその議長をつとめた。志岐にはいま二十人足らずの信徒しかいない、当時の教会跡も神父の墓もさだかではない。

トーレス神父の生涯についてはパチェコ神父の『長崎を開いた人』（中央出版社、昭和四十四年、六三〇円）がある。

# 学園創立記念式
## 熊本・久留米信愛で

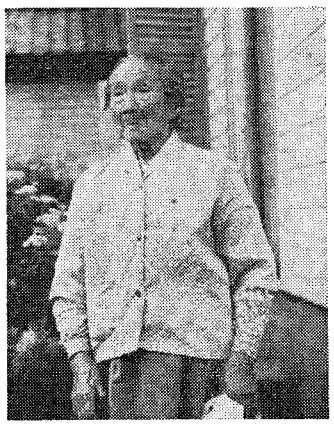
熊本信愛女学院（高校、中学、幼稚園＝シスター木村リョウ校長）はことし創立七〇周年をむかえ、昨年末から第二校地グランド造成をはじめ、八月には音楽教室増築、十月に新グランドで大運動会、十一月に学園祭（文化祭とバザー）とつぎつぎに記念行事をおこなってきた。また創立者メール・ボルジア修道女の記念碑を本館正面玄関横に建立して高徳を顕彰した。なお来年中には待望の体育館兼講堂を建設予定。

久留米信愛女学院（女子短大、高校、幼稚園＝シスター松永キク校長）の創立十周年の記念行事は十月二十八日から十一月一日まで行われた。第一日の式典は平田司教、井上久留米市長らも出席して祝辞をのべ、永年勤続の教職員や学院協力者に表彰状と感謝状が贈られた。第二日には遠城寺久留米大学長の『環境のなかの人間』と題する講演があり、学園をあげての文化祭、展示会、バザーが盛大におこなわれた。在学生は短大一六〇人、高校六五〇人、園児は二八〇人。

## 移住献金
（未掲載分）

| | |
|---|---|
| 高宮 | 四、〇〇〇円 |
| 古賀 | 二、五二〇 |
| 伊万里 | 一、三三〇 |
| 佐賀 | 五、〇〇〇 |
| 黒崎 | 八、二〇〇 |
| 菊池 | 二、〇〇〇 |

# 古老に聞く
## 九十余年守りつづけた信仰
### 馬渡島の牧山モヨさん



『自分の年が幾つになるか、すっかり忘れてしまいました。息子が九十三といいますから九十三歳になったのでしょう』というのは、馬渡島最年長の信者で、通称おもうさんと呼ばれている牧山モヨさん。ほっそりした身体つきだが、まだ身体も意識もしっかりしたお婆さんだ。

教会の名簿にはモヨ、役場の戸籍にはトモと記載されているこの人は、浦上四番崩れの子孫。馬渡島教会で洗礼を受け、霊名はマリア・マグダレナという。長崎県西彼杵郡黒崎が母のふるさと。姉さんがド・ロー神父の修道院にいた関係もあって、出津の同神父のもとでしばらくカトリックの教育を受けたことがある。おもうさんは当時のことを『ド・ロー神父さまはきびしいかったが、心の温い、よい方でした。孤児をおおぜい集めて、カンコロ飯を食べさせておられましたので、私もカンコロ飯をたくさん食べさせてもらいました』と懐しそうに話してくれた。

姉さんはおもうさんがまだ子どものときに亡くなったが、お父さんが役人にとられたときお母さんが姉さんをせ負って泣いたことをよく語ってくれたそうだ。

おもうさんは後妻として入った牧山家で、大ぜいの家族にいたわられながら老後を慈っている。『いまの若い人たちの信仰はどうですか』と聞くと、声は低いがきびしい調子で『いまどきの若いものは―』といって、土の上にペッとツバを吐き捨てた。いかにも『なっとらん』といったげな表情だったが、この老婆が長い一生を賭けて、ひたすらに守りつづけてきたきびしい信仰が、一瞬ではあったが激しい迫力をもって胸を打った。

今日では、こういう気迫を持った信者が次第に少くなってきた。そういう意味でも、おもうさんはカトリックにとって大切な信者である。

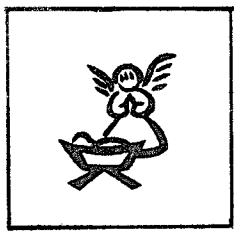
# 韓国のクリスマス

受洗してから、はじめてご降誕祭を迎えたのは、私が高校一年生のとき。ご降誕祭といえば雪がつきものだが、韓国では十二月のはじめには白いものがちらつき、ご降誕祭のころになると野も山も、家も道も、一面が寒むざむとした雪につつまれてしまう。

ご降誕祭が近づくと、教会の中のグループの動きが急に活発になる。それは、一九五〇年、中共軍が南鮮に侵攻していい、北鮮と韓国の間に戦いがつづき戦争未亡人と孤児が増え、しかもその人たちは極度の貧困に追いこまれているので、その人たちへの贈り物の準備をはじめるためである。

婦人会は、戦争未亡人のために毎朝米を節約して餅に代え、また夕食のおかずを減らして得た金ではチマ・ジョゴリ（婦人服）を購入する。青年会は陸軍病院慰問のために、劇や舞踊の練習に余念がな、壮年会はダバコ代を節約して、戦争で息子を失った身寄りのない老人たちに、金一封を贈る用意をする。レジオ・マリエはまた、コーヒー代、映画代を節約して、戦争孤児に贈るプレゼントを集めにかかる。そればかりではない。グループ以外の人たちも、だれもかれもが、悲しい運命の中にいる同胞のために、喜んで協力し、骨を折るのである。そんな教会の中で、私はお忙がしい神父さまの手伝いのために、あちらこちらと使いに走り回った。家ではホウキも手にしようとしないのだが、そんな私も、教会のことともなると、夜中でも起き出ていく熱心党の一人であった。

そうこうしているうちに、待ちに待った二十四日がくる。深夜の荘厳ミサ。ビッコを引きながら説教台に立たれた神父さまは、戦いし運命を背負っている人たちのこころに、何かが浸み入るように広がっていったのはそのときだ。それは新しく生まれ変るための私の決意であったろうか。はく息が凍りつきそうな空を見あげて、胸が熱く燃えたこの夜のことを、私は生涯忘れることができないのだろう。（女子パウロ会シスター）



# 召命を感じたあの夜の思い出

M・イレネ李


カトリック グラフ

12月号 クリスマス特集

発売中 150円

福岡市名1丁大目 聖パウロ書院

セント・ポール・コーナー（岩田屋）

でお求め下さい。

年末年始に泊まれる カトリックの施設

ドンチャン騒ぎや虚礼抜きで行く年を楽しめる旅の穴場 8

管区長座談会 これが修道会宣教会の内側です

「教会が人身売買？」という報道に接した責任者は目をシロクロ！

独占会見／インド大司教の「いま初めて明かす胸の中」

マスコミ，わけても丸谷才一氏に反論する安田貞治

床屋と神父の山谷交遊録

ドヤ街の床屋クマさんとサラリーマン神父が歌う"ジングルベル"

キリスト伝説のある東北の村

十字架のキリストは偽者でホンモノは来日したと信じる迷ケ平の人々


「福岡カトリック社研報告」は休みます。同会十二月例会は、「公害について」

教養

# 原城趾について

原田種夫

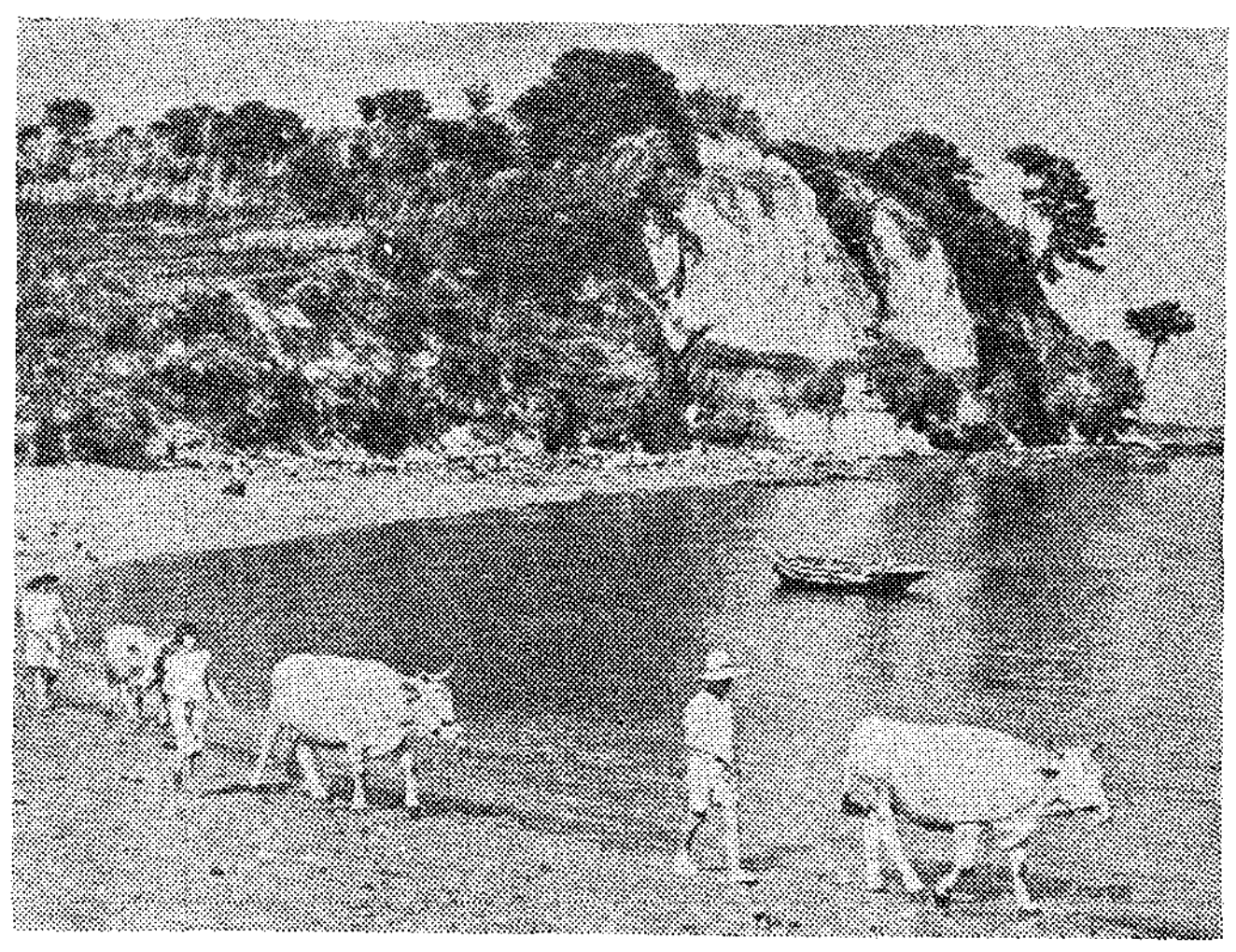
長崎県で国の史跡になっているのは、出島と原城趾の二つである。原城趾は、島原半島の南有馬町大江にあり、大江から浦田にかけての城山いったい44㌶の広さで、有明海にその一角が突き出ている。ここが史上で有名な島原の乱の舞台で、この戦争で城にこもった三万七千人がみんな殺戮（さつりく）された所である。わたしはその三万七千人の中でたった一人生残った南蛮絵師（なんばんえし）の山田右衛門作（えもさく）を主人公に「南蛮絵師」という三百枚あまりの作品を書いている。その取材のために、わたしは前後三回ほどこの城趾に足を運んだことがある。

原城趾は、今でも昔のままの地形が残っているので大体のことがわかる。昔、北側は潮田と沼田で三方は海で崖が切り立っている天然の名城であった。高低に合せて本丸、二の丸、三の丸と天草丸がならんでいた。有明海に臨む原城趾公園になっている処がいわゆる本丸で原城趾の碑が建っている。ここに立つと有明海を距てて遥かに雲仙、天草が望見される。原城は、沖を通る船は城の美しさに見とれて日が暮れてしまうというので、一名日暮城ともいわれた。北有馬の日之江城というのが有馬氏の本城で原城との間に一キロの長廊下があって二つの城を結んでいたと伝えられる。



有馬のセミナリオができたのは一五八〇年で、それは日之江城下にあったといわれる。ヨーロッパの新らしい学芸を教授する所で、オルガンやクラウサンの奏楽に合せて賛美歌のリズムが流れ、ラテン語の学習の声がきこえ、日之江城下では一種の文化都市であった遣欧使節になった四人の少年は、出発前にここで勉強し、学問と教養を身につけたのだった。慶長十九年、城主の有馬直純は日向延岡に移封され元和二年（一六一六）松倉重政が 島原藩主になると、原城と日之江城をこわして島原森岳に島原城を築いたので廃城となった。島原の乱の一揆軍三万七千人は、この廃城となった原城を修築して立てこもったのである。

ところで、島原の乱はどうして起ったのかといえば、直接の原因として考えられるのは、松倉重政の幕府の禁教政策を奏ずる切支丹信徒の弾圧と、迫害、も一つの理由は、七年もかかった島原城の築城は、莫大な経費と労力を要し、そのしわよせが領民に及んだ。重税に加える重税の上に大凶作がつづき、住民は、餓死寸前に追いこまれた。滞納すれば水牢などの拷問にかけられた。転宗しない信徒は雲仙の地獄の中につけて責めるなど非道の限りをつくした。重政の没後、跡をついだ重次もさらに非情の悪政をくり返えした。



原城をのぞむ

寛永十四年十月、農民の怒りが火を噴いた。有馬村の代官が殺されたのをきっかけに、島原半島の南半分全域、千々石から三重まで十二か村の農民がいっせいに蜂起した。これに呼応して天草でも、十六才の美少年、天草四郎時貞を首領と仰ぎ農民が反乱を起した。島原側二万四千人、天草側一万三千人が起った。島原の反乱軍は島原城を攻撃したが抜けずに、倉庫をこわし領米を掠奪した。天草の反乱軍は、富岡城を攻めたが、これも失敗に終った。そのうち幕軍西下の報が伝わると、反乱軍は合流して天草四郎を中心に原城の籠城が始まった。籠城軍は、婦女子一万を加えて三万七千人という多数であった。

一揆軍の中には、小西行長の残党や有馬氏の武士も少からずいたのである。天草四郎は、天使の再来と信じられ、数々の不思議をあらわした。四郎が天を仰いで黙祷すると、どこからともなく一羽の白鳩が飛び下って四郎の掌に止ったかと思うと鮮かな色の卵を産んだ。四郎はそれを静かに取り上げると二つに割った。中から天主を描いた画像と、南蛮文字で記した切支丹の経巻があらわれた。鳩は鳴きながら三度ばかり四郎の周囲を廻っていたが、やがてまた空高く飛び去った。それは奇蹟ではなくて奇術であったかも知れぬが、知識の低い農民たちにはそれが神秘と見えたのだろう。処女のように美しい四郎の容姿は、神秘を尚ぶ切支丹にとっては大きい魅力であった。だが四郎に一個の傀儡（かいらい）でその背後には天下の風雲を望む切支丹の武士たち、小西の残党たちがいたのである。

幕府は、はじめふつうの農民の一揆とみて、三河横田の領主・板倉重昌にに征討を命じたが、切支丹の色彩をおびた反乱だとわかって智慧伊豆と呼ばれた松平信綱に討伐を命じた。これでは、板倉重昌は面目が立たない。前に攻撃は二回とも失敗している。松平信綱の到着が迫った寛永十五年の元旦板倉重昌は、

あら玉の年の始に散る花の
名のみ残らばさきがけと知れ

の一首を残し、武士の面目をかけての総攻撃に出陣した。そして二の丸の石垣近くに迫ったとき、駒木根八兵衛の放つ一弾に乳の下を射貫かれて絶命した。駒木根は銃の名手で、数間先に下げた針をも打ち落した。歯痕をつけた鉛の玉に紙を巻いて銃にこめ、これを放てば百発百中という一の名手だった。この日の 総攻撃は 午の刻（正午）に終り幕軍は四千余の死傷を出したが、一揆軍は九十余人に過ぎなかった。ついでながら、重昌はこの時五十一才だった。板倉重昌の追悼碑は城趾の西側に建っている。

松平信綱は、海上からオランダ軍船の砲撃を借るなどしたがさらに効果がなく、外国船に応援を頼んだ愚を笑われたりした。これではいけんと、諸藩の援軍を十二万人に増強して、けっきょく城中で兵糧が尽きるのを待つ作戦をとった。そして、さらに心理作戦として陣中から城中に降伏勧告文をさかんに矢文で送ったが、城中からは拒否の矢文が飛んで来るだけであった。

二月二十八日、鎮圧軍は総攻撃にふみ切った。天童天草四郎が持つ聖杯の旗の下に集まり、いとも尊き秘蹟を讃仰した三万余の籠城軍は全滅した。そして、彼らの首は篠竹に刺して城外にさらしたという。それにたくさん蝿がたかってまっ黒くなった、という記録が残っている。こうして、島原の乱は終った。切支丹信仰という精神的紐帯によってみんな一つに結ばれており、殉殺（マルチリ）の喜びをもって老若男女その他ことごとく死んでいったのである。幕府軍は数千の兵を失い、四〇万両の軍費を消耗した。松倉重次は失政のかどで処刑され一家は断絶した籠城軍の生き残りは、ただ一人、南蛮絵師の山田右衛門作で、乱後松平信綱に従って江戸に移り住み天寿を全うした。

新村出先生の歌に

痛ましき原の古城に来てみれば
一もと咲けり白百合の花

というのがある。城趾に白い十字架が立っている。一めんの畑草と原の城趾には、なにか鬼哭啾々としたものが流れている。（はらだ・たねお＝作家、福岡市在住）

## 聖書とミサ

# 感謝の祭儀

## 神とキリストの神秘を憶いつつ

### 感謝

聖体祭儀は感謝であり、祝福である。聖書では、神を祝するとは神に感謝することであり、ある物やある人を祝するとは、その物、その人の上に神のめぐみがいつまでもつづくことを希望しながら、それについて感謝することである。

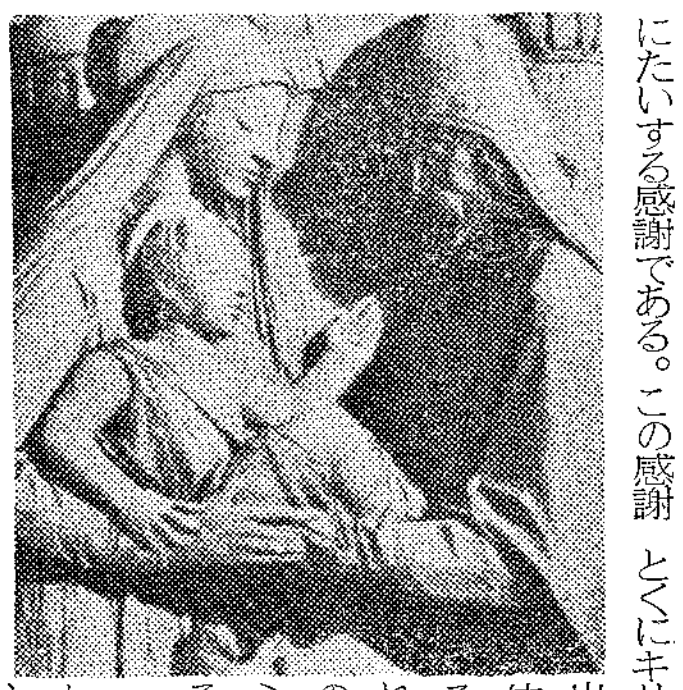
形式上、聖体祭儀はユダヤ儀式から生まれたが、内容的にはキリストによって与えられた神の啓示と比類ないめぐみを感謝する。この感謝はことばの祭儀でも表われるが、奉納・奉献の祭儀ではいっそう強調される。

また聖書では感謝は「記念」ということばと結びつく。記念とは過去のめぐみを憶い出しつつ同時にそれが今日のものでもあることを確認することである。

聖体祭儀は感謝であり、奉献でありそして記念である。

### 奉献

われわれはミサで神にパンとぶどう酒—やがてキリストの体と血となるもの—を供える。そのときの祈りはユダヤ人が食卓でとなえていたものキリストや弟子達もとなえたはずの祈りと同じ精神のものである。それは神がえらみの民に与えられた特別のめぐみや、エジプトの地から救い出されたことや、肥沃な土地をめぐまれたことにたいする感謝である。この感謝のしるしとしてわれわれはいまキリストと共に最高のいけにえをささげようとしているのだ。



われわれはキリストと共に自分もいけにえとしてささげる。これは聖パウロの切なる勧めである。『兄弟たちよ、あなたたちの体を神によみされる、生きた聖なるいけにえとして捧げなさい。それはあなたたちに求められた霊的な崇敬である』（ローマ12・1）。

### 記念

ミサでは、神の絶大なめぐみ、とくにキリストのご生涯の重大な出来事（神秘）そして聖体制定のことを記念する。『私の記念としてこれをなせ』とのキリストのご命令にもとづいて、ミサの祈りが作られている。

聖書でいう記念とは、われわれが普通に考えるように、過ぎ去ったことの追悼ではない。イスラエル人によると、時の流れは過去、現在、未来と三つのわくに別々に入れられるものでなく、一連の流れであり、過去は現在のうちに生き、未来もすでに現在のうちにすでに始まっている。息子の生活は父親に替ったものでなく、それを生き継続してゆくものだ。記念するとは、連続たる神のわざとそのめぐみを目の前に見ることである。将来のことも、神の約束にもとづいている限り、いつか先きに起るかも知れないというものでなく、すでに起っていることである

われわれにとって神からの最大のめぐみは、世の救いのため御子を賜わったことである。十字架のあがないと復活はその頂点である。だからこれらのことを記念すると同時に、光栄のうちにキリストが再臨なさることも記念する。

われわれはある死んだひとりの友でなく、生きている主ご自身、そのあがないの業、いまもずっと続いている救いのお働きを記念して感謝のいけにえをささげる。

「おそれるな、私は初めであり、終りである。生きているものである。私はかつて死んだが、世々かぎりなく生きている。私は死と冥府（よみ）の鍵をもっている」（黙1・18）。

## 今月おすすめする本

『キリストの生涯』＝J・ジョミエ著、南大路くに訳、ヴェリタス出版社発行、三〇三ページ、八五〇円

これはいわゆるキリストの伝記ではない。福音書そのものといったほうがよい。初代教会において四人の福音史家がキリストの姿と教えを述べようとしたのとまったく同じ精神で書かれたといえるような書物である。いまフランスその他の諸国で圧倒的な好評を得ている。

この書物の意図するところは、原著者の序文によると「一キリスト者が福音を読むときそこに見るものを披瀝し、自分の目に映ずるイエズスの風貌を語ること』。第一章で、キリスト時代のパレスチナが紹介されるが、それは生きたキリストを理解するために必要なことであろう。しかし本書は学問的な研究書ではなく、単純で分かりやすい文体で書かれ、われわれの信仰のかてが味わい深く提供される。しかし内容的には著者の長い聖書学研究の結晶である。しかも著名な学者ベノア師らイエルザレム聖書研究所の協力を得て物されている。

聖書に親しむことは強く勧められている。しかし本文を手にしてキリストに近づこうとするのになじめない人は少なくない。そのような人のためにも本書は大いに役立つだろう。

## カトリック放送番組（12月）

FBSテレビ、心のともしび
土曜・午前8時25分〜35分
日曜・午前8時30分〜45分

5日（土）6日（日）ゲスト・中村武志、聞き手・遠藤周作、三浦朱門「間借人よ、団結せよ」
12日（土）13日（日）ゲスト・石井好子、聞き手・遠藤周作、三浦朱門
19日（土）20日（日）ゲスト・遠藤周作夫人、聞き手・遠藤周作、三浦朱門

ラジオ、心のともしび
RKB（月—土、午前6時40分）
RKK（月—土、午前10時10分）

7日（月）浜尾実「一つの短所」
8日（火）戸川エマ「不良化の原因」
9日（水）山本健吉「交通弧児」
10日（木）柏木敬二「まごころ」
11日（金）田中澄江「この世の王者」
12日（土）ハヤット神父「精神的向上」

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長ルカ　吉川東陽

福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊿0568

大名町英語アカデミー

第2学期学生募集

開講　9月21日（月）　終講　12月16日
日時　毎週月曜・水曜，午後6時 から 7時15分
午後7時30分から8時45分
授業料　5，500円（入会金とテキストは無料）
教師　シュルツ神父ら外人教師数名
申込先　福岡市大名2丁目　カトリック教会
（西鉄グランド・ホテル前）TEL ㊹—3687